

茨城県教育財団文化財調査報告第117集

主要地方道常陸那珂港山方線道路
改良工事地内埋蔵文化財調査報告書

長者屋敷遺跡

平成9年3月

茨 城 県
財団法人 茨 城 県 教 育 財 団

茨城県教育財団文化財調査報告第117集

主要地方道常陸那珂港山方線道路
改良工事地内埋蔵文化財調査報告書

ひらねや やしきい せき
長者屋敷遺跡

平成9年3月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団



遺跡遠景



緑釉輪花瓶 (第27号住居跡)

出土瓦 (第5・1号溝)



序

茨城県は、21世紀を目前にして、長期的な展望のもとに県土の基盤整備を行っております。道路網につきましても、ゆとりある社会の実現をめざして快適な道路の整備を進めております。

主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事は、この趣旨に沿って計画されたもので、その予定地内には埋蔵文化財の包蔵地である長者屋敷遺跡が確認されております。

このたび、財団法人茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成7年4月から平成7年10月までの7か月にわたる発掘調査を実施いたしました。

本書は、長者屋敷遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化の向上の一助として活用されますことを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である茨城県からいただいた多大な御協力に対し、心より御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、金砂郷町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただいたことに、衷心より感謝の意を表します。

平成9年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成7年4月から10月まで発掘調査を実施した、茨城県久慈郡金砂郷町大字人里3514番地の1ほかに所在する長者塚敷遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 長者塚敷遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	小 林 秀 文	平成6年4月～平成8年3月	
	中 島 弘 光	平成7年4月～	
	齋 藤 佳 郎	平成8年4月～	
常 務 理 事	木 邦 彦	平成7年4月～平成8年3月	
	梅 澤 秀 大	平成8年4月～	
事 務 局 長	齋 藤 紀 彦	平成7年4月～平成8年3月	
	小 林 隆 郎	平成8年4月～	
埋 藏 文 化 財 部 長	安 藏 幸 重	平成5年4月～平成8年3月	
	沼 出 文 夫	平成8年4月～	
埋藏文化財部長代理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 剣 敏 夫	平成4年4月～平成8年3月
	課 長 代 理	小 幡 弘 明	平成8年4月～
	係 長	根 本 達 夫	平成7年4月～
		清 水 薫	平成8年4月～
		主 任 調 査 員	海 老 澤 稔
	小 高 五 十 二	平成8年4月～	
経 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成5年4月～平成8年3月
	主 査	河 崎 孝 典	平成8年4月～
		鈴 木 三 郎	平成7年4月～平成8年3月
	課 長 代 理	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
		大 高 春 夫	平成7年4月～
		主 任 事	小 池 孝
		軍 司 浩 作	平成5年4月～平成8年3月
	柳 澤 松 雄	平成8年4月～	
調 査 第 一 課	課 長 (部 長 兼 務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～平成8年3月
	調 査 第 二 班 長	萩 野 谷 悟	平成7年4月～平成7年10月
	主 任 調 査 員	矢 ノ 倉 正 男	平成7年4月～平成7年9月調査
		長 岡 正 雄	平成7年4月～平成7年10月調査
		江 幡 良 夫	平成7年10月調査
整 理 課	課 長	山 本 静 男	平成7年4月～
	主 任 調 査 員	矢 ノ 倉 正 男	平成8年4月～平成9年3月整理・執筆・編集

- 3 本書に使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 発掘調査及び整理に際して、ご指導、ご協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

5 遺跡の概要

ふりがな	じょうちゆりなうちりつちんあつかうこくやませいぜんとうらうめいりゆうこうちんないまいうんかざいちようきほうこくじよ						
書名	主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書						
副書名	長者屋敷遺跡						
巻次							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第117集						
編著者名	矢ノ倉 正男						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 ☎ 029-225-6587						
発行年月日	1997(平成9)年3月25日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
長者屋敷遺跡	茨城県久慈郡金 砂郷町大字大屋 3514番地の1ほか	08361 -18	36度 32分 5秒	140度 28分 55秒	19950401 ～ 19951031	6,822㎡	主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
長者屋敷遺跡	集落跡	縄文時代		石	器	石匙	標高25～30m。 古墳時代及び奈良・平安時代を中心とする集落跡。古代久慈郡の郡寺の跡。 寺域を囲んでいたと思われる溝や住居跡から、「久寺」と読める墨書土器が出土している。
		弥生時代		弥生土器	壺	紡錘車	
		古墳時代	竪穴住居跡 35軒	土師器	土師器	埴輪、高坏、器台、埴輪、壺、台付壺、管状土鏡、石製模造品、支脚、金属製品	
			土坑 5基	上製品	石製品	管玉、石製模造品、支脚、金属製品	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡 68軒 掘立柱建物跡・基壇建物跡 4基 溝 9条 井戸 1基 土坑 6基	土師器	土師器	壺、埴輪、瓶、高坏、瓶、冠形壺、土師器	
	時期不明	竪穴住居跡 11軒	土坑 54基	石製品	金属製品	紡錘車 鎌、釘	

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅳ系

座標を用いて区画し、X軸（南北）+59,600m、Y軸（東西）+58,000mの交点を基準点とした。

大調査区は、この基準点を基に東西、南北各々40mずつ平行移動して大調査区を設定し、さらに、大調査区を東西、南北に各々10等分して、4m方眼の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、北から南へ「A」、「B」、「C」…、西から東へ「1」、「2」、「3」…とし、「A1」区、「B2」区というように呼称した。小調査区も同様に北から南へ「a」、「b」、「c」…「j」、西から東へ「1」、「2」、「3」…「a」と小文字を付し、位置を表示する場合は、大調査区と合わせて、A1b₁区、B2b₂区のように呼称した。

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、以下のとおりである。

遺構 堅穴住居跡…S1、獨立柱建物跡・基壇建物跡…SB、土坑…SK、溝…SD、井戸…SE
 遺物 土器…P、土製品…DP、石器・石製品…Q、金属製品…M
 土層 擾乱…K

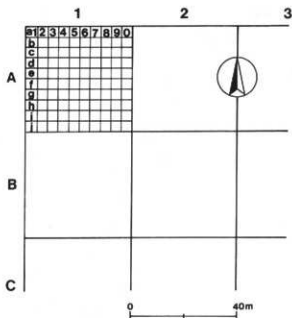
3 遺構・遺物の実測図中の表示は、以下のとおりである。



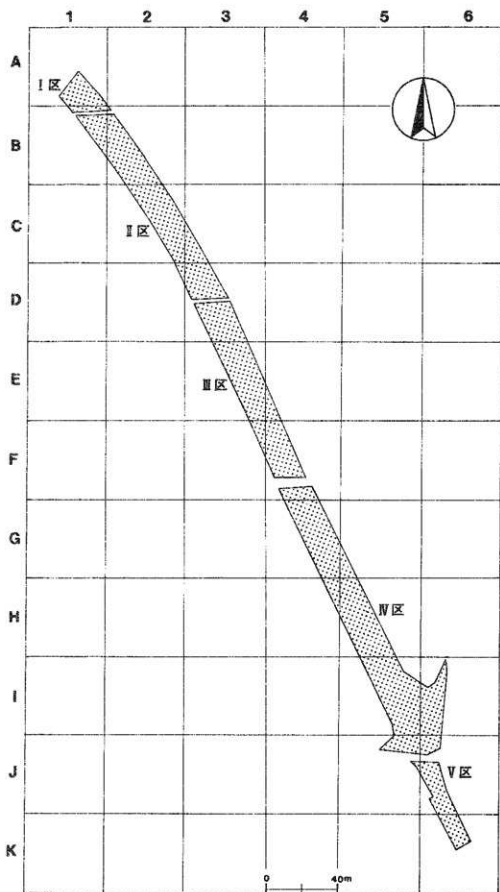
4 土層観察における色相、含有物の量の判定については、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 遺構、遺物実測図作成方法及び掲載方法については、以下のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は縮尺200分の1、住居跡や土坑等は縮尺60分の1にした。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にS = 1/○と表示した。
- (3) 土器の計測値のAは口径、Bは器高、Cは底径、Dは高台径、Eは高台高、Fはつまみ径、Gはつまみ高を示した。また、() は現存値、[] は推定値を示した。
- (4) 遺物観察表の備考欄は、土器の現存値や実測番号(P)、出土位置及びその他の必要と思われる事項を記した。



第1図 調査区呼称方法概念図



第2图 長者屋敷遺跡調査区設定図

目 次

序	
例 言	
凡 例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 長者居敷遺跡	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	10
1 堅穴住居跡	10
2 上坑	206
3 溝	228
4 掘立柱建物跡	240
5 井戸	248
6 出土瓦	250
7 遺構外出土弥生土器	256
8 遺構外出土遺物	257
第4節 まとめ	261

写真図版

插图目次

第 1 图	调查区称呼方法概念图	第 37 图	第19号住居跡実測図……………44
第 2 图	長者例数遺跡調査区設定図	第 38 图	第19号住居跡出土遺物実測図……………45
第 3 图	周辺遺跡分布図……………6	第 39 图	第20号住居跡・出土遺物実測図……………46
第 4 图	基本土層図……………9	第 40 图	第21号住居跡実測図……………47
第 5 图	第 1 号住居跡実測図……………11	第 41 图	第22-A・B号住居跡実測図 ……48~49
第 6 图	第 1 号住居跡出土遺物実測図……………12	第 42 图	第22-A号住居跡出土遺物実測図 ……51
第 7 图	第 2 号住居跡実測図……………13	第 43 图	第22-B号住居跡出土遺物実測図 ……52
第 8 图	第 2 号住居跡出土遺物実測図……………14	第 44 图	第23号住居跡実測図……………53
第 9 图	第 3 号住居跡・出土遺物実測図……………15	第 45 图	第23号住居跡出土遺物実測図……………54
第 10 图	第 3 号住居跡出土遺物実測図……………16	第 46 图	第24号住居跡実測図……………55
第 11 图	第 4 号住居跡・出土遺物実測図……………17	第 47 图	第24号住居跡出土遺物実測図……………56
第 12 图	第 5 号住居跡実測図……………18	第 48 图	第25号住居跡実測図……………57
第 13 图	第 5 号住居跡出土遺物実測図……………18	第 49 图	第25号住居跡出土遺物実測図……………58
第 14 图	第 6 号住居跡・出土遺物実測図……………19	第 50 图	第26・27・29号住居跡実測図……………59
第 15 图	第 7 号住居跡実測図……………21	第 51 图	第26号住居跡出土遺物実測図……………60
第 16 图	第 7 号住居跡出土遺物実測図(1)……………22	第 52 图	第27号住居跡出土遺物実測図……………62
第 17 图	第 7 号住居跡出土遺物実測図(2)……………23	第 53 图	第29号住居跡出土遺物実測図……………64
第 18 图	第 8 号住居跡実測図……………25	第 54 图	第30号住居跡実測図……………65
第 19 图	第 8 号住居跡出土遺物実測図……………26	第 55 图	第30号住居跡出土遺物実測図……………66
第 20 图	第 9 号住居跡実測図……………27	第 56 图	第32-A・B号住居跡実測図 ……67
第 21 图	第 9 号住居跡出土遺物実測図……………28	第 57 图	第32-A号住居跡出土遺物実測図 ……68
第 22 图	第10号住居跡実測図……………29	第 58 图	第32-B号住居跡出土遺物実測図 ……70
第 23 图	第10号住居跡出土遺物実測図……………29	第 59 图	第33号住居跡実測図……………71
第 24 图	第11号住居跡実測図……………30	第 60 图	第33号住居跡出土遺物実測図……………72
第 25 图	第11号住居跡出土遺物実測図……………31	第 61 图	第34号住居跡実測図……………73
第 26 图	第12号住居跡実測図……………31	第 62 图	第34号住居跡出土遺物実測図……………74
第 27 图	第12号住居跡出土遺物実測図……………32	第 63 图	第35号住居跡・出土遺物実測図……………75
第 28 图	第13号住居跡実測図……………33	第 64 图	第36-A・B・C号住居跡実測図 ……76
第 29 图	第13号住居跡出土遺物実測図……………34	第 65 图	第36-A・B号住居跡出土遺物 実測図……………80
第 30 图	第14号住居跡出土遺物実測図……………35	第 66 图	第36-B・C号住居跡出土遺物 実測図……………81
第 31 图	第14・15・17・18号住居跡実測図……………36	第 67 图	第37号住居跡実測図……………82
第 32 图	第15号住居跡出土遺物実測図……………37	第 68 图	第37号住居跡出土遺物実測図……………83
第 33 图	第16号住居跡実測図……………39	第 69 图	第38号住居跡・出土遺物実測図……………85
第 34 图	第16号住居跡出土遺物実測図……………40	第 70 图	第39号住居跡実測図……………86
第 35 图	第17号住居跡出土遺物実測図……………42		
第 36 图	第18号住居跡出土遺物実測図……………43		

第 71 图	第39号住居跡出土遺物実測図……………86	第 108 图	第67号住居跡出土遺物実測図……………130
第 72 图	第40、42号住居跡実測図……………87	第 109 图	第68、69号住居跡実測図……………132
第 73 图	第40号住居跡出土遺物実測図……………89	第 110 图	第68号住居跡出土遺物実測図……………133
第 74 图	第41号住居跡、出土遺物実測図……………90	第 111 图	第71-A、B号住居跡実測図……………135
第 75 图	第43号住居跡、出土遺物実測図……………92	第 112 图	第72-A、B、C号住居跡実測図……………137
第 76 图	第44号住居跡実測図……………93	第 113 图	第72-C号住居跡出土遺物実測図……………138
第 77 图	第44号住居跡出土遺物実測図……………93	第 114 图	第73、74号住居跡、出土遺物実測図……………139
第 78 图	第45号住居跡実測図……………94	第 115 图	第75号住居跡実測図……………141
第 79 图	第46号住居跡実測図……………95	第 116 图	第75号住居跡出土遺物実測図……………141
第 80 图	第46号住居跡出土遺物実測図……………96	第 117 图	第76号住居跡実測図……………142
第 81 图	第47号住居跡実測図……………97	第 118 图	第76号住居跡出土遺物実測図……………144
第 82 图	第47号住居跡出土遺物実測図……………98	第 119 图	第77号住居跡実測図……………145
第 83 图	第48 A、B号住居跡実測図……………99	第 120 图	第77号住居跡出土遺物実測図……………146
第 84 图	第48-A号住居跡出土遺物実測図……………99	第 121 图	第78、107号住居跡実測図……………147
第 85 图	第50号住居跡実測図……………101	第 122 图	第79、80号住居跡実測図……………148
第 86 图	第50号住居跡出土遺物実測図……………101	第 123 图	第79号住居跡出土遺物実測図……………149
第 87 图	第51号住居跡実測図……………103	第 124 图	第80号住居跡出土遺物実測図……………150
第 88 图	第51号住居跡出土遺物実測図……………104	第 125 图	第81、82号住居跡実測図……………151
第 89 图	第52、105号住居跡実測図……………106	第 126 图	第81号住居跡出土遺物実測図……………152
第 90 图	第52号住居跡出土遺物実測図……………107	第 127 图	第82号住居跡出土遺物実測図……………154
第 91 图	第53、54、55、56、57、58、59、112号 住居跡実測図……………108~109	第 128 图	第85号住居跡実測図……………155
第 92 图	第53号住居跡出土遺物実測図……………110	第 129 图	第85号住居跡出土遺物実測図……………155
第 93 图	第55号住居跡出土遺物実測図……………112	第 130 图	第86、95号住居跡実測図……………156
第 94 图	第56号住居跡出土遺物実測図……………113	第 131 图	第86号住居跡出土遺物実測図……………157
第 95 图	第57号住居跡出土遺物実測図……………114	第 132 图	第87号住居跡実測図……………158
第 96 图	第58号住居跡出土遺物実測図……………116	第 133 图	第87号住居跡出土遺物実測図……………158
第 97 图	第60、61、62号住居跡実測図……………118~119	第 134 图	第89、90、91号住居跡実測図……………159
第 98 图	第60号住居跡出土遺物実測図……………119	第 135 图	第89号住居跡出土遺物実測図……………161
第 99 图	第61号住居跡出土遺物実測図……………121	第 136 图	第92号住居跡実測図……………163
第 100 图	第62号住居跡出土遺物実測図……………121	第 137 图	第92号住居跡出土遺物実測図……………163
第 101 图	第63号住居跡実測図……………122	第 138 图	第93、94号住居跡実測図……………164
第 102 图	第63号住居跡出土遺物実測図……………123	第 139 图	第94号住居跡出土遺物実測図……………165
第 103 图	第64号住居跡、出土遺物実測図……………124	第 140 图	第95号住居跡出土遺物実測図……………166
第 104 图	第65号住居跡実測図……………126	第 141 图	第96、99号住居跡実測図……………168
第 105 图	第65号住居跡出土遺物実測図……………127	第 142 图	第96号住居跡出土遺物実測図……………168
第 106 图	第66号住居跡実測図……………128	第 143 图	第97号住居跡、出土遺物実測図……………169
第 107 图	第67号住居跡実測図……………129	第 144 图	第98号住居跡実測図……………170
		第 145 图	第98号住居跡出土遺物実測図……………171

第146図	第99号住居跡出土遺物実測図	173	第178図	第60号土坑・出土遺物実測図	217
第147図	第100号住居跡実測図	175	第179図	第64-A・B号土坑・出土遺物 実測図	218
第148図	第100号住居跡出土遺物実測図(1)	176	第180図	第73号土坑実測図	219
第149図	第100号住居跡出土遺物実測図(2)	177	第181図	第75号土坑・出土遺物実測図	220
第150図	第101号住居跡実測図	179	第182図	第76号土坑・出土遺物実測図	221
第151図	第102号住居跡実測図	180	第183図	その他の土坑実測図(1)	223
第152図	第102号住居跡出土遺物実測図	181	第184図	その他の土坑実測図(2)	224
第153図	第104号住居跡実測図	182	第185図	その他の土坑実測図(3)	225
第154図	第104号住居跡出土遺物実測図	183	第186図	第1号溝・出土遺物実測図	229
第155図	第105号住居跡出土遺物実測図	184	第187図	第2・3号溝実測図	231
第156図	第108号住居跡実測図	186	第188図	第2号溝出土遺物実測図	232
第157図	第109-A・B・C号住居跡実測図	187	第189図	第3号溝出土遺物実測図	233
第158図	第109-A号住居跡出土遺物 実測図(1)	188	第190図	第4・5号溝・出土遺物実測図	234
第159図	第109-A号住居跡出土遺物 実測図(2)	189	第191図	第6・7号溝・出土遺物実測図	236
第160図	第109-B号住居跡出土遺物実測図	192	第192図	第8号溝・出土遺物実測図	237
第161図	第111号住居跡実測図	194	第193図	第9号溝・出土遺物実測図	239
第162図	第111号住居跡出土遺物実測図(1)	195	第194図	第1号掘立柱建物跡実測図	241~242
第163図	第111号住居跡出土遺物実測図(2)	196	第195図	第2号掘立柱建物跡実測図	245
第164図	第112号住居跡出土遺物実測図	199	第196図	第3号掘立柱建物跡実測図	246
第165図	第113号住居跡・出土遺物実測図	200	第197図	第4号基壇建物跡実測図	248
第166図	第116号住居跡・出土遺物実測図	201	第198図	第1号井戸・出土遺物実測図	249
第167図	第4号土坑・出土遺物実測図	206	第199図	第1・5号溝出土瓦拓影図	251
第168図	第7号土坑・出土遺物実測図	207	第200図	第7号住居跡出土瓦拓影図	252
第169図	第8号土坑実測図	208	第201図	第4・6・7・8号住居跡 出土瓦拓影図	253
第170図	第9号土坑・出土遺物実測図	209	第202図	第7・10・17・27・32-B・37・89号 住居跡, 7号土坑, 1号溝 出土瓦拓影図	254
第171図	第27号土坑・出土遺物実測図	210	第203図	第1・5号溝, 第1号掘立柱建物跡, 第1号井戸, 遺構外出土瓦拓影図	255
第172図	第33号土坑・出土遺物実測図	211	第204図	遺構外出土炊火土器拓影図	256
第173図	第35号土坑・出土遺物実測図	211	第205図	遺構外出土遺物実測図(1)	257
第174図	第39号土坑・出土遺物実測図	212	第206図	遺構外出土遺物実測図(2)	258
第175図	第39号土坑出土遺物実測図	213			
第176図	第46号土坑・出土遺物実測図	215			
第177図	第59号土坑・出土遺物実測図	216			

付 図

表 目 次

表1 副辺道跡一覽表	7
表2 住居跡一覽表	202~205
表3 土坑一覽表	226~227

写 真 目 次

P L 1 遺跡遠景, 試掘狀況, 遺構確認狀況	P L 17 第29号住居跡完掘狀況, 第30号住居跡竈遺物出土狀況, 第30号住居跡完掘狀況
P L 2 遺構確認狀況(北部・中央部・南部)	P L 18 第32-A号住居跡遺物出土狀況, 第32-A・B号住居跡完掘狀況, 第33号住居跡完掘狀況
P L 3 完掘狀況(北部・中央部・南部)	P L 19 第34号住居跡遺物出土狀況, 第34号住居跡完掘狀況, 第35号住居跡完掘狀況
P L 4 第2号住居跡遺物出土狀況, 第2号住居跡完掘狀況	P L 20 第36号住居跡遺物出土狀況, 第37号住居跡遺物出土狀況, 第39号住居跡完掘狀況
P L 5 第3号住居跡遺物出土狀況, 第3号住居跡完掘狀況	P L 21 第40号住居跡遺物出土狀況, 第40号住居跡完掘狀況, 第41号住居跡完掘狀況
P L 6 第4号住居跡遺物出土狀況, 第5号住居跡完掘狀況, 第6号住居跡完掘狀況	P L 22 第43号住居跡完掘狀況, 第45号住居跡完掘狀況, 第46号住居跡完掘狀況
P L 7 第6号住居跡遺物出土狀況, 第7号住居跡遺物出土狀況	P L 23 第50号住居跡完掘狀況, 第51号住居跡遺物出土狀況
P L 8 第8号住居跡遺物出土狀況, 第8号住居跡完掘狀況, 第9号住居跡完掘狀況	P L 24 第51号住居跡遺物出土狀況, 第51号住居跡竈完掘狀況, 第51号住居跡貯藏穴完掘狀況
P L 9 第10号住居跡完掘狀況, 第11号住居跡完掘狀況, 第12号住居跡遺物出土狀況	P L 25 第52号住居跡遺物出土狀況, 第53号住居跡遺物出土狀況, 第55号住居跡遺物出土狀況
P L 10 第13号住居跡遺物出土狀況, 第14, 15, 16, 17, 18号住居跡完掘狀況, 第15号住居跡遺物出土狀況	P L 26 第57号住居跡完掘狀況, 第57号住居跡竈完掘狀況, 第58号住居跡遺物出土狀況
P L 11 第15号住居跡竈完掘狀況, 第16号住居跡遺物出土狀況, 第17, 18号住居跡遺物出土狀況	P L 27 第61号住居跡完掘狀況, 第62号住居跡竈完掘狀況, 第63号住居跡竈完掘狀況
P L 12 第19号住居跡遺物出土狀況, 第19号住居跡完掘狀況, 第20号住居跡遺物出土狀況	P L 28 第65号住居跡遺物出土狀況, 第65号住居跡竈完掘狀況, 第67号住居跡完掘狀況
P L 13 第21号住居跡完掘狀況, 第22号住居跡遺物出土狀況, 第22号住居跡完掘狀況	P L 29 第72-A・B・C号住居跡完掘狀況, 第75号住居跡完掘狀況, 第76号住居跡遺物出土狀況
P L 14 第23号住居跡遺物出土狀況	P L 30 第76号住居跡遺物出土狀況, 第77号住居跡遺物出土狀況, 第77号住居跡竈遺物出土狀況
P L 15 第23号住居跡完掘狀況, 第26号住居跡遺物出土狀況, 第26, 27号住居跡完掘狀況	
P L 16 第29号住居跡遺物出土狀況, 第29号住居跡竈遺物出土狀況	

	况		掘状况。
P L 31	第79号住居跡遺物出土状况, 第80号住居跡完掘状况, 第81号住居跡完掘状况	P L 45	第2号溝完掘状况, 第3号溝完掘状况, 第5号溝遺物出土状况, 第6号溝完掘状况,
P L 32	第82号住居跡完掘状况, 第85号住居跡完掘状况, 第86号住居跡遺物出土状况		第7号溝遺物出土状况, 第8号溝完掘状况, 第9号溝遺物出土状况
P L 33	第86号住居跡遺物出土状况, 第87号住居跡遺物出土状况, 第89号住居跡遺物出土状况	P L 46	第1号掘立柱建物跡完掘状况, 第1号掘立柱建物跡柱穴完掘状况 (P ₁ ~P ₇)
P L 34	第92号住居跡遺物出土状况, 第93号住居跡確認状况	P L 47	第1号掘立柱建物跡柱穴完掘状况 (P ₈ ~P ₁₅)
P L 35	第94号住居跡完掘状况, 第95号住居跡遺物出土状况, 第96号住居跡遺物出土状况	P L 48	第2号掘立柱建物跡完掘状况, 第2号掘立柱建物跡柱穴完掘状况 (P ₁ ~P ₇)
P L 36	第98号住居跡竈遺物出土状况, 第99号住居跡竈遺物出土状况, 第99号住居跡遺物出土状况	P L 49	第2号掘立柱建物跡柱穴完掘状况 (P ₈ , P ₉), 第3号掘立柱建物跡完掘状况, 第3号掘立柱建物跡柱穴完掘状况 (P ₂ ~P ₆)
P L 37	第99号住居跡完掘状况, 第100号住居跡遺物出土状况, 第101号住居跡完掘状况	P L 50	第3号掘立柱建物跡柱穴完掘状况 (P ₇ , P ₈), 基壇建物跡確認状况, 基壇建物跡土層確認状况号, 第1号井戸遺物出土状况, 第1号井戸完掘状况, N区北端調查状况
P L 38	第102号住居跡竈遺物出土状况, 第102号住居跡完掘状况, 第104号住居跡完掘状况	P L 51	第1・2・3・4・5号住居跡出土遺物
P L 39	第109号住居跡遺物出土状况, 第111号住居跡遺物出土状况	P L 52	第5・6・7号住居跡出土遺物
P L 40	第112号住居跡完掘状况, 第113号住居跡遺物出土状况, 第113号住居跡完掘状况	P L 53	第7・8・9・10・11号住居跡出土遺物
P L 41	第2号土坑完掘状况, 第4号土坑遺物出土状况, 第4号土坑完掘状况, 第5号土坑完掘状况, 第7号土坑遺物出土状况, 第9号土坑遺物出土状况, 第11号土坑完掘状况, 第13号土坑完掘状况	P L 54	第11・12・13・14・15号住居跡出土遺物
P L 42	第14号土坑完掘状况, 第15号土坑完掘状况, 第16号土坑完掘状况, 第29号土坑完掘状况, 第33号土坑完掘状况, 第35号土坑完掘状况, 第36号土坑完掘状况, 第37号土坑完掘状况	P L 55	第15・16号住居跡出土遺物
P L 43	第41号土坑完掘状况, 第43号土坑完掘状况, 第46号土坑遺物出土状况, 第46号土坑完掘状况, 第50号土坑完掘状况, 第58号土坑完掘状况, 第73号土坑完掘状况, 第75号土坑完掘状况	P L 56	第17・18・19・20・22-A号住居跡出土遺物
P L 44	第76号土坑遺物出土状况, 第76号土坑完掘状况, 第1号溝遺物出土状况, 第1号溝完	P L 57	第22-A・22-B・23号住居跡出土遺物
		P L 58	第23・24・25・26・27・29号住居跡出土遺物
		P L 59	第29・30・32 A号住居跡出土遺物
		P L 60	第32-A・32 B・33号住居跡出土遺物
		P L 61	第33・34・35・36-A・36-B号住居跡出土遺物
		P L 62	第36-B・36 C・37・38・39号住居跡出土遺物
		P L 63	第39・40・41・43・46号住居跡出土遺物
		P L 64	第46・47・48-A・50・51号住居跡出土遺物
		P L 65	第52・53・55・56・57・58号住居跡出土遺物

- 物
- P L 66 第58・60・61・62・63・64・65号住居跡出土遺物
- P L 67 第65・67・68・73・74号住居跡出土遺物
- P L 68 第75・76・77・79号住居跡出土遺物
- P L 69 第79・80・81・82・85・86・87号住居跡出土遺物掘状況
- P L 70 第87・89・92・94号住居跡出土遺物
- P L 71 第95・96・97・98・99号住居跡出土遺物
- P L 72 第99・100号住居跡出土遺物
- P L 73 第100・102・104・105・109-A号住居跡出土遺物
- P L 74 第109-A・109-B号住居跡出土遺物
- P L 75 第109-B・111号住居跡出土遺物
- P L 76 第111・112・113・116号住居跡出土遺物
- P L 77 第4・7・9・27・33・35・39号土坑出土遺物
- P L 78 第39・46・59・60・64-B・75・76号土坑出土遺物
- P L 79 第76号土坑出土遺物，第1号溝出土遺物
- P L 80 第2・3・5・7・8・9号溝出土遺物，第1号井戸出土遺物
- P L 81 第1号井戸出土遺物，遺構外出土遺物
- P L 82 遺構外出土遺物
- P L 83 遺構外出土弥生土器
- P L 84 出土瓦(1)
- P L 85 出土瓦(2)
- P L 86 出土瓦(3)
- P L 87 出土瓦(4)
- P L 88 出土瓦(5)

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県は、21世紀に向けて県上の基盤整備推進の方針のもと、ゆとりある社会の実現を口指して快適な道路の整備を進めている。主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事も、この趣旨に沿って計画されたもので、常陸那珂港を起点に那珂郡山方町までの道路改良工事は、この地区の発展に重要な役割を果たすものと期待される。

この路線上に位置する金砂郷町大甲から久米を通り玉造までの2.6kmにわたる区間は、道路幅が狭隘なため通行が困難な箇所、交通量の増加に伴い早急な改修工事が求められていた。このため、緊急地方道整備事業として現在の道路の両側にバイパスを通す工事が計画された。

平成7年1月27日、茨城県（常陸太田土木事務所）は、茨城県教育委員会に対し、主要地方道常陸那珂港山方線改良工事予定地内の金砂郷地区における埋蔵文化財の有無について照会した。茨城県教育委員会は、同年2月2日に現地踏査、同年2月6日に試掘調査を実施し、同年2月24日に工事予定地内に長者屋敷遺跡の存在を確認し、その旨を茨城県に回答した。平成7年3月6日以降、茨城県教育委員会は、茨城県と遺跡の取り扱いについて協議を重ね、その結果、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとし、茨城県に調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は、茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成7年4月1日から同年9月30日にかけて発掘調査を実施することとなった。調査が進むに従い多数の遺構が確認されたため、茨城県、茨城県教育委員会及び茨城県教育財団の協議により、調査期間を1か月延長することとなった。

第2節 調査経過

長者屋敷遺跡の発掘調査は、平成7年4月1日から同年10月31日までの7か月にわたって実施した。調査区が道路幅で細長いため、調査区を横切る道路によって北からⅠ区～Ⅴ区に区分した。以下、調査経過について、その概要を記述する。

- 4月 3日から発掘準備を開始した。5日に現地踏査を行い、弥生土器片、土師器片、須恵器片及び瓦片を採集した。7日に金砂郷町立金砂郷南中学校東側に事務所を建て、12日までに調査のための器材搬入を完了した。15日から調査補助員を雇用して遺跡周辺の清掃を行い、調査前全景写真撮影を行った。17日午前、発掘調査の円滑な進行と作業の安全を願って献入式を行い、同日午後、調査区北端から南端までおよそ400mに4m四方の試掘グリッドを40か所設定し、Ⅰ区北端から試掘を開始した。28日までに竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、土坑などの遺構を多数確認し、土師器片、須恵器片を中心に多数の遺物を採取した。
- 5月 表上が薄いⅣ区中央部から人力表土除去を開始し、併せて遺構確認作業を進めた。8日にはⅣ区中央部で規模の大きな掘立柱建物跡を確認した。12日午前中にⅣ区の遺構確認状況写真撮影を行い、午後からは遺構調査に着手した。第2号住居跡では炉が確認され、第3号住居跡からは石製模造品が出土した。第7号住居跡室内からは、内黒でヘラ磨きを施した土師器や甕の袖材として利用したものと思われる瓦片が出土した。この間、茨城県建設技術公社に委託して、表土除去に先立って基準杭打ちを行った。

- 6月 6日、Ⅳ区南側から重機による表土除去を開始し、並行して遺構確認作業を進めた。11日にⅣ区の南側の表土除去を終了した。13日にⅤ区の表土除去を終了して、溝3条を確認し瓦片を採取した。15日にはⅣ区の北側の表土除去を終了し、古墳時代の竪穴住居跡5軒を確認した。20日から23日にかけてⅠ区とⅡ区の表土除去を行ったが、ほとんどの住居跡が重複していた。26日から30日にかけてⅢ区に移り、表土除去作業は終了した。Ⅲ区もⅡ区と同様、重複した住居跡が一面に広がっていた。
- 7月 7日までに遺構確認作業を終了し、住居跡108軒、土坑55基、井戸1基、掘立柱建物跡3棟、溝8条を確認した。10日にⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区及びⅤ区の遺構確認状況写真撮影を行い、続いて第Ⅳ区の遺構の掘り込みを中心に調査を進めた。Ⅳ区南部では、内面へラ磨きに加え黒色処理された土師器が出土し、平安時代の住居跡が複雑に重複して確認された。12日にはⅤ区北部の第5号溝から軒丸瓦が出土した。14日には調査が第Ⅲ区に移り、第27号住居跡から緑釉陶器椀が出土した。21日にはⅣ区第22号住居跡から小型丸底塔が出土した。
- 8月 第Ⅳ区の調査に加え、第Ⅱ区も調査を開始した。第Ⅱ区は数多くの竪穴住居跡が重複して確認された。遺構が多いため期間内に調査を終了することがかなり難しいとの見通しから対応策の検討を始め、30日に発掘調査期間を1か月延長することが決まった。
- 9月 調査の中心が第Ⅱ区南部に移った。遺構調査を精力的に進めながら、調査成果のまとめを行い、27日に茨城県に対して調査報告を行った。
- 10月 7日に見学者306名を集め現地説明会を開催し、11日に航空写真撮影を行った。現地説明会、航空写真撮影以降も、第Ⅲ区とⅣ区境付近を中心に遺構調査を続行した。併せて12日に調査区Ⅳ区北端に広がる遺物包含層にトレンチを入れて調査し、19日には現場での調査をほぼ終了した。引き続き図面点検等補足作業を行い、31日にはすべての調査を終えて撤収した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

長者屋敷遺跡は、茨城県久慈郡金砂郷町大字大里3514番地の1ほかに所在し、金砂郷町役場から南南東へ2.5kmほどに位置している。

遺跡が所在する金砂郷町は、茨城県の北部中央に位置し、東は常陸太田市、久慈郡水府村、西は那珂郡山方町、大宮町、南は同郡瓜連町、那珂町に接している。町の南部を一般国道293号線が東西に走り、常陸太田市と大宮町に通じているほか、主要地方道や県道によって周辺市町村と結ばれている。町域は東西約6km、南北約18kmで南北に細長く、面積は約63km²である。

金砂郷町の地形を概観すると、北部の山地、東部の山田川低地及び丘陵地帯、南部の久慈川、浅川及び山田川流域の低地、西部の浅川低地及び丘陵地帯からなっている。北部の山地は起伏も大きく険しい地形を作っている。低地は浅川、山田川、久慈川流域に広がっている。浅川は北部の山地を東西に浸蝕して深い谷を作り、南部では流域沿いに沖積平野を形成している。山田川は町内では中流域となっていて、南部に広い沖積平野を作っている。

町の面積の4分の3は山林で、水田が約18%、畑が約8%を占めている。南部一帯の沖積平野は耕地整理された水田地帯で、北部は浅川とその支流の谷底平野に水田が見られるほか、狭い沢すじには湧水や多くの溜池を水源として谷津田が作られている。また、畑作地域では小麦、そば、大豆などが栽培され、梅やぶどうなどの果樹もさかんである。

長者屋敷遺跡は、山田川が久慈川と合流する手前5km、左岸の標高20～30mの低い台地上に、高さ50mほどの輪を伏せたような形の山裾に南北約1.1km、東西約0.6kmにわたって広がっている。現況は畑地で、住宅が点在している。

参考文献

- ・金砂郷村史編さん委員会 『金砂郷村史』 1989年10月
- ・大山年次 蜂須紀夫 『茨城県地学のガイド』 1986年11月
- ・大森昌南 蜂須紀夫 『茨城の地質をめぐって』 1987年8月

第2節 歴史的環境

長者屋敷遺跡の所在する山田川、浅川及び久慈川流域には、縄文時代以降の多くの遺跡が分布している。金砂郷町内にも古墳時代や奈良・平安時代を中心に多くの遺跡があるが、その中で長者屋敷遺跡周辺の遺跡について時代を追って概観してみたい。

長者屋敷遺跡周辺の縄文時代の遺跡としては、長者屋敷遺跡と隣接するおひい¹⁶蔵遺跡(17)、北約700mに位置する久米遺跡(15)、常陸太田市の岡坂貝塚(34)及び高遺跡(35)があげられるが、いずれも発掘調査は行われていない。おひい蔵遺跡では縄文時代前期及び中期の土器が多量に採取され、久米遺跡では中期及び後期の土器片が少量ではあるが採取できる。岡坂遺跡では前期、高遺跡では中期の土器がそれぞれ採取できる。

弥生時代の遺跡としては、浅川左岸の低い台地上に矢ノ田遺跡(28)及び下宿遺跡(33)、山田川の右岸に

大方台遺跡(32)、長者屋敷遺跡に隣接しておひい蔵遺跡及びび前宿遺跡(20)が所在している。いずれも弥生時代後期の土器片が比較的多量に出土している。下宿遺跡では同期のものと思われる紡錘車が出土している。周辺で発掘調査が行われた遺跡としては、長者屋敷遺跡の南東5kmほどの久慈川右岸の台地上に位置する森戸遺跡がある。昭和62年から63年にかけて調査され、弥生時代、古墳時代及び奈良・平安時代の竪穴住居跡が139軒確認されている。弥生時代の竪穴住居跡はそのうち3軒であるが、いずれも後期の住居跡で、弥生土器、紡錘車、石製品などが出土している。

長者屋敷遺跡周辺では古墳及び横穴墓も多く確認されている。古墳は浅川の右岸に道場塚古墳(9)、浅川の左岸に幕平古墳(27)、諏訪古墳群(8)及び東山古墳群(11)、浅川と山田川の間に大方古墳群(30)、大方鹿島神社古墳(31)、星神社古墳(3)及び常陸太田市の梵天山古墳群(36)、長者屋敷遺跡に隣接して山田川左岸に観塚古墳(13)が所在している。道場塚古墳は全長68m、後円部は高さ7.6mの前方後円墳である。諏訪古墳群は全長90mの前方後円墳と、ともに径30mの円墳2基で構成され、付近からは埴輪片が採取できる。

幕平古墳は幕平遺跡の範囲内にあり、ここから出土したと言われる勾玉や管玉が残されている。大方古墳群は前方後円墳2基と円墳3基の5基で構成され、付近から埴輪片が比較的多量に採取されている。大方鹿島神社古墳は削平されて形をとどめていないが、元来径30mほどの円墳と考えられ、古墳出土の人物埴輪などが残されている。星神社古墳は全長92mほどの前方後円墳で、後円部頂上付近から土師器が採取されている。梵天山古墳群は常陸太田市島町に所在する前方後円墳で、久慈川、浅川、山田川に挟まれた岬状の地形の標高30mほどの台地上に位置している。5世紀後半から6世紀初頭に造られた古墳で、全長151m、前方部の幅57m、高さ8m、後円部の直径81m、高さ13mで、石岡市の舟塚山古墳について木原第2の規模である。

横穴墓としては、浅川右岸に二階穴横穴(6)及び善光寺横穴群(1)、左岸にばくち穴横穴(10)、浅川と山田川の中間低地にある小さな島状の山頂上部に島横穴群(37)、山田川右岸の台地上に猪瀬横穴群(29)が所在している。二階穴横穴群は丘陵の西側斜面に4基が口を開け、2基は内部で通じている。善光寺横穴群は、平成4年に「善光寺横穴群発掘調査会」により5基の発掘調査が行われ、刀子、鉄鏝、金環、メノウ製勾玉、水晶製切子玉、ガラス製九玉・白玉・小玉、琥珀製薬玉などが出土し、第3号横穴からは全長83.6cmの木芯覆輪元留式柄頭型式の大刀が出土している。東山横穴群は31基の横穴群で構成されている。猪瀬横穴群は急崖に凝灰岩を穿って12基が開口している。昭和38年に2基が調査され、第8号墳は主軸はほぼ東西を向き、玄室内全面に河原石が敷かれている。9号墳前庭部からは平底で糸切り痕を残し、肩部と口縁部に沈線が施され、胴部以下にクロコ痕の残る須恵器の平瓶、玄室内からは青いガラス玉及び鉄製品(直刀か刀子、破片)が出土している。

古墳時代の遺跡には浅川左岸に幕平遺跡(26)、矢ノ田遺跡及びび下宿遺跡、浅川と山田川に挟まれた低地の中央部島状の台地に本郷遺跡(4)、山田川右岸に御城遺跡(24)及びび大方台遺跡、山田川左岸におひい蔵遺跡が分布している。幕平遺跡では古墳時代前期及び後期の坏片が出土し、矢ノ田遺跡、下宿遺跡及びび本郷遺跡でも古墳時代の土師器や須恵器を採取できる。標高80mの台地上に位置している御城遺跡からは土師器片や須恵器片が比較的多量に採取できる。大方台遺跡では石製模造品の破片、付付委片及びS字状I線の付付委片などが採取されている。おひい蔵遺跡でも古墳時代の土師器や須恵器片が多量に採取されている。前述の森戸遺跡では古墳時代前期の竪穴住居跡が1軒、中期が16軒、後期が66軒確認され、土師器や須恵器などとともに石製模造品が多量に出土している。

奈良・平安時代の遺跡では、前述の幕平遺跡、矢ノ田遺跡、下宿遺跡、大方台遺跡、御城遺跡、久米遺跡、おひい蔵遺跡の他に、浅川と山田川の間の北側台地上に内出遺跡(25)、山田川の左岸に目久保内遺跡(19)

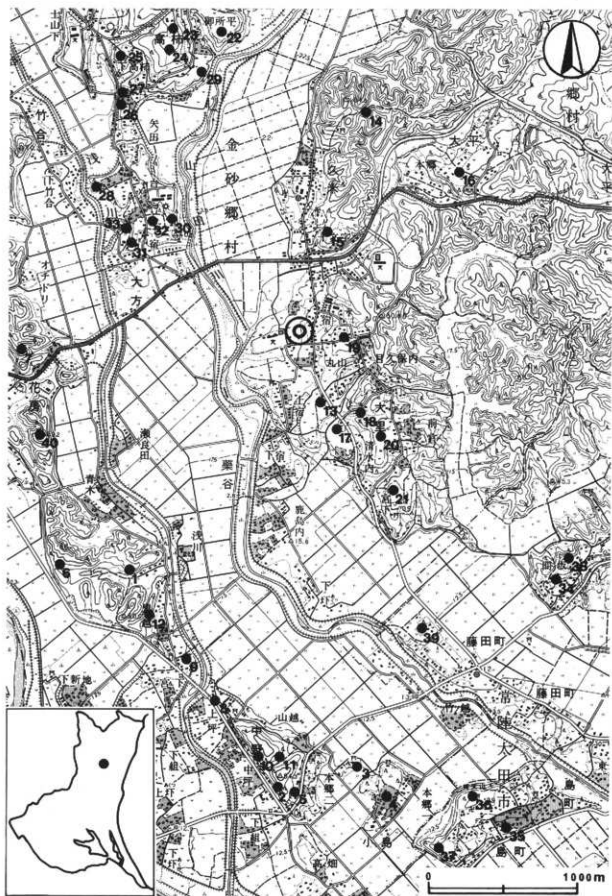
及び宮崎前遺跡(21)、右岸奥に大平遺跡(16)が分布している。いずれの遺跡からも平安時代の上師器や須恵器片が採取されているが、発掘調査は行われていない。森戸遺跡では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が40軒確認され、土師器の甕、坏、鉢、須恵器の坏、高台付坏、壺、盤などが出土している。森戸遺跡の南0.7kmに位置する北郷C遺跡も森戸遺跡と一連の調査がされ、奈良・平安時代の竪穴住居跡が16軒確認され、内面黒色処理された坏を多数含む土師器や須恵器及び鉄製品(刀子、鉄鏃、釘)などが出土している。

中世の城館遺跡としては、久米城跡(14)、高柿城跡(23)、馬坂城跡(38)、藤田館跡(39)、花房城跡(40)、金砂城跡などがある。

* 文中の〈 〉内の番号は、表1及び第1図中の番号と対応する。

参考文献

- ・金砂郷村史編さん委員会 『金砂郷村史』 1989年10月
- ・金砂郷町教育委員会 『善光寺横穴群発掘調査報告書』 1992年11月
- ・茨城県 『茨城県史 原始古代編』 1985年3月
- ・茨城県 『茨城県史 中世編』 1985年3月
- ・茨城県教育財団 『一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 北郷C遺跡 森戸遺跡』
『茨城県教育財団文化財調査報告第55集』 1990年3月
- ・茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』 1990年3月



第3図 周辺遺跡分布図

表1 周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	県 番号	時 代							番 号	遺 跡 名	県 番号	時 代							
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈良 ・ 平安	鎌倉 ・ 室町	江 戸				旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈良 ・ 平安	鎌倉 ・ 室町	江 戸	
◎	長者屋敷遺跡	753			○	○	○			21	官崎前遺跡									
1	善光寺横穴群	737						○		22	高柿遺跡			○						
2	長慶寺院跡	736						○		23	高柿城跡	758								○
3	早神社古墳	738				○				24	御城遺跡							○	○	
4	本郷遺跡					○	○			25	内出遺跡								○	
5	大角寺院跡	739						○		26	暮平遺跡								○	○
6	二階穴横穴	740				○				27	暮平古墳								○	
7	寺山寺院跡	741						○		28	矢ノ田遺跡							○	○	
8	源助古墳群	742				○				29	猫瀬横穴群	759							○	
9	道場塚古墳	743				○				30	大方古墳群	760							○	
10	ばくち穴横穴群	744				○				31	大方並心神社遺跡								○	
11	東山古墳群	745				○				32	大方台遺跡								○	○
12	鬼越塚群	746						○		33	下宿遺跡								○	○
13	糠塚古墳	749				○				34	岡坂貝塚	653		○						
14	久米城跡	750						○		35	島遺跡	661		○						
15	久米遺跡							○		36	梵天山古墳群	678							○	
16	大平遺跡					○	○			37	鳥横穴群	704							○	
17	おひい蔵遺跡	751		○	○	○	○			38	馬坂城跡	716								○
18	御跡裡城跡	752		○			○	○		39	藤田館跡	718								○
19	月久保内遺跡					○	○			40	花房城跡									○
20	前宮遺跡					○														○

第3章 長者屋敷遺跡

第1節 遺跡の概要

長者屋敷遺跡は、金砂町南部、久慈川の支流である山田川左岸の標高20～30mの低台地上に位置している弥生時代、古墳時代及び奈良・平安時代にかけての集落跡を中心とした複合遺跡である。長者伝説、焼米及び瓦などが出土していることや文献上からも久慈郡街の置かれた地として注目されてきた遺跡である。現況は畑及び山林である。

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡35軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡68軒、時期不明竪穴住居跡11軒、掘立柱建物跡3棟、基礎建物跡1棟、溝9条、井戸1基、土坑65基を確認した。

遺物は、縄文土器、弥生土器（壺）、土師器（台付壺、埴、器台、坏、高坏、高台付坏、碗、皿、甕、甌）、須恵器（坏、高坏、高台付坏、皿、盤、甕、瓶、蓋、硯）、土製品（管状土錘、紡錘車）、石製品（紡錘車、石製模造品、支脚）、金属製品（簪、鉄斧、金環、鎌、釘）、瓦（軒瓦、丸瓦、平瓦）、灰釉陶器、緑釉陶器、ガラス玉などが出土している。

第2節 基本層序

調査区内（C1is区）にテストピットを設定し、第4図に示すような上層の堆積状況を確認した。

なお、表土除去により耕作土等は取り除かれている。また、KPは鹿沼バミスを表す。

第1層は、5～10cmの厚さで、KP粒子を少量含む鈍い褐色のソフトローム層である。

第2層は、10～25cmの厚さで、KP粒子を多量に含む黄褐色のローム層である。

第3層は、15～30cmの厚さで、KP粒子を少量含む鈍い褐色のローム層である。

第4層は、15～20cmの厚さで、赤色スコリアを少量含む、粘性、締まりともに強い褐色のローム層である。

第5層は、10～20cmの厚さで、粘性、締まりともに強い褐色のローム層である。

第6層は、10～25cmの厚さで、粘性、締まりともに強い明褐色のローム層である。

第7層は、10～20cmの厚さで、径1mmほどの灰色の粘土粒子が全体に散らばるローム層である。

第8層は、15～25cmの厚さで、白色の径5～10mmの礫が多量に混じるオリブ黄色の粘土層である。

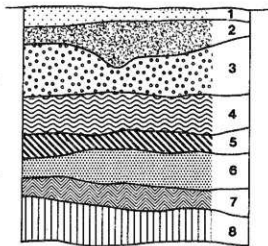
第8層下層は径5cmをこえる礫が広がっている。

遺構は第1層上面で確認されている。

30.6m—

30.0 —

29.5 —



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡及び奈良・平安時代の竪穴住居跡114軒を検出した。以下、検出した竪穴住居跡と出土遺物について記載する。

第1号住居跡（第5図）

位置 調査区南部、H4a区。

重複関係 本跡は、第1号土坑及び第2号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 北西壁と南東壁とを結ぶ軸長7.05m。北東壁と南西壁とを結ぶ軸長は5.20mまで測れるが、遺構外へ延びているため全長は確認できない。

長軸方向 N-41°-W

壁 壁高は10~14cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東壁下で確認され、上幅10cm、下幅5cm、深さ5cmほどで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、踏み固めは弱い。中央部と東コーナー部は攪乱を受けている。

ピット 3か所（P₁~P₃）。P₁は長径40cm、短径33cmの楕円形で、深さ26cm。P₂は径35cmの円形で、深さ44cm。P₁及びP₂は支柱穴である。P₃は推定長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ22cm。性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナー部に付設されている。一部攪乱を受けているが、本来は長径100cm、短径80cmほどの楕円形と推定される。深さは30cmである。底面には長径7cmほどの紡錘形の標が敷いたような状態で確認された。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム大ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック多量、炭化物中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

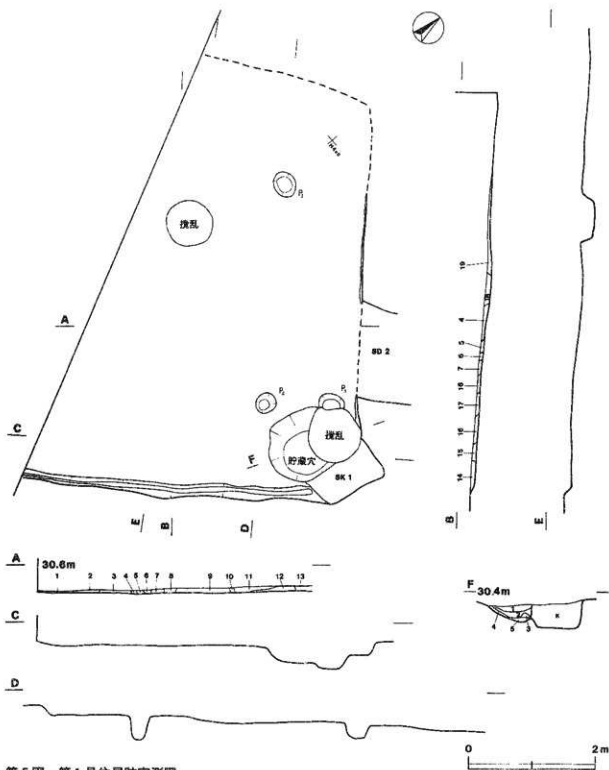
覆土 19層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 鈍い棕色 ローム粒子多量、焼土小ブロック微量
- 2 橙褐色 ローム粒子多量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック微量
- 4 明褐色 焼土小ブロック多量
- 5 橙褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック微量
- 6 明褐色 焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 7 橙褐色 ローム粒子多量
- 8 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量
- 10 橙褐色 ローム粒子中量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量
- 12 明褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量
- 13 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量
- 14 暗褐色 ローム粒子微量
- 15 黒褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子少量
- 17 暗褐色 ローム粒子多量
- 18 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 19 暗褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片28点、弥生土器片2点及び瓦片2点が出土している。

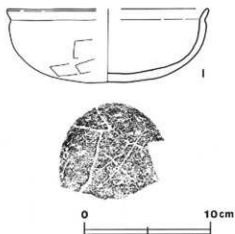
所見 本跡は、出土した遺物から5世紀後半の住居跡と考えられる。



第5図 第1号住居跡実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	計高さ(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6回 1	坏 土師器	A [16.0] B 5.8	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内摩しながら立ち上 がり。上位でくびれ、口縁部は短 く外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面へラ削り後ナデ。底部外面 にヘラ記号。	長石・石英・スコ リア 鈍い褐色 普通	P 1 硬土中



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡（第7図）

位置 調査区南部，G4区

規模と平面形 長軸6.60m，短軸6.40mの隅丸方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は5～23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 擾乱を受けている南西壁下を除きほぼ全周している。上幅15cm，下幅10cm，深さ5cmほどで，断面は「U」字形である。

床 平坦で，中央部と東コーナー付近の硬化が著しい。東コーナー付近では，中央部に比べ一段高くなった部分に硬化面が確認できる。

ピット 7か所（P₁～P₇）。P₁及びP₂はともに径約50cmの円形で，深さはそれぞれ65cmと70cm。P₃は長径80cm，短径60cmの楕円形で，深さ75cm。P₄は長径65cm，短径55cmの楕円形で，深さ60cm。P₁～P₄は主柱穴である。P₅及びP₆はともに径約45cmの円形で，深さ70cmの出入り口施設に伴うピットである。P₇は長径60cm，短径45cmの卵形で，深さ25cm。性格は不明である。

炉 2か所。中央部やや西寄りに位置する。炉1は長径90cm，短径80cmの不整楕円形。炉2は長径35cm，短径25cmの楕円形。ともに如床は火を受けて赤変硬化し，固いブロック状になっている。炉1及び炉2は同時期に存在し，炉2が補助的な役割を果たしていたものと考えられる。

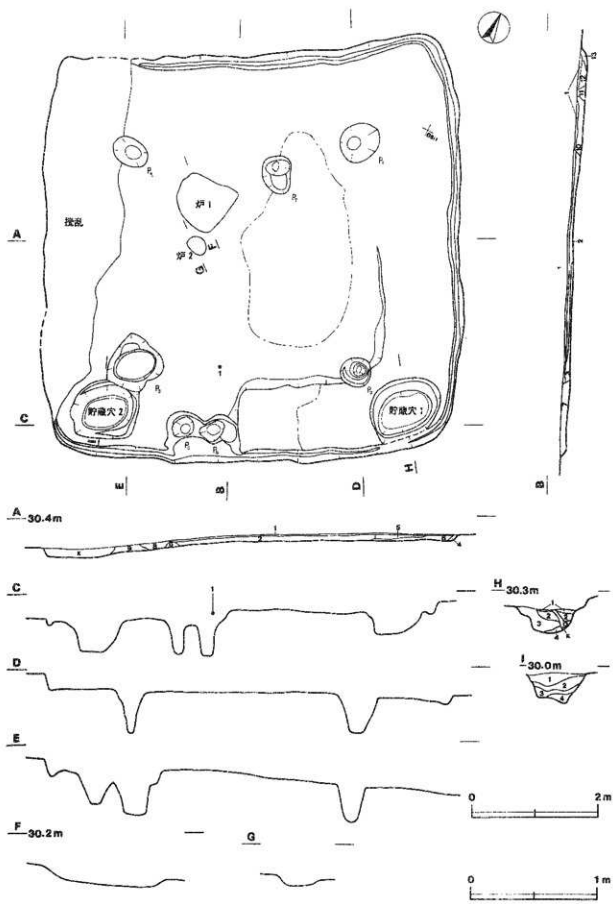
貯蔵穴 2か所。東コーナー部及び南コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は長径120cm，短径95cmの楕円形で，深さ55cm。貯蔵穴2は，長径110cm，短径90cmの楕円形で，深さ55cm。規模や形状が似通い，底面にはともに長径約7cmの紡錘形の礫と砂が敷かれた状態で確認されたことなどから，貯蔵穴1及び2は同時期に使用されたものと考えられる。

貯蔵穴1 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム大ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・ローム中ブロック少量，焼土大ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム大ブロック中量，ローム粒子少量，焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量

貯蔵穴2 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化材微量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量



第7图 第2号住居跡実測图

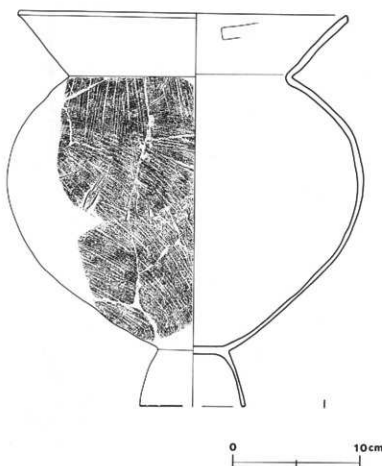
覆土 13層からなる。各層にロームブロックが見られることから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|---------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | 8 極暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中・小ブロック少量、炭化粒子・ローム大ブロック微量 | 9 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | | |

遺物 土師器片534点、須恵器片2点及び弥生土器片22点が出土している。土師器片の大部分は刷毛目の施された甕の体部片である。第8図1の土師器台付甕は出入り口寄り床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から4世紀中頃の住居跡と考えられる。



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	台付甕 土師器	A 26.2 B 31.3 D (8.5) E 4.4	脚台部から口縁部にかけての破片。台部は内彎臭味に「ハ」の字状に開く。体部は最大径を上位にもち、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾する。	体部から脚台部外面には刷毛目が密に施されている。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P2 床面 60%

第3号住居跡（第9図）

位置 調査区南部，G5₁₁区。

規模と平面形 南北軸長3.80m。東西軸長は1.85mまで測れるが，調査区外へ延びているため全長は確認できない。南及び西コーナーはほぼ直角である。

長軸方向 N-20°-W

壁 壁高は15~23cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 西側部分は全周している。上幅15cm，下幅8cm，深さ10cmほどで，断面は「U」字形である。

床 平坦で，中央付近を中心に踏み固められている。

ピット 長径45cm，短径35cmの楕円形で，深さ20cm。性格は不明である。

炉 中央部やや北壁寄りに位置する。調査区外へ延びているため全体は確認できないが，径約50cmの円形と推定される。

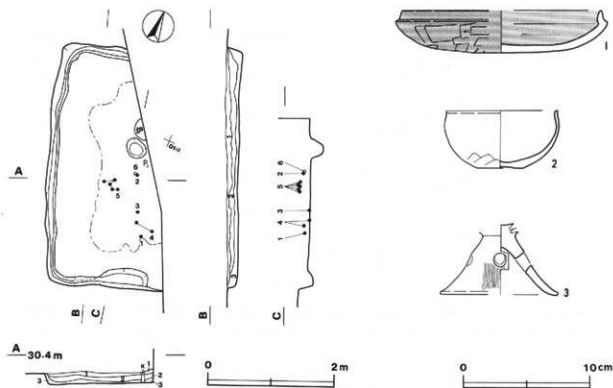
覆土 3層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

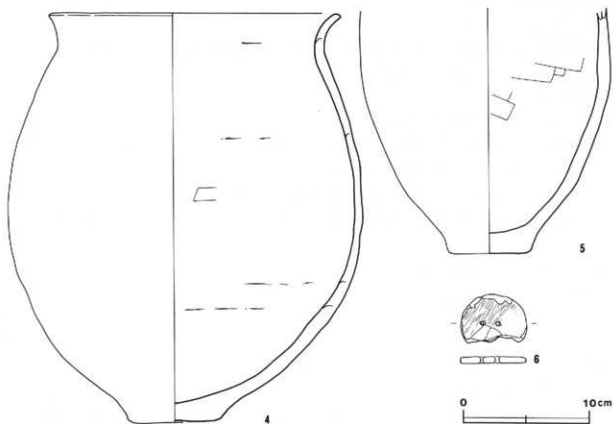
- 1 黒褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大・中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

遺物 土師器片104点，須恵器片5点，石製模造品1点及び弥生土器片7点が出土している。第9図1の土師器杯は南壁寄り覆土下層から，第9図2の土師器碗及び第10図6の石製模造品は中央付近覆土下層から，第9図3の土師器器台及び第10図4の土師器甕は南壁寄り床面から，第10図5の土師器甕は西壁寄り覆土下層からそれぞれ出土している。1は流れ込みの可能性がある。

所見 本跡は，出土遺物から古墳時代の住居跡と考えられる。



第9図 第3号住居跡・出土遺物実測図



第10図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第9図 1	坏 土器	A [16.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底気味の丸底。体部は内彎しな がら立ち上がり、明瞭な線を経て、 口縁部は内傾する。器高が低い。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面へラ削り後ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P 3 65% 内・外面黒色処理 底部外面黒石私用 覆土下層
		B 3.9				
2	椀 土器	A 8.8	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり、上位でくびれる。口縁部は 短くわずかに外反する。	口縁部内・外面及び体部内面上位 ナデ。体部内・外面へラ削り。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P 4 70% 覆土下層
		B 4.5				
		C 3.8				
3	器台 土器	B (5.0)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開 き、基部は広がる。脚部中位に4 孔を穿つ。	脚部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 5 30% 床面
		D [9.3]				
		E 4.7				
第10図 4	壺 土器	A 23.3	底部から口縁部にかけての破片。 底部は平底で突出気味。体部は内 彎しながら立ち上がり、中位に最 大径をもつ。頸部から口縁部は緩 やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面下位へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P 6 80% 床面
		B 32.6				
		C 7.5				
5	壺 土器	B (19.5)	底部から体部にかけての破片。底 部は平底で突出気味。体部はわず かに内彎しながら立ち上がる。	体部外面中位横方向のへラ削り。	長石・スコリア 褐色 普通	P 7 70% 覆土下層
		C 6.7				

図版番号	器種	計測値					石材	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第10図6	双孔円板	径	5.3	0.6	0.3	19.2	緑泥片岩	覆土下層	Q1

第4号住居跡（第11図）

位置 調査区南部，H5_{r2}区。

規模と平面形 長軸2.55m，短軸2.50mの隅丸方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は17~20cmで，外傾して立ち上がる。床 平坦で，踏み固めは弱い。

電 削平されているため電は確認できなかった。

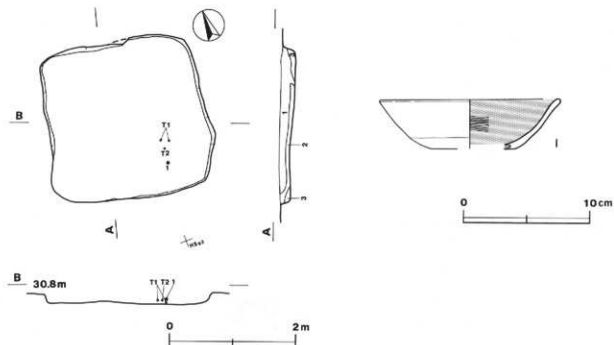
覆土 3層からなる。ロームブロックが見られることから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 2 黒暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片177点，弥生土器片26点及び瓦片3点が出土している。第11図1の土師器坏は南東コーナー寄り覆土下層から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



第11図 第4号住居跡・出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	坏 土師器	A 14.4 B 3.9 C (7.1)	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内埋しながら立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部・底部内面へうろき。 口縁部外面横方向のナデ。体部下位回転へうろき。	長石・砂粒 鈍い黄褐色 普通	P 8 40% 内面黒色処理 覆土下層

第5号住居跡（第12図）

位置 調査区南部，H5_{r4}区。

重複関係 本跡は，第1号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

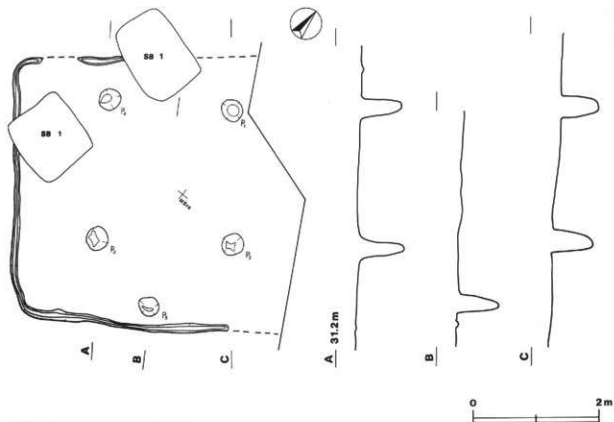
規模と平面形 耕作による削平のために覆土はほとんど残っていない。床の硬化面と燃漬から，長軸4.75m，短軸4.35mほどの方形と推定される。

主軸方向 N-35°-W

壁 壁は残っていない。

壁溝 確認できる南東壁下及び南西壁下部分についてはほぼ全周している。上幅10cm, 下幅5cm, 深さ5cmほどで, 断面は「U」字形である。

床 平坦で, 踏み固めは強く, 全体にロームの硬化したブロックが広がる。



第12図 第5号住居跡実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₅は径55cm前後の円形で, 深さは55~73cm。いずれも支柱穴である。

P₁は長径35cm, 短径30cmほどの楕円形で, 深さ66cmの出入口施設に伴うピットである。

覆土 残っていた覆土は浅く, 堆積状況は確認できなかった。



第13図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	坏土器	A 12.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内厚しながら立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面下端回転へう割り。底部外面回転へう切り。	砂粒多量・長石・石英・スコリア 鈍い橙色 普通	P 9 90% 体部外面磨き 口縁部内・外面造 襷付着 (灯明) 覆土中
		B 4.1				
		C 6.1				
2	高台付坏土器	A (11.8)	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は点線的に「ハ」の字状に開く。体部は内厚しながら立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。	長石・石英 鈍い橙色 普通	P 10 25% 覆土中
		B 5.4				
		D 5.6				
		E 1.4				

遺物 土師器片4点が出土している。第13図1の土師器坏及び2の土師器高台付坏は覆土中出土であるが、耕作により持ち込まれたものと考えられる。

所見 本跡は、耕作による削平のため遺構の残り状態が悪く、出土遺物も細片が極少量で、時期を特定することが難しいが、規模、内部施設及び主軸方向などから古墳時代後期の住居跡と思われる。

第6号住居跡（第14図）

位置 調査区南部，H5g5区。

重複関係 本跡は、第1号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長4.10m。東西軸長は2.00mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。南西コーナーは隅丸である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は約5～20cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めは比較的弱い。

ピット 径50cmの円形で、深さ64cmの支柱穴と考えられる。

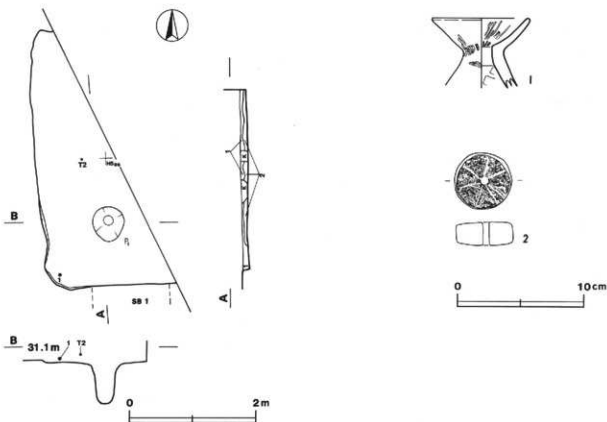
炉 遺構の大部分が調査区外にあるため確認できない。

覆土 残っていた覆土は浅く、2層からなる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片74点及び弥生土器片31点が出土している。土師器片の大部分は刷毛目調整の施された堯の体部



第14図 第6号住居跡・出土遺物実測図

片である。第14図1の土師器器台は南西コーナー部覆上下層から、2の紡錘車は西壁寄り覆上下層から出土している。

所見 本跡は、出土した遺物から、4世紀中頃の住居跡と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図1	器台 土師器	A 7.9 B (5.4) E (2.7)	胴部から器受部片。胴部は波線的に「ハ」の字状に開く。器受部は比較的小さく、わずかに内唇しながら立ち上がる。器受部底部に中央孔。胴部に3孔が穿たれている。	器受部内面及び胴部外面両方向の縁へ向う。	長石・石英 棕色 普通	P11 覆土下層 80%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第14図2	土製紡錘車	径	4.5	(1.9)	(48.1)	覆土下層	DP1

第7号住居跡(第15図)

位置 調査区南部、H5R5区。

規模と平面形 長軸3.40m、短軸2.55mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は8~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めは比較的弱い。

ピット 2か所(P₁、P₂)。P₁は径40cmの円形で、深さ60cmの主柱穴と思われる。P₂は径50cmの円形で、入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 南東コーナー東壁を幅60cm、奥行45cmほど掘り込んで付設され、輪部は黒色土と黒褐色土にローム及び砂質粘土を多量に混ぜて構築されている。袖部の補強材として瓦が使用され、竈内から土師器坏が比較的良好な状態で出土している。

竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
2 暗赤褐色	焼土小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	6 明褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 灰褐色	焼土粒子・ローム粒子微量	7 明褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 棕色	ローム粒子中量、焼土粒子微量

貯蔵穴 南西コーナーに付設されている。壁際が一部崩落しているが、本来は直径100cm、短径80cmほどの楕円形と推定される。深さは32cmである。

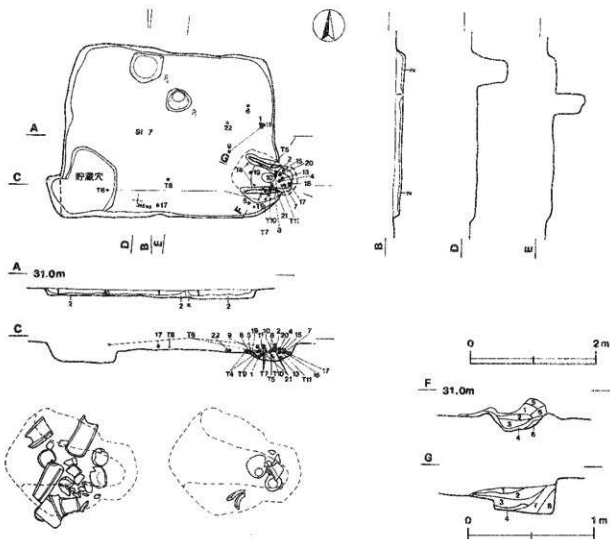
覆土 残っていた覆土は薄く、2層からなる。

土層解説

1 鈍い黄褐色	ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片720点、須臾器片11点、瓦片8点及び弥生土器片28点が出土している。第16図1及び11の土師器坏は竈に向かって左袖外側床面から正位で2枚重ねの状態而出上している。6の土師器坏は1、2の近くから逆位の状態而出上している。2、4、7、10及び13の土師器坏、19及び20の土師器坏は竈中央付近から、5の土師器坏は竈左袖部から、15の土師器坏は竈左袖側から、16及び17の土師器坏は竈火床部先端床面から、8の土師器坏及び第17図21の土師器要は右袖内側からそれぞれ出土している。

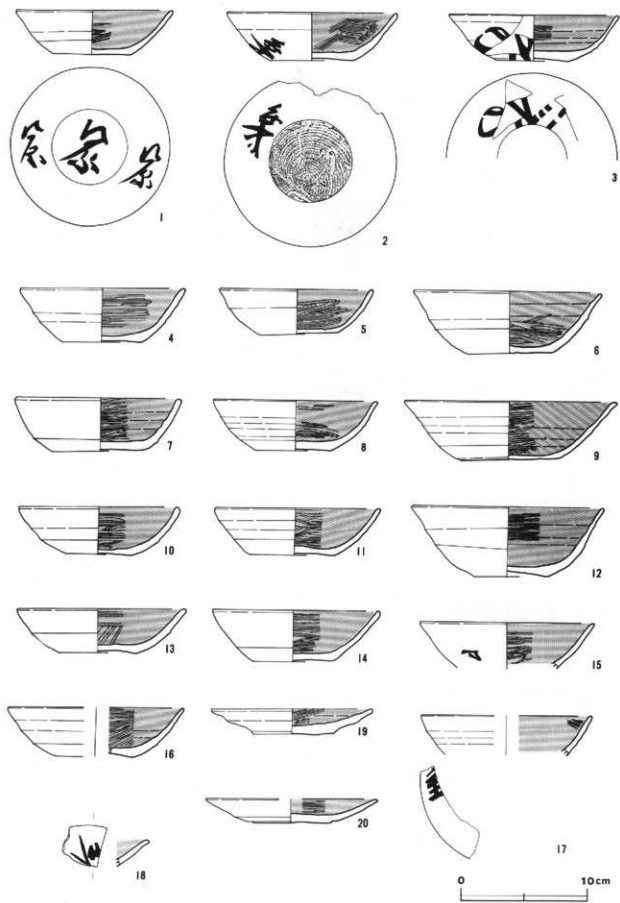
所見 本跡は、出土遺物から10世紀前半の住居跡と考えられる。



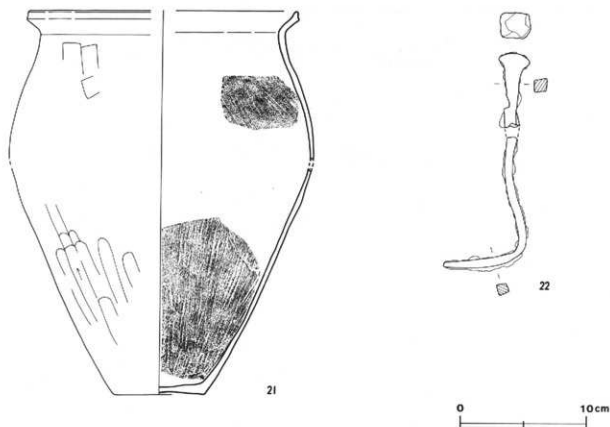
第15図 第7号住居跡実測図

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	杯 土師器	A 12.5 B 3.7 C 6.2	平底。体部は内斡しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面に強いロクロ目が残る。体部外面下半部転へり傾り後ナデ。底部回転へり後ナデ。	雲母・砂粒・スコリア 鈍い黄棕色 普通	P12 100% 黒色「以辰」か 内面黒色処理 灰周
2	杯 土師器	A 13.7 B 3.9 C 6.7	口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内斡しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下半部転へり傾り。底部回転後ナデ。	長石 鈍い黄棕色 普通	P15 90% 黒色「以辰」か 内面黒色処理 灰
3	杯 土師器	A 12.6 B 3.8 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内斡しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下半部転へり傾り。底部回転へり傾り後ナデ。	石英・パミス・スコリア 鈍い黄棕色 普通	P19 90% 体部外面黒色 内面黒色処理 覆土中
4	杯 土師器	A 13.1 B 4.3 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内斡しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面に強いロクロ目が残る。体部外面下半部転へり傾り。底部外面回転へり傾り後ナデ。	雲母・スコリア 淡黄棕色 普通	P13 99% 内面黒色処理 灰



第16图 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第17図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坏土器	A 12.2	口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下半回転ヘラ削り後ナデ。	スコリア・パミス 橙色 普通	P16 95% 内面黒色処理 床面
		B 3.5				
		C 6.2				
6	坏土器	A 15.2	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面に強いロクロ目が残る。体部外面下半回転ヘラ削り。底部外面回転ヘラ切り後ナデ。	パミス・スコリア 浅黄橙色 普通	P14 99% 内面黒色処理 床面
		B 5.1				
		C 6.6				
7	坏土器	A 13.3	口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下半回転ヘラ削り。体部内面に強いロクロ目が残る。	石英・長石・スコリア・パミス 橙色 普通	P17 95% 内面黒色処理 甕
		B 4.1				
		C 7.5				
8	坏土器	A 13.1	口縁部及び体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転糸切り。	石英・パミス 鈍い黄橙色 普通	P18 95% 内面黒色処理 甕
		B 4.0				
		C 5.9				
9	坏土器	A 17.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、上位から口縁部はわずかに外反する。比較的大形である。	ロクロ整形。内面磨き。体部下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	石英・パミス・スコリア 鈍い橙褐色 普通	P20 90% 内面黒色処理 床面
		B 4.5				
		C 8.0				
10	坏土器	A 12.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部内面磨き後ナデ。体部下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	パミス・スコリア 黄褐色 普通	P21 90% 内面黒色処理 甕
		B 3.9				
		C 5.3				
11	坏土器	A 13.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面多方向の磨き。口縁部内面磨き後ナデ。体部下位回転ヘラ削り。	パミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P22 85% 内面黒色処理 床面
		B 3.8				
		C 6.7				
12	坏土器	A 15.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。比較的高い。	ロクロ整形。内面丁寧な磨き。体部外面下半回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・スコリア 鈍い橙褐色 普通	P23 80% 内面黒色処理 甕土中
		B 5.5				
		C 5.7				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16回 13	坏 土師器	A 13.5	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内傾しながら立ち上 がり、口縁部は外傾する。底部は わずかに内方方向にくぼむ。	ロクロ整料。内面磨き。体部外面 下位回転へつ削り。底部回転へつ 切り後ナデ。	長石・パミス 浅黄褐色 普通	P24 60% 内面黒色処理 磁
		B 3.5				
		C 6.2				
14	坏 土師器	A 13.1	底部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。底部はわずかに内方方向 にくぼむ。	ロクロ整形。内面横方向の磨き。 体部外面下位回転へつ削り。底部 外面回転へつ削り後ナデ。	長石・石英・スコ リア 鈍い黄褐色 普通	P25 60% 内面黒色処理 縦十中
		B 4.1				
		C 6.4				
15	坏 土師器	A 14.2	底部から口縁部にかけての破片。 体部はわずかに内傾し、口縁部は 外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。	石英・パミス 鈍い黄褐色 普通	P26 40% 体部外周・首さき 内面黒色処理 磁
		B (3.7)				
16	坏 土師器	A (14.0)	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内傾しながら立ち上 がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。体部内面上半部方向 の磨き。下半部方向の磨き。体部 外面下位回転へつ削り。底部外 周回転へつ削り後ナデ。	パミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P27 30% 内面黒色処理 磁
		B 3				
		C (6.2)				
17	坏 土師器	A (13.8)	体部から口縁部にかけての破片。	ロクロ整形。内面磨き。	長石・石英 鈍い黄褐色 普通	P28 10% 体部外面磨き 内面黒色処理 磁
		B (3.2)				
18	皿 土師器	A (13.9)	体部から口縁部にかけての破片。	ロクロ整形。内面磨き。	パミス 鈍い褐色 普通	P29 5% 墨青「中」か 内面黒色処理 縦十中
19	皿 土師器	A 12.9	底部から口縁部にかけての破片。 底部は平底でわずかに突出する。 体部は外傾して立ち上がり、横を 経て、口縁部は外に開く。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部外 面へつ削り調整後ナデ。底部へつ 削り。体部停止未切り後へつ削り。	長石・石英・スコ リア 鈍い褐色 普通	P30 80% 内面黒色処理 磁
		B 2.0				
		C 6.6				
20	皿 土師器	A 13.7	底部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 下位回転へつ削り。底部外面回転 へつ削り後へつ削りナデ。	雲母・パミス・スコ リア 鈍い褐色 普通	P31 70% 内面黒色処理 磁
		B 1.9				
		C 6.2				
21	甗 土師器	A 20.2	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 体部上位で内湾する。頸部は「J」 の字状に折れ、口縁部は斜く外傾 する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面横方向のへつ削り。	石英・長石・スコ リア 鈍い赤褐色 普通	P32 30% 磁
		B (29.8)				
		C 7.2				

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第17回22	甗	(22.3)	(2.5)	(2.0)	(77.0)	鉄	覆上中	M1

第8号住居跡(第18図)

位置 調査区南部, H5h4区。

重複関係 木跡は、第1号掘立建物跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長3.10m, 東西軸長4.00mの長方形である。

主軸方向 N-0°

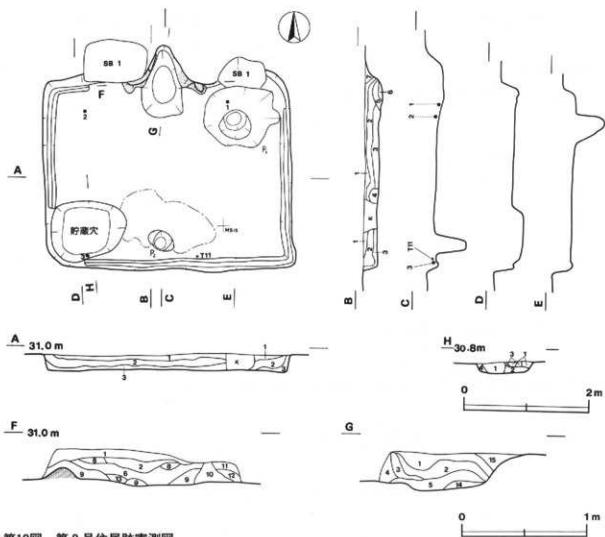
壁 壁高は25~30cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 壁付近を除きほぼ全周している。上幅20cm, 下幅10cm, 深さ10cmほどで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。特に、出入り口付近は硬化面が厚くわずかに高くなっている。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は径50cmの円形で、深さ47cmの支柱穴である。P₂は径30cmの円形で、深さ44cmの出入口施設に伴うピットである。

甗 北壁中央部を幅80cm, 奥行40cmほど掘り込んで付設し、袖部は黒色土に砂質粘土を多量に混ぜて構築している。火床部は約10cm掘り込まれ、火床面はブロック状に赤変硬化している。



第18図 第8号住居跡実測図

覆土层解説

- | | | | |
|--------|---|---------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土大ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 | ローム小ブロック多量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック・粘土中ブロック微量 | 8 鈍い赤褐色 | ローム中ブロック多量、ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 | 9 鈍い赤褐色 | ローム粒子・粘土大ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・粘土小ブロック少量 | 10 褐色 | ローム粒子・粘土粒子多量、焼土小ブロック微量 |
| 5 赤黒色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム大・中ブロック微量 | 12 黒褐色 | 粘土粒子・粘土中ブロック少量 |
| | | 13 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| | | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・粘土小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| | | 15 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |

貯蔵穴 南西コーナーに付設されている。長径120cm、短径95cmの楕円形で、深さ20cmである。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 2 明褐色 | ローム粒子多量、K P大ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、ローム大ブロック微量 |
| 4 明褐色 | ローム粒子多量 |

覆土 7層から成る。ロームブロックがわずかに見られるが、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム中・小ブロック少量 | 6 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック微量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量 | | |

遺物 土師器片296点及び瓦片2点が出土している。土師器片の大部分は壺の体部片である。第19図1の土師器高台付坏は竈に向かって右側の床面から、2の高台付坏は竈左側床面から、3の土師器壺は南西コーナー部床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。



第19図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	高台付坏 土師器	A 14.2 B 4.1 D 8.4 E 1.3	高台部から口縁部片。平底。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開き、端部はやや肥厚する。体部は浅い角度で立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部は外傾する。	ロケロ整形。体部内面磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。	石英・パミス・細礫 浅黄褐色 普通	P33 50% 内面黒色処理 床面
2	高台付坏 土師器	D 8.3 E (1.5)	高台部片。平底。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。	ロケロ整形。底部内面磨き。底部回転ヘラ切り後ナデ。	石英・パミス・細礫 浅黄褐色 普通	P34 10% 床面
3	壺 土師器	A [13.3] B (6.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は比較的強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部横方向のナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア・細礫 鈍い褐色 普通	P35 10% 床面

第9号住居跡（第20図）

位置 調査区南部，I5a6区。

重複関係 本跡は、第2号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長6.45m，東西軸長6.15mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

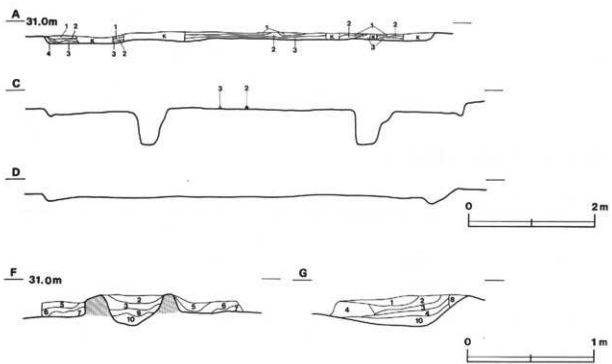
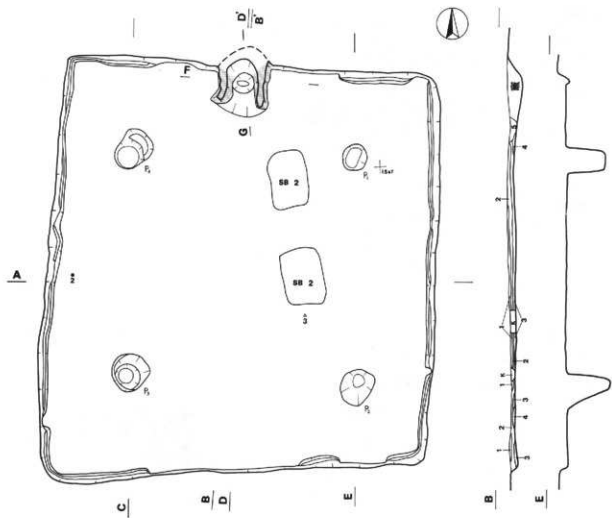
壁 壁高は8～15cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁電付近及び、南壁中央付近を除いて周囲している。上幅15cm，下幅5cm，深さ10cmほどで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、壁溝の確認できない南壁下が特に硬く締まっている。

ピット 4か所（P₁～P₄）。P₁は径40cmの円形で、深さ62cm。P₂は長径60cm，短径50cmの楕円形で、深さ71cm。P₃は径約60cmの円形で、深さ62cm。P₄は長径65cm，短径50cmの卵形で、深さ54cm。P₁～P₄はいずれも支柱穴である。

竈 北壁中央部を幅90cm，奥行40cmほど掘り込んで付設している。袖部は砂質粘土で構築し、端部には補強材として凝灰岩を利用している。



第20图 第9号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 黒色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子微量
- 7 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 8 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 9 鈍い赤褐色 ローム大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 10 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

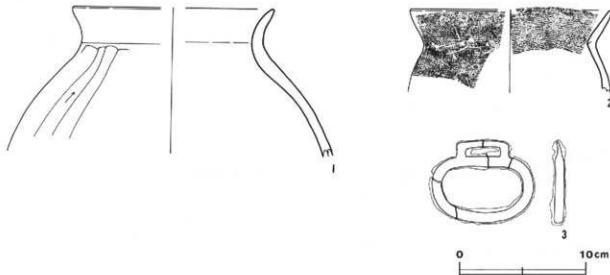
覆土 残っていた覆土は薄く、5層から成る。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 2 褐色 ローム大・中ブロック少量、ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片302点、須恵器片12点、弥生土器片61点及び甕が出土している。土師器片の多くは体部外面に刷毛目調整が施された甕の体部片である。第21図1の土師器甕は覆土中出土である。2の土師器甕は西壁下床面から、3の甕は中央付近床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から5世紀末頃の住居跡と考えられる。



第21図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	土師器	A (16.2)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部はゆるやかに 外反して口縁部に至る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面上位縦方向のヘラ刮り、内 面ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P36 10% 覆土中
		B (11.6)				
2	土師器	A (16.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部は「く」の字 状に折れる。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面及び体部外面には 刷毛目が施されている。	長石・石英・スコ リア 浅黄褐色 普通	P37 5% 床面
		B (6.5)				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第21図3	甕	(8.1)	(6.5)	(0.8)	(46.5)	床面 M2	

第10号住居跡（第22図）

位置 調査区中央部，I5.e区。

重複関係 本跡は，第3号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長2.05m，東西軸長2.00mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は10~16cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部が特に踏み固められている。

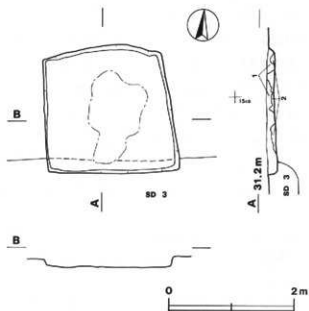
覆土 残っていた覆土は浅く，2層から成る。

土層解説

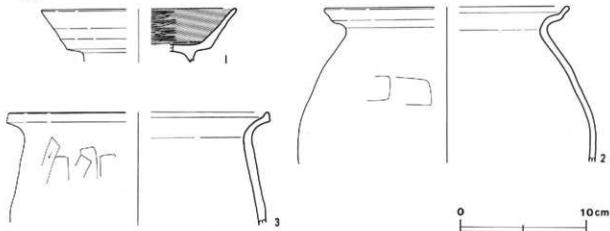
- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，黄土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物 土師器片126点，須恵器片5点，弥生土器片18点及び瓦片2点が出土している。第23図1の土師器高台付環，2及び3の甕はいずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。竈及びピット等の内部施設は確認できなかった。



第22図 第10号住居跡実測図



第23図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	高台付環 土師器	A (15.6) B (4.2)	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「H」の字状に開く。体部は浅い角度で立ち上がった後上向き，中位から口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P38 20% 内面黒色処理 覆土中
2	壺 土師器	A (19.6) B (12.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，頸部は強く外反して口縁部に至る。頸部は斜め上方につまみ上げられている。	体部外面横方向のヘラ削り。	長石・石英・スコリア 鈍い褐色 普通	P39 10% 覆土中
3	壺 土師器	A (19.6) B (12.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し，口縁部は横やかに外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	体部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 淡い褐色 普通	P40 10% 覆土中

第11号住居跡（第24図）

位置 調査区中央部、I5c9区。

重複関係 本跡は、第3号溝を掘り込み、第9号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長4.50m。東西軸長は3.30mまで測れるが、第9号土坑に掘り込まれているため余長は確認できない。南西コーナーは隅丸である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は12~23cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

ピット 2か所（P₁、P₂）。P₁は径30cmの円形で、深さ37cmの主柱穴である。P₂は径40cmの円形で、深さ23cm。性格は不明である。

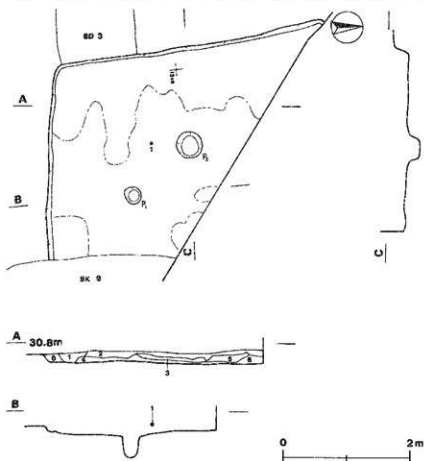
覆土 6層から成る自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム中ブロック多量、ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 4 鈍い褐色 | ローム粒子多量 | | |

遺物 土師器片124点、須恵器片3点、弥生土器片17点、瓦片2点及び石製模造品1点が出土している。土師器片の大部分は刷毛目調整が施された甕の体部片である。第25図1の土師器器台は中央部付近覆土下層から出土している。2は覆土中出土で、流れ込みと思われる。

所見 本跡は、出土遺物から4世紀の住居跡と考えられる。却は確認できなかった。



第24図 第11号住居跡実測図



第25図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24図 1	器台 土師器	B (6.9) C (5.4)	脚部から器受部にかけての破片。 脚部は外反して開く。3孔穿たれて いたものと推定される。	器受部外面縦方向のナデ。	長石・石英・スコ リア 明赤褐色 普通	P41 40% 内・外面赤影 覆土下層

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第25図2	有孔円板	径 (4.3)	(1.2)	(0.5)	(17.0)	緑泥片岩	覆土中	Q2	

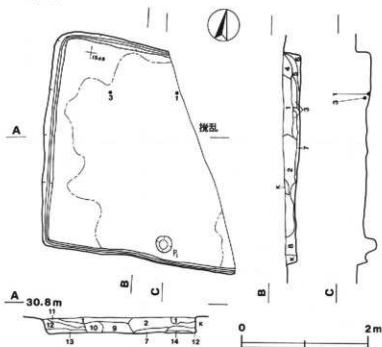
第12号住居跡 (第26図)

位置 調査区中央部, I5a8区。

規模と平面形 南北軸長3.30m。東西軸長は3.10mまで測れるが、攪乱により遺構の東側が掘り込まれているため全長は確認できない。北西及び南西コーナーはほぼ直角である。主軸方向 N-0°

壁 壁高は15~23cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 遺存する南壁下及び西壁下は全周している。上幅10cm, 下幅5cm, 深さ10cmほどで、断面は「U」字形である。



第26図 第12号住居跡実測図

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。

ピット P₁は径25cmの円形で、深さ22cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 攪乱を受け、確認できない。

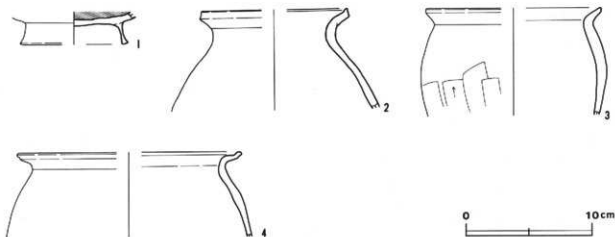
覆土 14層から成る。ロームブロックが多量に見られることから人為堆積と思われる。

土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	9	黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
2	黒色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	10	黒色	ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
3	褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量	11	黒色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
4	黒色	ローム粒子少量	12	褐色	ローム大ブロック多量、ローム粒子少量
5	褐色	KP大ブロック中量、ローム粒子微量	13	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
6	褐色	KP粒子少量、ローム大ブロック微量	14	黒色	ローム粒子微量
7	黒褐色	ローム大ブロック・粘土粒子少量			
8	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量			

遺物 土師器片174点、須恵器片1点、弥生土器片14点及び瓦片4点が出土している。第27図1の土師器高台付環及び3の土師器甕は床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。



第27図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	高台付環 土師器	B (2.6) D (8.6) E 1.7	高台部から底部にかけての破片。 付高台。高台部は比較的薄くて高く、「ハ」の字状に開く。	内面ナデ。高台部横方向のナデ。	バミス・スコリア 橙色 普通	P 44 10% 内面黒色処理 床面
2	甕 土師器	A (11.6) B (8.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部は緩やかに外反する。頸部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。	長石・スコリア 灰褐色 普通	P 45 5% 覆土中
3	甕 土師器	A (14.0) B (8.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	長石・石英・バミス・スコリア 明赤褐色 普通	P 43 20% 床面
4	甕 土師器	A (18.0) B (6.7)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部は強く外反して口縁部に至る。頸部は斜め上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。	長石・石英・バミス・スコリア 鈍い橙色 普通	P 42 10% 覆土中

第13号住居跡（第28図）

位置 調査区中央部，I5g0区。

規模と平面形 南北軸長3.05m，東西軸長3.40mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は12~17cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，壁際を除き全面が踏み固められている。

竈 北壁中央部やや西寄りを幅60cm，奥行50cmほど掘り込んで付設し，袖部は砂質粘土で構築している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|---------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック中量・ローム中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 | 6 赤褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 3 極暗褐色 | 焼土大ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 極暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| | | 9 暗赤褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 |

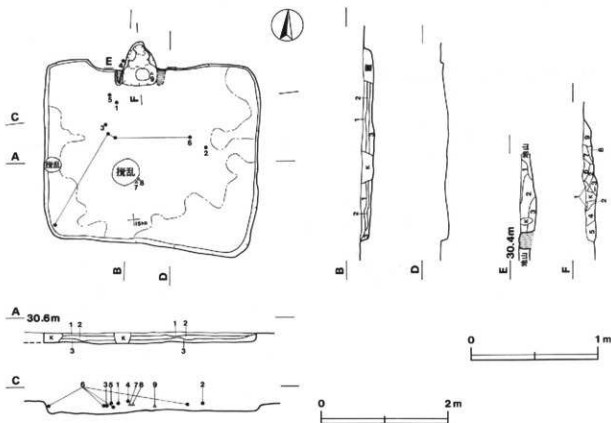
覆土 残っていた覆土は薄く，3層から成る。ロームブロックが見られることから人為堆積と考えられる。

土層解説

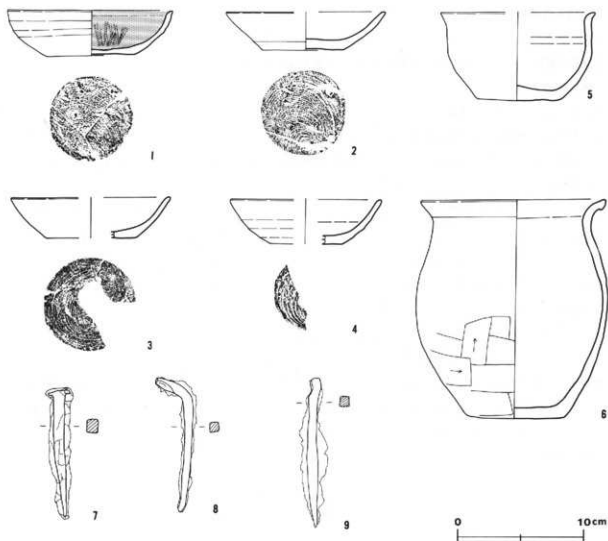
- 極暗褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量，焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物 土師器片290点，須恵器片3点，弥生土器片4点，瓦片3点及び鉄製品5点が出土している。第29図1の土師器坏及び5の土師器碗は竈に向かって左袖先端部前覆土下層から，2の土師器坏は東寄り覆土下層から，3の土師器坏は西寄り覆土下層から，6の甕は離れた3点が接合している。

所見 本跡は，出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる



第28図 第13号住居跡実測図



第29図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	坏 土 師 器	A 13.2	口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面放射状の磨き。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア 鈍い橙色 普通	P46 95% 内面黒色処理 覆土下層
		B 3.5				
		C 7.0				
2	坏 土 師 器	A [12.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下層回転へラ削り。底部回転糸切り。	石英・スコリア・砂粒 鈍い橙色 普通	P47 60% 覆土下層
		B 3.0				
		C 6.2				
3	坏 土 師 器	A [12.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。底部回転糸切り。	長石・石英・スコリア 鈍い橙色 普通	P48 50% 覆土下層
		B 3.2				
		C [7.2]				
4	坏 土 師 器	A [12.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。体部外面に強いロクロ目が残る。底部回転糸切り。	長石・石英・パミス 鈍い橙色 普通	P49 20% 覆土下層
		B 3.4				
		C [5.6]				
5	椀 土 師 器	A [12.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・砂粒 明黄褐色 普通	P50 70% 覆土下層
		B 7.0				
		C 6.4				
6	寛 土 師 器	A 14.8	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は緩やかに内彎しながら立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部は緩やかに外反し、口縁部に至る。肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	石英・長石 灰褐色 普通	P51 80% 覆土下層
		B 17.4				
		C 7.8				

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第29図7	釘	(10.1)	(1.1)	(1.1)	(47.9)	鉄	覆土下層	M3
8	釘	(12.1)	(0.8)	(0.8)	(44.5)	鉄	覆土下層	M4
9	釘	(11.8)	(0.8)	(0.8)	(37.2)	鉄	覆土下層	M5

第14号住居跡 (第31図)

位置 調査区中央部, I5f8区。

重複関係 本跡は, 第15号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 床面の広がりから南北軸長3.35m, 東西軸長4.20mの長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 表土が浅いことや耕作による削平のために確認面ですでに床面が出ており, 壁は確認できない。

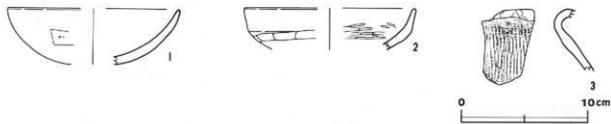
床 平坦で, 踏み固めは比較的弱い。遺構の中央部が大きく擾乱を受けている。

竈 北壁東コーナーに幅60cm, 奥行30cmほど掘り込んで付設されている。袖部は白色の砂質粘土で構築されている。

覆土 残っていた覆土は浅く, 堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片42点及び須恵器片1点及び弥生土器片7点が出土している。第30図1及び2の土師器坏, 3の土師器甕はいずれも竈袖部周辺から出土している。1は下層から, 3は覆土中層からの出土である。

所見 本跡は, 出土遺物から6世紀後半の住居跡と考えられる。



第30図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第30図 1	坏 土 師 器	A (13.8) B (4.4)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面横方向のヘラ削り。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P52 10%
2	坏 土 師 器	A (13.6) B (3.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し, 上位に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面ヘラ削り。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P53 5% 覆土中
3	甕 須 恵 器	B (5.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し, 頸部は弧を描いて外反する。	口縁部内面横方向のヘラナデ。体部外面横方向の平行叩き。	長石・砂粒 黄灰色 普通	P54 5% 甕

第15号住居跡 (第31図)

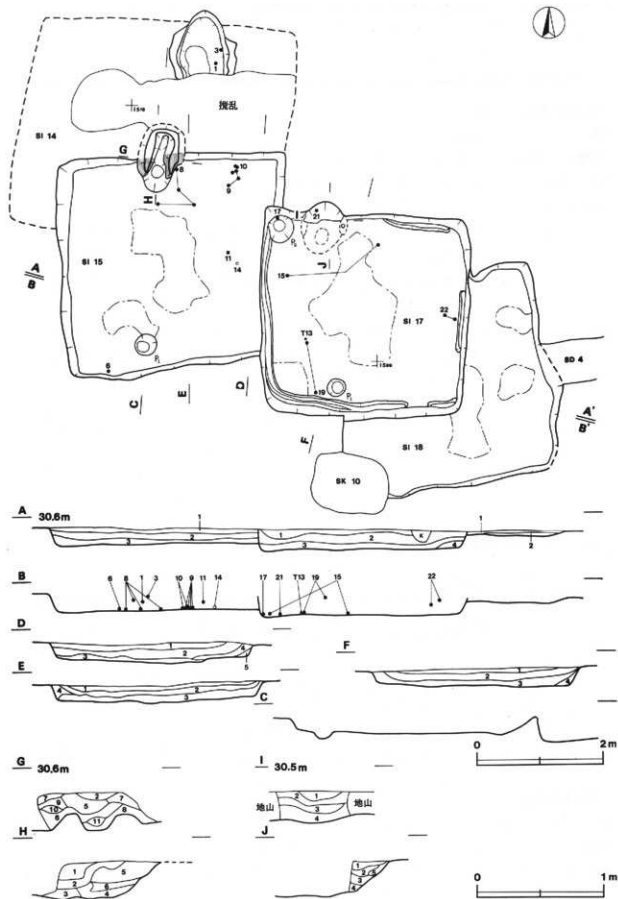
位置 調査区中央部, I5f8区。

重複関係 本跡は, 第14号住居跡を掘り込み, 第17号住居跡に掘り込まれている。

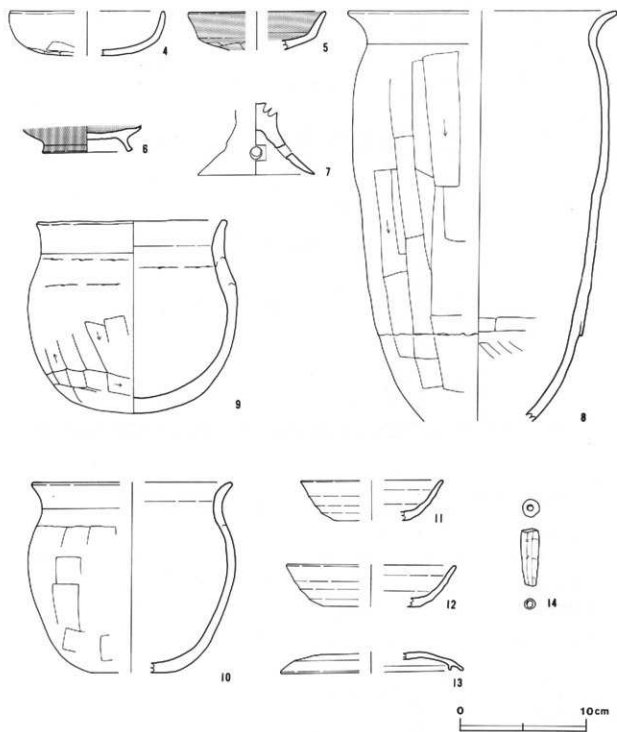
規模と平面形 南北軸長3.50m, 東西軸長3.40m。南東, 南西及び北西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は20~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。



第31图 第14·15·17·18号住居跡实测图



第32図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 4	坏 土器	A [12.4] B (3.5)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上 がり。上位に稜をもつ。口縁部は わずかに内彎する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面ヘラナデ。底部外面ヘラ削 り。	石英・長石・バミ ス・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P55 10% 覆土中
5	坏 土器	A [11.0] B (3.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、上位に明瞭な稜を もつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面ヘラ削り後ナデ。	バミス・スコリア 褐色 普通	P56 10% 内・外面黒色処理 覆土中

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
6	高台付坏土 脚器	B (2.1) D 7.2 E 1.1	高台部から底部にかけての破片。高台部は直線的に「ハ」の字状に開く。	内面磨き。	石英・長石 淡黄褐色 普通	P 61 20% 内・外側黒色焼厚 床面
7	高台付坏土 脚器	D 9.2 E (5.8)	脚部片。脚部は長く、大きく裾が開く。脚部中央には3孔が穿たれている。	脚部縦方向のヘラ削り後ナデ。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P 57 30% 腹土
8	高台付坏土 脚器	A [21.4] B (32.3)	体部及び口縁部にかけての破片。体部は内彎し、中位から上位は直線的に外彎する。頸部は緩やかに外反し、口縁部に至る。	口縁部内・外直線方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石英・長石 褐色 普通	P 58 45% 床面
9	高台付坏土 脚器	A 15.3 B 15.2	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を中位にもつ。頸部は緩やかに外反し、口縁部に至る。	口縁部内・外直線方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石英・長石 鈍い赤褐色 普通	P 59 90% 床面
10	高台付坏土 脚器	A [16.0] B 15.1 C [8.6]	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は緩やかに外反し、口縁部に至る。	口縁部内・外直線方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石英・長石・スコリア 褐色 普通	P 60 80% 床面
11	坏 須 器	A [11.6] B (3.2)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外彎する。	口縁部整形。体部外面に強い口縁が残る。	石英・長石 灰黄褐色 普通	P 62 5% 腹土下層
12	坏 須 器	A [13.6] B 3.3 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。天井部は緩やかな投をもつ。口縁部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部整形。底部外面ヘラ削り。	長石・パミス・スコリア 黄灰色 普通	P 63 5% 腹土中
13	高台付坏土 脚器	A [14.6] B (1.5)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は緩やかな投をもつて下降し、口縁部は内彎して肥厚する。内面頸部に明瞭なかえりがつく。	口縁部整形。天井部中位面縦ヘラ削り。	長石 黄灰色 普通	P 64 5% 腹土中

図版番号	器 種	計 測 値					出土 地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第32図14	管 状 土 鍋	径	1.3~6.3	(1.5)	0.5	10.2	床 面	DP2

床 平坦で、中央部及び南城下の出入り口ピットと思われるPの周囲が特に踏み固められている。

ピット Pは径35cmの円形で、深さは14cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北城のやや西寄りに、幅80cm、奥行60cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され、比較的良好的状態で遺存している。

竈土層解説

- 1 褐色 棕色粘土中量、ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子・棕色粘土粒少量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰中量、焼土小ブロック微量
- 4 黒褐色 灰多量、棕色粘土中量、焼土小ブロック・焼土粒少量
- 5 暗赤褐色 焼土大ブロック・焼土中ブロック少量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、K P小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒少量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒少量
- 10 暗赤褐色 焼土中・小ブロック多量、粘土粒子少量
- 11 暗赤褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土大ブロック少量

覆土 5層からなる。ロームブロックが見られることから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・K P粒子少量
- 2 灰褐色 ローム大ブロック中量・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 K P粒少量、ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片826点、須臾器片68点、灰陶器2点、弥生土器片40点、瓦1点。管状土鍋及び不明鉄製品2点出土している。第32図6の土師器高台付坏は出入り口付近床面から、8の土師器甕は竈A1前部から、9及び10の土師器甕は竈に向かって右袖外側からまとまって出土している。11の須臾器坏は住居跡中央部やや

東寄りの覆土下層から出土している。14の管状土鍾は東壁寄り床面から出土している。
 所見 本跡は、出土遺物から6世紀後半の住居跡と考えられる。

第16号住居跡（第33図）

位置 調査区中央部，I5g8区。

規模と平面形 南北軸長2.74m，東西軸長3.16mの長方形である。

主軸方向 N—95°—E

壁 壁高は13～25cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

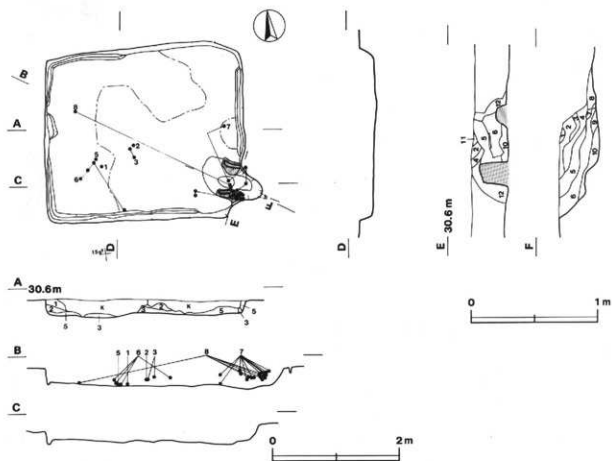
壁溝 出入口，北壁東半分及び竈付近を除き周回している。上幅5cm，下幅5cm，深さ5cmほどで，断面は「U」字形である。

床 平坦で，竈付近を中心に，中央部が特に硬く締まっている。

竈 東壁の南東コーナー寄りに壁を幅70cm，奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。

竈土層解説

- 1 暗オリーブ色 ローム粒子少量，焼土粒子・K P微量
- 2 オリーブ褐色 ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・K P微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量，K P微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・K P粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量



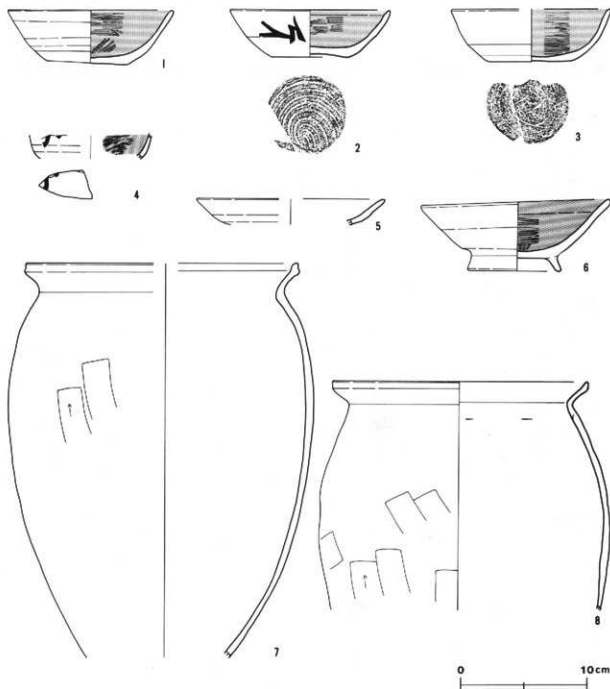
第33図 第16号住居跡実測図

- 7 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・K P 粒子微量
- 9 暗赤褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック少量、炭化粒子微量
- 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 12 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック少量

覆土 5層から成る。ロームブロックが見られることや不連続な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子・K P 粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



第34図 第16号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片304点、須恵器片12点、瓦片2点が出土している。第34図2及び3の土師器環はともに中央部付近覆土下層から、1の土師器環及び5の土師器皿は中央部やや南西寄りの床面から出土している。7の土師器甕は覆土下層から、8の土師器甕は7の土師器甕のさらに下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第34図1	土師器環	A 13.2 B 4.3 C 6.3	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内増しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き、体部外面ドロー転ヘリ削り。	赤・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P65 90% 内面黒色処理 床面
2	土師器環	A 12.8 B 3.8 C 6.1	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部はわずかに内側にくぼむ。体部は内増し気味に立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。底部回転削り。	石灰・長石 鈍い褐色 普通	P66 70% 内面黒色処理 体部外面磨き 覆土下層
3	土師器環	A 12.8 B 4.2 C 6.4	底部から口縁部にかけての破片。体部は内増しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き、体部外面下平回転削り。	長石・バミス・ス コリア 鈍い褐色 普通	P67 30% 内面黒色処理 覆土下層
4	土師器環	B (2.1)	体部片。体部はわずかに内増する。	ロクロ整形	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P69 5% 内面黒色処理 体部外面磨き 覆土中
5	土師器皿	A (15.0) B (2.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内増し、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。	バミス 鈍い褐色 普通	P68 3% 床面
6	高合付土師器環	A 15.2 B 5.6 D 7.4 E 1.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。高合は直線的に「ハ」の字状に開く。体部はわずかに内増ししながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面及び高合部内・外面ナデ。	長石・スコリア 明褐色 普通	P70 95% 内面黒色処理 覆土下層
7	土師器甕	A (21.8) B (31.5)	体部下位から底部にかけて欠損。体部は長く、ゆるやかに内増し。頸部は「く」の字状に折れる。口縁部はわずかに外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面上位置方向のヘリ削り。	長石・雲母・ス コリア 鈍い赤褐色 普通	P72 45% 体部外面磨き 遺
8	土師器甕	A 20.4 B (18.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内増し。底部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部横方向のナデ。体部外面上位置方向のナデ。中位置方向のヘリ削り。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P71 40% 遺

第17号住居跡 (第31図)

位置 調査区中央部、I5区。

重複関係 本跡は、第15号住居跡及び第18号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長3.35m、東西軸長3.23mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は26~32cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 西壁下の全部、南壁下の大部分、東壁下及び北壁下の一部で確認されている。上幅10cm、下幅5cm、深さ5cmほどで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、中央部及び南西コーナーが比較的踏み固められている。

ピット 2か所(P₁、P₂)。P₁は径30cm、深さ26cmの出入り1施設に伴うピットである。P₂は径40cm、深さ10cmで、性格は不明であるが、位置や覆土中からはほぼ定形の土師器環が出土していることから貯蔵穴とも考えられる。

竈 北壁の西コーナー寄りに幅70cm、奥行40cmほど掘り込んで付設されている。袖部は少量の粘土の混じった黒土で構築されている。ロームの赤変硬化も比較的弱く、袖部も脆弱である。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土大・中ブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土中・小ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック少量

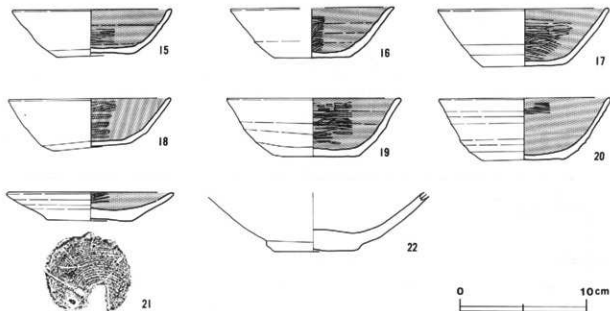
覆土 4層から成る。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われるが、2層はロームブロックが認められることから人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片284点、須恵器片22点、弥生土器片9点、瓦片10点及び土製品5点が出土している。第35図17の土師器環は北西コーナーの小ピット覆土中から、19の土師器環は南西コーナー覆土下層から、21の土師器皿は竈中央覆土中層から、22の土師器甕は東壁下覆土中層から出土している。15の土師器環は西壁下出土片と竈右側床面出土片とが接合している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第35図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第35図 15	土師器 環	A 12.7	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面ナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	石英・長石・細礫 スコリア 鈍い黄褐色 普通	P76 80% 内面黒色処理 床面
		B 3.6				
		C 6.0				
16	土師器 環	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外彎する。	ロクロ整形。内面ナデ。	石英・長石・パミ ス 鈍い褐色 普通	P78 60% 内面黒色処理 覆土中
		B 3.9				
		C 6.0				
17	土師器 環	A 13.7	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面ナデ。体部外面下半回転ヘラ削り後ナデ。底部切り難した後丁寧ナデ。	長石・細礫・スコ リア 黄褐色 普通	P74 90% 内面黒色処理 ピット内覆土中
		B 4.4				
		C 6.5				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
18	坏土器器	A 13.1 B 3.3 C 5.8	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面ナデ。体部外面下位回転ヘラ削り後ナデ。	長石・パミス・スコリア 灰褐色 普通	P77 70% 内面黒色処理 底部外面ヘラ削り 覆土中
19	坏土器器	A 13.9 B 4.7 C 6.9	底部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面ナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。底部切り差しヘラ削り。	細糠・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P75 90% 内面黒色処理 覆土中層
20	坏土器器	A 13.6 B 4.7 C 6.5	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。比較的底部が小さく器高が高い。	ロクロ整形。内面ナデ。体部外面下位回転ヘラ削り後ナデ。底部切り差し後丁寧ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P73 95% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中
21	坏土器器	A 13.3 B 2.3 C 6.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。底部は平底で突出気味。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	ロクロ整形。内面ナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。	長石・細糠・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P79 60% 内面黒色処理 覆土中層
22	要土器器	B (4.6) C 7.3	底部から体部下位にかけての破片。底部は平底で突出気味。体部は内傾しながら立ち上がる。	体部外面ヘラナデ。	石英・長石 鈍い橙褐色 普通	P80 10% 覆土中層

第18号住居跡(第31図)

位置 調査区中央部, I5g9区。

重複関係 本跡は、第17号住居跡、第10号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長3.30m, 東西軸長3.45mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は約7cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、主軸線より東側で部分的に硬化面が確認できる。

竈 第17号住居跡に掘り込まれているが、壁外への掘り込みがわずかに確認できる。

覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム入ブロック中量, K P粒子少量

遺物 土師器片86点, 弥生土器片13点及び不明鉄製品1点が出土している。第36図23及び24の上器器高坏は覆土中出土である。

所見 本跡は、出土遺物から5世紀中頃の住居跡と考えられる。



第36図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 23	高坏土器器	B (2.3) D (13.0)	裾部はわずかに外反し、「ハ」の字状に開く。	裾部外面ナデ。	石英・長石・スコリア 棕色 普通	P81 10% 覆土中
24	高坏土器器	B (2.9) D (14.0)	裾部はわずかに外反し、「ハ」の字状に開く。	裾部内面ナデ。	長石・スコリア 棕色 普通	P82 5% 覆土中

第19号住居跡（第37回）

位置 調査区中央部，I5a区。

規模と平面形 南北軸長2.55m，東西軸長2.95mの長方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高は11~13cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固めは弱い。中央付近に焼土の塊が確認された。

ピット 3か所（P₁~P₃）。P₁は径50cmの円形で，深さ34cm。P₂は径約50cmの円形で，深さ32cm。P₁及びP₂は主柱穴である。P₃は長径60cm，短径40cmの楕円形で，深さ38cmの出入り口施設に伴うピットである。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と思われるが確認できなかった。

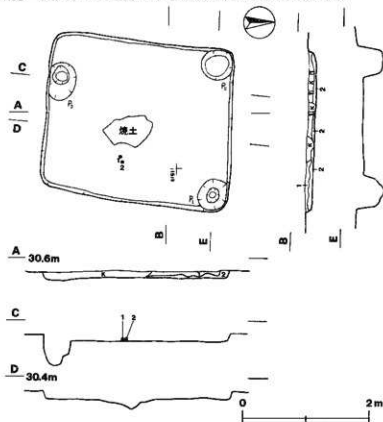
覆土 残っていた覆土は浅く，2層から成る。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック少量

遺物 土師器片38点及び弥生土器片13点が出土している。第38図1及び2の土師器壺は中央部やや東寄りの床面から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から6世紀後半の住居跡と考えられる。

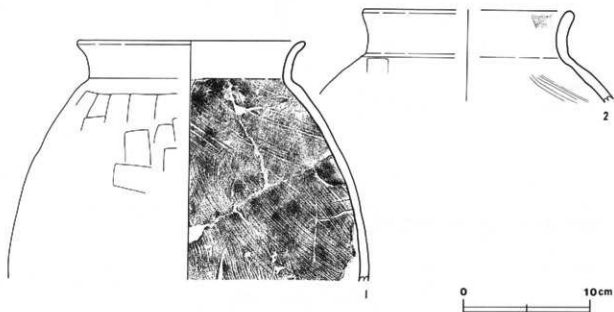


第37回 第19号住居跡実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第38図 1	壺 土師器	A [18.2] B (18.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内磨し，口縁部は緩やかに 外反する。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体 部外向上位縦方向のヘラ削り，下 位縦方向のヘラ削り後ナデ，内面 ナデ。	長石・パミス・ス コリア 鈍い褐色 普通	P83 床面 20%

区画番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	甕 土師器	A〔17.0〕 B〔6.9〕	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、口縁部は緩やかに 外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面縦方向のヘラ削り。口縁部 と体部との境に小さな段をもつ。	石英・長石・スコ リア 鈍い黄褐色 普通	P137 床面 15%



第38図 第19号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡（第39図）

位置 調査区南部，J5a7区。

規模と平面形 南東壁長3.15m。南西壁長は1.80mまで測れるが，調査区外へ延びているため全長は確認できない。東コーナー及び南コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高は10～15cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部付近が硬く踏み固められている。

炉 2か所。炉1は中央部やや北寄りに，炉2は中央部やや南寄りに位置している。いずれも地床炉で，火床面は焼土がブロック化し凹凸面になっている。

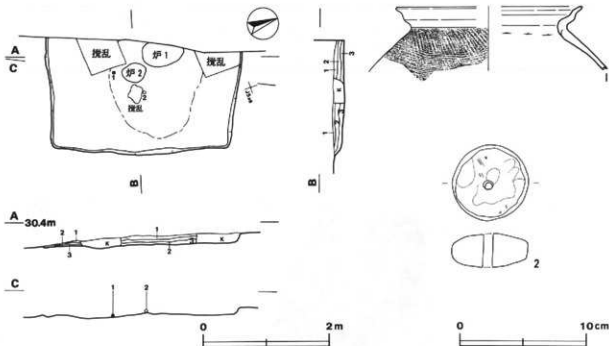
覆土 残っていた覆土は薄く，3層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

遺物 土師器片36点，須恵器片2点，弥生土器片14点及び土製紡錘車1点が出土している。第39図1の土師器片は，「S字（台付）甕」で，中央付近床面から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から4世紀前半の住居跡と考えられる。



第39図 第20号住居跡・出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	台付 土器	A [15.8] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、口縁部は「S」字 状である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部内面ナデ、外面刷毛目調整。	石灰・長石・スコ リア 褐灰色 普通	P84 床面 5%

図版番号	器種	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第39図2	土製紡錘車	径	6.1	2.7	0.8	85.7	床 面	DP3

第21号住居跡 (第40図)

位置 調査区中央部, G418区。

重複関係 本跡は、第22-A号住居跡及び第22-B号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 推定北東壁長5.80m。南東壁長は2.10mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は13~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、東コーナー付近が踏み固められて硬く締まっている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径70cmの円形で、深さ96cmの主柱穴である。P₂は推定径50cmの円形で、深さ70cm。性格は不明である。

P₁土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、糞少量
- 4 明褐色 ローム大ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

覆土 10層から成る。ロームブロックがわずかに見られるが、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思

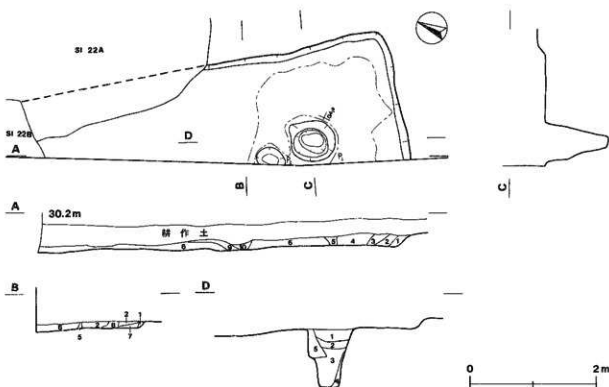
われる。

土層解明

1	黒 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	5	褐 色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
2	黒 褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	6	黒 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	黒 褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量	7	褐 色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
4	灰 褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8	灰 褐色	ローム粒子中量、ローム粒子少量
			9	黒 色	ローム粒子微量
			10	黒 褐色	ローム粒子少量

遺物 土師器片34点が出土している。ピット内から台付甕や高坏の細片が出土している。

所見 本跡は、小型丸底壇を伴う第22-A号住居跡に掘りこまれていることや出土遺物から、4世紀中頃の住居跡と考えられる。今は遺構が調査区外へ延びているため確認できない。



第40図 第21号住居跡実測図

第22-A号住居跡 (第41図)

位置 調査区中央部、G4h9区。

重複関係 本跡は、第22-B号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.04m、短軸6.82mの隅丸方形である。

主軸方向 N-34°-W

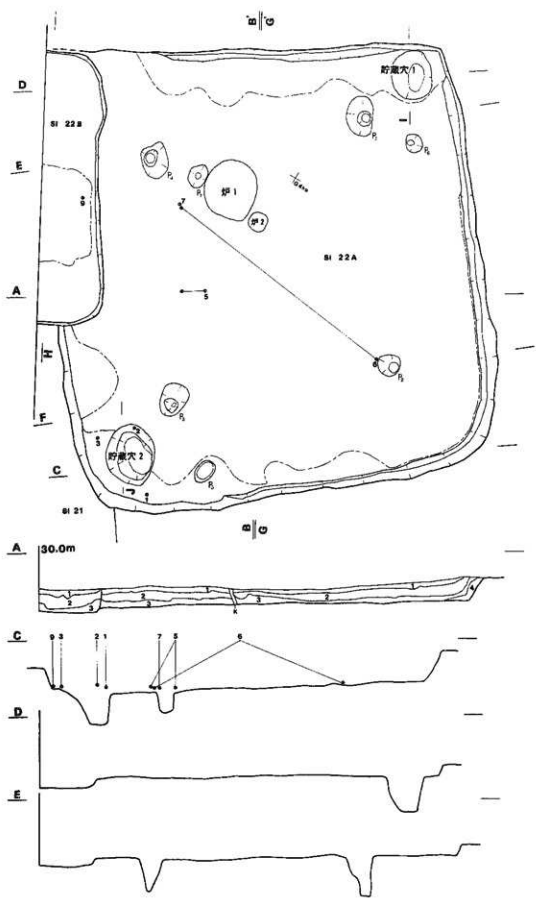
壁 壁高は18~48cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東壁下の全部、北西壁下及び南東壁下で部分的に確認できる。上幅10cm、下幅5cm、深さ5cmほどで、

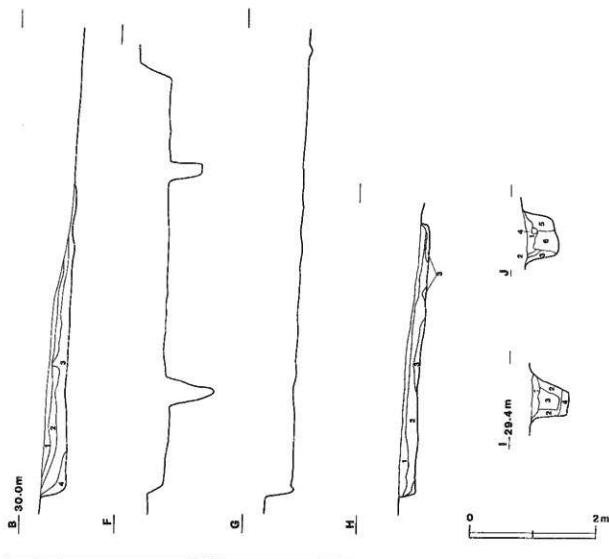
断面は「U」字形である。

床 平坦で、壁下を除き全体に硬く締まっている。

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁は長径65cm、短径40cmの楕円形で、深さ67cm。P₂は長径40cm、短径35cmの楕



第41图 第22-A·B号住居跡実測图



円形で、深さ52cm。P₁は長径55cm、短径45cmの楕円形で、深さ72cm。P₂は長径50cm、短径40cmの不整楕円形で、深さ59cm。P₁~P₄は主柱穴である。P₅は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ35cmの出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆は径約30cmの円形で、深さ62cm。P₇は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ35cm。P₈及びP₉は補助柱穴と考えられる。

炉 中央やや西コーナー寄りに比較的大きな炉（炉1）とその東側に小さな炉（炉2）とが確認されている。炉1は長径100cm、短径80cmで、炉床は床面をわずかに掘り込んで作られ、赤変硬化したブロック状の焼土が凹凸面を作っている。炉2も炉床は床面をわずかに掘り込んで作られ、炉1同様焼土のブロックが凹凸面を作っている。炉1及び炉2の周囲にも焼土が薄く堆積している。

貯蔵穴 2か所。北コーナー部（貯蔵穴1）及び南コーナー部（貯蔵穴2）に付設されている。貯蔵穴1は長径80cm、短径60cmの楕円形で、深さ61cm。貯蔵穴2は長径100cm、短径80cmの楕円形で、深さ59cm。1、2とも底面には長径約8cmの紡錘形の漂と砂が敷いたような状態で確認された。

貯蔵穴1 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量

貯蔵穴 土層解説

1	褐色	ローム粒子中量、小石少量、焼土粒子微量	4	褐色	ローム中ブロック多量、粘土粒子少量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	5	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
3	明褐色	ローム粒子多量、砂粒少量	6	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック少量

覆土 4層から成る自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
3	褐色	ローム粒子多量
4	褐色	ローム粒子多量

遺物 土師器片725点、須恵器片8点、弥生土器片20点、瓦片5点及び土製紡錘車1点が出土している。土師器片の大部分は外面に刷毛目調整痕のある甕の体部片である。第42図1の土師器椀、2の土師器埴は南コーナー寄り覆土下層から、3の土師器甕は南コーナー部床面から、5及び7の台付甕は中央部やや西寄り覆土下層から出土している。6の台付甕は東コーナー寄り出土片と西コーナー寄り出土片とが接合している。

所見 本跡は、出土遺物から4世紀中頃の住居跡と考えられる。

第22-B号住居跡（第41図）

位置 調査区中央部、G4ha区。

重複関係 本跡は、第22 A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 北東壁長4.35m。北西壁長は1.05mまで測れたが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は10～18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部付近が堅く踏み固められている。

覆土 残っていた覆土は浅く、3層から成る。

土層解説

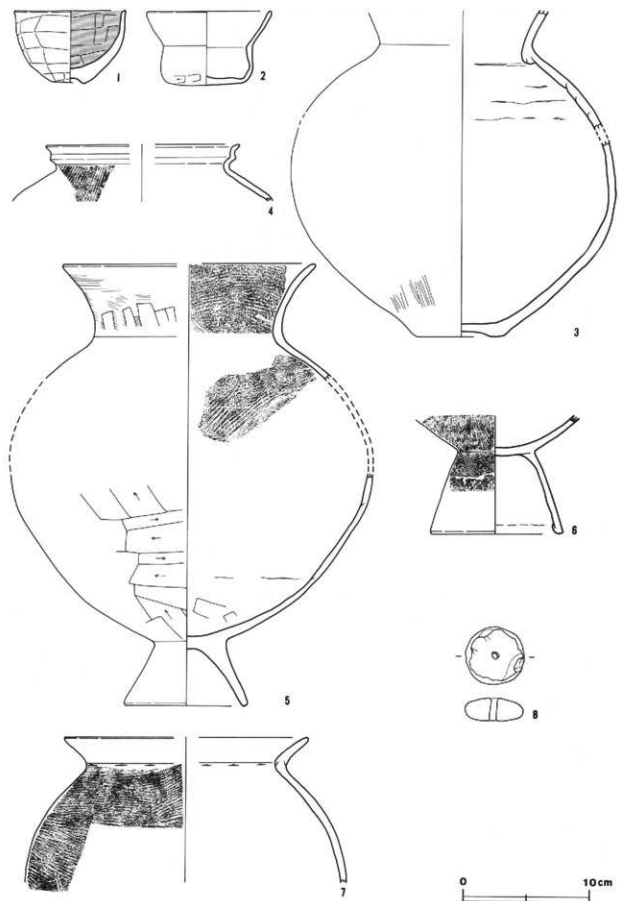
1	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子多量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器76点、須恵器片4点及び弥生土器片1点が出土している。第43図9の土師器埴は北東壁下床面から正位の状態出土している。

所見 本跡は、出土遺物から4世紀中頃の住居跡と考えられる。

第22-A号住居跡出土遺物観察表

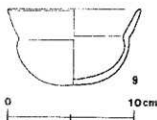
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	碗 土師器	A 8.9	平底。底部は内側にくぼむ。体部は外傾して立ち上がり、中位から真上方向に伸びる。不明瞭な線を経て、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面へラ削り後ナデ、外面へラ削り。	石英・長石・スクリア 鈍い褐色 皆透	P85 100% 内面黑色処理 覆土下層
		B 5.8				
		C 2.4				
2	埴 土師器	A 10.0	体部及び口縁部・部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は内傾気味に斜め上方に伸びる。	口縁部内面横方向のナデ、外面ナデ。体部外面下位横方向のへラ削り。	石英・長石・バミ 黄褐色 皆透	P86 95% 底部外面煤付着 覆土下層
		B 5.8				
		C 5.9				
3	壺 土師器	B (25.8)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に折れる。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面下位横方向の磨き。	石英・長石 鈍い黄褐色 皆透	P87 60% 体部外面煤付着 床面
		C 7.3				



第42图 第22-A号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	白付土師器	A (15.4) B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎する。口縁部は「S」字状で、頸部は外傾する。	口縁部及び胴部内・外面横方向のナデ。体部外側には刷毛目が施されている。	長石・雲母・バミ ス・スクリヤ 鈍い褐色 普通	P89 5% 覆土中
5	白付土師器	A (20.2) B (35.0) D 9.9 E 5.2	胴部から口縁部にかけての破片。胴内面は直線的に「ハ」の字状に開く。体大径を内彎しながら立ち上がり、体大径を中位にもつ。頸部から口縁部は外反して開く。	口縁部刷毛目調整後ナデ。胴部外面刷毛目調整後縦方向のヘリ削り。体部外面縦方向のヘリ削り。内面横方向の刷毛目調整。	長石・バミ ス 鈍い赤褐色 普通	P88 50% 覆土中層
6	白付土師器	B (9.4) D 10.3 E 6.3	胴内面片。胴部はわずかに内彎しながら「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面から胴部上位にかけて、刷毛目が密に施されている。	石英・長石 濃赤 普通	P91 5% 灰面
7	白付土師器	A (18.4) B (11.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部はわずかに外反しながら斜め上方に伸びる。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面には刷毛目が密に施されている。	石英・長石 灰褐色 普通	P90 5% 覆土中層

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	口径(cm)	重量(g)		
第43図8	土製刺鉢	杯	4.7	1.8	0.5	37.9	覆土中	DP4



第43図 第22-B号住居跡出土遺物実測図

第22-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図9	土師器	A 10.6 B 6.0	口縁部 部欠損。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部で外に折れ、口縁部は外傾する。	口縁部外縁ナデ。内面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘリ削り後ナデ。内面ナデ。	石英・長石・バミ ス 褐色 普通	P92 90% 灰面

第23号住居跡 (第44図)

位置 調査区中央部、G4_g区。

重複関係 本跡は、第22-A号住居跡とわずかに重複する。

規模と平面形 南北軸長4.65m、東西軸長4.10m。北コーナーはほぼ直角、南コーナーは隅丸である。東コーナー及び西コーナーは重複や調査区外へ延びているため確認できない。

主軸方向 N-22°-E

壁 壁高は13~28cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、硬化面が壁下を除いて全体に広がっている。

ピット 6か所 (P~P)。P₁は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ31cm。P₂は長径70cm、短径60cmの楕円形で、深さ50cm。P₃は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ33cm。P₄は長径90cm、短径30~40cmの橢圓

形で、深さ46cm。P₁～P₄は主柱穴である。P₁は長径約50cm、短径30cmの楕円形で、深さ46cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₂は径約40cmの円形で、深さ27cm。性格は不明である。

炉 中央やや東コーナー寄りに位置している。径約80cmの円形で、炉床は床面をわずかに掘り込んで作られている。焼土が硬い凹凸面を作っている。

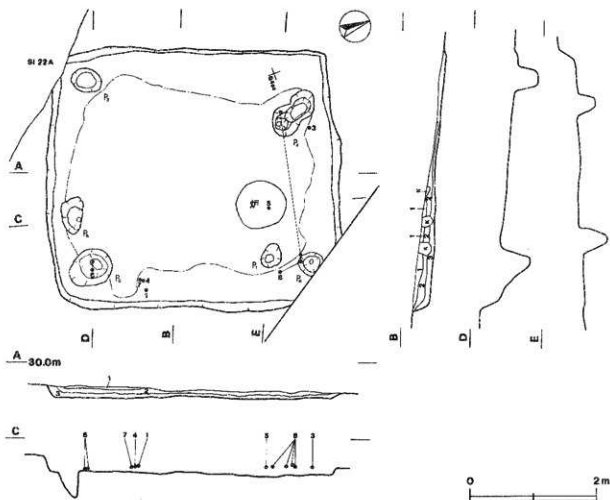
覆土 3層から成る。ロームブロックがわずかに見られるが、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層断面

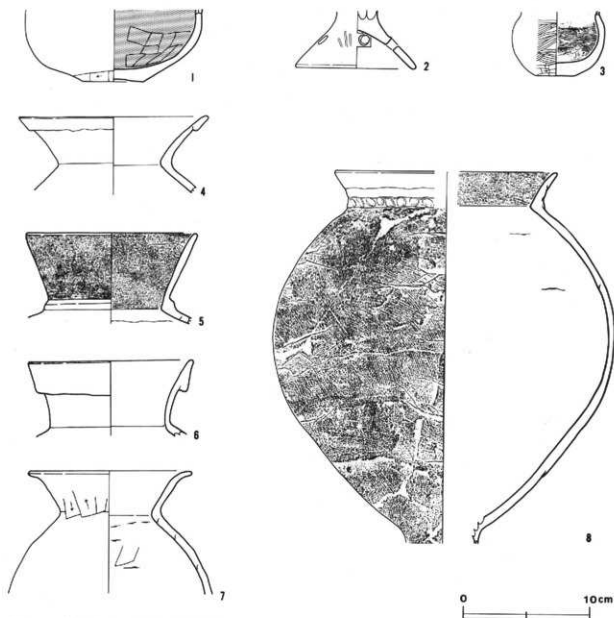
- | | | | |
|---|---|----|----------------------------------|
| 1 | 黒 | 色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子散見 |
| 2 | 黒 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子散見 |
| 3 | 褐 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片392点、須恵器片6点及び弥生土器片12点が出土している。第45図1の土師器坏、4の土師器壺、7の土師器壺、8の土師器台付壺は南東壁下覆土下層から、5の土師器壺は中央部北壁寄り覆土下層から、3の小形平底壺は北東コーナー寄り覆土下層から、6の土師器壺は南東コーナー部床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土した遺物から4世紀中頃の住居跡と考えられる。



第44図 第23号住居跡実測図



第45図 第23号住居跡出土遺物実測図

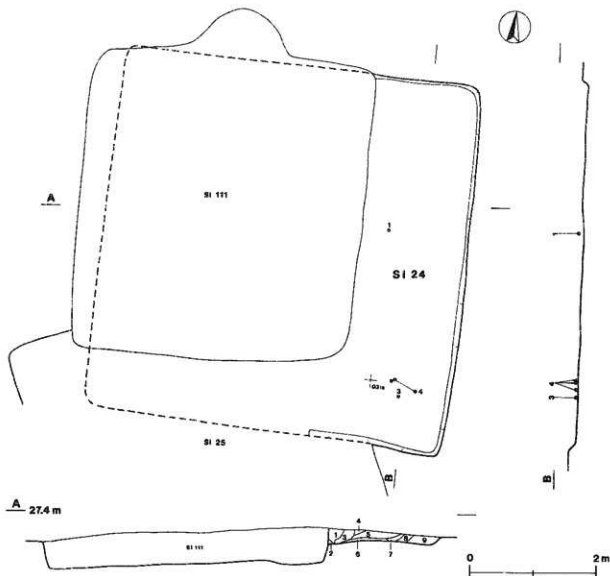
第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・産成	備考
第45図 1	坏 土師器	B (5.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、中位から強く内彎する。	体部上位横方向のナデ。体部内面中位から下位にかけてヘラナデ。外面横方向のヘラ削り。底部外面ヘラ削り。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P93 70% 内面黒色処理 覆土下層
		C 4.9				
2	器 土師器	D 9.5	脚部片。脚部はわずかに内彎しながら「ハ」の字状に開く。脚部中位には5孔が穿たれている。	脚部外面上位縦方向のヘラ削り。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P94 50% 貯蔵穴覆土下層
		E (4.6)				
3	小型平底 土師器	B (5.0)	底部から頸部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	頸部外面横方向のナデ。体部上位内面横方向の刷毛目調整。体部外面上位から中位にかけて刷毛目調整。下位横方向の手持ちヘラ削り後ナデ。	長石・砂粒・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P95 80% 覆土下層
		C 3.0				
4	壺 土師器	A 15.0	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部はわずかに外反し、上位は二重口縁となる。	口縁端部内・外面横方向のナデ。口縁部外面刷毛目調整後ナデ。体部外面刷毛目調整後ナデ。	石英・長石・スコリア 褐色 普通	P96 10% 覆土下層
		B (6.1)				

図版番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	空 土師器	A 13.7 B (7.1)	体部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は斜め上方に伸びる。	口縁部内面刷毛目調整。外面刷毛目調整後ナデ。頸部外面横方向のナデ。	長石・緑礫 棕色 普通	P97 20% 覆上下層
6	空 土師器	A 13.2 B (6.0)	口縁部片。頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外反しながら斜め上方に伸び、頸部は二重口縁となる。	口縁部内・外面刷毛目調整後斜めナデ。	石英・長石・雲母 パミス・スコリア 鈍い棕色 普通	P98 10% 床面
7	空 土師器	A 13.1 B (9.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内増し。頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、頸部は外に開く。	口縁部内面横方向のナデ。外面へウ割り後ナデ。頸部内面刷毛目調整後ナデ。体部外面刷毛目調整後ナデ。	石英・長石・スコリア 明黄褐色 普通	P99 15% 覆土下層
8	白付 土師器	A 17.7 B (29.4) E (1.2)	頸部欠損。体部は直線的に外傾して立ち上がり、上段に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は逆く、わずかに外反しながら斜め上方に伸びる。	口縁部は輪覆痕を意図的に残して、二重口縁状の装飾を施す。口縁部内面刷毛目調整。頸部外面には刷毛線を一周させ、相割技法を施す。体部外面に刷毛目が施される。	長石・緑礫・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P100 40% 覆土下層

第24号住居跡 (第46図)

位置 調査区中央部, D3h5区。



第46図 第24号住居跡実測図

重複関係 本跡は、第111号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長5.80m、東西軸長5.75mと推定される。北東コーナーと南東コーナーはほぼ直角である。北西コーナー及び南西コーナーは重複のために明確にはとらえられない。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は10~12cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、壁下を除き全体が硬く踏み固められている。

竈 第111号住居跡との重複により確認できない。

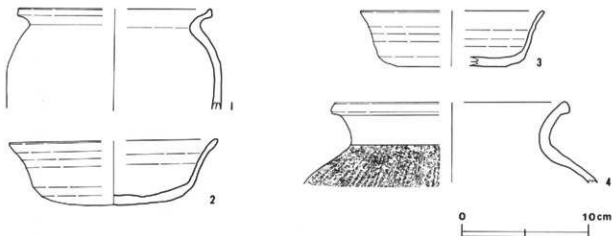
覆土 9層から成る。ロームブロック及び焼土ブロックが見られることから人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 暗褐色 灰白色粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、焼土大ブロック微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子中量、焼土大ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 ローム大ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 焼土大ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒色 ローム粒子微量 |
| | 9 褐色 ローム大ブロック多量 |

遺物 土師器片182点、須恵器片5点、縄文土器片1点、弥生土器片1点及び瓦片1点が出土している。出土遺物は大部分が破片で、多くが覆土中層から出土していることから投棄されたものと思われる。第47図1の土師器甕は東壁寄り床面から、3の須恵器杯及び4の須恵器甕は南東コーナー床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。



第47図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第47図 1	甕 土師器	A (15.5) B (8.0)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内増し。頸部は強く外反する。口縁部は比較的短く、先端は真上につまみあげられている。	口縁部、頸部内・外面横方向のナデ。	石英・長石 明赤褐色 普通	P104 15% 床面
2	杯 須恵器	A (16.6) B 4.9 C 8.2	底部から口縁部にかけての破片。丸味を帯びた平底。体部は内増しながら立ち上がり、不明瞭な稜を経て、口縁部は外反する。	ロクロ整形。底部回転へう切り後回転へう削り。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P101 60% 覆土中
3	杯 須恵器	A (14.7) B 4.4 C (9.0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内増気味に立ち上がり、下位の不明瞭な稜を経て、口縁部は外反する。	ロクロ整形。体部外面に強いロクロ目が残る。底部回転へう削り。	長石・細礫 灰黄色 普通	P102 30% 床面

図版番号	器種	寸法(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	変形壺	A [18.4] B [6.4]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内磨し、頸部は緩やかに外反し、口縁部に直る。	口縁部内・外面横方向のナゲ。体部外面平行叩き。	長石・細礫 褐色 普通	P103 10% 灰面

第25号住居跡(第48図)

位置 調査区中央部, D3₁₅区。

重複関係 本跡は、第26号住居跡、第27号住居跡及び第111号住居跡に掘り込まれている。

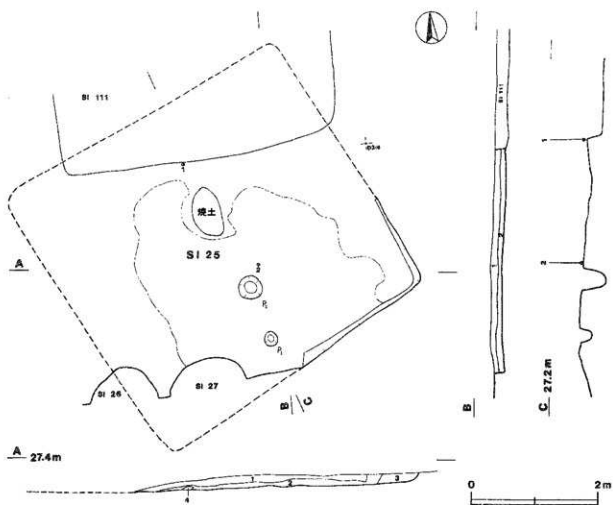
規模と平面形 重複のために明確ではないが、長軸推定4.95m、短軸推定4.65m。確認できる東コーナーはほぼ直角である。他の3コーナーは重複や削平のために確認できない。

主軸方向 N-26°-W

壁 壁高は約13cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部付近が特に硬く踏み固められている。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は径20cmの円形で、深さ19cmの出入り口施設に伴うピットである。P₂は径40cmの円形で、深さ40cm。性格は不明である。



第48図 第25号住居跡実測図

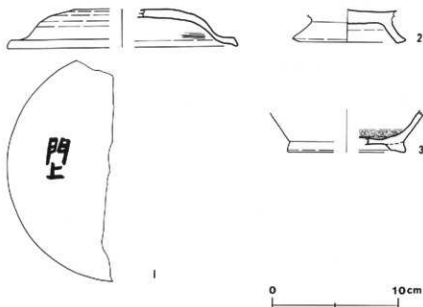
覆土 残っていた覆土は浅く、4層から成る。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・KP微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・KP微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・KP微量
- 4 黄褐色 ローム大ブロック多量

遺物 土師器片199点、須恵器片16点、陶器片1点及び弥生土器片68点が出土している。第49図1の土師器蓋は北西壁寄り覆土下層から、2の須恵器高台付環は中央部付近床面から出土している。3の須恵器長頸壺は覆土中出土である。

所見 中央部北寄りに焼土が確認され、掘り方面から弥生時代後期の壺の体部片が出土している。覆土中にも弥生土器片が比較的多く流れ込んでいる。本跡は、出土遺物から弥生時代に竪穴住居跡があった地点に作られた奈良・平安時代の住居跡と考えられる。竪は重複のために確認できない。



第49図 第25号住居跡出土遺物実測図

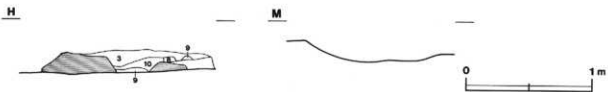
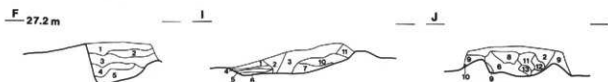
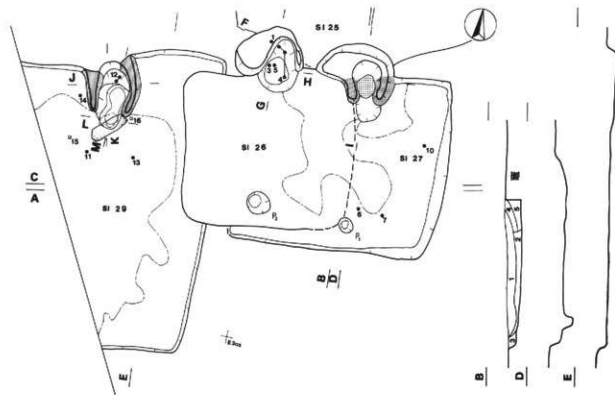
第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第49図 1	蓋 土師器	A (18.5) B (3.0)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は平坦面をもち、急激に下降して外反した後、水平方向に伸びて口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。天井部外面上位回転へく傾り。口縁部外面丁寧なナデ。	石英・長石・スクリア 鈍い褐色 普通	P106 45% 墨書「門上」か 覆土下層
2	高台付環 須恵器	B (2.6) D 5.0 E (1.7)	高台部、付高台。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。	高台部内・外面横方向のナデ。	石英・長石 灰色 普通	P105 10% 床面
3	長頸壺 須恵器	B (3.4) D (9.4) E 0.9	高台部から体部にかけての破片。付高台。高台は短く幅広く、直線的に「ハ」の字状に開く。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	高台部内・外面横方向のナデ。	長石・雲母 灰色 (胎) オリーブ色 普通	P107 5% 覆土中

第26号住居跡 (第50図)

位置 調査区中央部、D3₁4区。

重複関係 本跡は、第25号住居跡、第27号住居跡及び第29号住居跡を掘り込んでいる。



第50图 第26·27·29号住居跡実測图

規模と平面形 南北軸長2.65m, 東西軸長2.35mの長方形と推定される。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は約20cmである。

床 平坦で、主軸線より東側で踏み固めが顕著である。

ピット P₂は径40cmの円形で、深さは25cmの出入り口施設に伴うピットである。

竈 北壁中央部を幅110cm, 奥行60cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。床面から凝灰岩質の支脚が出土し、覆土上層から比較的残りの良い須恵器坏などが出土している。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子微量

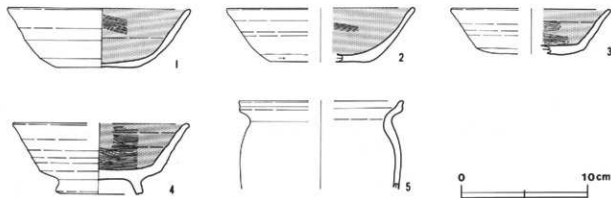
覆土 2層から成る。ロームブロックがわずかに見られるが、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片19点, 須恵器片9点, 灰陶器片1点及び弥生土器片1点が出土している。第51図1の土師器坏は竈先端覆土下層から、2の土師器坏は竈覆土中層から、3の土師器坏は竈中央覆土上層から、4の土師器高台付坏は竈先端覆土下層から、5の土師器甕は竈中央覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。



第51図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第51図 1	坏 土師器	A 14.5 B 4.5 C 6.3	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面丁寧な磨き。体部外面下半回転ヘラ削り後ナズ。底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P108 90% 内面黒色処理 二次焼成 覆土下層
2	坏 土師器	A [15.0] B 4.3 C (7.6)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下半回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	石英・長石・ス コリア 鈍い橙褐色 普通	P109 40% 内面黒色処理 二次焼成 竈

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	坏 土師器	A (12.8) B (3.6)	底部から口縁部にかけての破片。 半実、体部は浅い角度で立ち上 がった後、口縁部はわずかに外反 する。	ロクロ整形。四面磨き。体部下端 回転ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P110 20% 内面黒色処理 二次焼成 窯
4	高台付坏 土師器	A (11.0) B 5.6 C 7.0	底部から口縁部にかけて一型欠損。 付高台。高台は真鍮的に「ハ」の 字状に厚く、体部は浅い角度で立 ち上がった後上向きに折れ、口縁 部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 に浅いロクロ口目が残る。体部下端 回転ヘラ削り後ナデ。高台部内・ 外面横方向のナデ。底部回転ヘラ 切り後ナデ。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P111 70% 内面黒色処理 二次焼成 窯
5	実 土師器	A (13.0) B (7.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内磨し、頸部は「く」の字 状に折れる。口縁部は外反し、端 部は真上につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。	石英・長石・雲母 バミス・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P112 5% 窯

第27号住居跡(第50図)

位置 調査区中央部、D3j3区。

重複関係 本跡は、第25号住居跡を掘り込み、第26号住居跡に竈の一部を掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長3.40m、東西軸長2.85mの長方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は10~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁下を除き硬く引き締まっている。

ピット P₁は径25cmの円形で、深さ27cmの出入り口施設に伴うピットである。

竈 北壁中央部に幅110cm、奥行60cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されているが脆弱である。

甌土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼上粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼上小ブロック・焼上粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼上小ブロック・焼上粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼上小ブロック・焼上粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物少量
- 5 黒赤褐色 ローム粒子・焼上粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼上粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼上小ブロック中量、ローム小ブロック・炭化物少量
- 8 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼上粒子少量、炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子多量、焼上小ブロック少量、炭化粒子微量
- 10 暗赤褐色 ローム大ブロック・ローム粒子・焼上粒子・炭化粒子少量、焼上大ブロック微量
- 11 暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼上大ブロック微量

覆土 5層から成る自然堆積である。

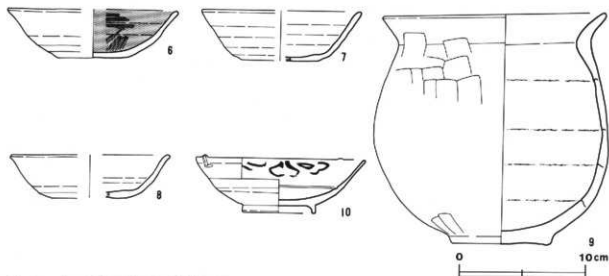
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼上粒子・粘土粒微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼上粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼上小ブロック・焼上粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼上粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片232点、須恵器片181点、緑軸陶器1点、縄文土器片5点及び弥生土器片1点が出土している。

第52図6は出入り口付近床面から、7の土師器坏は出入り口付近覆土下層から、10の緑軸陶器は東壁寄り覆土上層から出している。

所見 本跡は、重複する第26号住居跡と規模、軸線及び内部施設などがよく似ていることから、時期差が小さいものと推定される。建て替えたことも考えられる。出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第52図 第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 6	土師器 坏	A [13.6] B 3.8 C 5.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。全体に薄い。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り後回転ヘラ削り。	長石 オリブ色 普通	P113 60% 内・外面黒色処理 床面
7	土師器 坏	A [12.6] B 4.0 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。口縁部内・外面横方向のナデ。体部内・外面に強いロクロ目が残る。	長石・細礫 鈍い黄褐色 普通	P114 20% 覆土下層
8	土師器 坏	A [12.7] B 3.5 C [5.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。比較的薄手である。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。	長石・雲母・白色 針状物質質 普通	P115 20% 覆土中
9	土師器 罎	A 17.9 B 18.4 C 8.0	底部は平底で突出気味。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。底部外面ヘラ削り。	石英・長石・雲母 スコリア 鈍い褐色	P116 100% 体部外面採付者 覆土中
10	陶器 輪花	A 13.6 B 4.5 D 5.9	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。高台は短く内彎する。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。体部下位内面に凹線が通る。口縁部に4か所輪花を成す。	全面に縁輪染色。体部下位内面凹線以下横方向のヘラ磨き。体部外面下位回転ヘラ削り。内面口縁部下に3単位の半載花紋が施されている。	細砂 灰色 （施）緑 良好	P548 75% 覆土上層

第29号住居跡（第50図）

位置 調査区中央部、D3₄区。

重複関係 本跡は、第26号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長4.65m。東西軸長は3.30mまで測れたが、遺構が調査区外へ延びているため全長は確認できない。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は12~16cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁際を除き硬く踏み固められている。

竈 北壁中央部を幅90cm、壁外へわずかに掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され、焚口付近から板状の凝灰岩が出土している。出土状況から石材を焚口の両側に立て、天井にも一枚の石材を横架していたと推定される。

竈土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量、焼土粒少量
- 2 柿崎褐色 焼土小ブロック多量、焼土粒中量、白色粘土中ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 灰 褐色 焼土小ブロック・焼土粒予・炭化粒子・灰多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・灰多量、焼土小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物・炭化粒子・灰多量、焼土小ブロック少量
- 6 黄 色 焼土小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒予・灰・白色粘土粒少量
- 7 明 褐色 ローム粒子多量、焼土粒少量
- 8 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 9 黒 褐色 焼土粒少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック微量
- 10 暗 褐色 焼土粒少量、ローム粒子少量
- 11 鈍い赤褐色 焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 12 灰 褐色 焼土中・小ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒少量、ローム粒少量
- 13 鈍い赤褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒予・炭化粒少量
- 14 灰 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒予・炭化粒少量
- 15 暗 褐色 ローム粒子多量、焼土粒予・炭化粒微量

覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒少量、ローム大ブロック微量

遺物 土師器片140点、須恵器片5点、弥生土器片5点、瓦片1点及び土製支脚1点が出土している。第53回

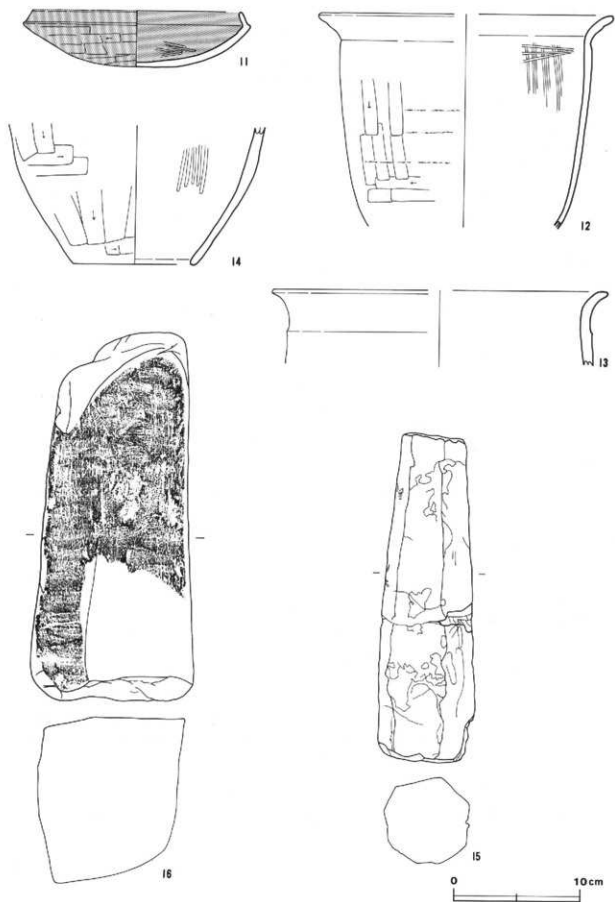
11の土師器片は竈の前面床面から、13の土師器片は竈の前面覆土下層から、12の土師器片は竈奥覆土中から、14の土師器片は竈左側床面から出土している。

所見 本誌は、出土遺物から7世紀前半の住居跡と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第53回 11	鉢 土師器	A 16.5	口縁部一部欠損。丸底。外部は内 押しながら立ち上がり、明瞭な接 合を経て、口縁部は内転する。	口ケロ整形。内面削き。口縁部内・ 外面横方向のナデ。体部外面へハ 張り度ナデ。	石英・長石 暗褐色 普通	P117 95% 内・外面黒色処理 床面
		B 4.5				
12	瓶 土師器	A (23.7)	口縁部から口縁部にかけての破片。 体部はわずかに内押し。肩部はく びれ、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部内面幅の狭いヘラ状工具による 縦方向の丁寧なナデ。外面上半部 方向のヘラ削り。下半横方向のヘ ラ削り。	長石 鈍い黄褐色 普通	P118 30% 体部外面炭化物 付着 難
		B (17.0)				
13	瓶 土師器	A (26.8)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は直線的で、頸部との境に突 線状の接をもつ。頸部から口縁部 にかけて緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。	石英・長石・雲母 パミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P119 5% 覆土下層
		B (5.9)				
14	瓶 土師器	B (11.0)	底部から体部にかけての破片。無 底。体部はわずかに内押しながら 立ち上がる。	体部内面幅の狭いヘラ状工具によ る縦方向の丁寧なナデ。外面へハ 削り。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P120 5% 床面
		C 9.6				

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第53回 15	支 脚	(26.1)	径	(6.8)	-	(58.9)	凝灰岩	床 面	Q4
16	支 柱 石	(29.4)	(13.0)	(13.3)	-	(3,850)	凝灰岩	竈	Q3



第53图 第29号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡（第54図）

位置 調査区中央部，D316区。

重複関係 本跡は，第32-A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長3.25m，東西軸長2.53mの長方形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 壁高は20~26cmで，外傾して立ち上がる。

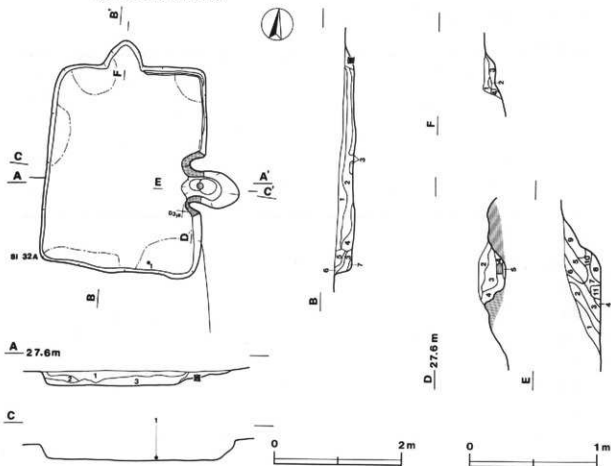
壁溝 北東コーナー付近で確認され，上幅10cm，下幅5cm，深さ5cmほどで，断面は「U」字形である。

床 平坦で，壁際を除き全体が硬く踏み固められている。

竈 2か所（竈1，竈2）。竈1は東壁中央やや南寄りの部分を幅50cm，奥行65cmほど掘り込んで付設し，袖部は砂質粘土で構築されている。竈2は北壁中央やや西寄りを幅70cm，奥行45cmほど掘り込んで付設されている。竈2の袖部が残っていないこと及び竈前の壁際に壁溝が確認できることから，竈2は竈1を構築するに際し取り壊されたものと考えられる。

■ 1土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子微量 | 7 鈍い赤褐色 | ローム大ブロック少量，焼土中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，K Pブロック微量 | 8 鈍い赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック少量，炭化粒子微量 | 9 灰褐色 | ローム大ブロック・炭化粒子少量，焼土大ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量 | 10 暗赤褐色 | 焼土粒子多量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 11 灰黄色 | 粘土多量 |
| 6 鈍い赤褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック少量，炭化粒子微量 | | |



第54図 第30号住居跡実測図

層2土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 3 鈍い赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 明赤褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量

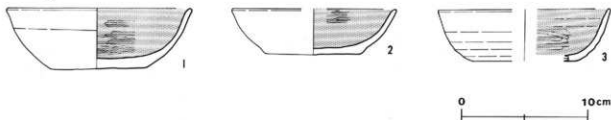
層土 7層から成る。ロームブロックが各層に見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土小ブロック少量 | 7 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子 | | |

遺物 土師器片245点、須恵器片13点、陶器片4点、弥生土器片4点及び瓦片3点が出土している。第55図1の土師器坏は南東コーナー床面から出土している。

所見 本跡は、北甕を廃棄して東甕を新たに付設した住居跡で、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第55図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第55図 1	土師器	A 14.7	口縁部から体部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下位回転ヘラ削り後ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・砂粒・小礫 鈍い黄褐色 普通	P121 90% 内面黒色処理 床面
		B 4.9				
		C 8.0				
2	土師器	A [13.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。底部突出気味。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。底部回転ヘラ削り後ナデ。	雲母・砂粒 灰色 普通	P122 50% 内面黒色処理 覆土中
		B 3.7				
		C 7.6				
3	土師器	A [13.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外彎する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面に強いロクロ目が残る。	石英・長石・スクリア 鈍い赤褐色 普通	P123 5% 内面黒色処理 覆土中
		B 4.1				
		C [8.0]				

第32-A号住居跡 (第56図)

位置 調査区中央部、D3j6区。

重複関係 本跡は、第32-B号住居跡及び第33号住居跡を掘り込み、第30号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長4.34m、東西軸長4.16m。北東コーナーは重複のために確認できないが、残る3コーナーがほぼ直角であることから長方形と推定される。

主軸方向 [N-10°-W]

壁 壁高は16~28cmで、外傾して立ち上がる。

床 ローム混じりの黒色土で貼り床がされている。全体に硬く踏み固められている。

ピット P₁は径約30cmの円形で、深さ31cm。底面が硬化していることから、柱穴と考えられる。

竈 出土遺物から、北壁に付設されていたものと考えられるが、重複のために確認できない。

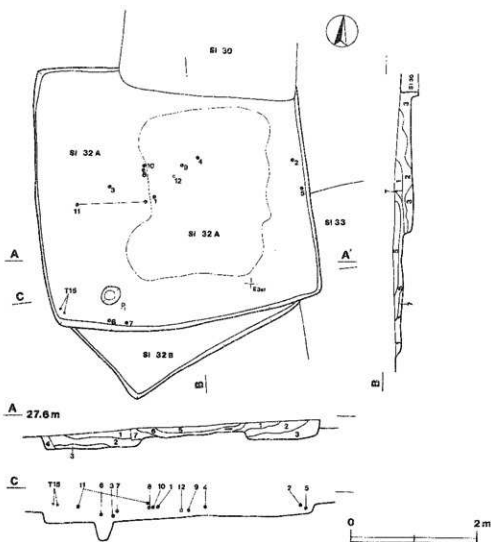
覆土 自然堆積と思われる。

土層解説

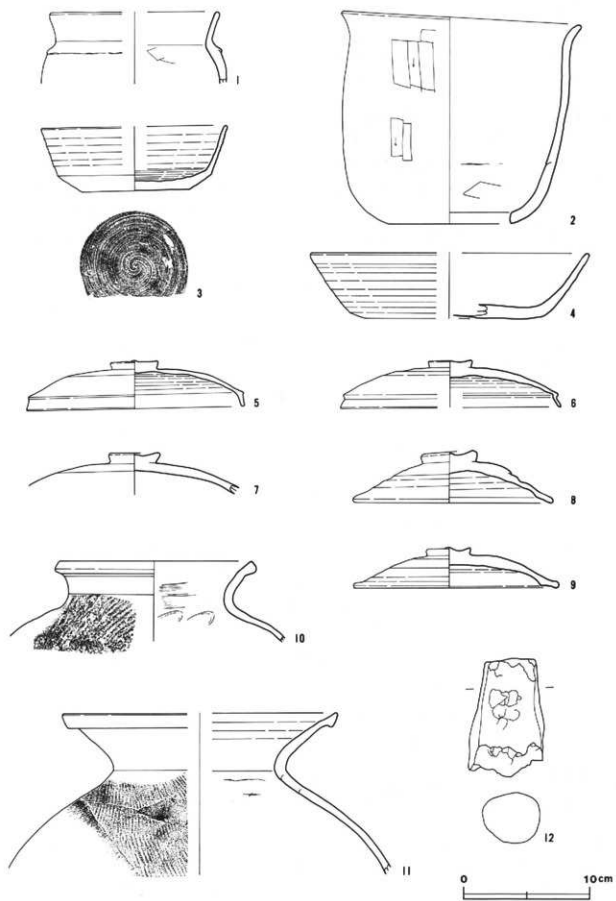
- 1 棕褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 5 棕褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量

遺物 土師器片833点、須恵器片102点、弥生土器片21点、瓦4点及び土製支脚片1点が出土している。第57図1の土師器甕は中央部覆土中層から、2の土師器瓶は東壁下覆土下層から出土している。3の須恵器杯は中央部やや西壁寄りの覆土下層から、4の須恵器杯は中央部やや北壁寄り覆土中層から、5の須恵器蓋は東壁下覆土下層から、6、7の須恵器蓋は南西コーナー覆土中層から、8及び9の須恵器蓋は中央部覆土中層から、10、11の須恵器蓋は中央部やや西寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀中頃の住居跡と考えられる。



第56図 第32-A・B号住居跡実測図



第57图 第32-A号住居跡出土遺物実測図

第32-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・包調・焼成	備 考
第37図 1	壺 土 部 器	A (13.6) B (5.7)	体部から口縁部にかけての破片、 体部は内彎し、頸部との境に強い ナテ調整による隆線を残す。口縁 部は外傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ、 頸部外面横方向の強いナデ。体部内・ 外面ナテ。	石英・長石・雲母 鈍い橙色 普通	P124 5% 覆土中層
2	瓶 土 部 器	A 19.1 B 16.9 C 9.8	体部から口縁部にかけての破片、 無底。体部は内彎しながら立ち上 がる。口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナテ、 頸部外面横方向のへら振り、内面下 端へら振りナテ。	石英・長石・スコ リア 鈍い橙色 普通	P125 60% 覆土下層
3	坏 須 壺 器	A (14.8) B 3.1 C 8.6	底部から口縁部にかけての破片、 平底。体部は浅い角度で外傾して 立ち上がった長上向きに折れ、中 位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。体部内・外面に強い ロクロ目が残る。底部回転へら切 り後へら振り。	石英・長石・細礫 灰白色 良好	P126 60% 覆土下層
4	坏 須 壺 器	A (22.3) B 5.2 C (14.0)	底部から口縁部にかけての破片、 平底。体部及び口縁部は復元的に 外傾する。	ロクロ整形。体部外面に強いロク ロ目が残る。底部回転へら切り後 回転へら振り。	長石・砂粒 灰白色 普通	P127 40% 覆土中層
5	蓋 須 壺 器	A 19.4 B 3.8 C 0.6 F 3.8	天井部から口縁部にかけての破片、 つまみは扁平で中央が高くなる。 天井部はなだらかに下降し、口縁 部境に接をもつ。口縁部は短く垂 下する。	ロクロ整形。天井部上位回転へ ら切り。	石英・長石 スコリア 灰色 普通	P128 95% 覆土下層
6	蓋 須 壺 器	A (17.6) B 3.7 F 3.6 G 0.6	天井部から口縁部にかけての破片、 つまみは扁平で中央がわずかに高 くなる。天井部はなだらかに下降 し、口縁部境に接をもつ。口縁部 は短く「ハ」の字状に開く。	ロクロ整形。天井部上位回転へ ら振り。	石英・長石・細礫 灰白色 普通	P129 70% 覆土中層
7	蓋 須 壺 器	A 4.1 B (3.3)	天井部片。つまみは扁平で上面が くぼみ中央部がわずかに突起する。 天井部はなだらかに下降する。	ロクロ整形。天井部上位回転へ ら振り。	石英・長石・細礫 鈍い黄橙色 普通	P130 65% 覆土中層
8	壺 須 壺 器	A 15.9 B 4.2 F 4.5 G 0.8	天井部から口縁部にかけての破片、 つまみは扁平で上面がくぼみ中央 部が突起する。天井部は段を為し て下降し、口縁部は斜め下方向に 伸びる。	ロクロ整形。天井部上位回転へ ら振り。	石英・長石・雲母 灰白色 普通	P131 35% 覆土中層
9	壺 須 壺 器	A (16.3) B 3.2 F 3.5 G 0.6	天井部から口縁部にかけての破片、 つまみは扁平で上面がくぼみ中央 部が突起する。天井部はなだらか に下降し、口縁部は斜め下方向に 伸びる。	ロクロ整形。天井部上位回転へ ら振り。	石英・長石・雲母 橙色 普通	P132 45% 覆土中層
10	壺 須 壺 器	A 16.1 B (6.4)	体部から口縁部にかけての破片、 体部は内彎し、頸部はゆるやかに 外反する。口縁部は外反し、頸部 は横方向につまみ出されている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面平行向き、内面指調による 調整痕。	石英・長石 灰色 普通	P134 10% 覆土中層
11	壺 須 壺 器	A (22.0) B (12.8)	体部から口縁部にかけての破片、 体部は内彎し、頸部は「く」の字 状に折れる。口縁部は復元的に外 傾し、頸部は上下につまみ出され ている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面平行向き。	石英・長石 灰色 普通	P133 10% 覆土中層

図版番号	器 種	計 測 値				石 材	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第37図12	石製支脚	(9.4)	6.2	4.0	-	(190.8)	凝灰岩	覆土下層 Q5

第32-B号住居跡（第56図）

位置 調査区中央部，E3_{ae}区。

重複関係 本跡は，第32-A号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は1.60mまで，東西軸長は3.00mまで測れるが，重複により全長は確認できない。南コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-35°-W]

壁 壁高は約7cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 重複のために掘り込まれ，確認できない。

覆土 残っていた覆土は浅く，1層である。

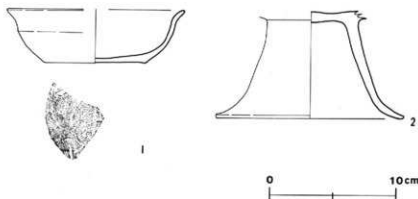
土層解説

1 黒色 ローム大ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック散量

遺物 土師器片77点，須恵器片7点及び瓦片1点が出土している。土師器片のうち48点は甕の体部片である。

第58図1及び2はともに覆土中出土である。1は流れ込みと思われる。

所見 本跡は，主軸方向や出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第58図 第32-B号住居跡出土遺物実測図

第32-B号住居跡出土遺物観察表

回収番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	坏 土師器	A [14.2] B 4.2 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底，体部は内彎しながら立ち上 がり，口縁部は比較的強く外反す る。	ロクロ整形，口縁部内・外面ナデ。 底部回転糸切り。	長石・パミス・ス コリア 浅黄橙色 普通	P135 25% 覆土中
2	高坏 土師器	B (7.9) D 15.0 E 7.7	脚部片。脚部は「ハ」の字状に固 き，裾が広がる。	脚部内面ナデ。	長石・細糠・ス コリア 鈍い黄橙色 普通	P136 40% 覆土中

第33号住居跡（第59図）

位置 調査区中央部，E3_{a7}区。

重複関係 本跡は，第32-A号住居跡に北西コーナー付近を掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長4.26m。東西軸長は3.40mまで測れるが，調査区外へ延びているため全長は確認できない。南西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-17°-W]

壁 壁高は7~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。中央付近は硬化したブロック状のロームで、小さな凹凸を呈している。

竈 調査区外へ延びているため確認できない。

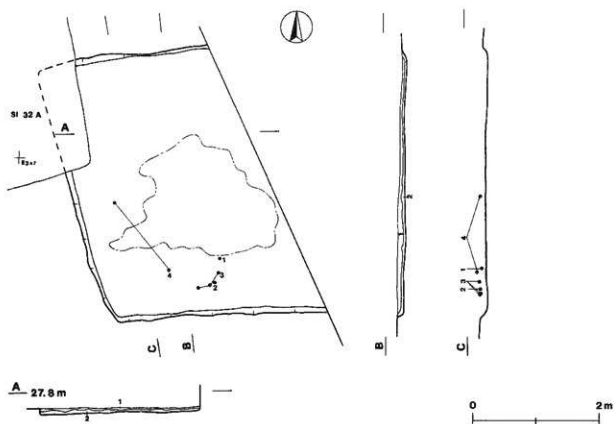
覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

土層解説

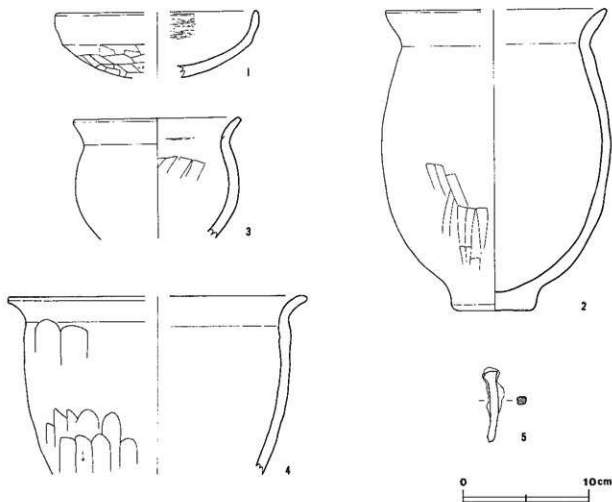
- 1 黒色 ローム較り少量
- 2 黒褐色 ローム大・中・小ブロック中量

遺物 土師器片144点、須恵器片4点、弥生土器片6点及び釘片1点が出土している。第60図1の土師器坏、2、3の土師器甕は北東コーナー付近覆土下層から、4の土師器瓶は北東コーナー付近覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀中頃の住居跡と考えられる。



第59図 第33号住居跡実測図



第60図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	坏 土器	A [16.2] B (5.2)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上り、上位に脛をもつ。口縁部は比較的長く、内彎する。	内面磨き、口縁部内・外面横方向のナデ。体部、底部外面ヘラ削り後ナデ。	石英・長石・燧石 鈍い黄色 普通	P138 30% 覆土下層
2	壺 土器	A [17.6] B 23.9 C 5.9	底部から口縁部にかけての破片。 平底。底部突出。体部は内彎しながら立ち上がり、中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石英・長石・パミス 鈍い橙色 普通	P139 70% 覆土下層
3	壺 土器	A 13.4 B (9.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部はゆるやかに外反する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部内面部分的にヘラ削り。	石英・長石・砂粒 燧石 鈍い橙色 普通	P140 60% 覆土下層
4	瓶 土器	A (18.0) B (14.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部はわずかに内彎し、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向の強いナデ。体部外面縦方向のヘラ削り、内面丁寧なナデ。	石英・長石・燧石 パミス・スコリア 灰黄褐色 普通	P141 25% 覆土下層

図版番号	器種	計 測 値				材 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第60図5	針	(5.6)	1.1	0.6	-	(9.9)	鉄	覆土中 M6

第34号住居跡（第61図）

位置 調査区中央部，E3_{b7}区。

重複関係 本跡は，第35号住居跡及び第36-A号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長4.60m。南北軸長は2.80mまで測れるが，重複のため全長は確認できない。北東及び北西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は約8cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，壁際を除き硬く締まっている。

竈 北壁を幅50cmほど掘り込んで付設し，袖は砂質粘土で構築されている。火床部は床面から15cmほど掘り下げられ，火床面と袖内面は赤変硬化した焼土ブロックが堆積している。煙道部は削平されている。

覆土層解説

- 1 黒褐色 砂粒少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・砂粒少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック中量，砂粒少量，炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム大ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量

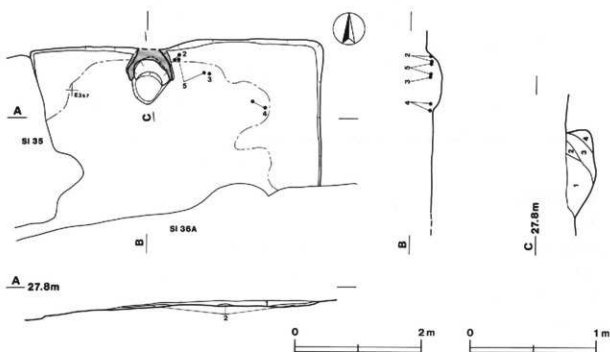
覆土 残っていた覆土は浅く，2層から成る。

土層解説

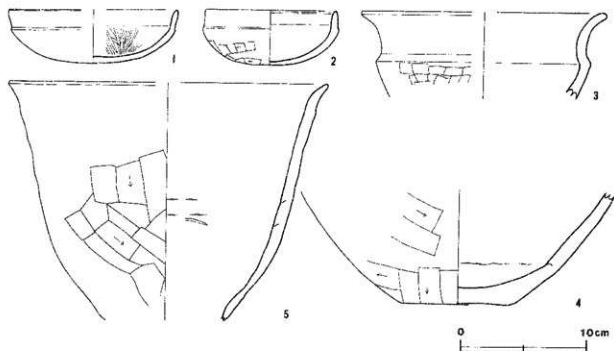
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 鈍い褐色 ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量

遺物 土師器片174点，須恵器片4点及び弥生土器片8点が出土している。第62図1の土師器坏は南西コーナー覆土中から，2，3の土師器坏及び5の土師器瓶は右袖外側床面から，4の土師器甕は北東コーナー寄り床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は，出土遺物から6世紀中頃の住居跡と考えられる。



第61図 第34号住居跡実測図



第62図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	坏 土師器	A 13.4 B (4.3)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり。口縁部との境に横をもつ。口縁部は垂直に伸びる。	内面磨き。口縁部内・外面横方向のナデ。	雲母 灰黄褐色 普通	P142 覆土中 40%
2	坏 土師器	A 10.4 B 4.4	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり。口縁部との境に横をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面及び底部外面へラ削り。	石英・長石・網礫 鈍い黄褐色 普通	P143 床面 60%
3	高 土師器	A (19.6) B (6.8)	坏部片。坏部は内彎しながら立ち上がり。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面横方向のへラ削り。内面ナデ。	石英・長石・雲母 パミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P144 床面 5%
4	甕 土師器	B (9.1) C 9.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	石英・長石・網礫 パミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P145 床面 15%
5	瓶 土師器	A (25.4) B (18.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は緩やかに内彎し。口縁部は外反して直く。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	石英・長石・網礫 鈍い黄褐色 普通	P146 床面 30%

第35号住居跡 (第63図)

位置 調査区中央部、E3b区。

重複関係 本跡は、第34号住居跡及び第36 A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 床面の広がりから推定して東西軸長2.69m、南北軸長2.65mの方形である。

主軸方向 N-76°-E

壁 壁高は約6cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央付近が硬く締まっている。

覆 東壁やや南寄りを幅70cm、奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。

火床部はわずかに掘り込まれ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。火床部中央に支脚の据えられた痕跡と思われるくぼみが確認されている。

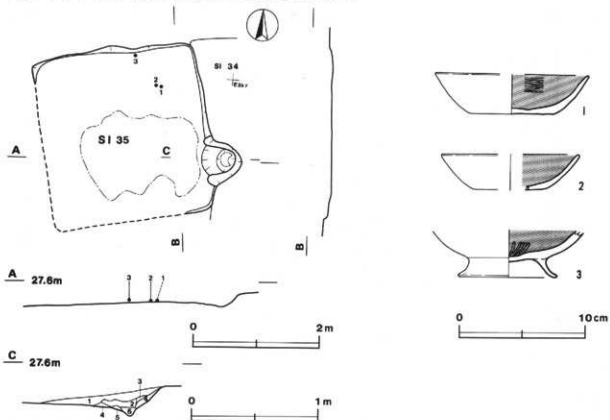
甑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・橙色粘土粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・灰少量
- 4 鈍い赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 6 極暗褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土 残っていた覆土が極めて浅く、堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片14点及び須恵器片2点が出土している。第63図1及び2の土師器片は北東コーナー寄り床面から、3の高台付坏は北壁下床面から出土している。

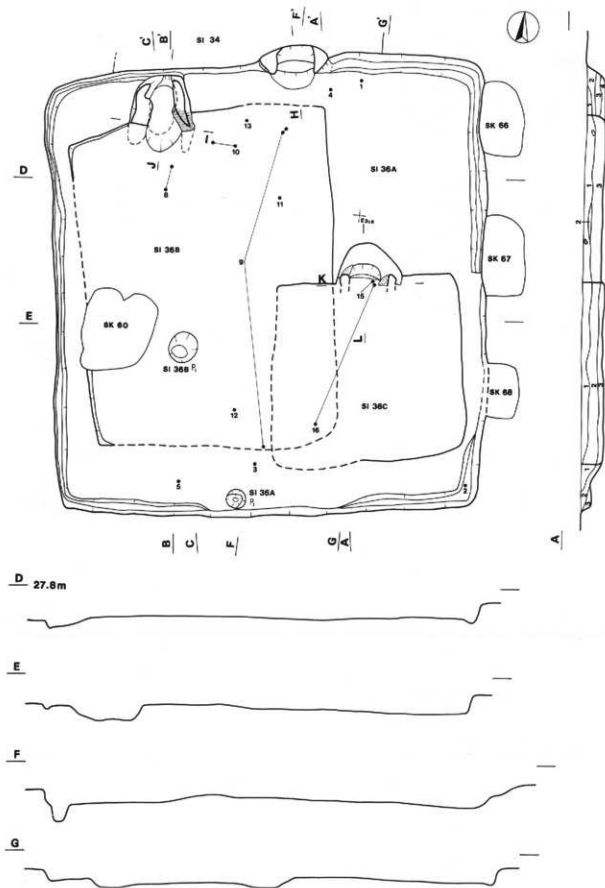
所見 本跡は、出土遺物から10世紀前半の住居跡と考えられる。



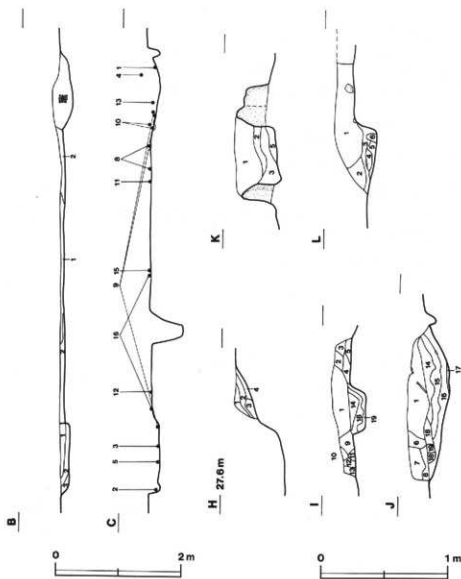
第63図 第35号住居跡・出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第63図 1	坏 土師器	A [12.4]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部内・ 外面横方向のナデ。	長石・砂粒 鈍い黄褐色 普通	P 147 20% 内面黒色処理 二次焼成 床面
		B 3.2				
		C 6.6				
2	坏 土師器	A [11.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり、口縁部は外反する。	ロクロ整形。口縁部内・外面横方 向のナデ。	石英・長石 灰白色 普通	P 148 20% 内面黒色処理 二次焼成 床面
		B 2.9				
		C [5.6]				
3	高台付坏 土師器	B (3.8)	高台部から体部にかけての破片。 付高台。高台は「ハ」の字状に開 き、裾部が広がる。底部内面中央 がくぼむ。体部は内彎しながら立 ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。高台部内・ 外面横方向のナデ。	石英・長石・バミ ス・スコリア 鈍い橙色 普通	P 149 10% 内面黒色処理 床面
		D 8.0				
		E 1.5				



第64图 第36-A·B·C号住居跡実測図



第36-A号住居跡 (第64図)

位置 調査区中央部, E3c7区。

重複関係 本跡は、第34号住居跡を掘り込み、第35号住居跡、第36-B号住居跡及び第36-C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長6.84m、東西軸長7.20mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は約5cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央付近が硬く締まっている。

ピット P₁は径約30cmの円形で、深さは29cm。出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 東壁やや南寄りを幅95cm、奥行30cmほど掘り込んで付設されている。袖部は削平され残っていない。火床部はわずかに掘り込まれている。

覆土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・粘土中ブロック少量
- 3 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量
- 4 鈍い赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック少量、炭化物微量

覆土 調査区境界壁面で観察した。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック多量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック中量、ローム粒子・白色粘土小ブロック少量、ローム小ブロック・焼土中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック、白色粘土小ブロック中量、焼土小ブロック少量

遺物 土師器片966点、須恵器片134点及び瓦片23点が出土している。第65図1の高台付坪は左舷外側床面から、2のミニチュア土器は南東コーナー床面から、3の土師器環及び5の須恵器短頸甕は南壁下近くの床面から、4の須恵器環は左舷外側覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。

第36-B号住居跡（第64図）

位置 調査区中央部、E3c7区。

重複関係 本跡は、第36-A号住居跡を掘り込み、第36-C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長5.38m、東西軸長4.12m。北西コーナー及び南西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は5～8cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁下を除き硬く引き締まっている。

ピット P1は径約50cmの円形で、深さ50cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部よりやや西側を幅110cm、奥行70cmほど掘り込んで付設されている。竈部は砂質粘土で構築されている。火床部は平坦で、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

覆土層解説

- 1 暗褐色褐色 焼土小ブロック少量、ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 10 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 11 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 12 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 15 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 16 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 17 灰赤色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 18 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・焼土中ブロック中量、炭化粒子少量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量

覆土 残っていた覆土は薄く、2層から成る。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック中量、焼土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片301点、須恵器片24点、瓦片1点及び釘片1点が出土している。第65図6の土師器環及び7の埴輪は覆土中からの出土である。8の土師器甕は一部が竈覆土中から出土している。9の土師器甕は竈石側と出入り口付近出土の破片が接合している。10の土師器甕は竈右側の床面から、11の土師器鉢は東壁寄りの

床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。

第36 C号住居跡 (第64図)

位置 調査区中央部, E3区。

重複関係 本跡は、第36-A号住居跡及び第36-B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 床面の広がりから南北軸長2.80m, 東西軸長2.90mの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は10~15cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部を中心に全体に硬化面が広がる。

竈 北壁中央部を幅105cm, 奥行60cmほど掘り込んで付設されている。竈部は凝灰岩を芯材にして、砂質粘土で構築されている。火床面は浅く掘りくぼめられ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|------------------------|
| 1 明褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 5 鈍い赤褐色 | 焼土中ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 炭化物多量, 焼土小ブロック少量 | 6 黒色 | 炭化物多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 鈍い赤褐色 | 焼土大ブロック・炭化粒子少量 | | |
| 4 黒褐色 | 炭化物多量, ローム大ブロック・焼土中量 | | |

覆土 3層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 鈍い黄褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土小ブロック少量, ローム中ブロック微量

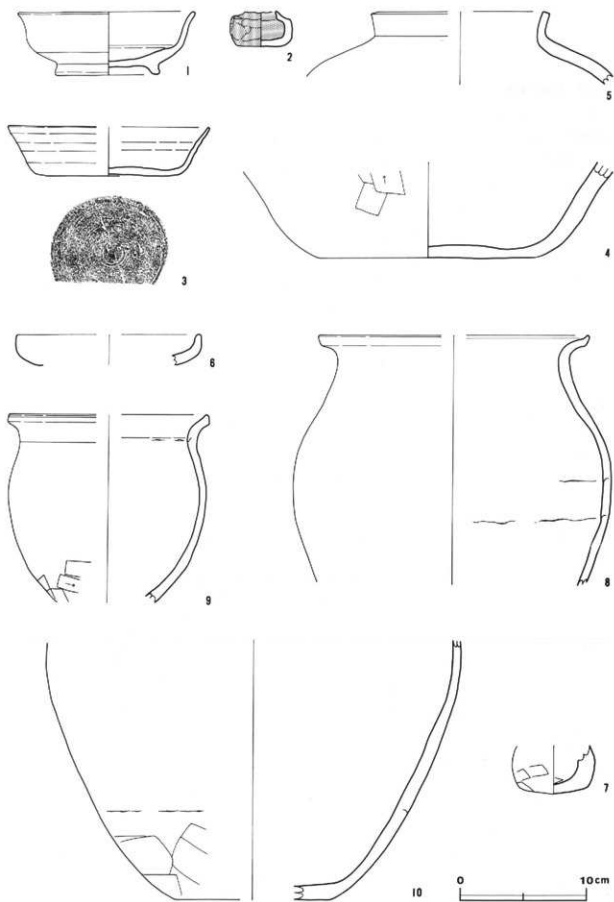
遺物 土師器片185点及び須器器片7点が出土している。第66図15の土師器甕は重複上中から出土している。

16の土師器甕は重複土中出土片と南西コーナー付近出土片が接合している。

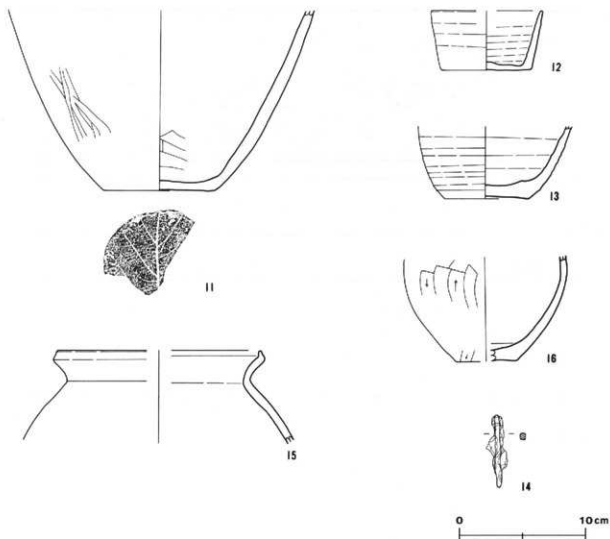
所見 本跡は、出土遺物及び重複関係から第36-B号住居跡よりわずかに新しい時期の住居跡と考えられる。

第36 A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	部 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第63図 1	高台付杯 土師器	A 15.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。付高内。高台は短く直線的にハの字状に曲る。体部は外傾して立ち上がり、中位で強く内弯する。体部上位から口縁部はゆるやかに外反する。	口杯整形。口縁部内・外面削方向のナデ。体部外面下位回転へつ削り残ナデ。高台部内・外面削方向のナデ。	石灰・長石・砂粒 灰白色 普通	P151 80% 二次焼成 床面
		B 5.0				
		C 8.3				
1667号 2	土師器	A 2.5	口縁部一部欠損。平底。体部は直点に立ち上がり、口縁部は内反する。全体に厚手。	体部外面へつ削り残ナデ。	石灰・長石・砂粒 黄灰色 普通	P154 95% 内・外面黒色処理 床面
		B 2.8				
		C 3.7				
3	須器	A [16.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに外反しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面削方向のナデ。体部外面下位回転へつ削り残ナデ。底部回転へつ削り後回転へつ削り	長石・砂粒・細礫 灰白色 良好	P150 60% 二次焼成 床面
		B 3.9				
		C 11.4				
4	須器	B [7.6]	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに外反しながら立ち上がる。	体部外面へつ削り、内面ナデ。	石灰・長石・雲母 パミス 灰色 普通	P152 10% 覆土1層
		C [17.0]				
5	短須器	A [14.3]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、口縁部は短く外傾する。	内面ナデ。	長石・砂粒 灰色 普通 (稀) 灰ナール 色	P153 10% 口縁部及び体部 粘付着 床面
		B [5.8]				



第65图 第36-A·B号住居跡出土遺物実測図



第66図 第36-B・C号住居跡出土遺物実測図

第36-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 6	坏 土師器	A [14.7] B (2.4)	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は薄く、垂直に立ち上がる。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	石英・長石 浅黄褐色 普通	P 155 5% 腹土中
7	埴 土師器	B (3.9) C 5.4	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面へラ削り。	石英・長石・バミ ス 浅黄褐色 普通	P 157 30% 内面ベンガラ付 赤 腹土中
8	甕 土師器	A [21.6] B [19.7]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、肩部で強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。	石英・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P 158 20% 床面
9	甕 土師器	A [15.9] B [14.9]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、肩部から口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面及び頸部内・外面横方向のナデ。体部上半ナデ、下半へラ削り。	石英・長石・雲母 砂粒 鈍い褐色 普通	P 159 35% 内面煤付者 床面
10	甕 土師器	B (20.6) C [12.2]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面上半へラナデ、下半へラ削り。内面ナデ。底部外面ナデ。	石英・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P 160 25% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 11	壺 土器	B (14.8) C 8.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	体部内・外面ヘラナデ。	石英・長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P161 10% 床面
12	鉢 須恵器	A [8.9] B 4.7 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。体部内・外面に強いロクロ目が残る。体部外面下端ヘラ削り後ナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・長石・細礫 鈍い褐色 良好	P156 55% 床面
13	瓶 須恵器	C 6.7	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	ロクロ整形。体部内・外面ナデ。体部外面下端及び底部外面回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P162 30% 覆土下層

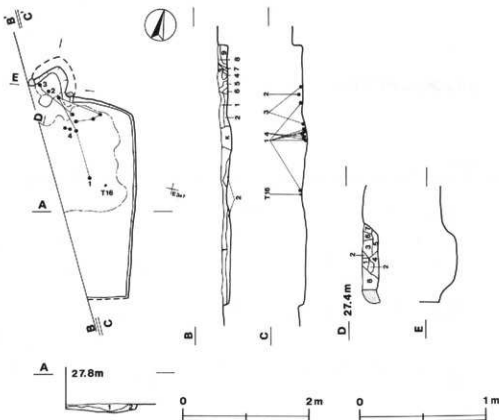
図版番号	器種	計測値					材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第66図14	釘	(5.7)	(0.5)	(0.5)	—	(9.4)	鉄	覆土中	M7

第36-C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第66図 15	壺 土器	A [16.4] B (7.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、頸部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。	長石・雲母・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P163 10% 礎
16	壺 土器	B (8.2) C [5.0]	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦方向のヘラ削り。	石英・長石・ハミス・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P164 20% 床面

第37号住居跡 (第67図)

位置 調査区中央部, E346区。



第67図 第37号住居跡実測図

規模と平面形 南北軸長3.18m。東西軸長は1.80mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-10° W

壁 壁高は15~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央から北寄りを中心に硬く踏み固められている。

竈 北壁を幅80cm、奥行60cmほど掘り込んで付設されている。竈部は砂質粘土で構築されている。火床部は平坦で、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

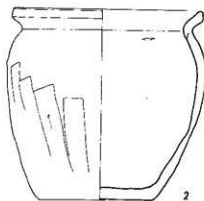
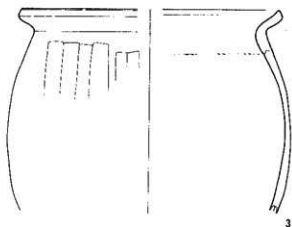
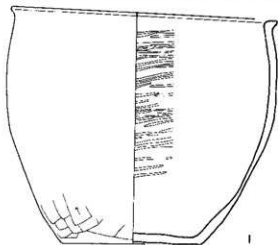
竈土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|--------|-------------------------|
| 1 明赤褐色 | ローム粒子・焼上小ブロック少量 | 6 黒褐色 | 焼上小ブロック中量、ローム粒子・焼上粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼上小ブロック中量、焼上粒子少量 | 7 暗赤褐色 | 焼上粒子多量、焼上小ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 3 明赤褐色 | 焼上粒子多量、焼上小ブロック中量、炭化粒子少量 | 8 明赤褐色 | 焼上小ブロック中量、焼上粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 焼上粒子少量、ローム小ブロック微量 | | |
| 5 暗赤褐色 | 焼上小ブロック・炭化粒子中量、焼上粒子少量 | | |

覆土 9層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|---------|--|---------|------------------------------|
| 1 灰褐色 | ローム大・中ブロック少量、焼上粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム大・中ブロック・ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量 | 7 鈍い赤褐色 | ローム粒子・焼上小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 鈍い赤褐色 | 袖材片（凝灰岩）多量、焼上大・中ブロック中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 8 灰褐色 | 焼上粒子・ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 4 鈍い赤褐色 | 袖材片（凝灰岩）多量 | 9 灰褐色 | ローム粒子・焼上小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量 | | |



第68図 第37号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片71点、須恵器片4点及び瓦片1点が出土している。第68図1の土師器甕は竈内覆土及び竈焚口部前面出上片が接合している。2の土師器甕は竈覆土中の破片と第31号住居跡出土片とが接合している。3の土師器甕は竈覆土中から、4の土師器甕は竈石袖外側の床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	甕 土師器	A 21.3 B 18.8 C 11.0	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、体部上位に最大径をもつ。口縁部は短く外反して薄く。	内面磨き。体部外面1/2ナデ、下半へラ削り。	石英・長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P166 80% 床面
2	甕 土師器	A 45.1 B 15.2 C 9.0	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に折れ、蓋部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のへラ削り。	石英・長石・細礫 スコリア 橙色 普通	P167 80% 甕
3	甕 土師器	A (20.6) B (16.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、最大径を上位にもつ。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾し、蓋部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のへラ削り。	石英・長石・細礫 スコリア 橙色 普通	P168 15% 甕
4	甕 土師器	A (12.2) B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎する。口縁部は短く、蓋部はつまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のへラ削り。内面部分的に横方向のへラナデ。	石英・長石・雲母 バミス・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P169 5% 床面

第38号住居跡（第69図）

位置 調査区中央部、E37:K。

重複関係 本跡は、第29号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長2.73m。東西軸長は1.40mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナー及び南東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-18°-W]

壁 壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。硬化面は見られない。

電 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と思われるが、遺構が調査区外に延びているので確認できない。

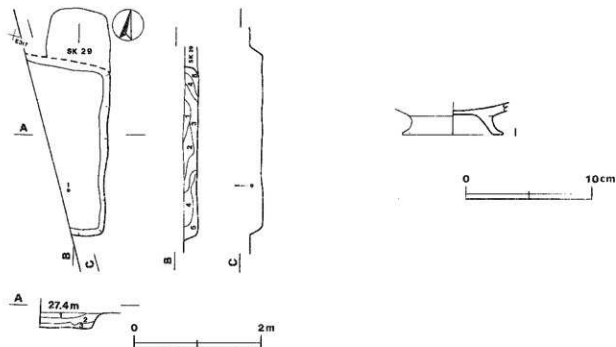
覆土 5層から成る。ロームブロックが多量に確認できることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 灰褐色 ローム大・小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック多量、ローム大・中ブロック・炭化粒子少量
- 4 灰褐色 ローム中ブロック・ローム粒少量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒少量

遺物 土師器片40点及び須恵器片2点が出土している。第69図1の土師器高台付坏は南東コーナー寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第69図 第38号住居跡・出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・包潤・焼成	備考
第69図 1	高台付 土器	B (2.6) D 8.0 E 1.5	高台部から体部にかけての破片、付高台。高台はわずかに外反しなから「ハ」の字状に崩れ、周部は扁平に広がる。体部は内傾しながら立ち上がる。	体部外面ナデ。高台部内・外面横方向のナデ。	長石・雲母 鈍い橙色 普通	D170 30% 覆土中層

第39号住居跡 (第70図)

位置 調査区中央部, E318区。

重複関係 本跡は、第46号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長3.50m, 東西軸長2.73mの長方形である。

主軸方向 N-75°-E

壁 壁高は4~10cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央付近2か所及び南コーナー部が特に硬く締まっている。

竈 東壁南東コーナー寄りに幅70cm, 奥行30cmほど掘り込んで付設されている。耕作のために火床部と沿道の一部分が残る。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 鈍い赤色 ローム中ブロック多量

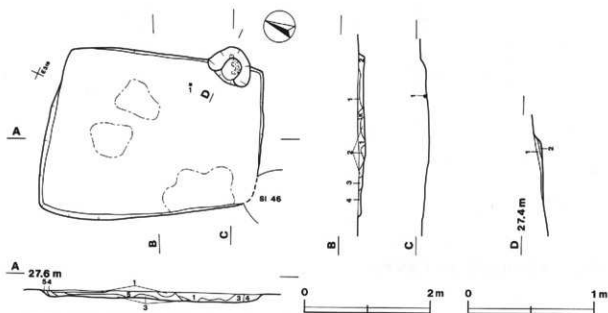
覆土 残っていた覆土は薄く、5層から成る。

土層解説

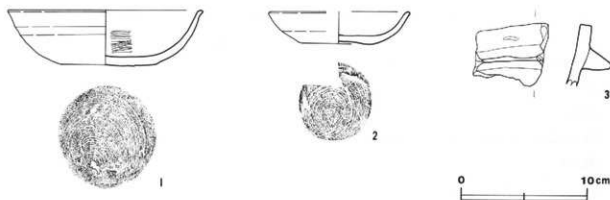
- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片109点, 須恵器片4点及び瓦片1点が出土している。第71図1の土師器坏は竈付近の南壁下床面から出土している。2の土師器坏及び3の土師器羽釜片はいずれも覆土中出土である。

所見 本跡は, 出土遺物から10世紀前半の住居跡と考えられる。



第70図 第39号住居跡実測図



第71図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	土師器 坏	A 15.5 B 4.4 C 7.5	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ製形。内面磨き。体部外面 下端へラ削り後ナデ。底部回転承 切り。	石英・長石・細礫 パミス・スコリア 白色針状物質 鈍い橙色 普通	P171 80% 内面黒色処理 二次焼成 床面
2	土師器 坏	A [11.3] B 2.6 C 5.7	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ製形。底部回転承切り。	石英・長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P172 80% 覆土中
3	土師器 羽釜片	B (5.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部上位に長さ2cmで、断面が 三角形の跡が付く。	露部外面ナデ。	石英・長石・パミス・スコリア 鈍い橙色 普通	P173 5% 覆土中

第40号住居跡 (第72図)

位置 調査区中央部, E3.8区。

重複関係 本跡は, 第42号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長4.45m, 東西軸長4.96mの長方形である。

主軸方向 N-10°-W

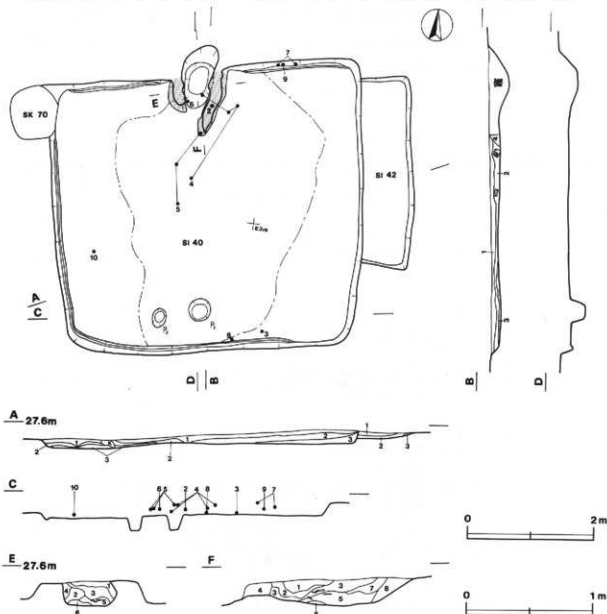
壁 壁高は10-21cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下を除きほぼ周回している。上幅10cm, 下幅5cm, 深さ10cmほどで, 断面は「U」字形である。

床 平坦で, 壁下を除き全体が硬く締まっている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径35cmの円形で, 深さは22cm。底面が硬化していることから支柱穴と思われる。P₂は長径30cm, 短径20cmの楕円形で, 深さ23cmの出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を幅50cm, 奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は約15cm掘り込まれ, 煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。



第72図 第40・42号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 鈍い黄褐色 粘土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 鈍い黄褐色 粘土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 褐色 粘土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 鈍い赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子微量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック微量

覆土 4層から成る。各層にロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 粘土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

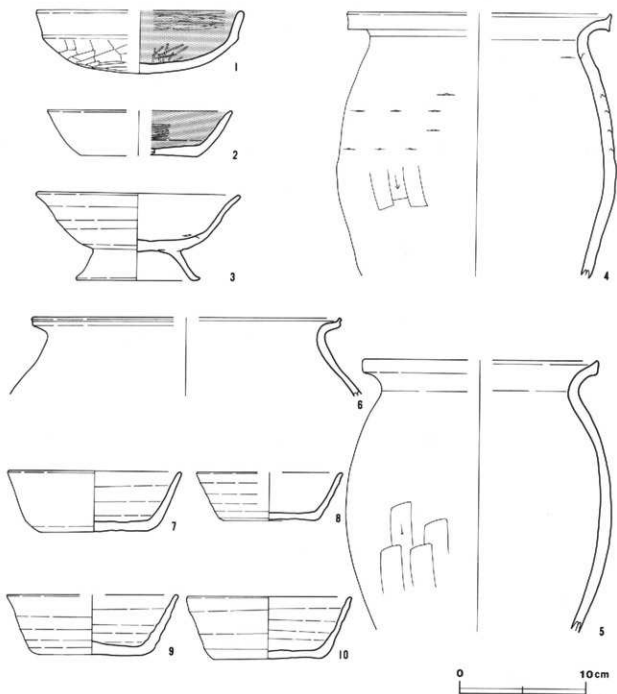
遺物 土師器片274点及び須恵器片40点が出土している。第73図2の土師器坏及び6の土師器甕は竈から出土している。3の土師器高台付坏及び8の須恵器坏は南壁際から、7及び9の須恵器坏は北壁際から出土している。4及び5の土師器甕は竈手前覆土中層出土の数片が接合している。10の須恵器坏は西壁寄り覆土下層から出土している。3は流れ込みと思われる。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第73図 1	土師器 坏	A (16.5)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内押しながら立ち上がり、明確な線を経て、口縁部は外反する。	内面磨き。口縁部外面横方向のナデ。体部外面へラ削り。	石英・長石 淡黄色 普通	P175 25% 覆土中層 内面黒色処理
		B 5.0				
2	土師器 坏	A (14.7)	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部はわずかに内押しながら立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面丁寧なナデ。	長石・雲母・パミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P174 45% 内面黒色処理 二次焼成 甕
		B 3.6				
		C (9.3)				
3	高台付坏 土師器	A 16.3	体部及び口縁部 部欠損。付高内高台は高く、直線的に「へ」の字状に磨き、裾部は広がる。体部は内押しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ整形。	石英・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P180 85% 床面
		B 7.0				
		D 9.9				
		E 2.2				
4	甕 土師器	A (21.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内押し、頸部から口縁部は強く外反する。口縁端部は上方つまみ出されている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のへラ削り。	石英・長石・パミス・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P181 35% 覆土中層
		B (20.8)				
5	須恵器 土師器	A (18.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内押し、頸部から口縁部は強く外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のへラ削り。	長石 鈍い褐色 普通	P182 20% 覆土中層
		B (21.5)				
6	甕 土師器	A (21.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内押し、頸部から口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のへラ削り後ナデ。	石英・長石・雲母 砂粒 鈍い褐色 普通	P183 5% 竈
		B (6.1)				
		C 7.2				
7	須恵器 坏	A 13.8	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。比較的小形。	ロクロ整形。口縁部内面に塗り漆(黒い焼きの跡か)が残る。体部外面へラ削り後ナデ。底部外面へラ削り後ナデ。	石英・長石・雲母 良好	P178 55% 覆土下層
		B 5.0				
		C 8.6				
8	須恵器 坏	A (11.6)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は直線的に外反して立ち上がり、口縁部に至る。比較的小形。	ロクロ整形。体部外面に強いロクロが残る。体部内面ナデ。底部外面へラ削り。	石英・長石 灰色 普通	P179 40% 床面
		B 3.8				
		C 7.2				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
9	坏 須恵器	A [13.6] B 4.8 C 8.1	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。比較的厚手。	ロクロ整形。体部内・外面に強いロクロ目が残る。底部外面へラ削り後ナデ。	石英・長石・細粒 灰色 普通	P177 90% 二次焼成 覆土下層
10	坏 須恵器	A 13.2 B 5.1 C 8.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。比較的厚手。	ロクロ整形。体部外面に強いロクロ目が残る。口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面下端回転へラ削り。底部外面回転へラ削り。	石英・長石・砂粒 灰白色 普通	P176 95% 二次焼成 覆土下層



第73図 第40号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡（第74図）

位置 調査区中央部，E3e9区。

重複関係 本跡は，第42号住居跡及び第43号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長3.80m。東西軸長は2.85mまで測れるが，調査区外へ延びているため全長は確認できない。北西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-2°-W]

壁 壁高は8~20cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，壁際を除き硬く締まっている。

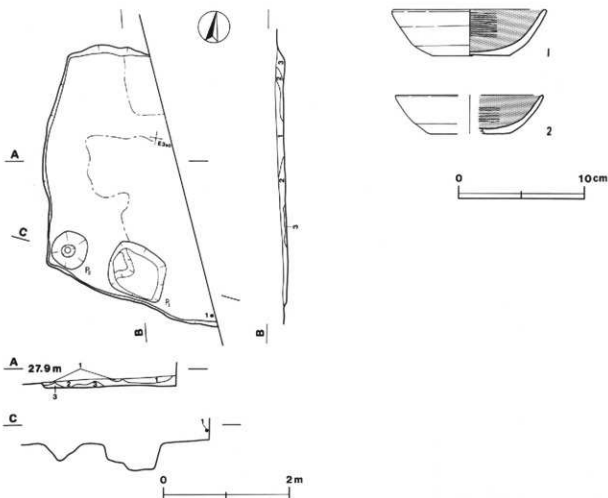
ピット 2か所（P₁，P₂）。P₁は長軸95cm，短軸75cmの長方形で，深さ46cm。P₂は径55cmの円形で，深さ30cm。P₁，P₂は主柱穴である。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と考えられるが，遺構の東半分が調査区外へ延びているため確認できない。

覆土 3層から成る。ロームブロックが見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量



第74図 第41号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片88点、須恵器片5点及び弥生土器片7点が出上している。第74図1の土師器坏は南嶺下覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。

第41号住居跡出土遺物観察表

図号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 1	坏 土師器	A 12.3	口縁部一部欠損、体部は内唇しながら立ち上がり、口縁部に全る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。体部外面下位及び底部外面同転ヘラ削り。	灰石・灰母 鈍い黄褐色 普通	P184 95% 内面黒色処理 覆上下層
		B 3.7				
		C 6.1				
2	坏 土師器	A [1.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内唇しながら立ち上がり、口縁部に全る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下端同転ヘラ削り。底部外面同転ヘラ削り後ナデ。	石灰・灰石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P185 15% 内面黒色処理 覆土中
		B [3.1]				

第42号住居跡（第72図）

位置 調査区中央部、E3e9区。

重複関係 本跡は、第40号住居跡、第41号住居跡及び第43号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長2.90m。東西軸長は0.80mまで測れるが、重複のため全長は確認できない。

主軸方向 [N-10°-W]

壁 壁高は8～20cmで、外傾して立ち上がる。 床 平坦である。

竈 重複のため確認できない。

覆土 3層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片20点及び須恵器片1点が出上している。土師器片のうち、坏体部細片は内面黒色処理されている。

所見 本跡は、出土遺物及び重複関係から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

第43号住居跡（第75図）

位置 調査区中央部、E3f0区。

重複関係 第42号住居跡を掘り込み、第41号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.18m、短軸2.95mの方形である。

主軸方向 [N-6°-E]

壁 壁高は6～10cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁際とコーナーを除き硬く踏み固められている。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と思われるが、削平されているため確認できない。

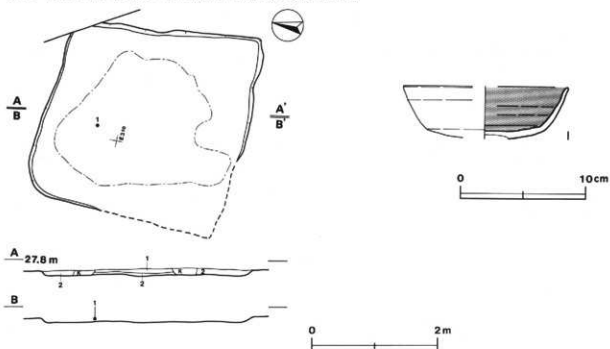
覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片39点及び須恵器片2点が出土している。第75図1の須恵器高台付坏は中央部やや北壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。



第75図 第43号住居跡・出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部はわずかに内傾しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ整形。体部外面丁寧なナア。	石莖・長石 浅黄褐色 普通	P186 40% 内面黒色処理 二次焼成 床面

第44号住居跡 (第76図)

位置 調査区中央部、E3g区。

重複関係 本跡は、第108号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.37m、短軸3.12mの長方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は8-12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部から東寄りを中心に硬く踏み固められている。

竈 北壁中央部を幅80cm、奥行30cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部はわずかに掘りくぼめられ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

甃土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土大ブロック・焼土中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム大ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
- 4 鈍い赤褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 7 鈍い赤褐色 灰白色粘土粒子多量
- 8 鈍い褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

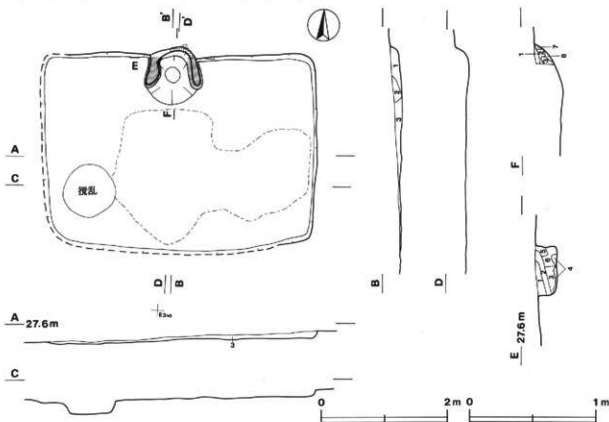
覆土 残っていた覆土は薄く、3層から成る。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

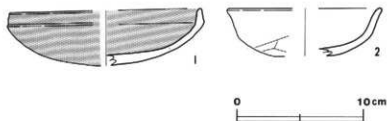
- 1 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子中量

遺物 土師器片47点及び瓦片1点が出土している。第77図1及び2の土師器片は、覆土中からの出土である。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀後半の住居跡と考えられる。



第76図 第44号住居跡実測図



第77図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	坏 土師器	A [15.2] B 4.3	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上 がり。明瞭な稜を経て、口縁部は 内彎する。	口縁部外面横方向のナデ。体部外 面へラ削り後ナデ。	石英・長石 灰黄褐色 普通	P187 30% 内・外面黒色地埋 二次焼成 覆土中
2	坏 土師器	A [12.3] B (3.8)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上 がり。不明瞭な稜を経て、口縁部 は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。	石英・長石・スコ リア 鈍い黄褐色 普通	P188 15% 覆土中

第45号住居跡 (第78回)

位置 調査区中央部, E3_g区。

重複関係 本跡は, 第108号住居跡を掘り込み, 第65号土坑及び第69号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長2.62m, 東西軸長2.70mの方形である。

主軸方向 N-93°-E

壁 壁高は約8cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平床で, 竈手前と中央部から南西側に部分的に硬化面が見られる。

竈 東壁中央部に付設されている。耕作のために削平され, 焼土の広がりや火床部の掘り込みがわずかに残っているだけである。

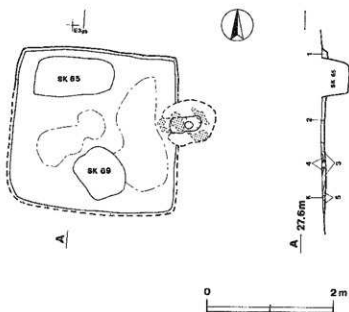
覆土 5層から成る自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 灰褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 鈍い黄褐色 ローム粒子中量, 灰P少量

遺物 床面から土師器片3点及び須恵器片2点が出土している。

所見 本跡は, 出土遺物が極めて少ないため時期の決定は難しいが, 東に竈が付設されていることから10世紀初めごろの住居跡と考えられる。



第78回 第45号住居跡実測図

第46号住居跡 (第79回)

位置 調査区中央部, E3_g区。

重複関係 本跡は, 第39号住居跡及び第48-A号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長推定3.80m。東西軸長は3.20mまで測れる。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は約26cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁際を除き硬く引き締まっている。

竈 北壁を幅60cm、奥行60cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は平坦で、煙道に向かって緩やかに立ち上がる。

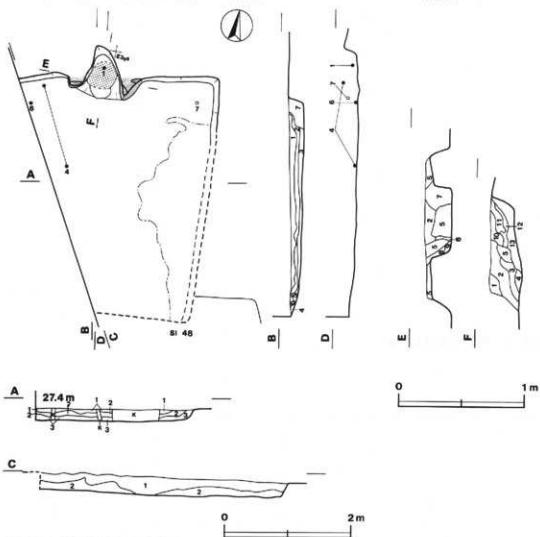
竈土層解説

- | | | | |
|---------|--|----------|---|
| 1 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量 | 8 褐色 | ローム粒子少量, 粘土大ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム中ブロック・焼土中ブロック中量, 焼土大ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 極暗赤褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・K P少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム大ブロック・K P微量 |
| 4 極暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 焼土大ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 鈍い赤褐色 | 粘土粒子多量 | 12 黒褐色 | K P少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量 | 13 極暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土粒 | | |

覆土 調査区境界の壁面で確認した。ロームブロックが多量に存在することから、人為堆積と思われる。

土層解説

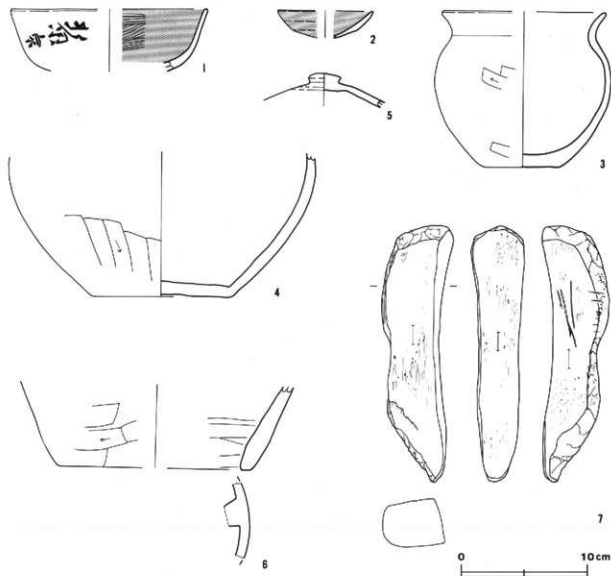
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒色 | ローム大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム大ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子少量 | 7 褐色 | ローム大・中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック中量, ローム粒子少量 | | |



第79図 第46号住居跡実測図

遺物 土師器片87点, 須恵器片15点, 弥生土器片3点及び砥石1点が出土している。第80図1の土師器坏は竈から出土している。4の土師器甕は竈左袖外側と中央部の離れた所から出土したものが接合している。6の瓶は左袖部外側覆土下層から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物から9世紀中頃の住居跡と考えられる。



第80図 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	土師器	A (15.8) B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら立ち上がり, 中位から口縁部にかけて直線的に外傾する。	ロクロ整形。内面及び口縁部外面磨き。	雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P189 20% 墨書「杉原家」 か 内面黒色処理 竈
2	土師器	A (7.6) B (2.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾し, 中位から口縁部はわずかに内彎する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り後ナデ。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P190 20% 内・外面黒色処理 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	壺 土器器	A 13.2 B 12.4 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は球状で、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部にかけて緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へう割り後ナデ。	石英・長石 鈍い橙色 普通	P192 75% 覆土中
4	壺 土器器	B (11.4) C 11.1	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	体部外面縦方向のへう割り。底部外面へう割り後ナデ。	石英・長石 鈍い橙色 普通	P193 15% 覆土下層
5	壺 須恵器	B (2.6) F 2.6 G 0.9	天井部片。宝珠状のつまみが付く。天井部は口縁部に向けて緩やかに下降する。	つまみ部ナデ。天井部上位へう割り後ナデ。	石英・長石・パミス・スコリア 橙色 普通	P191 5% 覆土中
6	瓶 須恵器	B (6.6) C 15.3	底部から体部にかけての破片。	体部外面へう割り、内面へう割りナデ。	石英・パミス 灰白色 普通	P194 5% 覆土下層

図版番号	器種	計測値					石材	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第80図7	支柱石	(20.4)	(6.7)	(3.9)	-	(544.8)	凝灰岩	覆土下層	Q9

第47号住居跡 (第81図)

位置 調査区中央部, E310区。

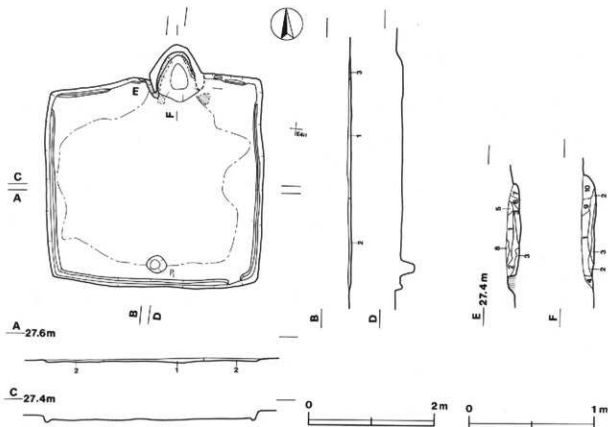
規模と平面形 南北軸長3.45m, 東西軸長3.40mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は10~14cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 庭付近を除きほぼ全周している。上幅10cm, 下幅5cm, 深さ5cmほどで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、全体的に硬く締まっている。



第81図 第47号住居跡実測図

ビット P₁は径約30cmの円形で、深さ20cmの出入り口施設に伴うビットである。

竈 北壁やや東寄りを幅85cm、奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は平坦で、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は耕作により削平されていて不明である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|---------|---------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土大ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・灰白色粘土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子少量 | 7 鈍い赤褐色 | ローム粒子・灰白色粘土大ブロック多量 |
| 3 極暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | 8 暗赤褐色 | 焼土大ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 暗赤灰褐色 | ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 灰褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

覆土 3層から成る。ロームブロックが確認できることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量 |

遺物 土師器片48点、須恵器片3点及び弥生土器片3点が出上している。第82図1の須恵器の高台付坏は覆土中出上である。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。



第82図 第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 1	高台付坏 須恵器	A (13.6) B (3.7)	底部から上縁部にかけての破片。高台部分欠損。付高台。体部は直線的に外傾して立ち上がり、上縁部に有る。比較的器高が低い。	口縁部内・外面ナデ。底部外面へウ割り後ナデ。	石英・長石 暗灰色 普通	P195 30% 覆土中

第48-A号住居跡 (第83図)

位置 調査区中央部、E3ba区。

重複関係 本跡は、第46号住居跡、第48-B号住居跡及び第108号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長5.00m。東西軸長は2.35mまで測れるが、重複のため全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は6~10cmで、外傾して立ち上がる。

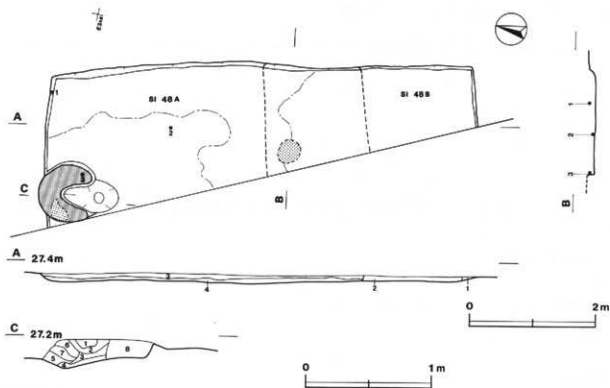
床 平坦で、竈周辺から主軸線に沿って踏み固められている。

竈 北壁を幅70cm、奥行25cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は約15cm掘りくぼめられ、煙道部に向かって約70度の角度で立ち上がる。煙道上部は削平されている。

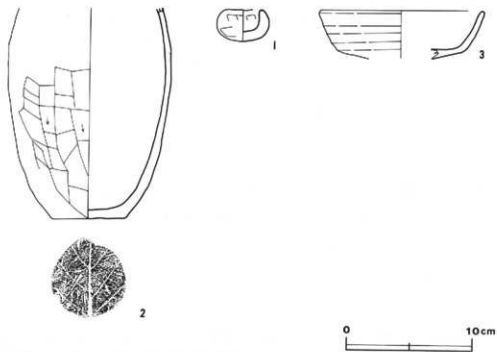
覆土层解説

- | | | | |
|--------|----------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・KP少量 | 6 黒色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・KP少量 | 7 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ローム大ブロック中量, KP少量 | 8 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 |

覆土 2層から成る自然堆積と思われる。(3, 4が本跡のものである。)



第83図 第48-A・B号住居跡実測図



第84図 第48-A号住居跡出土物実測図

土層解説

- 3 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
 4 暗赤褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片16点が出土している。第84図2の土師器甕は東壁寄りから、3の須恵器杯は竈石袖部から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。

第48-A号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第84図 1	土師器 （ニホヒ）	A 2.5 B 2.5	口縁部一部欠損。丸底。体部は内壁しながら立ち上がり、口縁部に至る。	内・外面ヘラ削り接ナデ。	バミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P198 95% 内面ペンダラ付着 底部外面火熱痕 覆土下層
2	甕 土師器	B (16.8) C 5.9	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内壁しながら立ち上がる。体部が長い。	体部外面縦方向のヘラ削り、下横方向のヘラ削り。底部木葺痕。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P197 43% 床面
3	坏 須恵器	A 13.2 B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内壁しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。体部外面に強いロクロ目が残る。底部外面回転ヘラ削り。	石英・長石・雲母 灰青色 普通	P196 45% 2次焼成 覆土下層

第48-B号住居跡（第83図）

位置 調査区中央部、E3:s区。

重複関係 本跡は、第48-A号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は3.36mまで、東西軸長は1.80mまで測れるが、重複及び調査区外へ延びているため全長は確認できない。南東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高は約12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、部分的に硬化面が確認できる。

竈 第48-A号住居跡の床面下から、本跡の北壁付近と推定される部分で焼土の広がり方が確認できたことから、北向き竈が付設されていたものと考えられる。第48-A号住居跡に掘り込まれているため、規模や形状は不明である。

覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・KP少量

遺物 出土していない。

所見 第48-A号住居跡と壁が一直線になることや床面の高さが同じことなどから、第48-A号住居跡が拡張されて本跡が造られたとも考えられる。遺物は出土していないが、主軸方向が第48-A号住居跡と一致することから8世紀頃の住居跡と考えられる。

第50号住居跡（第85図）

位置 調査区北端、B1s7区。

規模と平面形 東西軸長5.25m。南北軸長は1.90mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。南東及び南西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-5°-W]

壁 壁高は25~37cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦である。住居跡は粘土層を掘り込んで構築されている。床面も粘土面である。

ピット 確認されていない。

竪 窓が付設されていると推定される北半分が、調査区外にあるため確認できない。

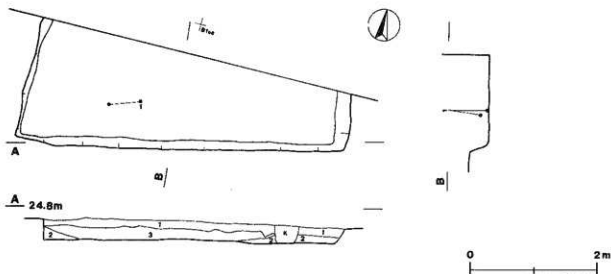
覆土 3層から成る自然堆積と思われる。

土層解層

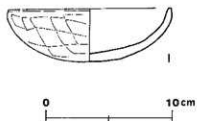
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片40点、須恵器片5点、弥生土器片3点及び鉄製品2点が出土している。第86図1の土師器は南壁寄りの床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀後半の住居跡と考えられる。



第85図 第50号住居跡実測図



第86図 第50号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 1	土師器 碗	A 12.9 B 4.2	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上 がり、不明瞭な襷を経て、口縁部 は真上に小さく伸びる。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面及び底部外面へラ削り。	長石・細礫 浅黄褐色 普通	P199 床面 85%

第51号住居跡（第87図）

位置 調査区北端部，B1₁₈区。

規模と平面形 東西軸長5.40m。南北軸長は6.60mまで測れるが，調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナー及び南東コーナーは直角である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は25～37cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。粘土層を掘りこんで住居を構築しているため，床面も粘土である。

ピット 4か所（P₁～P₄）。P₁は長径80cm，短径60cmの楕円形で，深さ65cm。P₂は径約30cmの円形で，深さ20cm。P₃は径約35cmの円形で，深さ26cm。P₄は南西部が調査区外へ延びていて確認できないが，推定50cmの円形で，深さ16cm。P₁～P₄は主柱穴及び補助柱穴と思われる。

竈 2か所。竈1（北竈）は北壁を幅85cm，奥行30cmほど掘り込んで付設されている。袖部は粘土が多量に含まれた砂質粘土で構築されている。火床部は平坦で，煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。竈2（東竈）は東壁中央を幅35cmほど掘り込んで付設されている。煙道部を含め115cmほど壁外へ長く延び，煙道部は燃焼によると思われる赤変が著しい。竈前面には焼土が蒲鉾状に堆積していた。竈2は当遺跡で一般的に見られる竈の形状とは明らかに違っている。北竈，東竈とも袖が残っていたことから，同時に使われていたものと考えられる。

竈1土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子多量
- 2 鈍い赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量・粘土粒子少量・焼土大ブロック微量
- 4 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物粒子・粘土大ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック少量，ローム粒子微量
- 6 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・粘土大ブロック少量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土大ブロック少量，焼土大ブロック微量

竈2土層解説

- 1 灰 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 灰 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック・粘土中ブロック微量
- 3 灰 赤色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒子微量
- 4 灰 赤色 焼土粒子・粘土小ブロック少量，ローム小ブロック微量
- 5 鈍い褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
- 6 灰 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 7 鈍い褐色 焼土粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

貯蔵穴 長軸70cm，短軸56cmの長方形で，深さ19cm。底面は粘土面である。

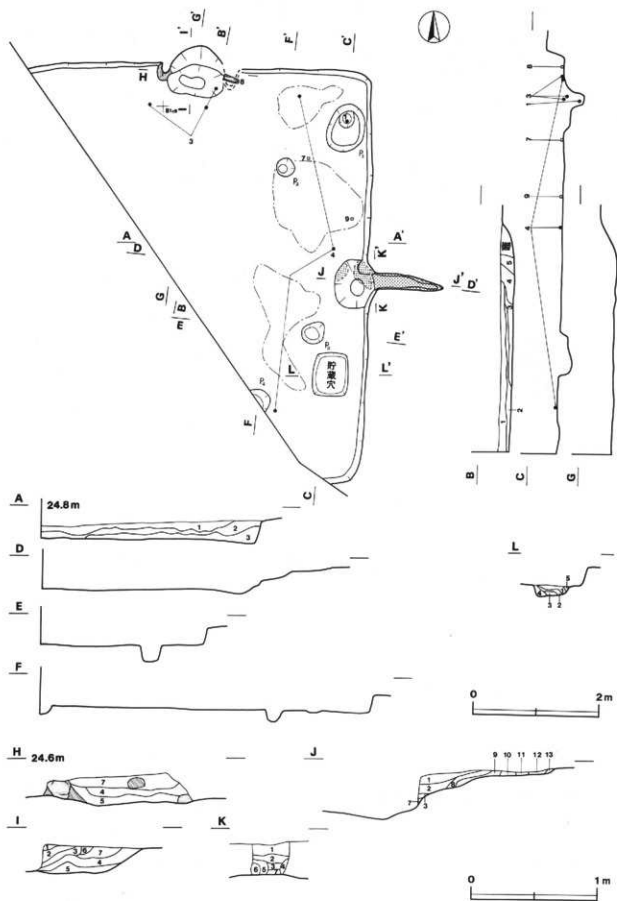
貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 炭化粒子多量，焼土大ブロック・焼土粒子・粘土大ブロック少量
- 3 明褐色 ローム大ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・粘土大ブロック少量
- 4 鈍い褐色 粘土大ブロック多量，ローム粒子・ローム大ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土大ブロック少量

覆土 5層から成る。各層にロームブロックが見られることから，人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量，炭化物微量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量，焼土中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・粘土粒子・粘土少量
- 5 鈍い赤褐色 焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土大ブロック少量

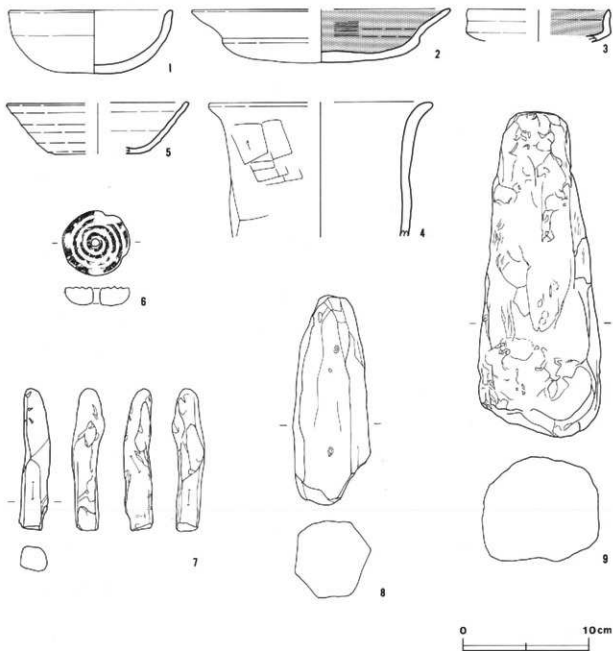


第87图 第51号住居跡実測图

遺物 土師器片959点, 須恵器片35点, 弥生土器片7点, 石製紡錘車1点及び石製支脚2点が出土している。

第88図1の土師器坏は北東コーナーのピット覆土中から正位の状態出土している。3の土師器坏は竈覆土及び竈前面の覆土下層から出土した3片が接合している。4の土師器堿は東壇際の離れた3点から出土したものが接合している。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀中頃の住居跡と考えられる。



第88図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 1	坏 土師器	A 13.0 B 5.0	平底気味の丸底。体部は内壁しながら立ち上がり、不明瞭な稜を経て、口縁部は垂直方向に伸びる。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部、底部内・外面ナデ。	石英・長石・雲母スコリア 浅黄褐色 普通	P200 100% 二次焼成 P ₁ 内覆土

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	坏土胎器	A (20.7) B 4.3	盤状坏。底部から口縁部にかけての破片。平底気味の丸底。体部は内厚しながりに立ち上がり、明瞭な稜を経て、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面磨き。底部外面ヘラ削り後ナデ、内面磨き。	長石・スコリア 鈍い棕色 普通	P203 80% 内面栗色処理 覆土中
3	坏土胎器	A (11.4) B (2.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内厚し、明瞭な稜を経て、口縁部はわずかに外反しながら垂状方向に立ち上がる。	口縁部内・外面横方向のナデ。	長石・褐色 普通	P202 5% 内面栗色処理 二次焼成 覆土下層
4	壳土胎器	A (17.8) B (10.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内厚し、口縁部は外反して開く。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石英・長石・砂粒 スコリア 棕色 普通	P204 床面 10%
5	坏引土胎器	A (14.4) B 4.0 C (7.0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部内・外面ナデ。	石英・長石 棕色 普通	P201 覆土中 10%

図版番号	器種	計測値				石材	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第88図 6	紡錘車	種	(5.3)	(1.5)	(0.6)	(33.3)	緑泥片岩	覆土中 Q10
7	砥石	(11.3)	(2.4)	(2.0)	-	(58.4)	凝灰岩	床面 Q11
8	支脚	(16.6)	(6.0)	(6.1)	-	(385.5)	凝灰岩	覆土 Q12
9	支脚	(25.9)	(9.8)	(8.3)	-	(1238.1)	凝灰岩	床面 Q13

第52号住居跡 (第89図)

位置 調査区北端，B1e0区。

重複関係 本跡は、第105号住居跡を掘り込み、第39号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長4.00m。南北軸長は3.50mまで測れるが、重複のために全長は確認できない。南東及び南西コーナーは隅丸である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は10~29cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

ピット Pは径40cmの円形で、深さ30cmの出入り口施設に伴うピットである。

竈 第39号土坑に掘り込まれているため確認できない。

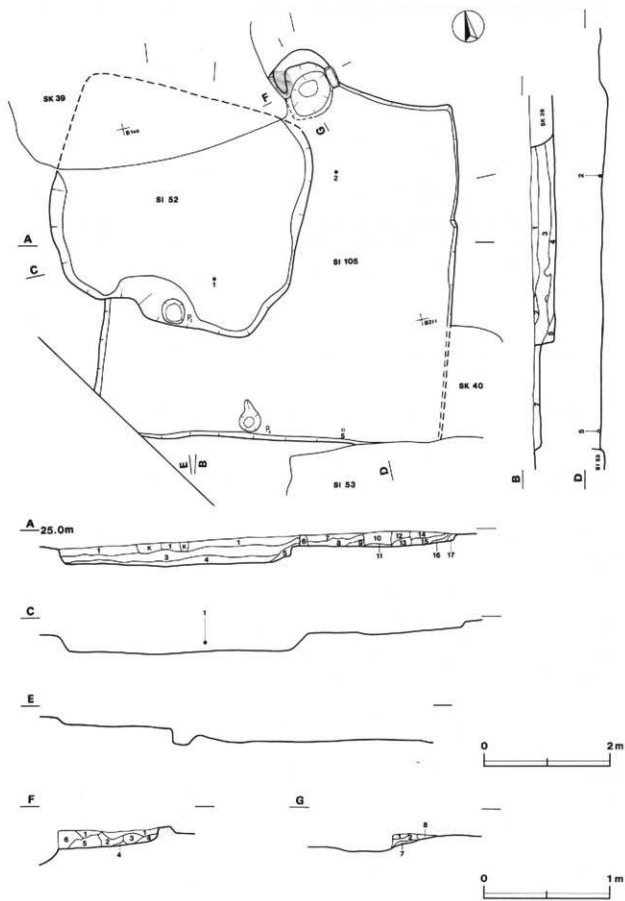
覆土 ロームブロックが各層に見られることから、人為堆積と思われる。(1~5が木跡のものである。)

土層解説

- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片、須恵器片、石製製造品片及び刀子片が出土している。

所見 本跡を掘り込んでいる第39号土坑出土の高坏及び高台付坏が7世紀前半のものと考えられることから、古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第89图 第52·105号住居跡实测图



第90図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 1	土器 環器	A (14.9) B 5.3	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、不明瞭な稜を経て、口縁部は小さく真上に伸びる。	口縁部内・外面ナデ。体部外面及び底部外面へり削り後ナデ。内面ナデ。	石英・長石・スコリア 棕色 普通	P452 40% 覆土中層
2	土器 高土器	A (17.8) B (4.0)	環部片。環部は内彎し、明瞭な稜を経て、口縁部は外反しながら外に開く。環部にも小さな稜をもつ	口縁部外面横方向のナデ。内面ナデ。	石英・長石・パミス・スコリア 棕色 普通	J1210 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値					石材	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第90図3	多孔門板	径	2.3	0.3	0.4	(1.5)	緑泥片料	覆上下層	Q14

第53号住居跡 (第91図)

位置 調査区北端, B1g区。

重複関係 本跡は、第56号住居跡及び第112号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.80m, 短軸3.90mの長方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は4~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径約30cmの不整形円で、深さ50cm。P₂は長軸30cm, 短軸25cmの不整形長方形で、深さ49cm。P₃は一辺約30cmの不整形方形で、深さ58cm。P₁~P₃は土柱穴である。P₄は径約30cmの円形で、深さ48cm。性格は不明である。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と考えられるが、耕作により削平され、確認できなかった。

覆土 4層から成る。ロームブロックが各層に見られることから、人為堆積と思われる。

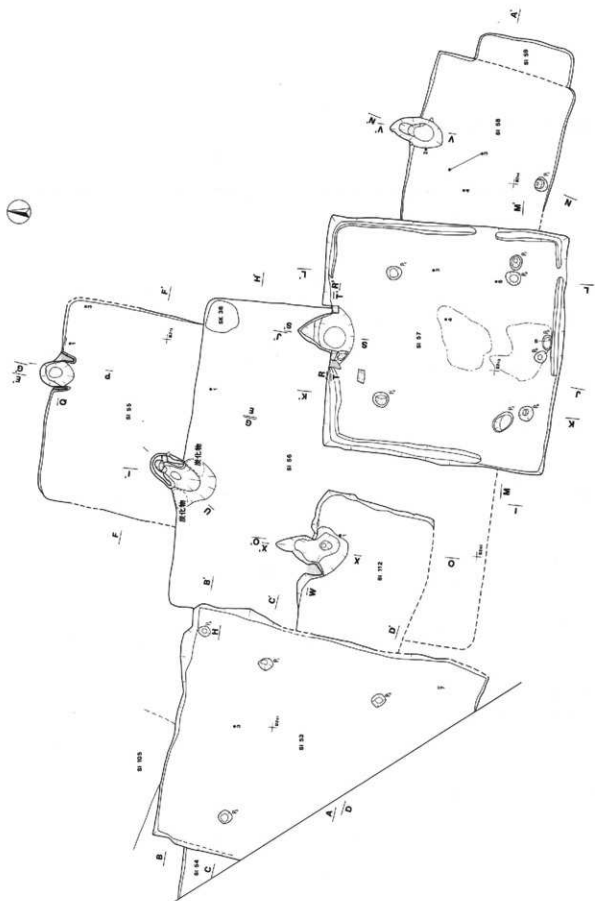
土層観察

- 1 帯褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒少量、炭化物微量

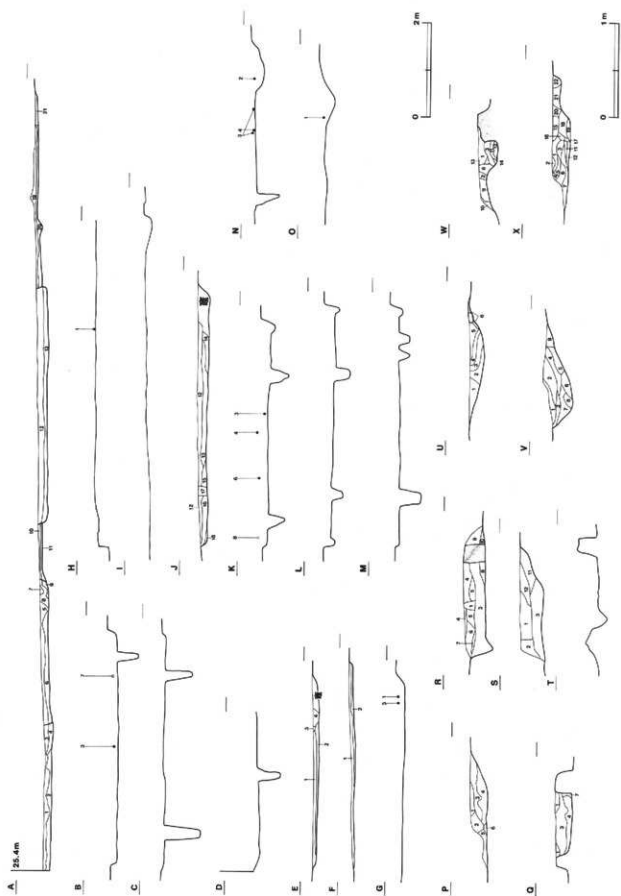
遺物 土師器片77点, 須恵器片8点, 縄文土器片6点, 弥生土器片4点及び砥石1点が出土している。第92図

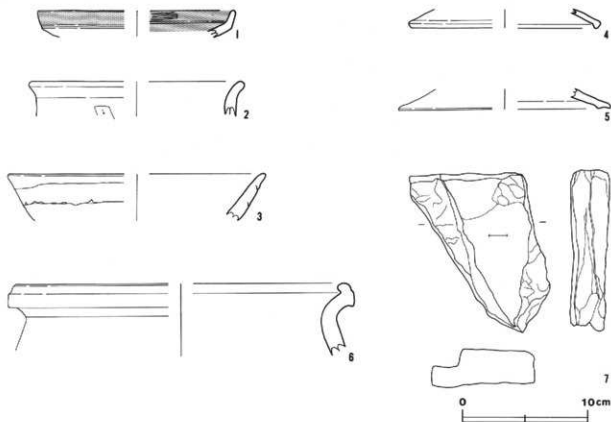
3の土師器密口縁部片は中央部やや北壁寄りの覆上下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から7世紀前半の住居跡と考えられる。



第91图 第53·54·55·56·57·58·59·112号住居跡实测图





第92図 第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第92図 1	坏 土 器	A [15.6] B (2.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、明瞭な線を転て、 口縁部は外傾する。	内面磨き。口縁部外面横方向のナデ。 体部外面へら削り後ナデ。	パミス・スコリア 鈍い橙色 普通	P213 5% 内・外面黒色処理 覆土中
2	瓶 土 器	A [14.8] B (2.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾し、口縁部は外反して 開く。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面縦方向のへら削り。	石英・長石・パミ ス 橙色 普通	P215 5% 覆土中
3	壺 土 器	A [20.4] B (3.7)	口縁部片。口縁部は先端が薄くなり、 直線的に外傾する。	口縁部内面丁寧なナデ。外面粗な ナデ調整。口縁部外面に輪轂痕を 利用した装飾帯。	石英・長石・スコ リア 鈍い橙色 普通	P214 5% 覆土下層
4	壺 須 恵 器	A [14.8] B (1.5)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は緩やかに下降し、口縁端 部は下方につまみ出されている。	内・外面ナデ。	砂粒 褐色 普通	P217 5% 覆土中
5	壺 須 恵 器	A [17.0] B (1.5)	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は緩やかに下降し、口縁端 部から内側10mmにかえりが付く。	内・外面ナデ。	石英・長石 黄灰色 普通	P216 5% 覆土中
6	壺 陶 器	A [26.8] B (5.8)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部は「く」の字 状に折れる。口縁部は外反し、端 部は上下につまみ出されている。	口縁部内・外面及び体部内・外面 ナデ。	砂粒 灰白色 (動) 鈍い赤褐色 普通	P218 5% 覆土中

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第92図7	砥 石	(12.8)	(11.1)	(2.9)	—	(366.2)	凝 灰 岩	覆 土 下 層	Q15

第54号住居跡（第91図）

位置 調査区北部，B1₁₀区。

重複関係 本跡は，第53号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は0.90mまで，東西軸長は0.84mまで測れるが，ともに調査区外へ延びているために全長は確認できない。

主軸方向 [N-10°-E]

壁 壁高は約10cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。

竈 遺構が調査区外へ延びているため確認できない。

覆土 耕作による攪乱のために残っていた覆土が浅く，堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片7点及び須恵器片1点が出土している。

所見 本跡は，出土遺物が細片で最も少ないため時期は不明である。

第55号住居跡（第91図）

位置 調査区北端，B2₂区。

重複関係 本跡は，第56号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長3.24m。南北軸長は2.34mまで測れるが，重複のために全長及び平面形は確認できない。北東コーナー及び北西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は約12cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北壁やや東寄りを幅50cm，奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。

火床部はわずかに掘り込まれ，煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

電土層解説

- 1 褐 褐色 ローム大ブロック少量，焼土大ブロック・焼土中ブロック・粘土小ブロック少量
- 2 灰 褐色 ローム中ブロック少量，焼土小ブロック少量，炭化物微量
- 3 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
- 4 極暗赤褐色 ローム中ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック少量，炭化物微量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，焼土大ブロック微量
- 6 黒 褐色 炭化粒子中量，焼土小ブロック少量，ローム粒少量
- 7 極暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

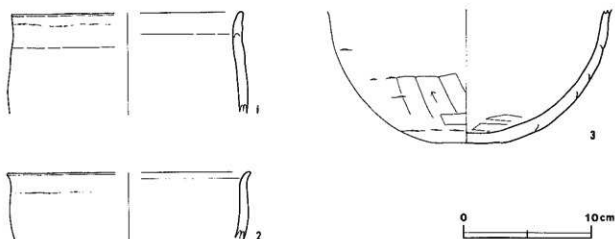
覆土 残っていた覆土は薄く，4層から成る。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒少量

遺物 土師器片132点，縄文土器片1点及び弥生土器片7点が出土している。第93図1の土師器甕は竈右袖外側北壁下覆土下層から出土している。3の甕は北東コーナー部覆土下層から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。



第93図 第55号住居跡出土遺物実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 1	壺 土師器	A [18.4] B (8.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は わずかに外反する。	口縁部内・外面側方向の強いナデ。 体部内・外面ナデ。	石英・長石・パミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P219 5% 覆土下層
2	壺 土師器	A [19.5] B (5.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部はわずかに内彎し、口縁部は 小さく外反する。	口縁部内・外面側方向のナデ。体 部外面側方向のヘラ削り後ナデ、 内面ナデ。	長石・パミス 鈍い褐色 普通	P220 5% 扉部内面炭化物付着 覆土中
3	壺 土師器	B [10.4] C 6.0	底部から体部にかけての破片。丸 底気味の平底。体部は内彎しなが ら立ち上がる。	体部外面側方向のヘラ削り、内面 ナデ。	石英・長石・パミス 橙色 普通	P221 10% 扉部内面炭化物付着 覆土下層

第56号住居跡 (第91図)

位置 調査区北端, B2_{R2}区。

重複関係 本跡は、第53号住居跡を掘り込み、第57号住居跡及び第112号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 覆土はほとんど残っておらず、ルームの確認面に黒色上の方形の輪郭が確認でき、硬化面及び
竈の一部が残っている。推定規模は南北軸長4.90m, 東西軸長4.95mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 残っていない。

床 平坦である。耕作により削平され、硬化面が点在する。

竈 北壁のやや西寄りを幅90cm, 奥行80cmほど掘り込んで付設されている。袖部は削平されほとんど形を残さ
ない。火床部は約30cm掘り込まれ、煙道部に向かって立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

覆土層解説

- 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック少量
- 黒褐色 ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、焼土大ブロック・焼土大ブロック微量
- 暗赤褐色 ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・焼土中ブロック少量
- 鈍い褐色 焼土大ブロック中量、ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化物中量

覆土 残っていた覆土は浅く、2層である。

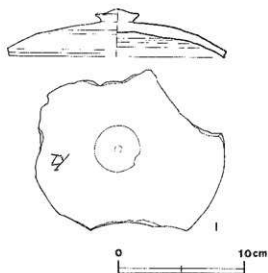
土層解説 (10及び11が本跡のものである)

- 黒褐色 ローム粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 床面及び竈覆土中から、土師器片97点及び須恵器片7点が出土している。第94図1の須恵器蓋は竈の左

側床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。



第94図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94区 1	須恵器 壺	A 17.4 B 3.5 F 3.4 H 10.5	火井部から口縁部にかけての破片。天弁部は壺状のつまみが付き、口縁部に向けてなだらかに下降する。	ロクロ製形。天弁部上位面転へ削り。	長石・粗礫 灰色 普通	P222 75% 床面

第57号住居跡 (第91図)

位置 調査区北端、B2区3区。

重複関係 本跡は、第56号住居跡を掘り込み、第58号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.90m、短軸3.78mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は10~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下付近を除き周回している。上幅15cm、下幅10cm、深さ約20cmで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、中央部と南壁下が特に硬く踏み固められている。

ピット 8か所 (P₁~P₈)。P₁及びP₂は径30cmの円形で、深さはP₁が32cm、P₂が26cm。P₃は長径50cm、短径30cmの楕円形で、深さ45cm。P₄は径35cmの円形で、深さ42cm。P₁~P₄は主柱穴である。P₅は長径35cm、短径20cmの楕円形で、深さ15cm。P₆は径25cmの円形で、深さ25cm。P₇及びP₈はともに出入り口施設に伴うピットである。P₇は長径35cm、短径25cmで、深さ24cm。P₈は径30cmの円形で、深さ41cm。P₇及びP₈は補助柱穴と考えられる。

■ 北壁中央部を幅90cm、奥行70cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され、芯材として凝灰岩が使用されている。火床面はわずかに盛り上がり、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

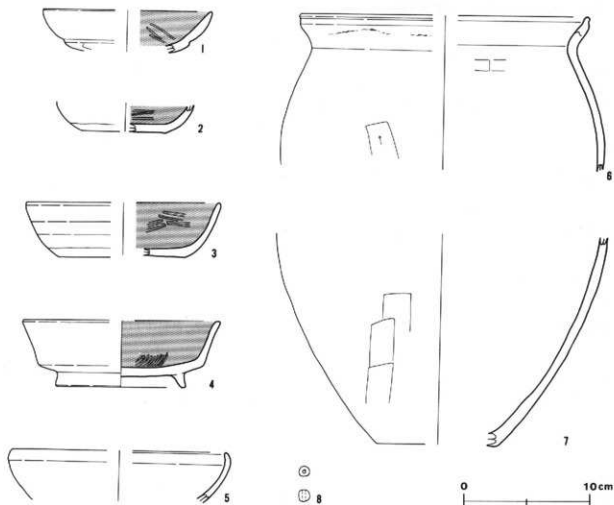
- | | | |
|----|------|---|
| 1 | 極暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 | 暗赤褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 焼土中ブロック・粘土中ブロック少量 |
| 4 | 暗赤褐色 | ローム粒子・粘土大ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 | 赤褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・粘土中ブロック少量 |
| 8 | 明赤褐色 | KP多量 |
| 9 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子・KP少量 |
| 11 | 褐色 | ローム粒子多量, 粘土粒子少量 |
| 12 | 極暗褐色 | 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 |

覆土 7層から成る。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説 (12~18が本跡のものである)

- | | | |
|----|-----|-------------------------------|
| 12 | 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 13 | 黒褐色 | 粘土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 14 | 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 15 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 16 | 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| 17 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 18 | 褐色 | ローム中ブロック多量, 焼土粒子微量 |

遺物 土師器片508点, 須恵器片15点, 弥生土器片6点及びガラス製丸玉が出土している。第95図3の土師器
 坏は東壁寄り覆土下層から, 4の土師器高台付坏は中央部覆土中層から, 6の土師器甕は南東コーナー寄り
 覆土中層からそれぞれ出土している。8のガラス製丸玉は覆土上層から出土している。



第95図 第57号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 1	坏土器 土師器	A (13.4) B (3.3)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部との境に段をもつ、口縁部はわずかに内彎する。	内面磨き。口縁部外面ナデ。体部外面へラ削り残ナデ。	長石・細礫 浅黄褐色 普通	P225 5% 内面黒色処理 覆土中
		B (2.3) C (6.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	口クロ整形。内面磨き。体部外面下位回転へラ削り。	パミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P226 5% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中
3	坏土器 土師器	A (15.2) B (4.4) C (10.0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。中位から口縁部は直線的に外傾する。	口クロ整形。内面磨き。体部外面下位回転へラ削り。	石英・長石・パミス 鈍い黄褐色 普通	P223 20% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中層
		A (15.6) B 5.3 C 10.4 D 1.1	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台はわずかに外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部は外傾する。	口クロ整形。内面放射状の磨き。体部外面ナデ。	長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P227 50% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中層
5	陶土器 土師器	A (17.0) B (4.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部で内側に折れる。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P224 10% 二次焼成 覆土中
6	陶土器 土師器	A (23.2) B (12.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部外面へラ削り残ナデ。内面ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	石英・長石・雲母 砂粒 鈍い褐色 普通	P228 5% 覆土中層
7	陶土器 土師器	B (16.7) C (9.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がる。	体部外面へラ削り残ナデ。内面へラナデ。	石英・長石・スコリア 暗赤褐色 普通	P229 10% 覆土中

図版番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)			
第95図8	ガラス玉		径 1.0	0.3	0.9	ガラス	覆土中	Y1

第58号住居跡 (第91図)

位置 調査区北端、B2₁区。

重複関係 本跡は、第57号住居跡及び第59号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.76m、短軸2.34mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は約5cmである。

床 平坦である。

ピット P₁は径約50cmの円形で、深さ45cmの出入り口施設に伴うピットである。

竈 北壁を幅55cm、奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は約50cm掘り込まれ、煙道に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

覆土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 炭化粒子中量、ローム中ブロック・焼土中ブロック少量、粘土大ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土中ブロック・炭化粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子・ローム大ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 黒色 焼土粒子・炭化粒子少量

覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

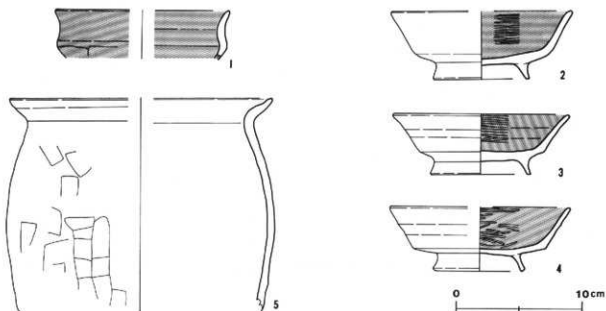
土層解説 (19~20が本跡のものである)

19 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

20 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片258点、須恵器片10点、縄文土器片4点及び弥生土器片4点が出土している。第96図2の土師器高台付坏は甕手前から、4の高台付坏は西壁寄り床面から出土している。3の土師器高台付坏は甕手前出土の2片が接合している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。



第96図 第58号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	坏 土師器	A [13.9] B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、なだらかな稜を経て、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へつ削り後ナデ。	雲母・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P230 5% 内・外面黒色処理 二次焼成 覆土中
2	高台付坏 土師器	A (14.1) B 5.5 D 7.6 E 1.2	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開き、頸部は薄くなる。体部は外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。下縁回転へつ削り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	バミス・スコリア 鈍い橙色 普通	P233 15% 内面黒色処理 二次焼成 床面
3	高台付坏 土師器	A 14.1 B 4.9 D 8.0 E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。体部外面下位へつ削り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	長石・バミス 灰黄褐色 普通	P231 95% 内面黒色処理 二次焼成 床面
4	高台付坏 土師器	A (14.4) B 5.1 D 7.4 E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。体部外面下位回転へつ削り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P232 30% 内面黒色処理 床面
5	甕 土師器	A (20.8) B (17.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し、頸部は鋭めにつまみ出されている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面のへつ削り、内面ナデ。	長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P234 15% 覆土中

第59号住居跡 (第91図)

位置 調査区北端, B2_g4区。

重複関係 本跡は, 第58号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長0.53m。南北軸長は1.56mまで測れるが, 重複のため全長は確認できない。北東コーナー及び南東コーナーは隅丸である。

主軸方向 [N-8°-E]

壁 壁高は6~7cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 第58号住居跡との重複により確認できない。

覆土 残っていた覆土は浅く, 1層である。

土層解説

21 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器壳体部片3点及び底部片1点が出土している。

所見 本跡は, 出土遺物が細片で最も少ないため時期は不明である。

第60号住居跡 (第97図)

位置 調査区北端, B2₁₃区。

重複関係 本跡は, 第61号住居跡を掘り込んでいる。第62号住居跡と重複するが, 新旧は不明である。

規模と平面形 床面の広がりやわずかに残る覆土から, 南北軸長5.05m, 東西軸長4.85mの方形と推定される。

主軸方向 N-4°-E

壁 攪乱や削平のためほとんど残っていない。

床 平坦で, 中央付近に硬化面が広がっている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径35cmの円形で, 深さ23cm。P₂は径40cmの円形で, 深さ36cm。P₃は径25cmの円形で, 深さ31cm。P₄は長径30cm, 短径25cmの楕円形で, 深さ36cm。P₁~P₄は柱穴と考えられるが, 並びにまとまりがないことから, 本跡よりも上の層に耕作により失われた住居跡があった可能性がある。ピットから遺物は出土していない。

竈 北壁中央部を幅50cm, 奥行35cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面は約15cm掘り下げられ, 煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

土層解説

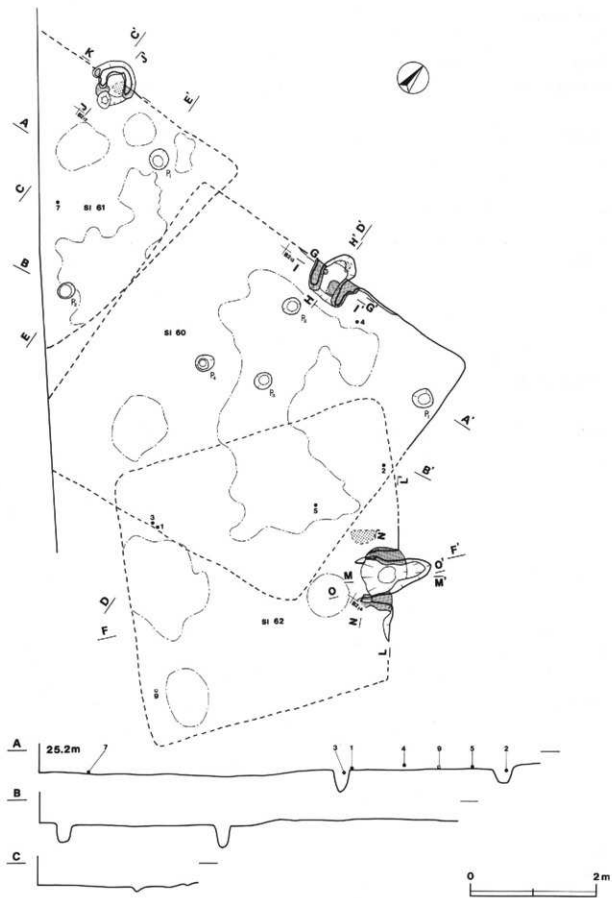
- 1 黒 褐色 ローム中ブロック少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム大ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム中ブロック・粘土大ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 6 黒 褐色 ローム大ブロック多量
- 7 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子微量
- 8 黒 褐色 ローム大ブロック少量

- 9 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 黒 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 黒 褐色 ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量
- 12 灰 褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 13 灰 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 14 鈍い赤褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子少量
- 15 鈍い赤褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

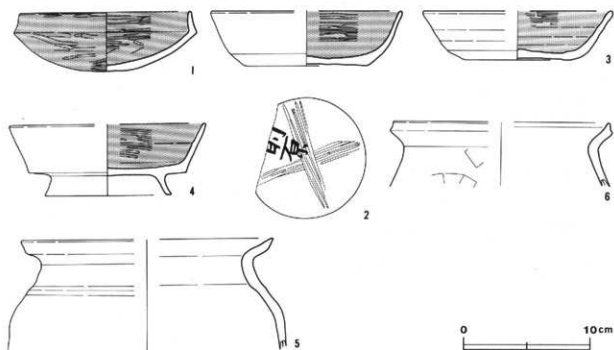
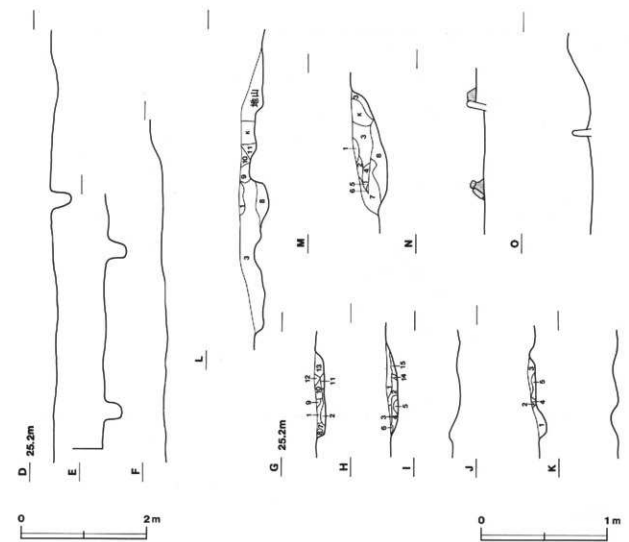
覆土 残っていた覆土は浅く, 堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片209点, 須恵器片11点及び弥生土器片6点が出土している。第98図1及び3の土師器環は推定北壁際床面から, 2の土師器環は推定東壁際床面から, 5の甕は南東コーナー寄り床面から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。



第97图 第60·61·62号住居跡実測图



第98图 第60号住居跡出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	許容値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	坏 土 器 器	A 13.5 B 4.7	丸底。体部は内脣しながら立ち上がり、明瞭な稜を経て、口縁部は内傾する。	口縁部内・外両横方向のナデ。体部内面磨き、外面「 π 」字なヘラナデ。	石英・長石・バミ ス 鈍い棕色 普通	P 235 100% 内・外面着色処理 二次焼成 床面
2	坏 土 器 器	A (15.2) B 4.4 C 9.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内脣しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部内・外面ナデ。体部外面下端及び底部外面回転ヘラ削り。	石英・長石・スコ リア 鈍い黄褐色 普通	P 236 70% 内面着色処理 底部外面「 π 」字 ヘラ削り及び磨き 「前原」か 床面
3	坏 土 器 器	A (15.1) B 3.9 C 8.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内脣しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下端、底部外面回転ヘラ削り。	長石・雲母 浅黄褐色 普通	P 237 70% 内面着色処理 二次焼成 床面
4	高台付坏 土 器 器	A (15.6) B 5.7 D 10.0 E 1.6	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「 π 」の字状に開く。体部下位は底部から水平に伸び、中位で外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。体部内面横方向の磨き。底部内面放射状の磨き。	長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P 238 70% 内面着色処理 覆土下層
5	壺 土 器 器	A (20.0) B (8.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内脣し、頸部から口縁部は外反する。頸部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内面横方向のナデ、外面ヘラ削りナデ。	石英・長石 鈍い棕色 普通	P 239 10% 床面
6	壺 土 器 器	A (17.2) B (5.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内脣し、頸部は「 \perp 」の字状に折れる。口縁部は外傾し、頸部は黄上につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面ヘラナデ。	長石・スコリア 鈍い赤褐色 普通	P 240 5% 覆土中

第61号住居跡 (第97図)

位置 調査区北部、B2₁区。

重複関係 本跡は、第60号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 復乱により壁はほとんど残っていない。床面とわずかに残る覆土から、南北軸長4.10mは確認できた。東西軸長は3.90mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。

主軸方向 N-0°

壁 壁はほとんど残っていない。

床 平坦で、部分的に踏み固められている。床の硬化面の一部が第60号住居跡に掘り込まれている。

ピット 2か所 (P₁、P₂)。P₁は径30cmの円形で、深さ33cm。P₂は径25cmの円形で、深さ28cm。P₁及びP₂は主柱穴である。

竈 北壁を幅75cm、奥行30cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。焚口部は約20cm掘り込まれ、火床部は平坦で、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。火床部及び袖内面は赤変硬化し、竈に向かって右袖内面下部には比較的厚い焼土の堆積が見られる。

覆土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 灰褐色 焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・炭化物少量
- 4 灰褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 鈍い赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量

覆土 覆土は極めて薄く、堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片12点及び須恵器片1点が出土している。第99図7の土師器坏は中央部床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀中頃の住居跡と考えられる。



第99図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第99図 7	坏 土師器	B 3.9	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部下位から底部外面回転ヘラ削り。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P241 5% 体部外面下位磨 表面
8	坏 須恵器	A (13.0) B (3.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、明瞭な線を經て、口縁部は内傾する。	ロクロ整形。体部外面回転ヘラ削り。	羅産・バミス 黄灰色 普通	P242 30% 覆土中

第62号住居跡 (第97図)

位置 調査区北部、B2₃区。

重複関係 本跡は第65号住居跡を掘り込んでいる。第60号住居跡と重複するが、新旧は不明である。

規模と平面形 竈の存在とわずかに残る壁、覆土及び硬化面から、1辺4.35mほどの方形と推定される。

主軸方向 N-45°-E 壁 壁はほとんど残っていない。

床 平坦で、南西壁下付近が踏み固められている。

竈 北東壁を幅50cm、奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。竈前面からは袖の補強材に用いたと思われる凝灰岩が出土している。火床部は約20cm掘り下げられ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・KP微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土中ブロック少量

覆土 残っていた覆土は極めて浅く、堆積状況は確認できなかった。

遺物 床面から、土師器片51点、須恵器片2点及び石製支脚が出土している。

所見 出土遺物は細片で、土師器坏片はいずれも内面黒色処理されている。規模や主軸方向及び出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計 測 値				石 材	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm) 重量(g)			
第100図9	支 脚	(22.5)	(5.5)	(4.9)	- (206.3)	凝灰岩	竈	Q16



第100図 第62号住居跡
出土遺物実測図

第63号住居跡（第101図）

位置 調査区北部，C2_{es}区。

重複関係 本跡は，第73号住居跡を掘り込み，第72号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 黒色土の広がりから推定して南北軸長4.50m。東西軸長は3.96mまで測れるが，調査区外へ延びているため全長は確認できない。

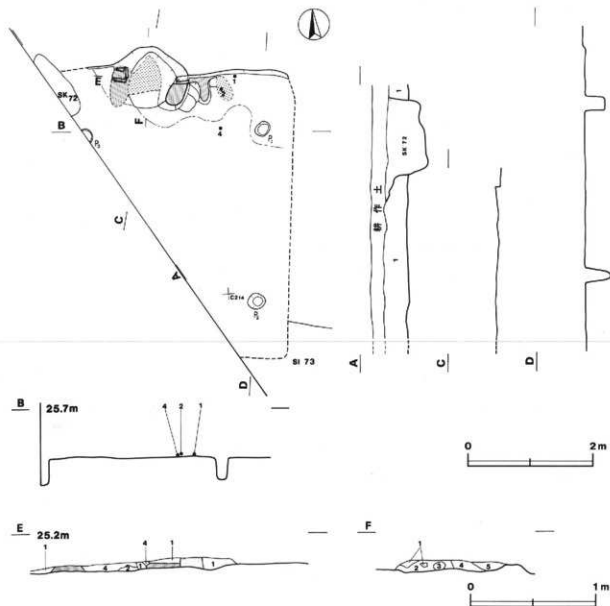
主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は約7cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，壁際を除き硬く踏み固められている。

ピット 3か所（P₁～P₃）。P₁は長径25cm，短径20cmの楕円形で，深さ36cm。P₂は径30cmの円形で，深さ43cm。P₃は推定径25cmの円形で，深さ44cm。P₁～P₃は支柱穴である。

竈 北壁を幅120cm，奥行40cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され，両袖基部には袖の補強材として凝灰岩が使われている。火床部は平坦で，煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は



第101図 第63号住居跡実測図

削平されていて不明である。竈に向かって右袖の右側壁寄りに蒲葺状に焼土が堆積している。

竈土層解説

- 1 灰褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 2 赤灰色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化物微量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量、炭化材微量
- 5 暗褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量

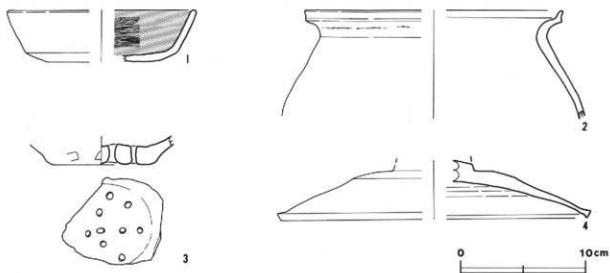
覆土 調査区境の壁面で観察した。1層である。

土層解説

- 1 褐灰色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

遺物 土師器片168点及び須恵器片8点が出土している。第102図1の土師器環、2の土師器甕及び4の須恵器蓋は竈右袖外側床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。



第102図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図 1	土師器 環	A [15.0] B (4.1) C [9.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外側して立ち上がった後上向きに折れる。中位から口縁部は直線的に外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面下端及び底部外面ヘラ削り。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P243 10% 内面黒色処理 二次焼成 床面
2	土師器 甕	A [20.6] B (8.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、底部から口縁部は強く外反する。口縁端部は真上につまみあげられている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	石英・長石・砂粒 鈍い黄褐色 普通	P244 10% 床面
3	土師器 甕	B (2.3) C 8.2	底部片。平底。底部には径5mmほどの孔が多数穿たれている。	底部内面ヘラナデ。	石英・長石 橙褐色 普通	P245 5% 覆土中
4	須恵器 蓋	B (4.7) C [25.0]	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はつまみ周辺に低い平坦面をもち、口縁部に向かってなだらかに下降する。端部は上下に小さくつまみ出されている。	天井部外面上位回転ヘラ削り。口縁部ナデ。	長石・燧礫 灰褐色 普通	P246 30% 床面

第64号住居跡（第103図）

位置 調査区北部，B215区。

規模と平面形 南北軸長は3.75mまで，東西軸長は3.20mまで測れるが，ともに調査区外へ延びているため全長は確認できない。南西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-17°-E]

壁 壁高は約14cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央付近を中心に硬く踏み固められている。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と考えられるが，調査区外へ延びているため確認できない。

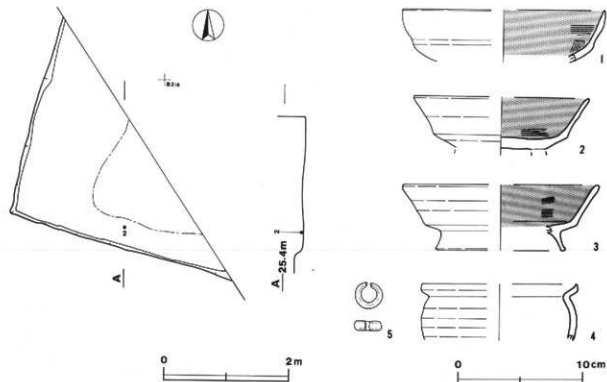
覆土 残っていた覆土は浅く，1層である。

土層解説

黒褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片166点，須恵器片12点，弥生土器片8点及び金環1点が出土している。第103図2の土師器高台付杯は南壁下床面から出土している。覆土中出土の金環は流れ込みと思われる。

所見 本跡は，出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。



第103図 第64号住居跡・出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 1	土師器	A (16.2) B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内増し，口縁部に至る。体部と口縁部との境に明瞭な線をもち。	口縁部内面横方向の磨き。体部内面放射状の磨き，外面ヘラ削り後ナデ。	長石・パミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P247 10% 内面黒色処理 覆土中

図面番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	高台付杯土師器	A (14.0) B (4.2)	体部から口縁部にかけての破片。高台部欠損。付高台。体部はわずかに外反しながら立ち上がった後上向きに折れ、外傾して口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下位回転ヘラ磨り。	長石・磁礫・スコリア 鈍い褐色 普通	P258 70% 内面黒色処理 灰土
3	高台付杯土師器	A (15.8) B 5.3 D (10.8) E 1.6	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台はわずかに外反しながら「フ」の字状に開く。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下位回転ヘラ磨り後ナデ。高台部ナデ。	長石・バミス・スコリア 浅黄褐色 普通	P249 5% 内面黒色処理 覆土中
4	蓋土師器	A (12.6) B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、蓋部はつまみ出されている。	口縁部内・外面ナデ。体部外面ナデ。	バミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P250 5% 覆土中

図面番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第10図	金環	径	2.3	0.7	9.8	鉄	覆土中	M11 全体に金メッキが施されている。

第65号住居跡 (第104四)

位置 調査区北部, B2j区。

重複関係 本跡は、第62号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.10mの隅丸方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は4~31cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、南壁際から中央部付近にかけて硬く踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径25cmの円形で、深さ28cmの主柱穴である。P₂は径30cmの円形で、深さ27cm。P₃を取り囲んで半円形に特に硬い硬化面がある。出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₁は径95cmの円形で、深さ30cm。性格は不明である。

P₁土層解説

- 黒色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
- 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・灰白色粘土ブロック少量
- 暗褐色 ローム大ブロック中量

竈 北壁や西寄りを幅110cm, 奥行80cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築し、焚口の両側に凝灰岩の石材を立てている。また、天井部前面に横架したと思われる石材が遺す前から出土している。

竈土層解説

- 鈍い赤褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物中量、ローム中ブロック少量
- 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量
ローム中ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量
- 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子多量
- 浅黄褐色 焼土大ブロック中量、ローム粒子少量
- 赤褐色 焼土大ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量
- 暗赤灰色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量

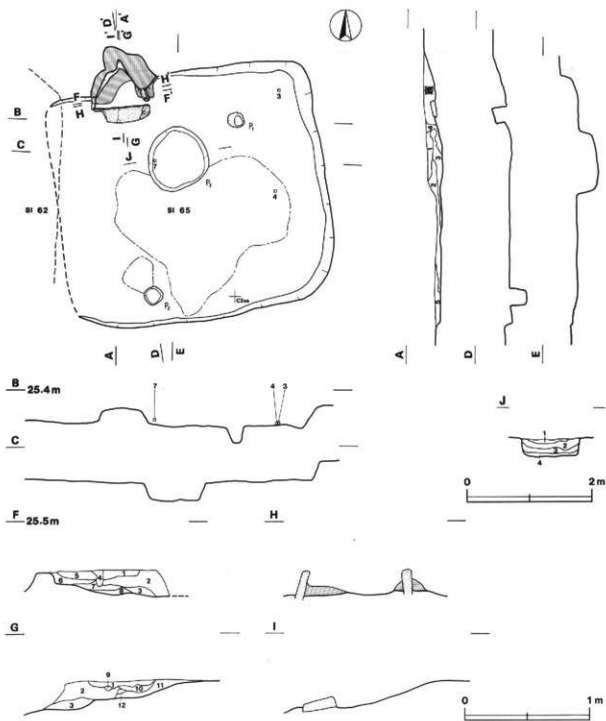
覆土 5層から成る。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

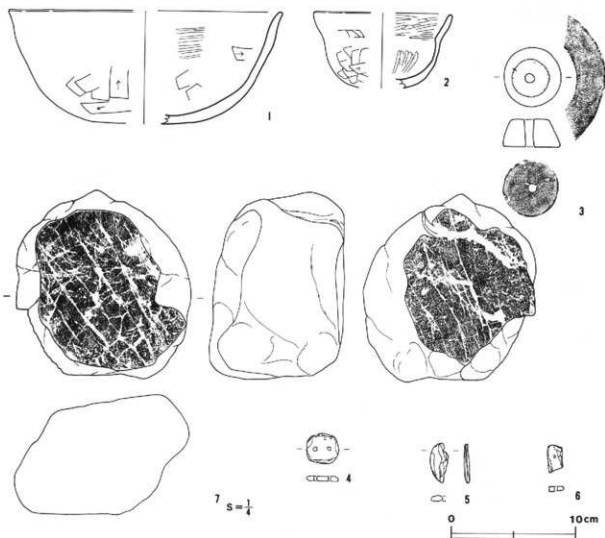
- 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
- 黒褐色 焼土粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子・粘土小ブロック少量

遺物 土師器片164点、須恵器片1点、縄文土器片9点、弥生土器片15点、石製模造品及び石製紡錘車が出土している。石製模造品片はいずれも床面から出土している。

所見 本跡は、床面から有孔円板などのほかに小さな板状の緑泥片岩が20点余り出土していることや工作台兼砥石に用いたと思われる条痕のついた、径20cm、高さ15cmほどの泥岩質の礫も出土していることから、緑泥片岩を利用して石製品を製作した工房跡と考えられる。時期は、出土遺物から5世紀後半と思われる。



第104図 第65号住居跡実測図



第105図 第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図1	碗 土器	A (21.8) B (9.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内摩し。口縁部との境でくびれ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面上位磨き。	石英・長石・スコリア 淡赤褐色 普通	P251 覆土中 30%
2	碗 土器	A (11.2) B (5.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内摩しながら立ち上がり。口縁部は外反する。	口縁部内面横方向の磨き。体部外面へラ削り、内面放射状の磨き。	石英・長石 鈍い橙色 普通	P252 覆土中 30%

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第105図3	紡錘車	径	3.0~4.8	2.2	0.8	62.6	緑泥片岩	床 面	Q18
4	双孔円板	径	2.5	0.4	0.2	4.0	緑泥片岩	床 面	Q19
5	有孔円板	径	(3.2)	0.4	0.2	(2.1)	緑泥片岩	覆 土 中	Q20
6	有孔石板	(2.2)	1.2	0.5	0.2	(1.7)	緑泥片岩	覆 土 中	Q21
7	砥石	径	(20.0)	(12.8)	-	6,550	泥 岩	床 面	Q22

第66号住居跡 (第106図)

位置 調査区北部、B1j区。

規模と平面形 北西壁長は1.60mまで、南西壁長は0.50mまで測れるが、ともに調査区外へ延びているため全長は確認できない。西コーナーは隅丸である。

主軸方向 [N-39°-E]

壁 壁高は約14cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、部分的に硬化面が見られる。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と考えられるが、遺構が調査区外に延びているため確認できない。

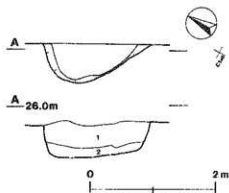
覆土 調査区境界の壁面で観察した。2層から成る自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 床面から、土師器壳体部片が2点出土している。

所見 木跡は、遺物がほとんど出土していないため時期は不明である。



第106図 第66号住居跡実測図

第67号住居跡 (第107図)

位置 調査区北部、C2a区。

重複関係 本跡は、第68号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長4.80m、東西軸長5.00mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は20~27cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下及び北壁端付近を除き全周している。上幅10cm、下幅5cm、深さ10cmほどで、断面は「U」字形である。

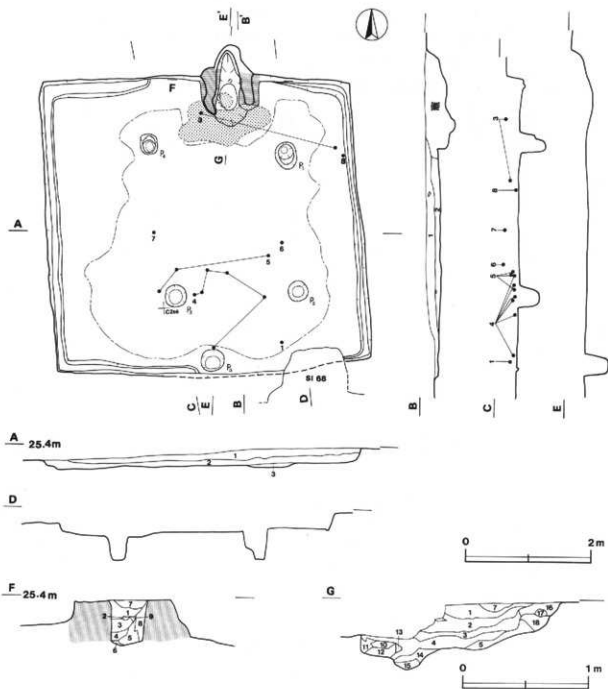
床 平坦で、壁際を除き硬く踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は長径45cm、短径35cmの楕円形で、深さ46cm。P₂は径30cmの円形で、深さ45cm。P₃は径35cmの円形で、深さ33cm。P₄は長径35cm、短径30cmの楕円形で、深さ42cm。P₁~P₄は主柱穴である。P₅は径40cmの円形で、深さ38cmの出入口施設に伴うピットである。

竈 北壁やや東寄りを、幅95cm、奥行55cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は平坦で、その前部が10cmほど掘りくぼめられ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|---------|---|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子多量、炭化粒子少量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土小ブロック多量、ローム中ブロック中量 | 12 黒褐色 | 粘土大ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 5 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 13 鈍い褐色 | 粘土粒子多量 |
| 6 黒褐色 | 山砂多量、ローム粒子少量 | 14 灰褐色 | 粘土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子少量、砂粒微量 | 15 褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量 |
| 8 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 16 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量 |



第107図 第67号住居跡実測図

- 17 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
 18 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量

覆土 3層から成る。わずかにロームブロックが見られるが、レンズ状の堆積状況から自然堆積と思われる。

土層解説

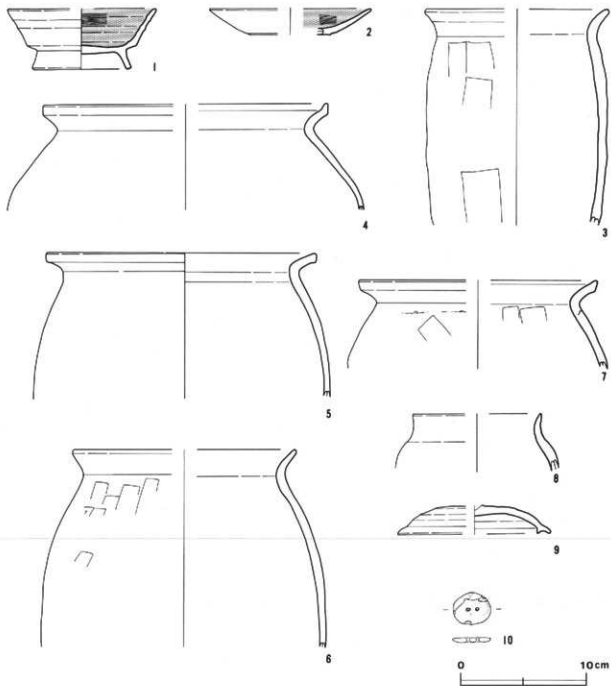
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
 3 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片662点, 須恵器片24点, 縄文土器片9点, 弥生土器片21点及び石製模造品1点が出土している。

第108図1の土師器高台付坏は出入り口近くの南壁際覆土下層から出土している。3の土師器甕は竈前に広

がる焼土の堆積面出土土器片と東壁際床面出土土器片とが接合している。4及び5の土師器甕は中央部覆土下層から、6の土師器甕は東壁寄りの覆土上層から、7の土師器甕は中央付近覆土上層から、8の土師器甕は北東コーナー近くの東壁際覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀後半の住居跡と考えられる。



第108図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表

図面番号	器種	計測値(cm)	部 部 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第108図	高台付 土 師 器	A [11.5]	高台からI線部にかけての破片付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がった後上向きに折れ、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。	長石・顔料・バミス 鈍い黄褐色 普通	P254 60% 内面黒色地層 覆土下層
		B 4.8				
		D 7.9				
		E 1.6				
2	土 師 器	A [13.0]	底部からI線部にかけての破片。平坦。体部は内磨しながら立ち上がり、I線部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。	雲母・バミス 鈍い褐色 普通	P253 10% 内面黒色地層 覆土中
		B 2.2				
		C [6.4]				
3	土 師 器	A [14.8]	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内磨する。頸部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面、体部内面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石英・長石・バミス 鈍い黄褐色 普通	P255 30% 覆土中層
		B [17.2]				
4	土 師 器	A [22.8]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内磨し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外反し、頸部は直上つまみ上げられている。	I線部内・外面横方向のナデ。体部内・外面ナデ。	石英・長石・バミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P258 10% 覆土下層
		B [8.5]				
5	土 師 器	A 21.0	体部からI線部にかけての破片。体部は内磨し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾する。	I線部内・外面横方向のナデ。体部内・外面ナデ。	長石・バミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P256 20% 覆土下層
		B [11.6]				
6	土 師 器	A [17.8]	体部からI線部にかけての破片。体部は内磨する。頸部は緩やかに外反し、口縁部は直線的に外傾する。	I線部内・外面横方向のナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・バミス 褐色 普通	P257 20% 覆土上層
		B [15.7]				
7	土 師 器	A [19.2]	体部からI線部にかけての破片。体部は内磨し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は直線的に外傾し、頸部はつまみ出されている。	I線部内・外面横方向のナデ。体部上・内・外面一部ヘラ削り。	石英・長石・バミス・スコリア 褐色 普通	P259 10% 覆土上層
		B [7.0]				
8	土 師 器	A [10.4]	体部から口縁部にかけての破片。体部は内磨し、頸部から口縁部は緩やかに外反する。	I線部内・外面横方向のナデ。体部内・外面ナデ。	長石・顔料・バミス 灰褐色 普通	P260 5% 覆土下層
		B [4.6]				
9	土 師 器	A [12.2]	大井部からI線部にかけての破片。大井部は口縁部に高くなって緩やかに下降し、頸部はやや上向き。体部と口縁部との境内面に垂下する明瞭なかえりが付く。	大井部外面回転ヘラ削り、内面ナデ。	長石・バミス 灰色 普通	P261 5% 覆土中
		B [2.2]				

図面番号	器 種	計 測 値					石 材	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第108図10	双孔円板	径	(2.1)	(0.4)	0.3	(4.3)	緑泥片岩	覆 土 中	Q24

第68号住居跡 (第109図)

位置 調査区北部、C2c区。

重複関係 本跡は、第67号住居跡及び第69号住居跡を掘り込んでいる。

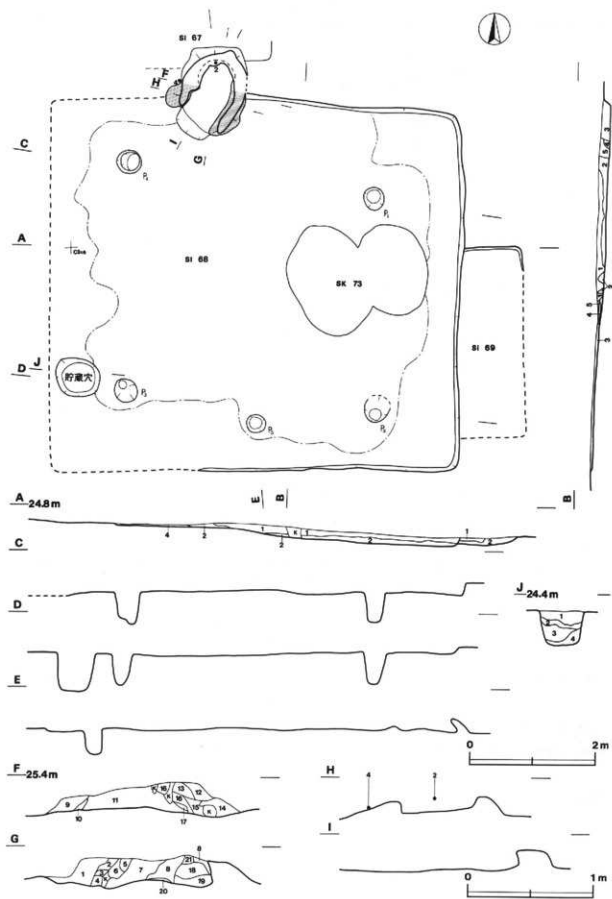
規模と平面形 南北軸長6.00m。東西軸長は6.55mまでは測れるが、遺構の東半分が耕作により削平されているため全長は確認できない。

主軸方向 N—0°

壁 壁高は4～20cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、隙を除き全体が硬く踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁～P₅)。P₁は径35cmの円形で、深さ48cm。P₂は径45cmの円形で、深さ52cm。P₃は径35cmの円形で、深さ49cm。P₄は径40cmの円形で、深さ54cm。P₁～P₄は支柱穴である。P₅は径30cmの円形で、深さ41cmの出入口施設に伴うピットである。P₁～P₅は底面に柱によると思われる硬化が顕著である。



第109图 第68·69号住居跡実測图

竈 北壁を幅130cm、奥行80cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部はわずかにくぼみ、煙道部に向かって70度の角度で立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|----------|---|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 12 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム粒子・粘土小ブロック少量、ローム小ブロック微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、粘土粒子微量 | 13 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 3 褐 灰 色 | 粘土中ブロック多量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 | 14 暗 褐 色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子少量、粘土小ブロック微量 | 15 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 5 黒 褐 色 | ローム粒子少量、粘土小ブロック・粘土粒子微量 | 16 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量 |
| 6 灰黄褐色 | 粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック微量 | 17 黒 色 | ローム粒子微量 |
| 7 黒 色 | ローム粒子微量 | 18 暗赤褐色 | 焼土中ブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子・粘土大ブロック少量 |
| 8 黒 褐 色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 19 暗赤灰色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量 |
| 9 黒 褐 色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土小ブロック微量 | 20 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 | 粘土小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 | 21 鈍い赤褐色 | 砂粒中量、焼土中ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 11 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 | | |

貯蔵穴 南西コーナー北寄りに設けられている。長径70cm、短径60cmの楕円形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は出土していない。

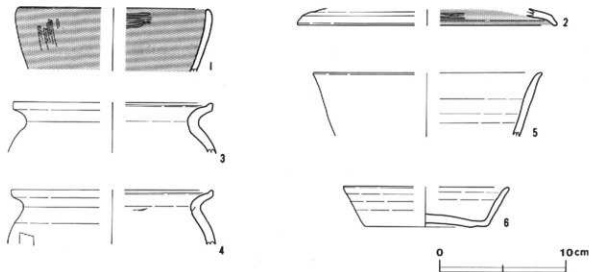
貯蔵穴土層解説

- | | |
|---------|-----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 褐 色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック多量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 褐 色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量 |

覆土 5層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|---------|-------------------------------------|
| 1 黒 褐 色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土中ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 褐 色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 4 黒 色 | 焼土粒子微量 |
| 5 褐 色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |



第110図 第68号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片451点、須恵器片24点が出土している。第110図2の上師器の蓋は竈先端部から出土している。

4の上師器蓋は竈左袖外側から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀中頃の住居跡と考えられる。

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第110図 1	鉢 土師器	A [15.2] B (5.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら立ち上がり、 口縁部に至る。	体部外面縦方向の磨き、内面横方 向の磨き。	長石・パミス 褐色 普通	P262 10% 内・外面黒色処理 灰土中
2	蓋 土師器	A [20.6] B 1.3	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は直線的で、口縁部は短く 斜め下方向に折れる。	天井部外面ナデ、内面磨き。	パミス・スコリア 灰黄褐色 普通	P263 10% 内面黒色処理 灰
3	甕 土師器	A [16.0] B (4.0)	体部は内彎し、頸部から口縁部は 外反する。口縁端部はつまみ上げ られている。	口縁部内・外面横方向のナデ。	石英・長石・パミス 鈍い棕色 普通	P265 10% 覆土中
4	蓋 土師器	A [16.1] B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 外反する。口縁端部はつまみ上げ られている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外向へう崩り、内面ナデ。	石英・長石・パミス 鈍い棕色 普通	P264 10% 覆
5	坏 須恵器	A [18.2] B (3.1)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は比較的深い角度で外傾して 立ち上がり、口縁端部はわずかに 外反する。	ロクロ整形。	長石・磁礫 灰色 普通	P267 20% 覆土中
6	坏 須恵器	A [13.2] B 3.2 C [9.8]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。底部が内側にくぼ む。	ロクロ整形。体部外面に強いロク ロ目が残る。底部外向へう崩り。	小礫 灰色 普通	P266 35% 覆土中

第69号住居跡 (第109図)

位置 調査区北部、C2e7区。

重複関係 本跡は、第68号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 黒色土の広がりから推定して南北軸長3.00m。東西軸長は1.10mまで測れるが、重複のために
全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 (N-0°)

壁 約12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 規模や軸方向から、北に竈をもつ時期の住居跡と考えられるが、重複のために確認できない。

覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器甕底部片1点が出土している。

所見 本跡は、遺物がほとんど出土していないために時期は不明である。

第71-A号住居跡（第111図）

位置 調査区北部、C2es区。

重複関係 本跡は、第71-B号住居跡を掘り込み、第4号建物跡（基礎建物跡）に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長3.20m、東西軸長は2.70mまで測れるが、重複のために全長は確認できない。北西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-0°]

壁 壁高は20~32cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、ほぼ全面が硬く踏み固められている。

竈 遺構が調査区外へ延びているため確認できない。

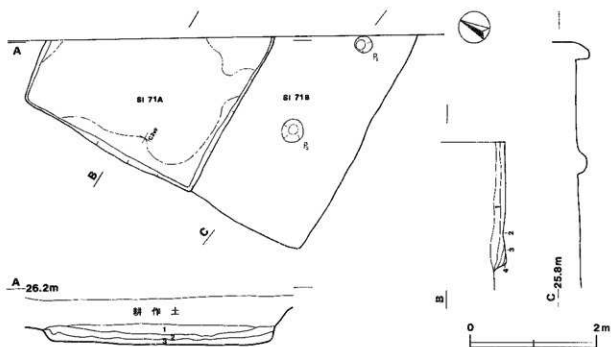
覆土 3層から成る。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・粘土小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土中ブロック・K P大ブロック少量
- 3 棕褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・K P大ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 須恵器製の体部片が1点出土している。

所見 本跡は、遺物がほとんど出土していないため時期は不明である。



第111図 第71-A・B号住居跡実測図

第71-B号住居跡（第111図）

位置 調査区北部、C2es区。

重複関係 本跡は、第71-A号住居跡及び第76号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は1.95mまで、東西軸長は3.90mまで測れるが、ともに調査区外へ延びているため全長は確認できない。南西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-0°]

壁 残っている壁は約5cmである。

床 平坦で、ほぼ全面が硬く踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径約30cmの円形で、深さ24cm。P₂は径約40cmの円形で、深さ18cm。P₁及びP₂は主柱穴と思われる。

竈 重複のために確認できない。

遺物 須恵器の甕体部片が1点出土している。

所見 本跡は、遺物がほとんど出土していないため時期は不明である。

第72-A号住居跡 (第112図)

位置 調査区北部, C217区。

重複関係 本跡は、第72-B号住居跡及び第72-C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長, 東西軸長とも4.45mまで測れるが、耕作による削平及び重複のために全長は確認できない。

主軸方向 [N-45°-W]

壁 壁高は約10cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めは弱い。

ピット P₁は長径60cm, 短径55cmの楕円形で、深さ65cmの主柱穴である。

P₁土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム大ブロック少量
- 6 褐色 ローム大ブロック中量

竈 耕作による削平のため確認できない。

覆土 残っていた覆土は浅く、4層から成る。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒少量
- 2 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・KPブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片9点及び須恵器片2点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代の住居跡と考えられる。

第72-B号住居跡 (第112図)

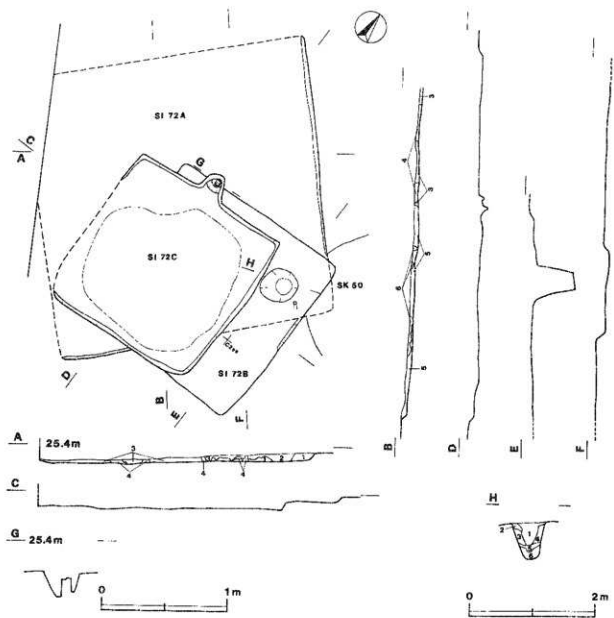
位置 調査区北部, C217区。

重複関係 本跡は、第72-A号住居跡を掘り込み、第72-C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長3.00m, 東西軸長2.90mの方形である。

主軸方向 [N-0°]

壁 壁高は約10cmで、外傾して立ち上がる。



第112図 第72-A・B・C号住居跡実測図

床 平坦で、踏み固めは弱い。

竈 耕作による削平及び重複のために確認できない。

遺物 土師器片8点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

第72-C号住居跡 (第112図)

位置 調査区北部、C2行区。

重複関係 本跡は、第72-A号住居跡及び第72-B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.75m、短軸2.70mの方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は9~14cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁際及びコーナー部を除き、全体が硬く踏み固められている。

竈 北壁中央部を幅50cm、奥行40cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は比較的深く掘り込まれ、支脚に用いた凝灰岩が出土している。煙道部は緩やかに立ち上がる。

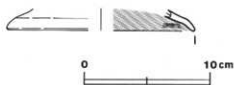
覆土 2層から成る自然堆積と思われる。

土層解説（5及び6が本跡のものである。）

- 5 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
6 黒 色 ローム粒子中量

遺物 土師器片46点及び須恵器片2点が出土している。第113図1の土師器蓋は覆土中出土である。

所見 本跡は、出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。



第113図 第72-C号住居跡出土遺物実測図

第72-C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	蓋 土師器	A (15.0) B (1.7)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部はわずかに外反しながら下降し、縁部は下方につまみ出されている。	天井部外面ナデ。天井部内面及び体部内面磨き。	石英・長石・雲母 褐色 普通	P269 5% 内面黒色処理 覆土中

第73号住居跡（第114図）

位置 調査区北部、C2b区。

重複関係 本跡は、第74号住居跡を掘り込み、第63号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は2.95mまで、東西軸長は2.85mまで測れるが、重複のために全長は確認できない。

主軸方向 [N-13°-E]

壁 調査区境界壁面で確認できる壁高は約40cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めは弱い。

竈 重複のために確認できない。

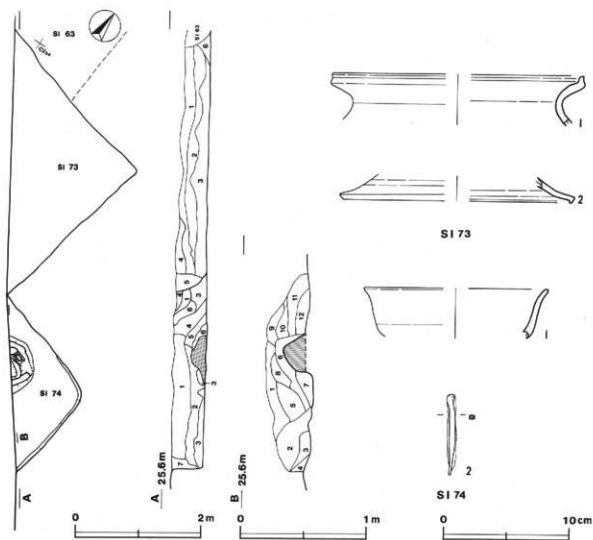
覆土 5層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック微量
2 黒 色 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土大ブロック
3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗 褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土大ブロック・
焼土中ブロック・炭化材少量
5 黒 色 ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量

遺物 土師器片106点、須恵器片4点及び弥生土器片2点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。



第114図 第73・74号住居跡・出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図 1	葉 土 器	A (20.0) B (4.0)	体部は内彎し、胴部から口縁部は外反する。胴部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P 270 5%
2	蓋 須 土 器	A (18.9) B (2.0)	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は外反しながら下降し、踵部は下方につまみ出されている。	ロクロ整形。	砂粒 灰色 普通	P 271 5% 覆土中

第74号住居跡 (第114図)

位置 調査区北部, C2c4区。

重複関係 調査区境界の壁面の土層観察から, 第73号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は1.60mまで, 東西軸長は2.00mまで測れるが, 調査区外へ延びているため全長は確認できない。

主軸方向 N-9°-E

床 平坦である。

竈 住居跡内北壁寄りに付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床面はわずかに掘りくぼめられ、赤変硬化している。

覆土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム中ブロック・焼土中ブロック・炭化物少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム大ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 灰褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・焼土大ブロック・粘土大ブロック少量 |
| 3 黒色 | ローム中ブロック少量 | 9 暗赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒色 | ローム粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 粘土中ブロック中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土大ブロック中量、ローム大ブロック・炭化物少量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 12 暗赤褐色 | 焼土中ブロック中量、焼土大ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 |

覆土 6層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物微量 | 5 灰褐色 | 粘土大ブロック多量、焼土大ブロック・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物少量 | 6 黒褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 4 鈍い赤褐色 | 粘土大ブロック中量、焼土大ブロック・炭化物少量 | | |

遺物 土師器片50点及び須恵器片3点が出土している。第114図1の須恵器環は覆土中出土である。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第114図1	環 須恵器	A (14.6) B (3.9)	体部から11線部にかけての破片。 体部は外傾し、11線部は外反する。	口ケ整形。	石黄・灰石・細礫 灰色	P272 覆土中 20%

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	材質		
第114図2	釘	(6.4)	(0.6)	(0.4)	(4.4)	鉄	覆土中 M12	

第75号住居跡 (第115図)

位置 調査区北部、C219区。

重複関係 本跡は、第76号住居跡を掘り込み、第87号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 耕作による削平のため、竈、床面の一部及び床面下の黒色土が残るだけである。竈、床面の一部及び床面下の黒色土の広がりから、北西壁長5.00m、南西壁長4.60mの方形と推定される。

主軸方向 N-54°-E

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径35cmの円形で、深さ60cmの主柱穴である。P₂は径30cmの円形で、深さ43cmの出入り口施設に伴うピットである。

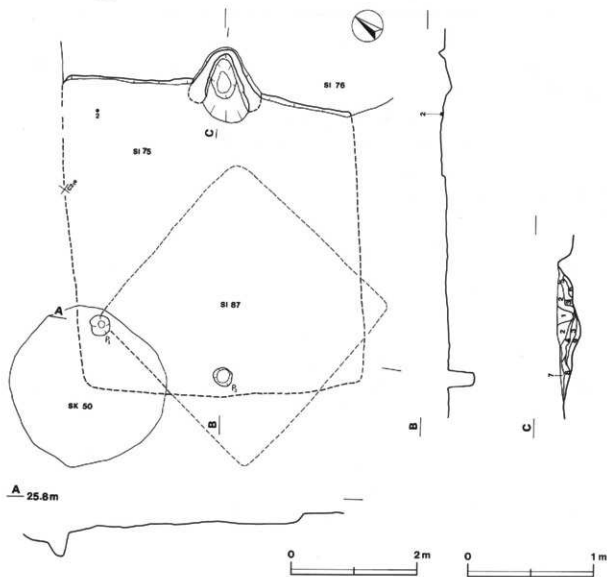
壁 耕作による削平のため、ほとんど残っていない。

床 平坦である。

竈 北壁中央部に付設されている。わずかに残る袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は18cmほど掘りくぼめられ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されており不明である。

覆土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 | 焼土中ブロック少量、ローム中ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 鈍い赤褐色 | 焼土大ブロック多量、炭化物・粘土大ブロック少量 | 7 暗赤褐色 | ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 赤褐色 | ローム大ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 8 暗赤褐色 | 焼土中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 9 暗赤褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック微量 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量 | | |



第115図 第75号住居跡実測図

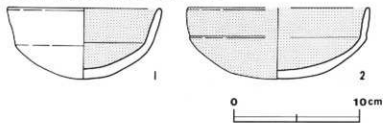
覆土 残っていた覆土が極めて薄かったため、堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片58点及び須恵器片

1点が出土している。第116図

2の土師器杯は北コーナー床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀前半の住居跡と考えられる。



第116図 第75号住居跡出土遺物実測図

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第116回 1	坏 土 器	A 12.2 B 5.6	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上 がり、後を経て、口縁部は外傾す る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・細礫・スコ リア 赤褐色 普通	P 273 85% 内面赤彩 灰土中
2	坏 土 器	A [14.6] B 5.6	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上 がり、明瞭な後を経て、口縁部は 外傾する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・雲母・スコ リア 明赤褐色 普通	P 274 40% 内・外面赤彩 灰土

第76号住居跡 (第117回)

位置 調査区北部、C2f9区。

重複関係 本跡は、第71-B号住居跡を掘り込み、第75号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西壁長は5.50mまで、南東壁長は1.90mまで測れるが、重複及び調査区外へ延びているため
全長は確認できない。南コーナーは隅丸である。

主軸方向 N-29°-W

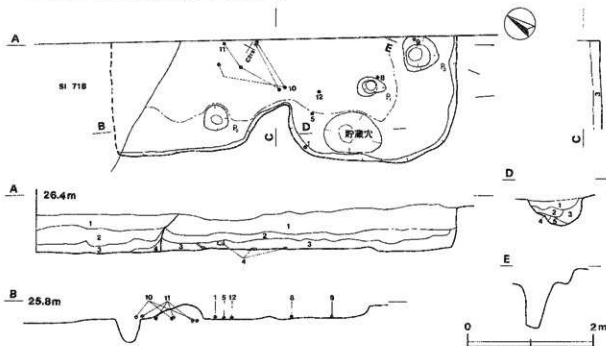
壁 壁高は約14cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁際を除き硬く踏み固められている。北端部は第71-B号住居跡に床面を切られている。

ピット 3か所 (P ~ P₃)。P₁は長径45cm、短径30cmの楕円形で、深さ52cm。P₂は径45cmの円形で、深さ40
cm。P₁及びP₂は支柱穴で、底部は硬く締まっている。P₃は長径60cm、短径55cmの卵形で、深さ72cm。P₃
の掘り方は住居跡に対して外側に傾く角度で、底面外に向けて柱が立てられたように硬く締まっているこ
とから、出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 重複のため確認できない。

貯蔵穴 南コーナーやや西寄りに設けられている。長径90cm、短径65cmの楕円形で、深さ42cmである。底面は
ほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。



第117回 第76号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 黒色 ローム粒子少量
- 3 黒オリーブ褐色 ローム粒子・灰白色粘土粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 4 オリーブ黒色 ローム粒子・灰白色粘土粒子少量
- 5 研灰黄色 ローム小ブロック微量、ローム粒子少量

覆土 調査区境界横面で確認した。ロームブロックが各層に見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 研灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 研褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム大・中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒少量
- 4 褐色 ローム大ブロック少量、ローム粒子少量

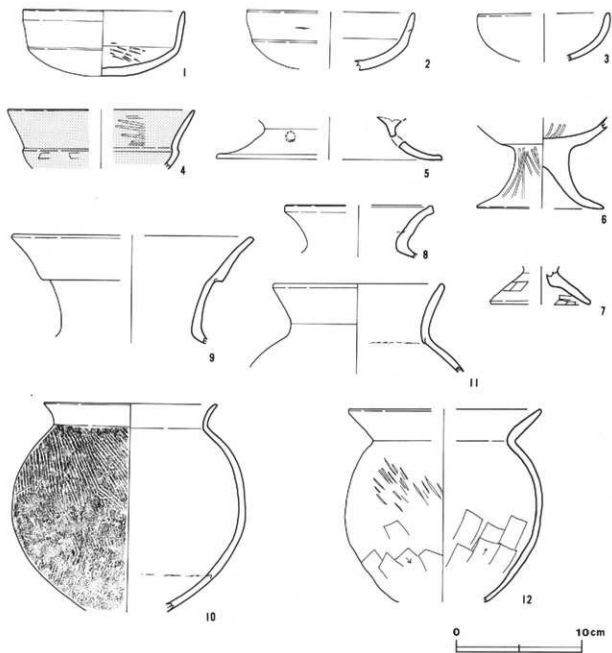
遺物 土師器片202点、須恵器片5点及び弥生土器片16点が出土している。第118図1の土師器環は第75号住居跡との重複部から出土している。5の土師器器台、10、11の台付甕は流れ込みと思われる。8の土師器甕は南コーナー寄りP付近床面から、9の土師器甕は南東壁寄りP付近床面から出土している。12の台付甕は南西壁付近床面から出土しているが、流れ込みと思われる。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀中頃の住居跡と考えられる。

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・包潤・焼成	備考
第118図 1	土師器 環	A 13.0 B 5.4	口縁部一部欠損。丸底。底部は内彎しながら立ち上がり、明瞭な線を越えて、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。外部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・黒曜 鈍い黄褐色 普通	P 275 95%
2	土師器 環	A (13.4) B (4.3)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。底部は内彎しながら立ち上がり、明瞭な線を越えて、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。外部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・黒曜 鈍い黄褐色 普通	P 276 20% 覆土中
3	土師器 環	A (10.6) B (3.8)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。底部は内彎し、明瞭な線を越えて、口縁部は高筒的に直上に立ち上がる。	口縁部内・外面横方向のナデ。外部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・黒曜 鈍い黄褐色 普通	P 277 15% 覆土中
4	土師器 環	A (15.0) B (4.7)	底部から口縁部にかけての破片。底部はわずかに内彎し、明瞭な線を越えて、口縁部は外反する。	口縁部外面ナデ、内面磨き。外部外面へラ削り。内面磨き。	石英・長石 褐色 普通	P 278 25% 内・外面赤彩 覆土中
5	高土師器 環	D (18.0) E (3.4)	脚部片。脚部は短く、幅が大きくなる。脚部上位に3孔が穿たれていたと推定される。	脚部外面横方向のナデ、内面ナデ。	石英・長石・スコリア 褐色 普通	P 280 10% 床面
6	高土師器 環	B (7.0) D (10.2) E 4.7	脚部から底部にかけての破片。脚部はわずかに外反しながら「ハ」の字状に開き、幅が広がる。床面は内彎しながら立ち上がる。	外部外面へラ削り後丁寧なナデ、内面磨き。脚部外面へラ削り後磨き。	石英・長石・スコリア 明赤褐色 普通	P 279 40% 覆土中
7	器台 土師器	F (3.0) C (8.1)	脚部片。脚部はわずかに内彎しながら「ハ」の字状に開く。	脚部外面丁寧なナデ、内面磨きナデ。	石英・長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P 281 45% 二次焼成 風土中
8	甕 土師器	A (11.9) B (4.1)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部外面横方向のナデ、内面ナデ。	長石・スコリア 普通	P 282 10% 床面
9	甕 土師器	A (19.4) B (8.6)	口縁部片。口縁部は外反する。口縁部は二重口縁となっている。	口縁部外面丁寧なナデ、内面ナデ。	石英・長石・スコリア 淡黄褐色 普通	P 283 15% 灰函
10	台付甕 土師器	A 13.8 B (16.6)	台部欠損。底部は内彎し、中位に最大径をもつ。頸部は短く、わずかに外反する。口縁部は短く、わずかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。外部外面刷毛目調整。内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 鈍い褐色 普通	P 284 75% 床面
11	台付甕 土師器	A 13.3 B (7.0)	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面刷毛目調整後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・ハミス・スコリア 普通	P 286 25% 外部外面灰付着 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
12	台付 土師器	A (15.5) B (15.3)	台部欠損。体部は内瓣し、中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾する。	口縁部外面ナデ、内面横方向のナデ。体部外面刷毛目調整後ナデ、内面ヘラ削り調整。	石英・長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P285 70% 二次焼成 床面



第118図 第76号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡（第119図）

位置 調査区北部，C2has区。

重複関係 本跡は，第9号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長は3.18mまで，南北軸長は3.70mまで測れるが，重複や調査区外へ延びているために全長は確認できない。北東コーナーは隅丸である。

主軸方向 N-5°-E

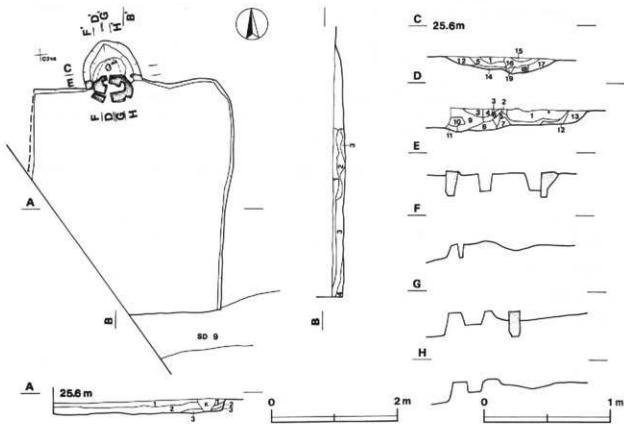
壁 壁高は17~20cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北壁を幅90cm，奥行70cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され，補強材として凝灰岩を笑口の両側に立て天井にも横架している。また，支脚も凝灰岩を使用している。火床部はわずかに掘り込まれ，煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------------|----------|--------------------------------------|
| 1 鈍い赤褐色 | 焼土中ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量 | 9 暗赤褐色 | ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・焼土小ブロック少量，炭化粒子少量 |
| 2 赤灰色 | 粘土大ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 暗赤褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 3 暗赤灰色 | ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗赤褐色 | ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤灰色 | 凝灰岩 | 12 暗赤褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 5 暗赤灰色 | ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量 | 14 黒褐色 | ローム中ブロック・炭化粒子少量，焼土中ブロック微量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土大ブロック中量，ローム中ブロック・炭化物少量 | 15 鈍い赤褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子・焼土小ブロック少量 |
| 8 暗赤灰色 | 焼土中ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量 | | |



第119図 第77号住居跡実測図

- 16 暗赤褐色 ローム中ブロック中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
 17 黒褐色 焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

- 18 暗赤灰色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック微量
 19 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

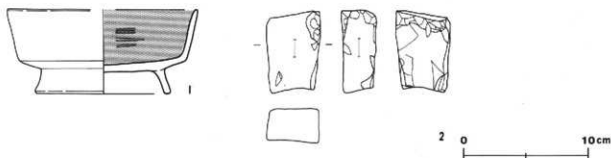
覆土 4層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
 3 褐色 ローム粒子多量
 4 黒色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片347点、須恵器片23点、弥生土器片7点及び砥石1点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。



第120図 第77号住居跡出土遺物実測図

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考		
第120図 1	高台付環土師器	A [15.0] B 6.6 D [10.6] E 2.0	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。下縁へラ削り。底部外面へラ削り後ナデ。	石英・パミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P287 45% 内面黒色処理 覆土中		
図版番号	器種	計測値				石材	出土地点	備考
第120図2	砥石	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第120図2	砥石	(6.7)	(4.4)	(2.8)	—	(96.2)	凝灰岩	覆土中 Q25

第78号住居跡 (第121図)

位置 調査区北部、C2g0区。

重複関係 本跡は、第107号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長2.75m、東西軸長推定2.45mの長方形である。

主軸方向 [N-8°-E]

壁 壁高は約6cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部を中心に硬く踏み固められている。

竈 削平されていて確認できない。

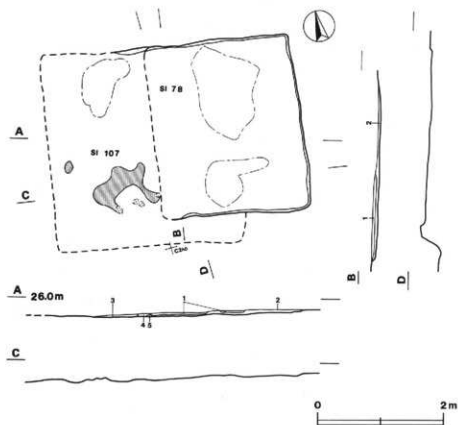
覆土 残っていた覆土は極めて浅く、2層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 床面から土師器甕体部片6点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物が細片で量も少ないため時期は不明である。



第121図 第78・107号住居跡実測図

第79号住居跡 (第122図)

位置 調査区北部, C3区。

重複関係 本跡は、第80号住居跡及び第9号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 第9号溝に北壁を掘り込まれているが、南北軸長推定3.65m、東西軸長推定4.05mの長方形である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は約8cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦である。

竈 北壁に付設されている。袖部の大部分は第9号溝に掘り込まれている。火床部は約15cm掘り込まれ、硬化した焼土ブロックが薄く堆積している。煙道部は削平されている。

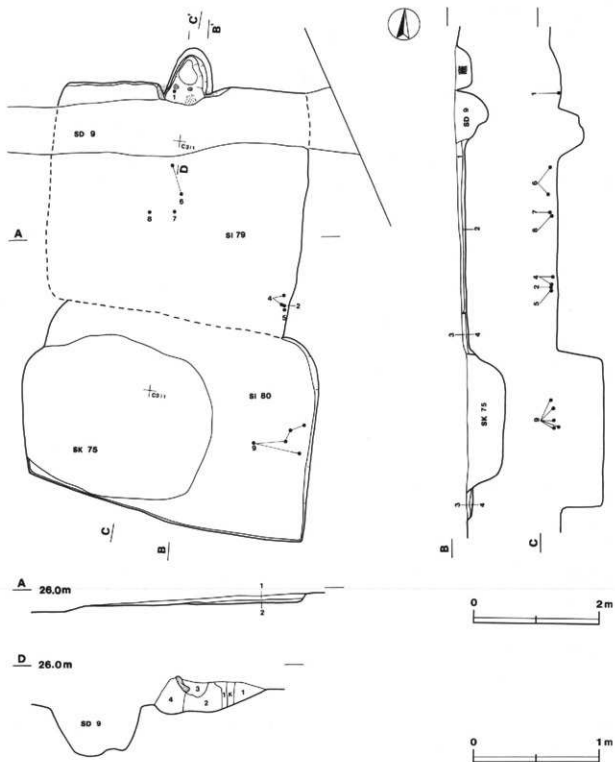
埋土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

覆土 残っていた覆土は薄く、2層から成る。

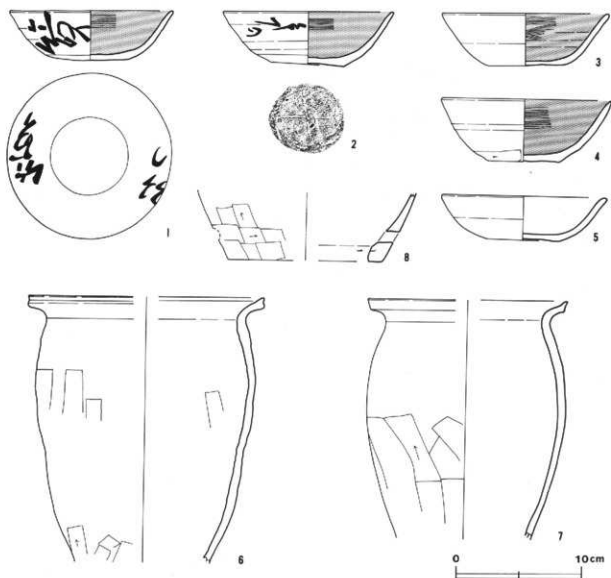
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，ローム小ブロック微量



第122図 第79・80号住居跡実測図

遺物 土師器片198点及び須恵器片11点が出土している。第123図1の土師器環は竈覆土下層から，2，4及び5の土師器環は東壁際覆土下層から，6，7の土師器甕及び8の土師器瓶は中央部覆土下層から出土している。
 所見 本跡は，出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第123図 第79号住居跡出土遺物実測図

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第123図 1	坏 土器	A 13.2 B 4.0 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下位回転ヘラ削り。底部外面ヘラ削り。	長石・雲母・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P288 95% 内面黒色処理 体部外面磨き 覆土層
2	坏 土器	A 13.6 B 4.4 C 5.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下位回転ヘラ削り。底部外面回転ヘラ削り。「+」痕ヘラ記号。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P289 90% 内面黒色処理 体部外面磨き 覆土下層
3	坏 土器	A 13.3 B 4.1 C 6.1	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部内・外面横方向のナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ。	石英・長石・細礫 スコリア 鈍い黄褐色 普通	P290 80% 内面黒色処理 覆土中
4	坏 土器	A 13.6 B 5.0 C 5.5	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面下位及び底部外面回転ヘラ削り。	石英・長石・バミ ス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P291 70% 内面黒色処理 覆土下層
5	坏 土器	A 13.2 B 3.6 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。口縁部及び体部内・外面ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母・細礫 スコリア 鈍い黄褐色 普通	P292 70% 覆土下層

図説番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
6	土師器	A (18.9) B (21.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部から口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられ、縁帯には沈線が深る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のへう割り後ナデ、内面ナデ。	石灰・明赤褐色 普通	P293 20% 腹土下層
7	土師器	A (16.0) B (19.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、最上段を上位にもつ。頸部から口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面上位ナデ、中位から下位にかけて縦方向のへう割り、内面ナデ。	石灰・長石・雲母 スクリヤ 橙褐色 普通	P294 20% 腹土下層
8	灰土師器	B (5.4) C (12.2)	体部片。無底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。体部下段に穿孔孔。	体部外面へう割り、内面ナデ。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P295 10% 腹土下層

第80号住居跡（第122図）

位置 調査区北部，C3₁区。

重複関係 本跡は、第79号住居跡及び第75号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長3.16m、東西軸長4.35mの長方形である。

主軸方向 N-98°-E

壁 壁高は7~24cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めは弱い。

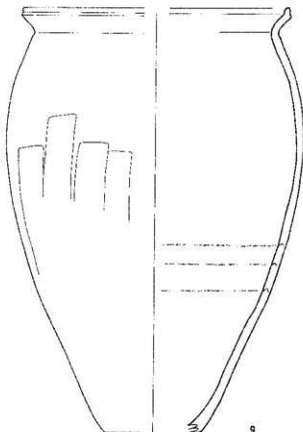
竈 東壁中央部付近に薄く焼上の堆積が見られ、床面から火を受けたと思われる土師器壺が出土していることから、本跡には東向き竈が付設されていたと思われる。耕作による削平のため規模や形状は確認できない。

覆土 残っていた覆土は薄く、2層から成る。

土層構成（3及び4が本跡のものである）

- 3 褐色 ローム粒中量、炭土粒子、炭化粒子微量
4 黒褐色 ローム粒子中量、炭土粒少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片140点、須恵器片8点、縄文土器片4点及び弥生土器片2点が出土している。土師器片の大部分は壺の体部片である。第124図9の土師器の壺は東壁ト床面から出土している。所見 本跡は、出土遺物や竈の向きから10世紀前半の住居跡と考えられる。



0 10cm

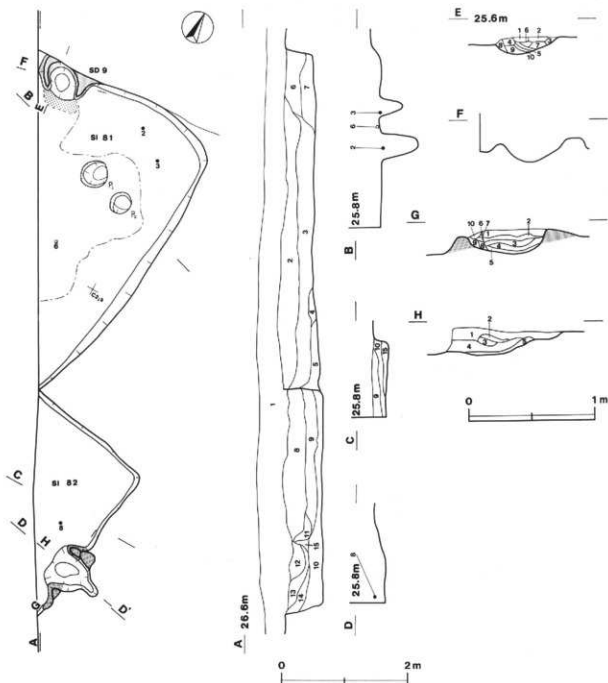
第124図 第80号住居跡出土遺物実測図

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 9	釜 土師器	A (21.4) B 33.7 C (7.6)	底部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。肩部は「く」の字状に折れ、口縁部は外傾し、産部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り、内面ナデ。	石英・長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P296 40% 床面

第81号住居跡 (第125図)

位置 調査区北部, C2:s区。



第125図 第81・82号住居跡実測図

重複関係 本跡は竈煙道部を第9号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は4.62mまで、東西軸長は3.25mまで測れるが、ともに調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナーは隅丸である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は約16cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が硬く踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は径約50cmの円形で、深さ61cmの主柱穴である。P₁の掘り方から柱が幾分内側に傾いていたものと推定される。P₂は補助柱穴と思われる。

竈 北壁中央部に付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は約8cm掘り下げられ、火床面及び袖部内面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は第9号溝に掘り込まれていて形状等は不明である。

竈土層解説

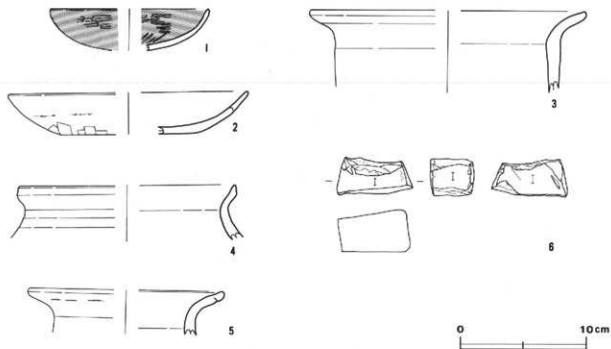
1 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂粒少量、焼土中ブロック微量	6 鈍い赤褐色	ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰褐色	ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗赤褐色	ローム粒子・粘土中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	8 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
4 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	9 黒褐色	ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブ	10 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量

覆土 7層から成る。レンズ状に層を成して堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色	耕作土層	5 黒褐色	粒子微量、炭化粒子極微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物極微量	6 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗緑褐色	粘土粒子中量、粘土小ブロック少量
4 極暗褐色	粘土中ブロック少量、焼土中ブロック・焼土		

遺物 土師器片148点、須恵器片3点、弥生土器片5点及び砥石1点が出土している。第126図2の土師器坏及



第126図 第81号住居跡出土遺物実測図

び3の土師器甕は北東コーナー床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から6世紀後半の住居跡と考えられる。

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第126図 1	坏 土師器	A (12.6)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内壁しながら立ち上 がり、口縁部に至る。	内面磨き、口縁部外面磨き。	石英・長石 褐色 普通	P 298 15% 内・外面黒色磁煙 覆土中
		B (3.3)				
2	坏 土師器	A (19.2)	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内壁しながら立ち上 がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面及び体部内・外面 ナデ。底部外面ヘラ磨り、内面ナ デ。	石英・長石・雲母 褐色 普通	P 297 40% 床面
		B (3.3) C (10.6)				
3	甕 土師器	A (22.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾し、底部から口縁部は 外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部内・外面ナデ。	石英・長石 鈍・褐色 普通	P 299 15% 床面
		B (6.5)				
4	壺 土師器	A (17.2)	口縁部片。口縁部は外反し、肩部 は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。	石英・長石・スコ リア 赤褐色 普通	P 301 5% 覆土中
		B (4.4)				
5	壺 土師器	A (15.2)	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。	石英・長石 褐色 普通	P 300 5% 覆土中
		B (3.5)				

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第126図	瓶 石	(3.0)	(6.0)	(3.4)	-	(61.9)	凝灰岩	床 面	Q27

第82号住居跡 (第125図)

位置 調査区北部、C2)9区。

重複関係 本跡は、第81号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 東西軸長は2.22mまで、南北軸長は2.70mまで測れるが、ともに調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-105°-E

壁 壁高は約20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めは弱い。

竈 東壁を幅60cm、奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部はわずかに掘りくぼめられ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されている。

覆土層解説

1 黒 色	ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量	3 黒 褐色	ローム粒下・焼土粒下・炭化物・炭化粒子少量
2 鈍い赤褐色	焼土小ブロック中量、焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	6 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	7 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒 褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	8 暗赤褐色	ローム粒子・K P中ブロック少量
		9 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒少量
		10 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒少量

覆土 8層から成る自然堆積と思われる。

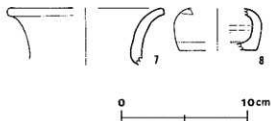
土層解説 (8-15が本跡のものである)

8 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 黒 褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒 色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子微量

- 11 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
 12 黒褐色 ローム粒子少量
 13 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 14 黒褐色 ローム粒子微量
 15 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量

遺物 土師器片40点及び須恵器片2点が出土している。第127図8の土師器蓋は竈手前覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物や東向き竈が付設されていることから10世紀前半の住居跡と考えられる。



第127図 第82号住居跡出土遺物実測図

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第127図7	土師器	A (12.4) B (4.5)	L緑部片、L緑部は外反する。	L緑部内・外筒横方向のナデ。	長石・スコリア 普通	P303 5% 覆土中
8	小形土師器	B (3.4) C (6.2)	底部からL緑部にかけての破片、平底。体部は外傾して立ち上がり、上部で強く内彎する。	体部外面丁寧なナデ。底部停止糸切り。	スコリア 灰白色 普通	P302 10% 覆土下層

第85号住居跡 (第128図)

位置 調査区北部、D3e1区。

重複関係 本跡は、第74号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長3.56m、東西軸長4.03m。南東コーナーは調査区外のため確認できないが、他の3コーナーがほぼ直角であることから、長方形と推定される。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は9~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部付近が硬く踏み固められている。

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁~P₄は径35~40cmの円形で、深さ37~42cmの主柱穴である。P₅は径30cmの円形で、深さ29cm。P₆は長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さ18cm。P₇及びP₆は補助柱穴と思われる。P₇は南壁中央部壁下に位置し、径30cmの円形で、深さ36cmの出入り口施設に伴うピットである。

竈 北壁中央部を幅50cm、奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。焚口前面からは支脚に用いたと思われる角柱状の凝灰岩片が出土している。火床部は平坦で、赤色硬化は比較的弱く、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されている。

壁土層解説

- 暗赤褐色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 鈍い赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 鈍い赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

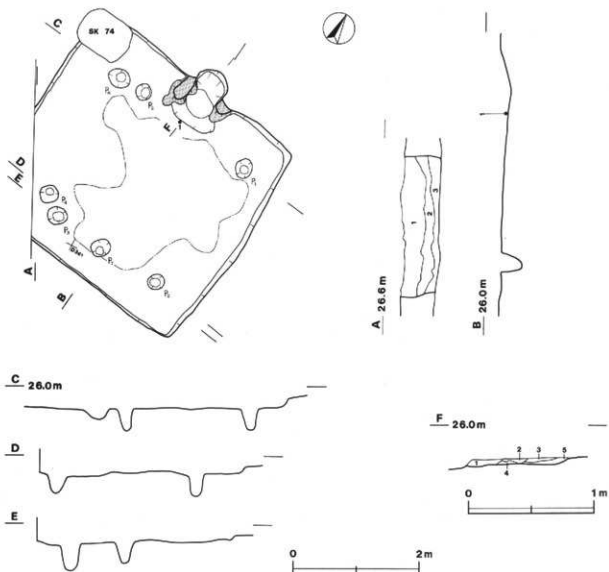
覆土 調査区境界の壁面で観察した。3層からなる自然堆積である。

土層解説

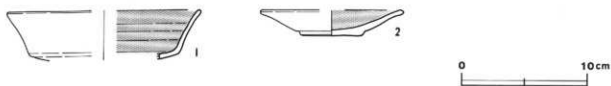
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 土師器片95点、須恵器片5点及び弥生土器片2点が出土している。第129図1の土師器高台付坏は竈手前床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物や内部施設から8世紀中頃の住居跡と考えられる。



第128図 第85号住居跡実測図



第129図 第85号住居跡出土遺物実測図

第85号住居跡出土土物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129回 1	高台付杯 土器	A 15.4 B (3.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は浅い角度で外傾して立ち 上った後上向きに折れ、中位から 口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。口縁部から体部内・ 外面ナデ。	石灰・雲母 鈍い黄褐色 普通	P.304 15% 内面黒色地埋 二次焼成 床面
2	皿 土器	A (11.4) B (3.9) C 4.6	底面から口縁部にかけての破片。 底面は平直で突出気味。外面底面 と体部との間に沈線が通る。体部 は外傾して立ち上がり、口縁部は 外反する。	ロクロ整形。底面内面磨き、外面 回転へら削り。	石灰 鈍い黄褐色 普通	P.305 10% 内面黒色地埋 覆土上

第86号住居跡 (第130図)

位置 調査区北部、D3c区。

重複関係 本跡は、第95号住居跡に掘り込まれている。

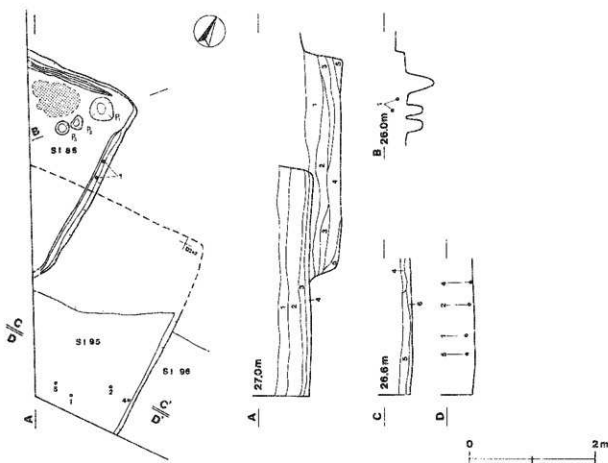
規模と平面形 南北軸長は3.15mまで、東西軸長は1.92mまで測れるが、ともに調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は約10cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁下及び東壁下で確認され、上幅10cm、下幅5cm、深さ10cmほどで、断面は「U」字形である。

床 平直で、盛器を除き全体が硬く踏み固められている。



第130図 第86・95号住居跡実測図

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径40cmの円形で、深さ45cmの支柱穴である。P₂は径約20cmの不整形円形で、深さ29cm。P₃は径20cmの円形で、深さ28cm。P₂及びP₃は性格不明である。

竈 北壁寄りに焼土が長径80cm、短径60cmの楕円形に薄く堆積している。竈が調査区外に延びている部分に付設されていたものと考えられる。

覆土 調査区境界の壁面で確認した。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・粘土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒色 粘土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒中量、ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土中ブロック少量、粘土小ブロック微量

遺物 土師器片47点、須恵器片2点及び弥生土器片3点が出土している。第131図1の土師器は東墩際覆土中層から出土している。2は流れ込みと思われる。

所見 本跡は、床面近くから多量の焼土や炭化物が出土していることから、焼失家屋と思われる。出土遺物から6世紀前半の住居跡と考えられる。



第131図 第86号住居跡出土遺物実測図

第86号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	坏 土師器	A 15.0 B 4.8	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、明瞭な縁を経て、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横方向のナゲ。体部から底部内面磨き。	石灰・長石・スクリア 黒褐色 普通	P 306 80% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中層
2	白付斐 土師器	A (9.1) B (2.0)	頸部から口縁部にかけての破片。 頸部は「く」の字状に折れ、口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面横方向のナゲ。体部外面には胡毛目が密に施されている。	長石・雲母 鈍い橙色 普通	P 307 5% 覆土中

第87号住居跡 (第132図)

位置 調査区北部、C219区。

重複関係 本跡は、第75号住居跡及び第50号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.51m、短軸3.46mの方形である。

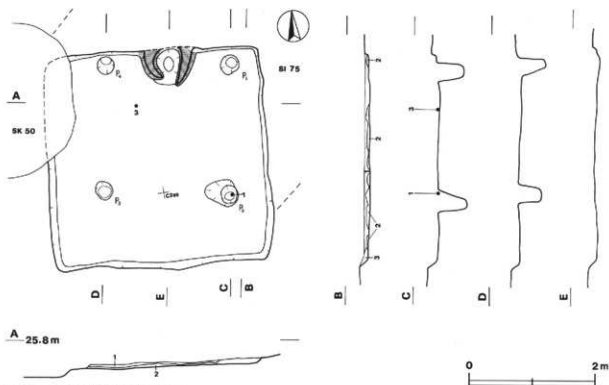
主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は5~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、壁際を除き全体に硬く踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径30cmの不整形円形で、深さ44cm。P₂は長径55cm、短径40cmの不整形円形で、深さ48cm。P₃及びP₄は径30cmの円形で、深さ38~40cm。P₁~P₄は支柱穴である。

竈 北壁中央部を掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され、補強材として凝灰岩を利用している。火床部は平坦で、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。竈土層は残った覆土が浅いために記録できなかったが、如床及び袖部内面はわずかに赤変硬化が見られた。



第132図 第87号住居跡実測図

覆土 覆土は薄く、3層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片115点、須恵器片3点及び弥生土器片1点が出土している。第133図1の土師器は南東コーナー寄りのピット覆土上面から、3の須恵器は竈左袖手前床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀前半の住居跡と考えられる。

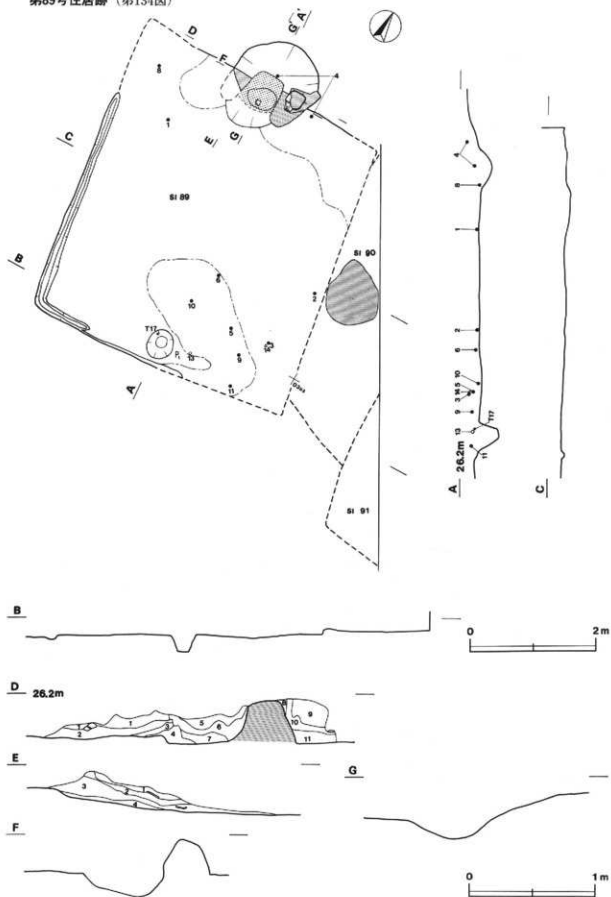


第133図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 1	坏 土師器	A (18.2) B (3.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内厚しながら立ち上がり、 縁を経て、口縁部に至る。	内面磨き。口縁部外面横方向のナ デ。体部外面へラ削り。	石英・長石・パミ ス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P308 10% 内面黒色処理 床面
2	坏 土師器	A (17.6) B (2.3) C (15.0)	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	口縁部内・外面及び体部内・外面 ナデ。底部外面へラ削り、内面ナ デ。	石英・長石・パミ ス・スコリア 鈍い褐色 普通	P309 10% 内面黒色処理 覆土中
3	坏 須恵器	A 10.6 B 3.5 C 5.6	口縁部一部欠損。体部は外傾して 立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。体部内・外面にクロ ロ目か明瞭に残る。底部外面回転 へラ削り。	長石・細礫 灰色 普通	P310 95% 床面

第89号住居跡 (第134图)



第134图 第89・90・91号住居跡実測图

位置 調査区北部、D3₂区。

重複関係 本跡は、第90号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長4.84m、東西軸長推定4.31mの長方形である。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は約5cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナー部付近壁下で確認され、上幅10cm、下幅5cm、深さ10cmほどで、断面はJ字形である。

床 平土で、礎石を除き緩く踏み固められている。

礎 東壁を幅90cm、奥行き70cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。袖端部は凝灰岩片が補強材として使用されている。

覆土層構成

1 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 鈍い赤褐色	ム粒子・炭化粒子・砂粒少量
2 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	8 黒褐色	焼土中ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子少量
3 黒色	焼土粒子中量、炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
4 赤褐色	焼土粒子中量、焼土中ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 灰褐色	砂粒多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 鈍い赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量	11 黒褐色	ローム粒子・焼土中ブロック・砂粒少量、炭化物微量
6 暗赤褐色	焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、ローム		

覆土 残っていた覆土は浅く、堆積状況は確認できなかった。

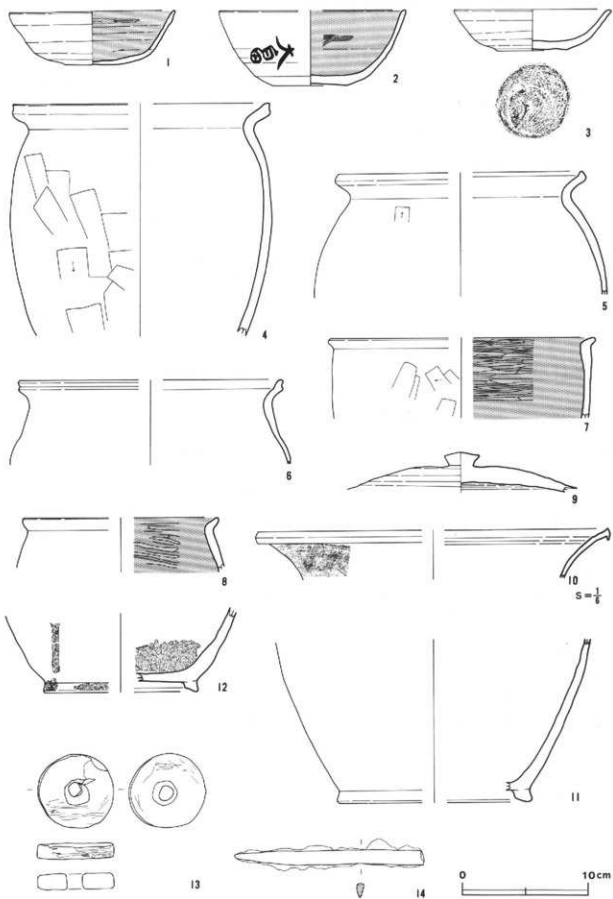
遺物 床面及び覆土下層から、土師器片718点、須恵器片20点、石製紡錘車1点及び刀子1点が出上している。

第135図1の上器器耳は礎石袖子前床面から、2の上器器耳は東壁際床面から、3の土師器耳は南東コーナー寄り覆土中層から、4の土師器器耳は礎から、5の上器器耳は南東コーナー寄り覆土中層から、6の土師器器耳は中央付五段下層から、8の土師器器耳は北西コーナー寄り床面から、9の須恵器の蓋は南東コーナー覆土中層から、10の須恵器の蓋は南壁寄り覆土下層から、11の陶器器耳は南壁際覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。

第89号住居跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	片装の特徴	胎土・色調・構成	備考
第125図 1	土師器	A 13.4	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、中位から口縁部は直線的に外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下縁面転へら削り。底部外面回転へら削り後ナデ。	石灰・長石・褐色普通	P312 95% 内面黒色処理床面
		B 4.2				
		C 1.8				
2	土師器	A [15.0]	体部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。体部外面中位に強いロクロ目が残る。内面磨き。体部外面下縁面転へら削り。底部外面回転へら削り後ナデ。	石灰・長石・スコリア 灰赤褐色普通	P313 80% 内面黒色処理 墨書「大高」か床面
		B 6.0				
		C 6.0				
3	土師器	A 12.6	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内傾しながら立ち上がり、中位から口縁部は直線的に外傾する。口縁部は比して器高が低い。	ロクロ整形。内・外面ナデ。底部回転車切り。	長石・輝石 普通	P314 80% 二次焼成 覆土中層
		B 3.3				
		C 3.5				
4	土師器	A (20.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ、普通	石灰・長石・鈍い褐色	P315 15% 磨
		B (18.4)				
5	土師器	A (20.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ、普通	長石・スコリア 褐色普通	P316 10% 覆土中層
		B (9.8)				
6	土師器	A (21.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、頸部から口縁部は緩やかに外傾する。頸部は上方につまみ上げられ、奥の流線が流る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ、普通	長石・雲母 褐色普通	P317 5% 覆土下層
		B (6.7)				



第135图 第89号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・産地	備 考
7	土 師 器	A (21.3) B (6.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は初く外彎する。	内面磨き。口縁部外面横方向のナデ。体部外面横方向のへり削り後ナデ。	石英・炭屑・細礫 赤褐色 普通	P318 5% 内面黒色処理 覆土中
8	土 師 器	A (15.4) B (4.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎し、口縁部は初く外彎する。	内面磨き。口縁部から体部にかけて縦方向のナデ。	長石・小礫 浅黄褐色 普通	P319 5% 内面黒色処理 床面
9	須 恵 器	B (3.2) F 2.8 G 1.1	大井部片。文庫状のつまみが付く。大井部は口縁部に向かって緩やかに下降する。	内面ナデ。大井部外面に自然粒。	砂灰 赤褐色 普通	P320 10% 覆土中弱
10	須 恵 器	A (16.2) B (7.7)	口縁部片。口縁部は外反し、縁部は上下につまみ出され輪郭の線形を成す。	内・外面ナデ。外面上位2段に波状文。	石英・長石 鈍い赤褐色 良好	P321 10% 覆土下層
11	土 師 器	B (12.8) D (15.0) E 1.0	底台部から体部にかけての破片。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ。体部から底部にかけて灰層が施されている。	石英・長石 灰色 (胎)黒褐色 普通	P322 15% 覆土下層
12	土 師 器	B (6.7) D (12.2) E 0.7	高台部から体部にかけての破片。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ。体部から底部にかけて灰層が施されている。	長石 灰色 (胎)オリーブ灰色 普通	P323 15% 覆土中

図版番号	器 種	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第133図13	土製給縁車	径	6.0	1.4	1.2	53.0	覆土下層	DPS

図版番号	器 種	計 測 値				材 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第133図14	刀	(15.1)	(1.2)	(0.6)	(44.6)	鉄	覆土中	M14

第90号住居跡 (第134図)

位置 調査区北部、D3₃区。

重複関係 本跡は、第89号住居跡及び第91号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 北西壁と南東壁を結ぶ軸長は3.70mまで、北東壁と南西壁を結ぶ軸長は2.10mまで測れるが、

調査区外へ延びているため全長は確認できない。

主軸方向 [N-30°-E]

壁 確認面で床面が表れており、ほとんど残っていない。

床 平坦で、踏み固めは弱い。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と思われるが、遺構の北部が調査区外へ延びているため確認できない。

覆土 残っていた覆土は極めて浅く、堆積状況は確認できなかった。

遺物 床面から土師器片179点及び須恵器片8点が出土している。

所見 本跡の中央部床面からは、径約70cm、高さ15cmほどの黄褐色の強い粘土塊が出土している。第80号土坑下層及び底面に見られる粘土層と同じ質感と色であることから、この土坑から掘り出した粘土が本跡に持ち込まれた可能性がある。本跡は、出土遺物から古墳時代の住居跡と考えられる。

第91号住居跡 (第134図)

位置 調査区北部, D3_{b2}区。

重複関係 本跡は, 第90号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長2.20m。東西軸長は1.10mまで測れるが, 調査区外へ延びているため全長は確認できない。南西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 [N-0°]

壁 確認面で床面が表れており, ほとんど残っていない。

床 平坦で, 踏み堅めは弱い。

竈 遺構の北部が遺構外へ延びているため確認できない。

覆土 残っていた覆土は極めて浅く, 堆積状況は確認できなかった。

遺物 土師器片3点が出土している。

所見 本跡は, 第90号住居跡より新しいが, 出土遺物が細片で量も少ないため時期は不明である。

第92号住居跡 (第136図)

位置 調査区北部, D3_{b2}区。

重複関係 本跡は, 第91号住居跡とわずかに重複する。新旧関係は不明である。

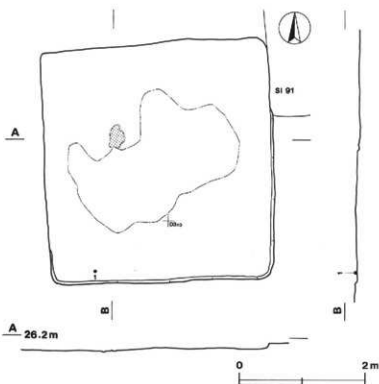
規模と平面形 南北軸長3.65m, 東西軸長3.81mの方形である。

主軸方向 [N-5°-W]

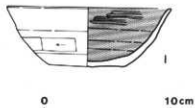
壁 壁高は約5cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央付近が硬く踏み固められている。

竈 耕作による削平のため確認できない。



第136図 第92号住居跡実測図



第137図 第92号住居跡
出土遺物実測図

覆土 残っていた覆土は極めて浅く、堆積状況は確認できなかった。

遺物 床面から土師器片86点、須恵器片2点及び弥生土器片5点が出土している。第137図1の上師器坏は南西コーナー増築床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 1	土師器 坏	A 13.0 B 4.7 C 6.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内斡しながら立ち上がり、上段から口縁部は外傾する。	内面磨き。体部外面下部から底部回転へた磨り。	石灰・長石・パミ ス・スコリア 橙色	P225 95% 内面黒色処理 床面

第93号住居跡 (第138図)

位置 調査区北部、D3c区。

重複関係 本跡は、第94号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長2.45m、東西軸長2.90mの長方形である。

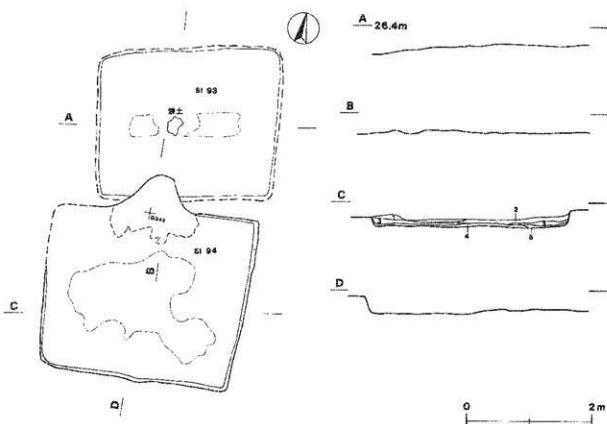
主軸方向 [N-9°-W]

壁 確認面ですでに床面が表れていて、ほとんど残っていない。

床 平川で、中央部にわずかに硬化面が残っている。

竈 耕作による削平のために確認できない。

覆土 残っていた覆土が極めて浅いため、堆積状況は確認できなかった。



第138図 第93・94号住居跡実測図

遺物 土師器片4点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物が細片で量も少ないため時期は不明である。

第94号住居跡（第138図）

位置 調査区北部，D3₄₃区。

重複関係 本跡は、第93号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長2.56m，東西軸長3.23mの長方形である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は15～28cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央付近から南東コーナーにかけて、硬化面が広がっている。

竈 北壁中央部を掘り込んで付設されている。耕作による削平のため焼土と粘土の堆積が残るだけで、規模や形状は不明である。覆土もほとんど残っておらず、火床面も掘り込まれていないため堆積状況は記録できなかった。

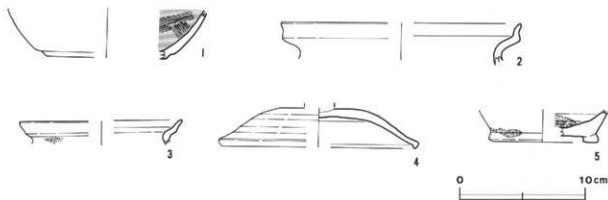
覆土 5層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子極微量
- 3 黒色 ローム粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 白色の火山噴出物多量

遺物 土師器片340点，須恵器片16点，陶器片2点及び弥生土器片5点が出土している。第139図1～5はいずれも覆土中出土である。3は「S字寛」の口縁部片で流れ込みである。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀前半の住居跡と考えられる。



第139図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第139図 1	土師器	B (4.0) C (9.6)	底部から口縁部にかけての破片。底部は平底で突出気味。体部は内斡しながら立ち上がる。	ロケロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。	石英 鈍い黄褐色 普通	P 326 5% 内面黒色処理 覆土中
2	土師器	A (19.1) B (3.2)	口縁部片。口縁部は外反し、端部は垂直方向につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P 327 5% 覆土中

区画番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
3	台付蓋 土師器	A (14.4) B (1.9)	口縁部片。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面ナデ。	石英・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P 328 5% 覆土中
4	蓋 須恵器	A (16.0) B (3.1)	天井部から口縁部にかけての破片。つまみ部欠損。天井部は口縁部に向かって緩やかに下降する。箱部は下方につまみ出されている。	ロタロ整形。天井部外面上位回転へず削り。内面ナデ。体部内面下半及び口縁部内面に軸付着。	長石 黄灰色 普通	P 329 15% 覆土中
5	壺 須恵器	B (2.6) D 8.8 E 0.7	高台部から体部下端にかけての破片。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部から高台部内・外面ナデ。底部内面軸付着。	長石 灰白色 (軸)オリーブ灰色 普通	P 330 10% 覆土中

第95号住居跡 (第130図)

位置 調査区北部, D3₁区。

重複関係 本跡は, 第86号住居跡を掘り込み, 第96号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長は3.30mまで, 東西軸長は3.10mまで測れるが, 調査区外へ延びているため全長は確認できない。

主軸方向 [N-0°]

壁 壁高は約13cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。黒色土中に設けられた住居跡で, 床面も黒色土の硬化面である。

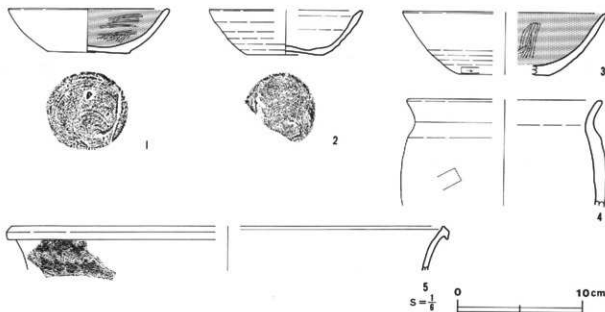
竈 本跡の東部が重複する第96号住居跡との境から, 竈の袖の補強材として使用されたと思われる凝灰岩が出土していることから, 東竈をもった住居跡と考えられる。

覆土 調査区境界の壁面で確認した。6層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|------|-----------------------|-------|-----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム粒子極微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒色 | ローム粒子微量 | | |
| 4 黒色 | ローム粒子極微量 | | |

遺物 土師器片72点, 須恵器片6点及び縄文土器片1点が出土している。第140図1の土師器片及び5の須恵



第140図 第95号住居跡出土遺物実測図

器底は南東コーナー寄り覆土下層から、2の土師器坏は東壁下覆土下層から、4の土師器甕は東壁下床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から10世紀前半の住居跡と考えられる。

第95号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徵	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第140図 1	土師器 坏	A 12.9	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内脣しながら立ち上がり、口縁部に平ら。	口ロ整形。内面磨き。底部凹凸 糸切り。	石灰・長石 黒褐色 普通	P331 50% 内面黒色焼成 覆土下層
		B 3.5				
		C 6.5				
2	土師器 坏	A 12.2	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内脣しながら立ち上がり、口縁部は外脣する。	口ロ整形。体部外面に深い口ロ 口ロが残る。内面ナデ。底部凹凸 糸切り。	長石・黒母 黒い・黄褐色 普通	P332 50% 二次焼成 覆土下層
		B 3.5				
		C 6.2				
3	土師器 坏	A 16.4	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内脣しながら立ち上がり、口縁部は外脣する。	口ロ整形。内面磨き。体部外面 下腕子持ちへう割り。	石灰・長石 灰黄褐色 普通	P333 5% 内面黒色焼成 覆土下層
		B 3.0				
		C 7.7				
4	土師器 甕	A 12.7	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内脣し、頸部から口縁部は 風干か内外反する。	口縁部内・外面磨き方向のナデ。体 部内・外面ナデ。頸部と体部との 境には横方向の強い調整による小 な溝がある。	黒母 褐色 普通	P334 10% 床面
		B 8.5				
5	土師器 甕	A 6.9	口縁部整形。口縁部は外反し、底 部は下方に小さく折り返されている。	内・外面ナデ。口縁部には波状文 が施されている。	長石・石灰 灰色 普通	P335 5% 覆土下層
		B 7.0				

第96号住居跡 (第141図)

位置 調査区北部、D3₂区。

重複関係 本跡は、第95号住居跡及び99号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長は1.90mまで、東西軸長は3.00mまで測れるが、重葺や調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N・90°—E

壁 壁高は約20cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、比較的踏み固めは弱い。黒色土中の住居跡で、部分的に黒く光る硬化面が確認できる。

竈 東壁を幅80cm、奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は妙質粘土で構築している。火床部はわずかに掘り込まれ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は明平されている。

覆土層解説

1 黒褐色	粘土小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子少量	6 暗赤褐色	ローム粒子・粘土土ブロック・炭化粒子少量
2 灰褐色	粘土粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	7 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子少量	8 鈍い赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・粘土粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子少量	9 暗赤灰色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
5 灰褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	10 赤黒色	ローム粒子・炭化粒子少量
		11 暗赤灰色	粘土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子少量

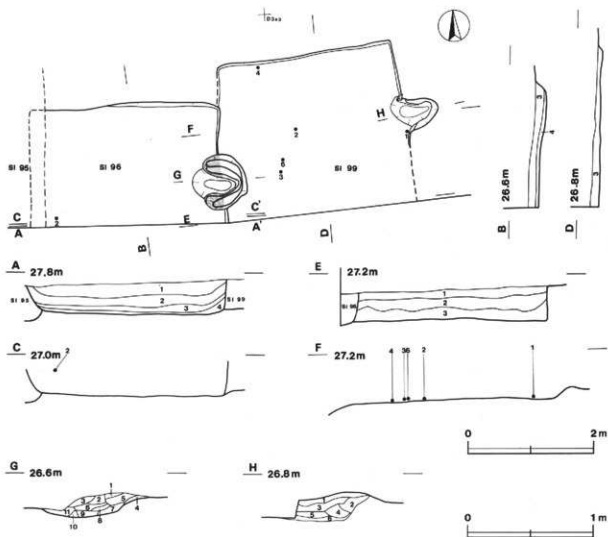
覆土 調査区境界断面で確認した。自然堆積と思われる。

土層解説

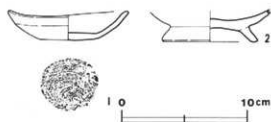
1 黒褐色	ローム・焼土粒子・炭化粒子少量
2 黒褐色	粘土小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子・粘土土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子少量

遺物 土師器片161点及び片須器片17点が出土している。第142図2の高台付坏は西壁寄り覆土上層からの出土である。

所見 本跡は、出土遺物から10世紀前半の住居跡と考えられる。



第141図 第96・99号住居跡実測図



第142図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	坏 土器	A 9.5	底部及び体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。器高が低く、歪みが激しい。	ロクロ整形。平底。体部内・外面ナデ。底部回転未切り。	石灰・長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P337 95% 覆土中
		B 2.4				
		C 3.5				
2	高台付坏 土器	B〔2.6〕	高台部から体部下端にかけての破片。高台は短く直線的に「ハ」の字状に開く。体部は外彎して立ち上がる。	ロクロ整形。体部内・外面及び高台部内・外面ナデ。	長石・燧石 黄灰色 普通	P336 15% 覆土上層
		D 7.6				
		E 1.3				

第97号住居跡（第143図）

位置 調査区北部，D3_{d4}区。

規模と平面形 南北軸長は2.40mまで，東西軸長は1.30mまで測れるが，ともに調査区外へ伸びているため全長は確認できない。南西コーナーは隅丸である。

主軸方向 [N-0°]

壁 調査区境界壁面で確認できる壁高は約55cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。

竈 出土遺物から竈をもつ時期の住居跡と思われるが，造構が調査区外へ伸びているため確認できない。

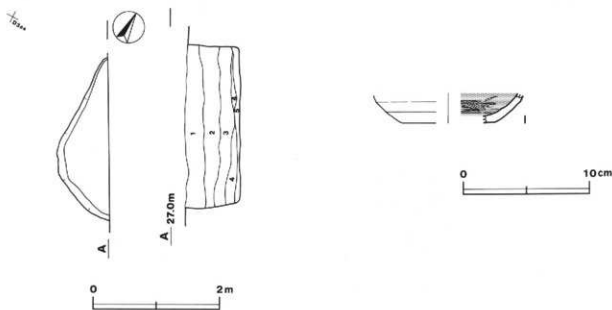
覆土 調査区境界の壁面で確認した。5層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子・焼土中ブロック少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土中ブロック・炭化粒子・粘土大ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 5 黒色 ローム粒子・焼土大ブロック微量

遺物 土師器片37点及び須恵器片2点が出土している。土師器片は甕の体部片が大部分で，他に内面に黑色処理をした土師器坏片が出土している。第143図1の土師器坏は覆土中からの出土である。

所見 本跡は，出土遺物から平安時代の住居跡と考えられる。



第143図 第97号住居跡・出土遺物実測図

第97号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第143図 1	坏 土師器	B (2.4) C [7.4]	底部から体部下端にかけての破片。底部は内湾しながら立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面平度。体部は内湾しながら立ち上がる。下端から底部外面回転ヘラ削り。	パミス・スコリア 灰黄褐色 普通	P338 5% 内面黒色処理 覆土中

第98号住居跡 (第144図)

位置 調査区北部, D3.4区。

重複関係 本跡は, 第99号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長5.05m。南北軸長は1.50mまで測れるが, 調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-6°-W

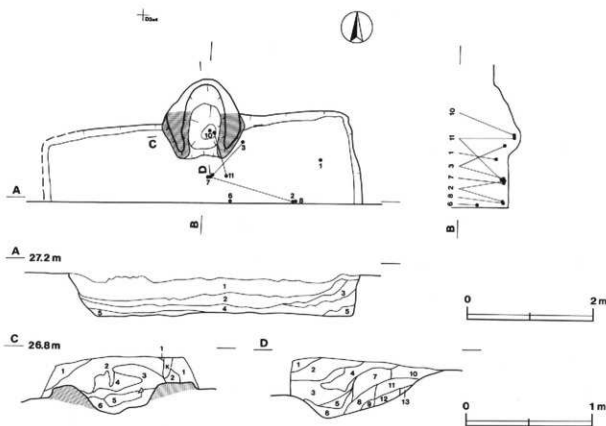
壁 壁高は65~68cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 踏み固めは比較的弱い。

竈 北壁中央部を幅60cm, 奥行60cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火床部は約10cm掘り込まれ, 煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。

遺土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土小ブロック微量, 炭化物極微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・粘土粒子・粘土小ブロック微量
- 4 灰黄褐色 粘土小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 黒褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 6 黒褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 7 灰黄褐色 砂粒中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 8 極暗赤褐色 焼土中ブロック中量, ローム粒子・炭化物・炭化粒子・砂粒少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子・砂粒少量
- 10 暗赤褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化物・砂粒少量
- 12 極暗赤褐色 砂粒中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 13 黒褐色 焼土粒子・炭化物・砂粒少量



第144図 第98号住居跡実測図

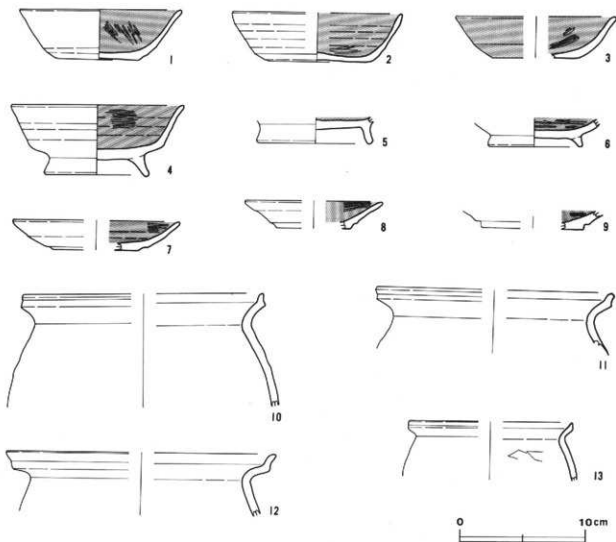
覆土 調査区境界の壁面で確認した。自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子極微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量
- 4 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子極微量

遺物 土師器片384点及び須恵器片24点が出土している。第145図1の土師器杯は北東壁コーナー寄り覆土中層から、6の土師器高台付杯は竈手前覆土上層から、7の土師器皿は竈手前覆土下層から、8の土師器皿は竈右袖手前覆土下層から、10の土師器甕は竈からそれぞれ出土している。2の土師器杯及び11の土師器甕は竈内外出土片が、3の土師器杯は竈手前出土片がそれぞれ接合している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第145図 第98号住居跡出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	高径(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	坏 土 器	A 12.9	体部から口縁部にかけて一部欠陥 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり。上位から口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 ナデ。下縁回転ヘラ削り。底部外 面回転糸切り旋削転ヘラ削り。	石英・長石・雲母 鈍い黄褐色 普通	P339 95% 内面黒色処理 覆土中層
		B 4.0				
		C 6.2				
2	坏 土 器	A [13.7]	体部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり。口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 ナデ。下縁回転ヘラ削り。底部外 面回転ヘラ削り。	長石・細礫・スコ リア 鈍い黄褐色 普通	P340 60% 内面黒色処理 覆土下層
		B 3.9				
		C 7.8				
3	坏 土 器	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり。口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 ナデ。下縁回転ヘラ削り。底部外 面回転ヘラ削り。	パミス 灰青褐色 普通	P341 40% 内・外面黒色処理 二次焼成 覆土下層
		B 3.3				
		C [7.5]				
4	高台付坏 土 器	A 13.7	高台部から口縁部にかけての破片 付高台。高台は定期的に「ハ」の 字状に開く。体部は浅い角度で外 傾して立ち上がった後上向きに折 れ、中位から口縁部はわずかに外 反する。	ロクロ整形。体部内・外面に浅い ロクロ目が見える。内面磨き。体部 外面ナデ。高台部内・外面ナデ。	長石・細礫 鈍い黄褐色 普通	P345 85% 内面黒色処理 覆土中
		B 5.8				
		D 8.4				
		E 1.7				
5	高台付坏 土 器	B (1.6)	高台部から底部にかけての破片。 高台はわずかに外反しながら「ハ」 の字状に開く。	ロクロ整形。底部内面磨き。外面 回転ヘラ削り。高台部内・外面ナ デ。	長石 浅黄褐色 普通	P346 40% 内面黒色処理 覆土中
		D 9.3				
		E 1.3				
6	高台付坏 土 器	B (2.3)	高台部から体部下縁にかけての破片。 高台は知く「ハ」の字状に開く。 体部は内彎しながら立ち上 がる。	ロクロ整形。内面磨き。外面ナデ。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P347 40% 内面黒色処理 覆土上層
		D 7.6				
		E 0.8				
7	皿 土 器	A [13.4]	底部から口縁部にかけての破片。 底部は平底で突出気味。体部は内 彎しながら立ち上がり。上位から 口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 ナデ。底部外面ヘラ削り。	石英・パミス 鈍い黄褐色 普通	P342 5% 内面黒色処理 覆土下層
		B 2.4				
		C [6.8]				
8	皿 土 器	A [11.2]	底部から口縁部にかけての破片。 底部は平底で突出気味。体部は浅 い角度で外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 ナデ。	雲母 鈍い褐色 普通	P343 5% 内面黒色処理 覆土下層
		B 2.2				
		C [6.0]				
9	皿 土 器	B (1.5)	底部から口縁部にかけての破片。 底部は平底で突出気味。体部は浅 い角度で外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 ナデ。	雲母 鈍い黄褐色 普通	P344 5% 内面黒色処理 覆土中
		C [8.2]				
10	壺 土 器	A (19.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 外反する。肩部は真上につまみ上 げられ沈線が通る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部内・外面ナデ。	長石・雲母・細礫 スコリア 暗赤褐色 普通	P348 15% 甗
		B (9.0)				
11	壺 土 器	A (18.8)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 外反する。肩部は真上につまみ上 げられ沈線が通る。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部内・外面ナデ。	石英・長石・パミ ス・スコリア 明赤褐色 普通	P349 10% 甗
		B (4.9)				
12	壺 土 器	A (13.3)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部は「く」の字 状に折れる。肩部はつまみ上げら れている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面ナデ。	長石・パミス 鈍い褐色 普通	P350 10% 覆土中
		B (4.6)				
13	壺 土 器	A [21.4]	口縁部。口縁部は頸部から強く 外反し、肩部は斜め上方につまみ 上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。	石英・長石・細礫 鈍い褐色 普通	P351 10% 覆土中
		B (5.0)				

第99号住居跡（第141図）

位置 調査区北部，D3e3区。

重複関係 本跡は，第98号住居跡を掘り込み，第96号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長3.10m。南北軸長は2.90mまで測れるが，調査区外へ延びているため全長は確認できない。東コーナー及び北西コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-84°-E

壁 壁高は約7cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，比較的踏み固めは弱い。

竈 東壁を幅30cm，奥行40cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され，補強材として袖部内や端部に凝灰岩片が使用されている。火床部はわずかに掘りくぼめられ，焼土の堆積は比較的薄く，煙道部に向かって約45度の角度で立ち上がる。煙道部は削平されており不明である。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

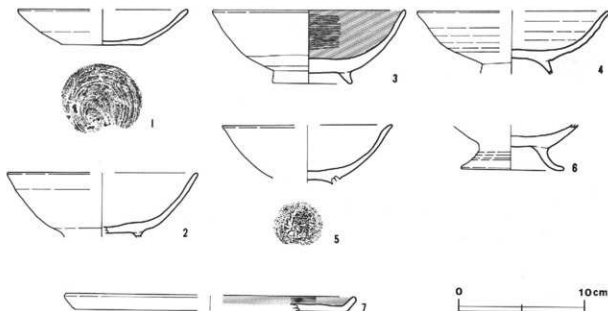
覆土 調査区境界面で観察した。3層から成る自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物 土師器片138点及び須恵器片9点が出土している。第146図1の土師器坏は竈右袖部から，2，3及び6の高台付坏は中央付近床面から，4の高台付坏は北壁際床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡は，出土遺物から10世紀前半の住居跡と考えられる。



第146図 第99号住居跡出土遺物実測図

第99号住居跡出土遺物観察表

瓦版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図	1 環 土 師 器	A 13.6	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は比較的浅い角度でわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。体部内面ナデ。底部 回転糸切り。	石英・長石・バミ 土 鈍い青褐色 普通	P 332 二次焼成 床面
		B 2.9				
		C 6.4				
2	高台付環 土師器	A 15.4	高台部から口縁部にかけての破片。 付高台。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内・外面ナデ。	スコリア 鈍い青褐色 普通	P 335 二次焼成 床面
		B 5.1				
		D 6.1				
		E 0.4				
3	高台付環 土師器	A 15.4	高台部から口縁部にかけての破片。 付高台。高台は低くて短く、「ハ」 の字状に開く。体部は内彎しながら 立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 下層回転ヘラ削り。	長石・砂粒・スコ リア 鈍い青褐色 普通	P 353 80% 内面黒色処理 二次焼成 床面
		B 5.9				
		C 6.3				
		D 0.9				
4	高台付環 土師器	A 15.4	高台部から口縁部にかけての破片。 付高台。高台は低くて短く、「ハ」 の字状に開く。体部は内彎しながら 立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面ナデ。体部外面 下層回転ヘラ削り。	石英・長石・バミ 土 鈍い青褐色 普通	P 354 45% 二次焼成 床面
		B 4.6				
		D 5.0				
		E 0.9				
5	高台付環 土師器	A 13.6	底部から口縁部にかけての破片。 高台部欠損。体部は内彎しながら 立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ整形。内・外面ナデ。底部 外面に「※」紋様。	石英・長石・バミ 土 褐色 普通	P 356 30% 二次焼成 覆土中
		B 4.6				
6	高台付環 土師器	B 3.7	高台部から口縁部にかけての破片。 付高台。高台は高くて長く、外反し ながら大きく開き、底部は広がる。	ロクロ整形。体部内・外面ナデ。 高台部外面に強いロクロ目が残る。	長石・バミ 土 鈍い褐色 普通	P 357 30% 二次焼成 床面
		D 8.2				
		E 1.8				
7	皿 土師器	A 23.2	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。底部外面 ナデ。	膏母・スコリア 鈍い水褐色 普通	P 358 5% 覆土中
		B 1.3				
		C 21.9				

第100号住居跡(第147図)

位置 調査区中央部, D3g1区。

重複関係 本跡は、第109-A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長5.30m, 東西軸長4.40mの長方形である。

主軸方向 N 22°-E

壁 壁高は8~20cmで、外傾して立ち上がる。

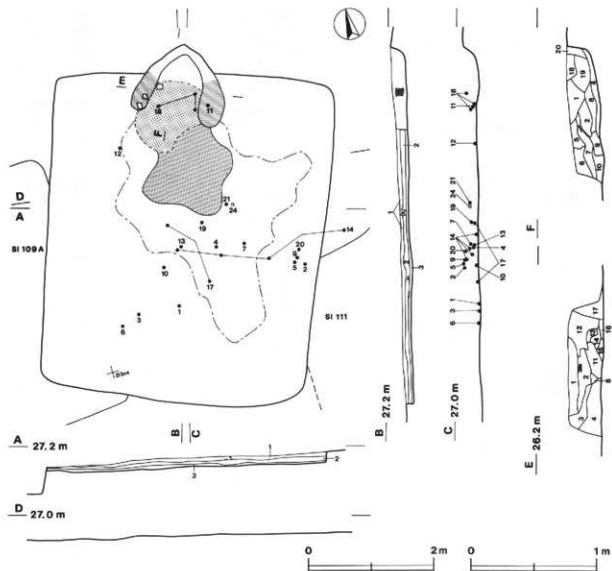
床 平坦で、竈手前から中央部付近が特に硬く踏み固められている。

竈 北壁中央部を幅110cm, 奥行50cmほど掘り込んで付設されている。軸部は砂質粘土で構築されている。火

床部は平坦で、煙道部に向かって70度の角度で立ち上がる。煙道部は削平されていて不明である。

壁土層解

- 1 鈍い赤褐色 焼上粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 炭化材微量
- 2 鈍い赤褐色 焼上粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土大ブロック微量
- 3 赤褐色 焼上粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 4 黒褐色 焼上粒子多量, 炭化粒中量, 焼土小ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒少量
- 6 黒褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒・粘土小ブロック微量
- 7 黒褐色 炭化粒中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒少量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
- 9 赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒少量, 焼土小ブロック微量
- 10 暗赤褐色 焼土粒中量, ローム粒子・炭化粒少量
- 11 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒少量, ローム小ブロック微量
- 12 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒少量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒少量
- 14 黒褐色 炭化粒中量, ローム粒子・焼土粒子少量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒少量, ローム粒子微量
- 16 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化材・炭化粒子微量
- 17 黒褐色 焼土粒子・炭化粒少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量
- 18 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒微量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒少量, 焼土小ブロック微量
- 20 褐灰色 焼土粒中量, 炭化材・炭化粒少量



第147図 第100号住居跡実測図

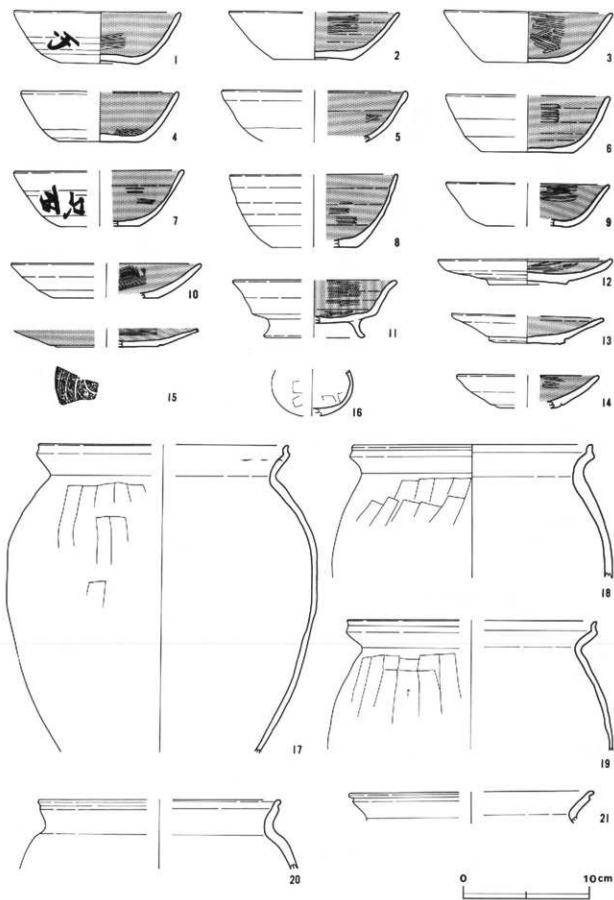
覆土 残っていた覆土は薄く、3層から成る。

土層解説

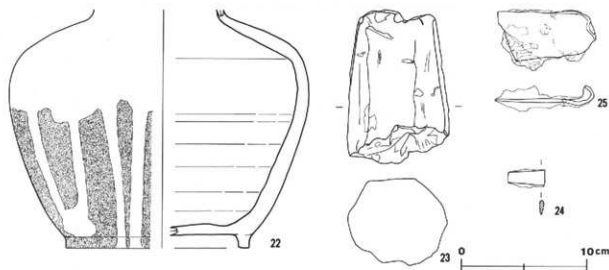
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片1488点、須恵器片42点、弥生土器片8点及び石製支脚1点が出土している。第148図1、3及び6の土師器杯は南壁寄り床面から、2、5、9の土師器杯及び20の土師器甕は東壁際覆土中層から、4、7、10の土師器杯、13の土師器皿及び19、21の土師器甕は中央付近覆土下層あるいは床面から、11の土師器杯及び18の土師器甕は電付近覆土下層から、12の土師器皿は電手前床面から出土している。14の土師器皿及び17の土師器甕は中央付近の数片が接合している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第148图 第100号住居跡出土遺物実測図(1)



第149図 第100号住居跡出土遺物実測図(2)

第100号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第148図 1	坏土器	A 13.3	平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。体部下端から底部外面回転ヘラ割り。	長石・雲母・細礫 スコリア 鈍い橙褐色 普通	P 360 100% 内面黒色処理 磨き「凹」か床面
		B 4.2				
		C 6.0				
2	坏土器	A (13.6)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。底部外面回転ヘラ割り後ナデ。	細礫・バミス 鈍い黄褐色 普通	P 361 90% 内面黒色処理 覆土中層
		B 3.8				
		C 6.4				
3	坏土器	A 13.6	底部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部から底部外面ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P 362 85% 内面黒色処理 床面
		B 4.1				
		C 6.6				
4	坏土器	A (12.6)	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。体部外面下端から底部外面回転ヘラ割り後ナデ。	長石・スコリア 鈍い橙褐色 普通	P 363 45% 内面黒色処理 覆土下層
		B 4.0				
		C 6.5				
5	坏土器	A (14.8)	体部片。体部は内彎しながら立ち上がり、わずかに肥厚する口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下位回転ヘラ割り。	長石・スコリア 淡黄色 普通	P 367 15% 内面黒色処理 覆土中層
		B (4.1)				
6	坏土器	A (14.2)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部中位から下位及び底部外面回転ヘラ割り。	長石・雲母・スコリア 鈍い橙褐色 普通	P 365 40% 内面黒色処理 床面
		B 4.6				
		C 7.4				
7	坏土器	A (13.6)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部中位外面から底部外面回転ヘラ割り。	雲母・スコリア 鈍い橙褐色 普通	P 366 30% 内面黒色処理 体部外面磨き 覆土下層
		B 4.4				
		C (6.4)				
8	坏土器	A (13.4)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。比較的器高が高い。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面に強いロクロ目が残る。体部外面下端から底部外面回転ヘラ割り。	石英・長石・スコリア 鈍い橙褐色 普通	P 364 40% 内面黒色処理 覆土中層
		B 5.8				
		C (6.7)				
9	坏土器	A (13.2)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下端回転ヘラ割り後ナデ。	長石・細礫 鈍い黄褐色 普通	P 368 10% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中層
		B 3.4				
		C (6.6)				
10	坏土器	A (15.2)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は浅い角度で内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下端回転ヘラ割り後ナデ。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P 369 10% 内面黒色処理 覆土下層
		B 2.7				
		C (8.4)				
11	高台付坏土器	A (13.0)	高台部から口縁部にかけての破片付高台。高台は外反しながら「ハ」の字状に開き、端部は広がる。体部は浅い角度で外傾して立ち上がり、中位から外反して口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。底部外面回転ヘラ割り。	長石・バミス 橙褐色 普通	P 370 45% 内面黒色処理 二次焼成 覆土下層
		B 4.6				
		D (8.0)				
		E 1.5				

図版番号	器種	計測値(cm)	胎形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施成	備考
第148回 12	甕 土器	A (14.0) B 2.0 C 6.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、不明瞭な稜を経て、口縁部は内傾して上向く。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ。	灰土・緑褐色 鈍い褐色 普通	P371 95% 内面黒色処理 2次焼成 床面
13	甕 土器	A (12.2) B 2.3 C 5.2	底部から口縁部にかけての破片。底部は平底で突出気味。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外に向く。	ロクロ整形。	石灰・パミス・スコリア 褐色 普通	P372 20% 内面黒色処理 覆上下層
14	甕 土器	A (11.4) B (2.5) C (4.4)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。底部と体部との境に沈線が通る。	パミス・細塵 鈍い黄褐色 普通	P373 10% 内面黒色処理 覆上中層
15	甕 土器	B (1.4) C (8.0)	底部から体部にかけての破片。体部は薄く外傾して立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。	パミス・スコリア 黒褐色 普通	P375 10% 内・外面黒色処理 覆土中
16	増 土器	B (3.7)	体部片。体部は内傾する。	体部外面ヘラ削り後ナデ。	石灰・長石 鈍い黄褐色 普通	P376 15% 覆土中
17	甕 土器	A (19.9) B (24.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、肩部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾する。肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石灰・長石・スコリア 褐色 普通	P377 30% 覆土中層
18	甕 土器	A 19.0 B (10.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、底部から口縁部は緩やかに外反する。肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	石灰・長石・パミス・スコリア 明褐色 普通	P378 25% 覆土下層
19	甕 土器	A (19.9) B (10.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、肩部は「く」の字状に折れる。口縁部は外傾する。肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り。	長石・細塵 鈍い褐色 普通	P379 20% 覆土下層
20	甕 土器	A (19.2) B (5.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾し、底部から口縁部は緩やかに外反する。肩部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面縦方向のナデ。	長石・雲母・細塵 スコリア 明赤褐色 普通	P380 10% 覆土中層
21	甕 土器	A (19.6) B (2.5)	口縁部片。口縁部は外傾し、肩部は沈線が通る。	口縁部内・外面ナデ。	長石・砂較・スコリア 褐色 普通	P381 5% 覆土下層
第149回 22	甕 土器	H (19.0) D (14.7) E 1.0	底部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内傾しながら立ち上がり、肩部で内傾し、底部に至る。	体部外面輪付着。内面ナデ。	長石 灰色 衝刺オリーブ褐色 普通	P383 60% 覆土中

図版番号	器種	計測値					石材	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第149回 23	支脚	(12.3)	(8.0)	(6.9)	-	(420.5)	凝灰岩	覆土中	Q29

図版番号	器種	計測値					材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第149回 24	刀子	(3.0)	(1.2)	(0.3)	(5.3)	鉄	覆土下層	M16	
25	鎌	(8.1)	(4.0)	(0.4)	(45.5)	鉄	覆土中	M15	

第101号住居跡（第150図）

位置 調査区北部，C2_h区。

規模と平面形 南北軸長2.35m，東西軸長3.43mの長方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は4~15cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，南壁下から竈前にかけて特に踏み固められている。

竈 北壁中央部を幅70cm，奥行55cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され，補強材として土器片が利用されている。火床部は15cm掘り下げられ，火床面及び袖部内面は赤変硬化してブロック状の焼土が比較的厚く堆積している。

覆土層解説

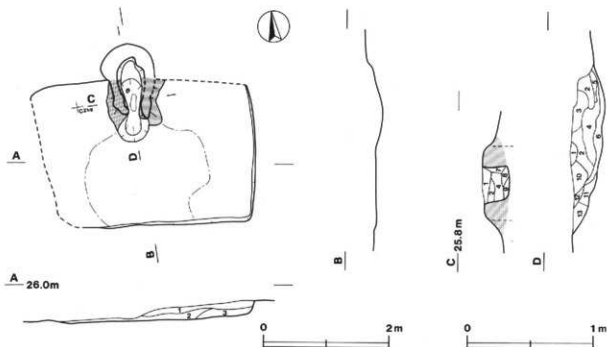
- 1 灰褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 2 鈍い赤褐色 ローム粒子・粘土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土粒子中量，焼土大ブロック・炭化物少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量
- 7 鈍い赤褐色 粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 9 黒褐色 焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック中量，炭化粒子・砂粒少量
- 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・砂粒少量
- 12 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒少量
- 13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

覆土 残っていた覆土は薄く，3層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 覆土中から，土師器片20点及び須恵器片1点が出土している。いずれも細片で，甕の体部片がほとんど



第150図 第101号住居跡実測図

である。

所見 本跡は、出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。

第102号住居跡 (第151図)

位置 調査区北部, C2₉₀区。

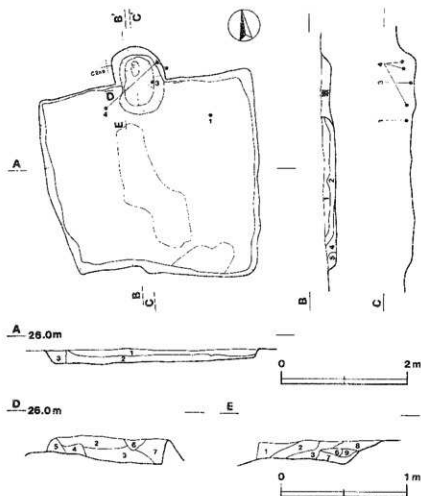
規模と平面形 南北軸長3.15m, 東西軸長3.43mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は8~12cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 主軸線上を南壁下から竈前にかけて幅60cmほどの帯状に硬化面が広がっている。

竈 北壁中央部を幅80cm, 奥行60cmほど掘り込んで付設されている。わずかに確認できる袖部は黒褐色土と砂質粘土で構築されていて脆弱である。火床部は平坦で, 火床面の赤変硬化は比較的弱く, 煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されており不明である。



第151図 第102号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック・焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量、粘土粒子・砂粒少量
- 6 暗赤褐色 焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 7 暗赤灰色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 8 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
- 9 明褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量

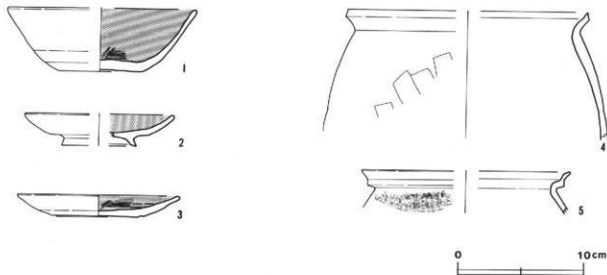
覆土 残っていた覆土は薄く、5層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片208点、須恵器片17点及び弥生土器片8点が出土している。第152図1の土師器坏は北東コーナー寄り覆土下層から、3の土師器皿は甕石袖内側から、4の土師器甕は甕袖部上面から出土している。5は口縁部が「S」字状の白付甕片で、流れ込みである。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第152図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	坏 土師器	A [15.2]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内増しながら立ち上 がり。上から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 下端及び底部外面回転ヘラ削り。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P 384 40% 内面黒色処理 覆土下層
		B 5.1				
		C 6.6				
2	高台付坏 土師器	A [12.0]	高台部から口縁部にかけての破片。 付高台。高台は短く、直線的に「八」 の字状に開く。体部は内増しなが ら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内・外面ナデ。	パミス 鈍い褐色 普通	P 385 5% 内面黒色処理 覆土中
		B 2.6				
		D [6.6]				
		E 0.9				
3	甕 土師器	A 13.0	体部から口縁部にかけて一部欠損 底部と体部の境に比喩が混る。体 部はわずかに内増しながら浅い角 度で立ち上がり、口縁部は外反す る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 下端回転ヘラ削り後ナデ。底部磨 止糸切り後ヘラ削り。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P 386 95% 内面黒色処理 甕
		B 1.8				
		E 6.4				

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	蓋土器	A [19.4] B (10.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は「く」の字状に折れる。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	石英・長石・細礫 褐色 普通	P387 15% 電
5	台付甕土器	A [16.6] B (3.4)	体部上端から口縁部にかけての破片。口縁部は「S」字状である。	口縁部上位丁寧なナデ。下位外面雑なへラ調整。体部外面には積毛目が著に施されている。	パミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P388 5% 覆土中

第104号住居跡 (第153図)

位置 調査区, C2₁₉区。

重複関係 本跡は、第9号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 東西軸長3.35m。南北軸長は2.90mまで測れるが、重複のため全長は確認できない。南東コーナー及び南西コーナーはほぼ直角である。

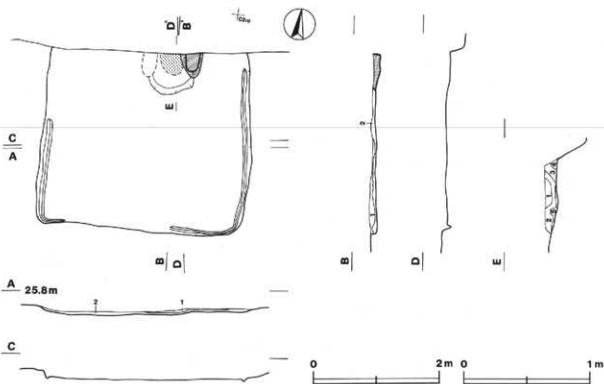
主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は6~12cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下、南壁下の東半分及び西壁下の南半分で確認され、上幅10cm、下幅5cm、深さ10cmほどで、断面は「U」字形(部分的に「V」字形)である。

床 平坦で、踏み固めは弱い。

竈 北壁中央部に付設されているが、第9号溝との重複により袖部を残し失われている。袖部は黒褐色土と砂、礫及び褐色粘土を材料にして構築されている。火床部はわずかに掘り込まれて、火床面には焼土が薄く堆積している。煙道部は第9号溝に掘り込まれている。



第153図 第104号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

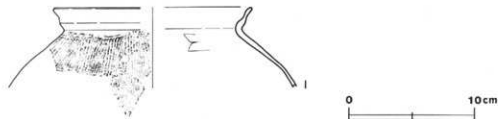
覆土 残っていた覆土は薄く、2層から成る。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片76点、須恵器片10点及び弥生土器片7点が出土している。第154図1は流れ込みみである。

所見 本跡は、出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。



第154図 第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154図 1	台付壺 土師器	A (15.8) B (6.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁し、頸部は「く」の字 状に折れる。口縁部は「S」字状 である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面には刷毛目が密に施されて いる。	石英・長石・細礫 スクリア 灰黄色 普通	P389 10% 覆土中

第105号住居跡 (第89図)

位置 調査区北部、B100区。

重複関係 本跡は、第52号住居跡及び第39号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長5.70m、東西軸長5.50m。東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は10~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めは弱い。

覆 北壁に付設されているが、第52号住居跡に左袖を掘り込まれている。右袖部は砂質粘土で構築され、補強材として凝灰岩が利用されている。火床部はわずかに掘り込まれ、火床面は赤変硬化してブロック状の焼土が薄く堆積している。

覆土層解説

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 2 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量 3 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 4 鈍い褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量 5 鈍い褐色 ローム粒子・粘土粒子中量 | <ol style="list-style-type: none"> 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 7 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・粘土粒子少量 8 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|---|--|

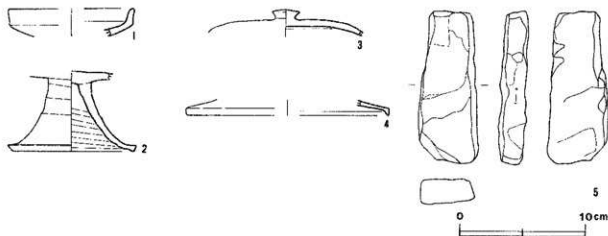
覆土 12層から成る。(6～17が本跡のものである。)

土層解説

6	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
13	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
15	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
16	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
17	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片56点、須恵器片9点、弥生土器片5点及び砥石1点が出土している。第155図2は甕手前床面から、5の砥石は出入口付近床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられる。



第155図 第105号住居跡出土遺物実測図

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	土師器 上脚部	A (10.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら立ち上がり、 明瞭な線を経て、口縁部は真上に 伸びる。	口縁部内・外面及び体部内・外面 ナデ。	バミス・スコリア 褐色 普通	P320 5% 床面
		B (2.3)				
2	須恵器 環	B (6.5)	脚部片。脚部は外反しながら「ハ」 の字状に開く。脚部は広がる。	ロクロ彫形。脚部内面には強い口 クロ目が残る。脚部外面ナデ。	石英・長石 灰色 普通	P383 30%
		D 9.6				
		E 5.8				
3	須恵器 蓋	B (2.1)	天井部片。天井部には宝珠状のつ まみが付く。天井部は口縁部に向 かってなだらかに下降する。	ロクロ彫形。内・外面ナデ。	石英 褐色 普通	P391 20% 覆土中
		F 2.2				
		G 8.0				
4	須恵器 須恵器	A (16.0)	天井部下位から口縁部にかけての 破片。天井部はなだらかに下降し、 口縁部は下方につまみ出されて いる。	ロクロ彫形。内・外面ナデ。	バミス・スコリア 浅黄褐色 普通	P392 5% 覆土上
		B (1.3)				

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第155図5	砥石	(12.2)	(4.9)	(2.1)	-	(160.1)	泥岩	床面	Q30

第107号住居跡（第121図）

位置 調査区北部，C2g0区。

重複関係 本跡は，第78号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 床面及び黒色上の広がりから南北軸長3.12m，東西軸長3.05mの方形と推定される。

主軸方向 [N-11°-E]

壁 耕作による削平のため，壁はほとんど残っていない。

床 平坦で，北西コーナー部に硬化面が確認できる。南西コーナー寄り床面からは第91号住居跡から出土したものと同質の，わずかに灰色がかかった黄色の粘土塊が出土している。

ピット 確認されていない。

竈 耕作による削平と重複のため確認できない。

覆土 残っていた覆土は浅く，3層から成る。

土層解説（3～5が本跡のものである）

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 本跡は，遺物が出土していないことから時期は不明である。

第108号住居跡（第156図）

位置 調査区中央部，E3g9区。

重複関係 本跡は，第44号住居跡及び第45号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 確認面に部分的に床の硬化面と方形の黒い広がり確認できる。南北軸長7.15m，東西軸長7.00mほどの方形と推定される。

主軸方向 [N-0°]

壁 耕作による削平のため残っていない。

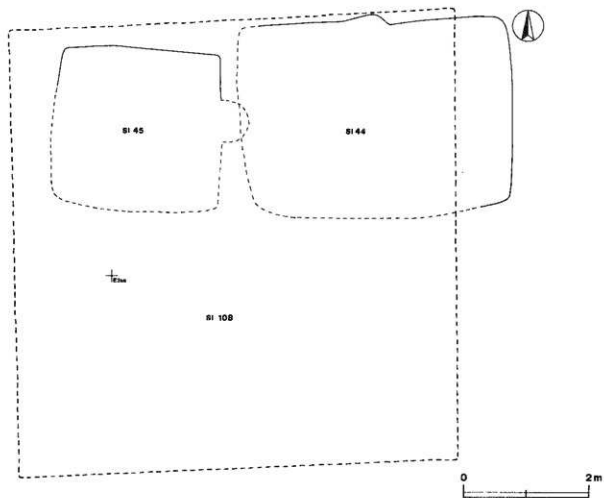
床 部分的に硬化面の広がり確認できる。

竈 削平されているため確認できなかった。

覆土 覆土がほとんど残っていないため，堆積状況は確認できなかった。

遺物 出土していない。

所見 本跡は，遺物が出土していないため時期は不明である。



第156図 第108号住居跡実測図

第109-A号住居跡（第157図）

位置 調査区中央部，D3_g区。

重複関係 本跡は，第109-B号住居跡と重複する。

規模と平面形 南北軸長4.20m。東西軸長は4.08mまで測れるが，全長は確認できない。北東及び南東コーナーは直角である。

主軸方向 N-3°-W

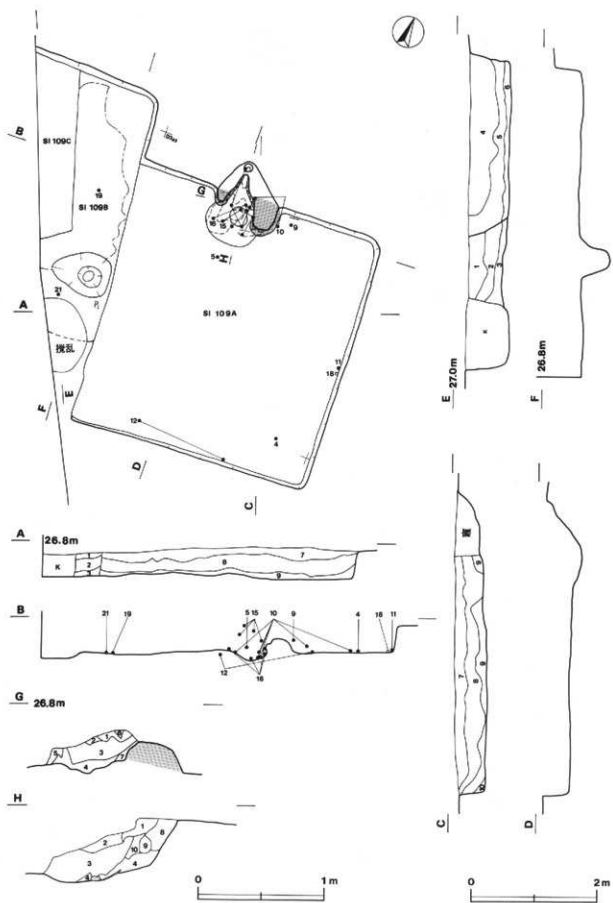
壁 壁高は42~45cmで，外傾して立ち上がる。

床 黒色上の平坦な床で，礎際を除き硬く踏み固められている。

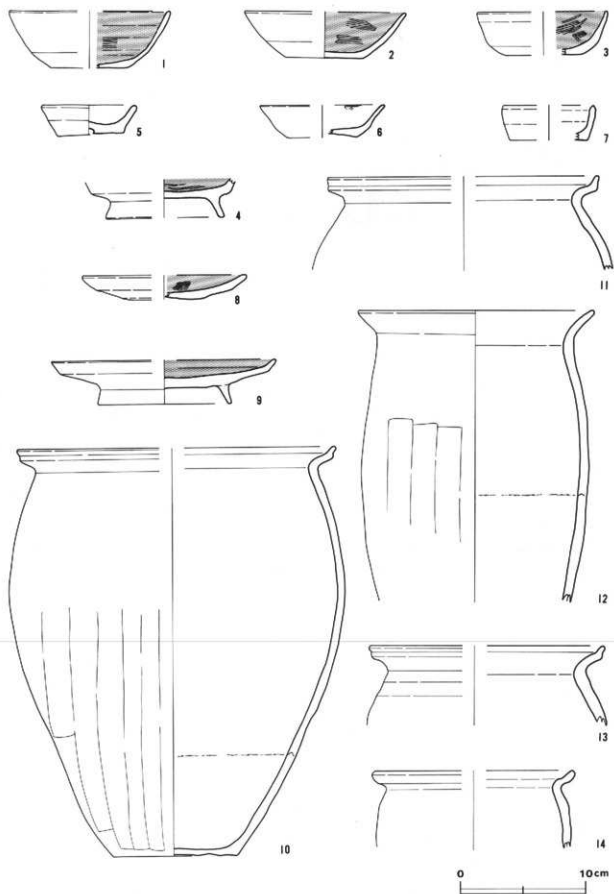
礎 北壁を幅100cm，奥行60cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築している。火床部は約10cm掘り下げられ，火床面には赤変硬化した焼土が薄く堆積し，煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道端部には煙出しの穴が確認できる。

壁土層解説

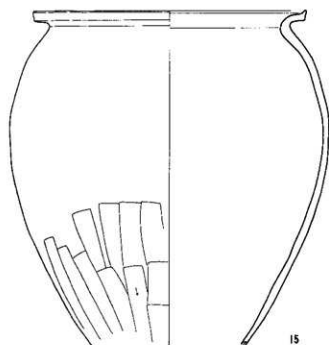
- 1 明褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量，焼土中ブロック・粘土中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土小ブロック・炭化粒子極微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量，炭化物・粘土小ブロック極微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量，粘土小ブロック極微量
- 5 黄褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量



第157图 第109-A·B·C号住居跡実測图



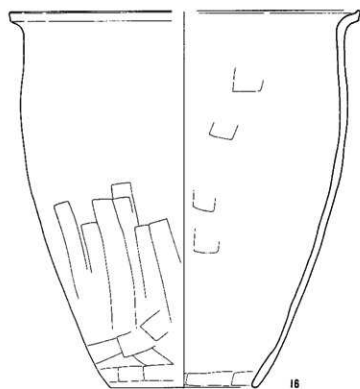
第158图 第109-A号住居跡出土遺物実測図(1)



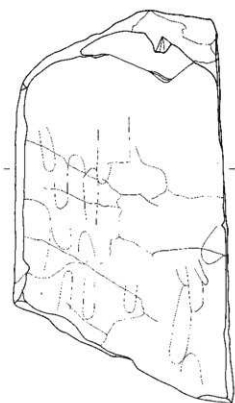
15



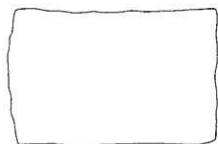
17



16



18



第159图 第109-A号住居跡出土遺物実測図(2)

6	暗赤灰色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗赤灰色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量
8	暗赤褐色	ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量
9	暗赤褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子少量

覆土 4層から成る自然堆積と思われる。(7~10が本跡のものである。)

土層解説

7	黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8	灰褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子・K F大ブロック少量
9	黒褐色	ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
10	黒褐色	焼土小ブロック少量

遺物 土師器片1175点、須恵器片72点及び弥生土器片27点が出土している。第158図4の高台付坏は南東コーナー床面から、5の土師器甕は甕手前覆土下層から、9の土師器甕は甕右袖外側覆土下層から、11の土師器甕は東端下床面から、第159図15、16の土師器甕は甕から出土している。第158図10の土師器甕は甕内外の敷片が、12の土師器甕は南端際の2片が接合している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。

第109-A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	土師器 坏	A [12.9] B 4.6 C [3.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外彎する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ト平から底部外面回転ヘラ削り。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P394 45% 内面黒色処理 覆土中
		A [12.8] B 3.7 C 6.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ト平から底部外面回転ヘラ削り。	長石・バミス 鈍い褐色 普通	P395 25% 内面黒色処理 覆土中
3	土師器 坏	A [10.5] B 3.5 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ト平から底部外面回転ヘラ削り。	長石・バミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P396 25% 内面黒色処理 覆土中
		B [3.1] D [9.3] E 5.6	高台部から体部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は外彎して立ち上がる。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面、底部及び高台部内・外面ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P401 60% 内面黒色処理 床面
5	土師器 甕	A 7.6 B 2.6 C 5.3	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部はわずかに外反しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内・外面ナデ。底部磨止糸切り後ナデ。	石英・長石 褐色 普通	P397 90% 甕下下層
		A [10.0] B 2.6 C [5.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外彎する。底部上げ底気味。	ロクロ整形。内・外面ナデ。体部下端回転ヘラ削り後ナデ。	バミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P398 45% 口縁部部分的に 葉付著（灯明皿） 覆土中
7	土師器 甕	A [7.2] B 2.8 C [6.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら真上に立ち上がる。	ロクロ整形。内・外面ナデ。	石英・長石・バミス 褐色 普通	P399 15% 甕中
		A [13.0] B 1.9 C [5.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は浅い角度でわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ト平ヘラ削り後ナデ。底部外面回転ヘラ削り後ナデ。	長石・バミス 鈍い褐色 普通	P402 25% 内面黒色処理 覆土中
9	土師器 甕	A [17.9] B 3.5	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開き、先端が薄くなる。体部は浅い角度で直線的に立ち上がり、横を経て、口縁部は短く外彎する。	ロクロ整形。内面磨き。底部外面ヘラ切り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	長石・バミス 鈍い褐色 普通	P400 75% 内面黒色処理 甕底部
		D 10.6 E 1.5				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・他	備考
10	要 上脚器	A (25.4)	底部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、上段 に短人柱をもつ。頸部は「く」の 字状に折れ、口縁部は飾り帯の上 につまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面横方向のヘラ削り。内面ナ デ。	長石・スコリア 鈍い緑色 普通	P403 65% 破
		B 32.4				
		C 9.9				
11	要 上脚器	A (21.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾し、頸部は強く外反す る。口縁部は真上につまみ上げ られている。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	石英・長石・粗燻 スコリア 褐色 普通	P405 10% 底面
		B (7.4)				
12	要 上脚器	A 19.0	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾し、頸部から口縁部は 緩やかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面 方向のヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P406 50% 床面
		B (28.2)				
13	要 十脚器	A (18.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾し、頸部は「く」の字 状に折れる。頸部はつまみ上げら れている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面横方向のヘラ削り後ナデ。 内面ナデ。	石英・長石・バリ 鈍い褐色 普通	P407 10% 履土中
		B (6.3)				
14	要 十脚器	A (16.2)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内傾し、頸部は強く外反す る。口縁部は内傾する。	内・外面ナデ。	長石・雲母 鈍い褐色 普通	P408 5% 履土中
		B (6.2)				
第159図	要 上脚器	A 21.8	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、上段 に短人柱をもつ。頸部は外傾に強 く屈曲し、口縁部は真上につま み上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部上半外傾方向のヘラ削り後ナ デ。内面ナデ。体部外面下平 面方向のヘラ削り後ナデ。内面ナ デ。	石英・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P404 50% 破
		B (26.6)				
16	要 十脚器	A (27.9)	体部から口縁部にかけての破片。 無柄。体部はわずかに内傾しな がら立ち上がり、頸部から口縁部は 外反する。頸部はつまみ上げられ ている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面横方向のヘラ削り。	石英・長石・スコ リア 褐色 普通	P409 40% 破
		B 30.0				
		C 11.6				
17	要 須器	A (13.4)	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部は外反する。	口縁部内・外面には強 いスコリアが取れる。口縁部内・外 面横方向のナデ。体部外面ヘラ削 り後ナデ。内面ナデ。	長石 灰色 普通	P410 25% 履土中
		B 4.8				
		C (7.6)				

図版番号	器種	計 測 値				石 材	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)			
第159図18	文様石	(31.4)	(17.7)	(16.9)	-	(5,550.0)	炭灰岩 床 面	Q31

第109 B号住居跡 (第157図)

位置 調査区中央部, D3a2区。

重複関係 本跡は、第109-A号住居跡とわずかに重複し、第109-C号住居跡に掘り込まれている。

規模と平面形 南北軸長4.15m。東西軸長は2.10mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。北東コーナーはほぼ直角である。

主軸方向 (N-6° W)

壁 壁高は約45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、壁際を除き硬く踏み固められている。

ピット P₁は長径90cm、短径70cmの楕円形で、深さ47cm。性格は不明である。

炉 調査区外へ延びているため確認できない。

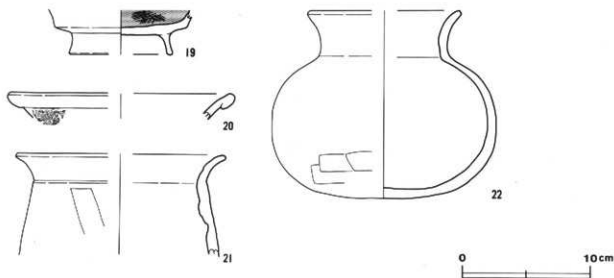
覆土 3層から成る自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒・微土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒・微土粒子少量、炭化粒少量
- 3 黒色 ローム粒中量、微土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片213点、須恵器片25点及び弥生土器片4点が出土している。第160図19の土師器高台付坏は東壁寄り床面から、21の土師器甕は南東コーナー寄り南壁際床面から、22の土師器壺はP₁内からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、第160図20や22から古墳時代前期の住居跡と考えられる。



第160図 第109-B号住居跡出土遺物実測図

第109-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 19	高台付坏 土師器	B (3.6) D [8.3] E 1.5	高台部から体部にかけての破片。平底。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は外反しながら立ち上がる。	ロクゴ整形。内面磨き。高台部内・外面ナデ。	雲母 浅黄褐色 普通	P411 45% 内面黒色処理 床面
20	甕 土師器	A (18.2) B (2.0)	口縁部片。口縁端部は折り返されている。	端部外面及び内面ナデ。口縁部外面には刷毛目が残されている。	石英・長石・パミス 純い橙色 普通	P414 5% 覆土中
21	甕 土師器	A (16.4) B (8.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。	長石・細礫・パミス・スコリア 橙色 普通	P413 10% 床面
22	壺 土師器	A (12.3) B 14.8	底部から口縁部にかけての破片。平底気味の丸底。体部は球状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。	長石・雲母・細礫 灰黄褐色 普通	P412 50% 口縁部から体部 外面にかけ炭化 物付着 ピット内覆土中

第109-C号住居跡 (第157図)

位置 調査区中央部、D3₂区。

重複関係 本跡は、第109-B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長は2.80mまで、東西軸長は0.80mまで測れるが、調査区外へ伸びているため全長は確認できない。

主軸方向 [N-18°-W]

壁 壁高は約45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、壁際を除き極めて硬い床面が広がる。

覆土 調査区境界壁面で確認。3層から成る自然堆積である。(4~6が本跡のものである。)

土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒 色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺物が出土していないため時期は不明である。

第111号住居跡（第161図）

位置 調査区中央部、D3a5区。

重複関係 本跡は、第24号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 南北軸長4.83m、東西軸長4.50mの方形である。

主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は21～30cmで、外傾して立ち上がる。

床 床面は常時水が湧き出している状態で、硬化面は確認できない。

壁 北壁中央部を幅135cm、奥行70cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築されている。火

床部は平坦で、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。煙道部は削平されている。

土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム大ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 5 赤 褐色 焼土粒子多量、焼土大ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 鈍い赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子少量
- 7 黒 褐色 焼土粒子・砂粒多量、焼土中ブロック少量、炭化粒子微量
- 8 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 9 鈍い赤褐色 ローム粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 10 鈍い赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量

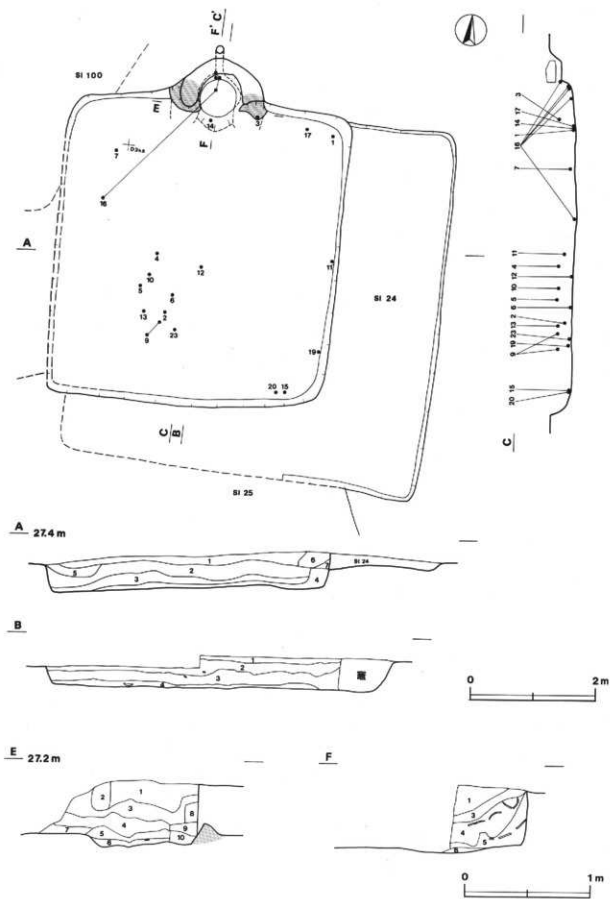
覆土 7層から成る人為地積と思われる。

土層解説

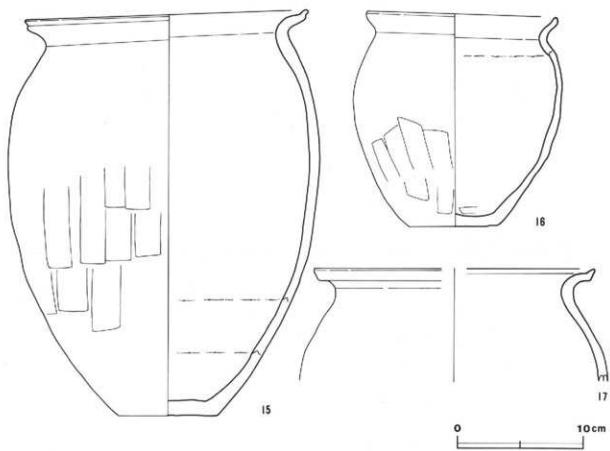
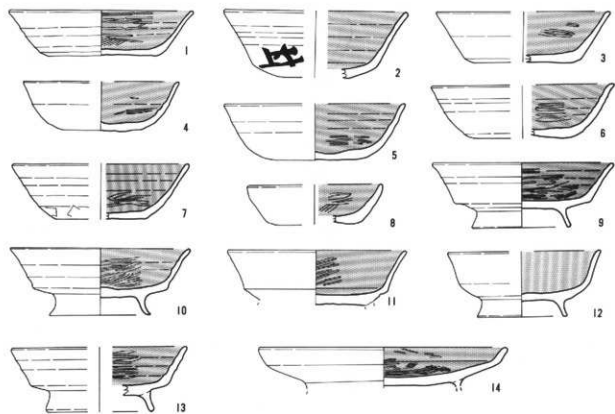
- 1 黒 褐色 炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 焼土大ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量

遺物 土師器片2504点、須恵器片121点及び弥生土器片21点が出土している。第162図1の上師器片及び17の土師器甕は北東コーナー床面から、2, 4, 5, 6の土師器片、9, 10, 12, 13の土師器高台付埴、第163図23の須恵器埴は中央付近覆土中・下層及び床面から、第162図3の土師器片、14の土師器甕及び16の上師器甕は竈周辺から、第162図11の土師器高台付埴、15の土師器甕、第163図19, 20の土師器甕は覆土下層及び床面から、第162図7の上師器片は北西コーナー寄り覆土下層から出土している。

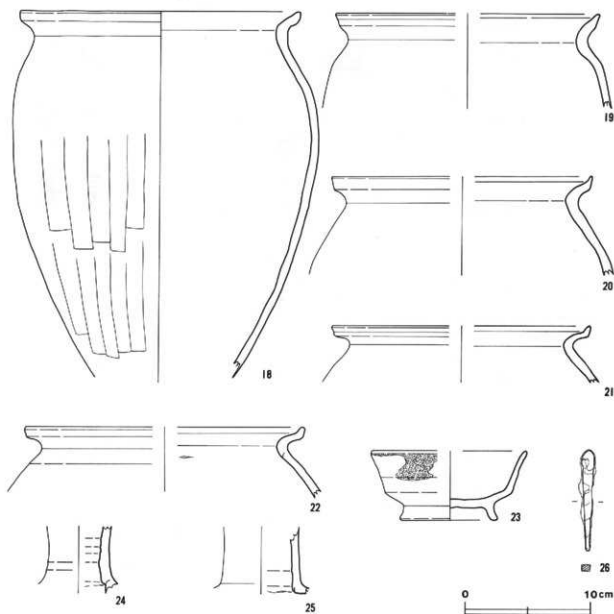
所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第161图 第111号住居跡実測图



第162图 第111号住居跡出土遺物実測図(1)



第163図 第111号住居跡出土遺物実測図(2)

第111号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第162図 1	土師器	A 14.8 B 4.7 C 8.8	体部から口縁部にかけて一部欠損。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部から底部外面回転ヘラ削り後ナデ。	羅摩・スコリア 浅黄褐色 普通	P415 90% 内面黒色処理 床面
2	土師器	A [14.6] B 5.3 C [5.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面には強いロクロ目が残る。体部下端回転ヘラ削り後ナデ。	石英・パミス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P416 30% 内面黒色処理 体部外面下位磨 覆土下層
3	土師器	A [13.8] B 4.0 C [7.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、下位から口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下端回転ヘラ削り後ナデ。	雲母・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P417 30% 内面黒色処理 織
4	土師器	A [12.4] B 4.0 C 6.2	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面及び底部外面ナデ。	長石・雲母・砂粒 鈍い黄褐色 普通	P418 30% 内面黒色処理 覆土中層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
5	坏 土 脚 器	A [14.4] B 4.5 C 7.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面及び底部外面ナデ。	長石・黒母 鈍い黄褐色 普通	P419 20% 内面黒色処理 覆土中層
6	坏 土 脚 器	A [11.6] B 4.4 C 7.4	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。下部回転ヘラ削り後ナデ。底部外面ナデ。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P420 15% 内面黒色処理 床面
7	坏 土 脚 器	A [14.2] B 5.1 C [7.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部下位外面及び底部外面ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P421 15% 内面黒色処理 覆土下層
8	坏 土 脚 器	A [10.8] B (3.2) C (6.0)	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。比較的小形で厚みである。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下部から底部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P422 10% 内面黒色処理 覆土中
9	高台付杯 土 脚 器	A 14.5 B 5.3 D 7.9 E 1.5	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面及び高台部内・外面ナデ。底部磨き止め後ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P423 80% 内面黒色処理 覆土中層
10	高台付杯 土 脚 器	A 14.4 B 5.1 C (8.1) E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は比較的薄く、外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。高台部内・外面ナデ。	長石 褐色 普通	P424 80% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中層
11	高台付杯 土 脚 器	A 13.3 B (4.4)	坏部片。高台部欠損。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。下部回転ヘラ削り。底部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P425 80% 内面黒色処理 覆土下層
12	高台付杯 土 脚 器	A [12.3] B 5.3 D 7.2 E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は比較的薄く、直線的に「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。高台部内・外面ナデ。	石英・長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P426 75% 内面黒色処理 二次焼成 床面
13	高台付杯 土 脚 器	A [14.0] B 5.1 D (8.6) E 1.3	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は浅い角度で外傾して立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。高台部内・外面ナデ。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P427 20% 内面黒色処理 覆土下層
第162図	壺 土 脚 器	A 19.8 B (3.5) E (0.6)	高台部欠損。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、縁を経て、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面ナデ。底部外面ヘラ削り後ナデ。	長石・細塵・スコリア 浅黄褐色 普通	P428 85% 内面黒色処理 壺
15	壺 土 脚 器	A 22.5 B 32.3 C 8.0	体部一部欠損。平底。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、上位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状に折れ、口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面及び体部外面上位横方向のナデ。体部外面中位から下位縦方向のヘラ削り後ナデ。	石英・長石・スコリア 褐色 普通	P429 95% 床面
16	壺 土 脚 器	A 15.3 B 17.2 C 7.1	体部から口縁部にかけて一部欠損。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、最大径を上位にもつ。頸部から口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。	石英・長石・スコリア 褐色 普通	P431 80% 壺
17	壺 土 脚 器	A [22.5] B (9.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、肩部から口縁部は強く外反する。肩部は斜め上方につまみ上げられている。	内・外面ナデ。	長石・細塵 鈍い黄褐色 普通	P432 5% 床面
第163図	壺 土 脚 器	A 22.5 B (29.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎し、最大径を上位にもつ。肩部から口縁部は外反し、肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。	石英・長石・スコリア 褐色 普通	P430 80% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 19	甕 土師器	A (21.0) B (7.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 外反する。肩部は斜め上方につま み上げられている。	内・外面ナデ。	石英・長石・パミ ス 褐色 普通	P434 3% 覆土下層
20	甕 土師器	A (20.8) B (7.9)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 外反する。肩部は真正上につまみ上 げられている。	内・外面ナデ。	石英・長石・パミ ス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P433 5% 床面
21	甕 土師器	A (20.7) B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 強く外反する。肩部は斜め上方に つまみ上げられている。	内・外面ナデ。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P436 5% 覆土中
22	甕 土師器	A (22.2) B (5.6)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 強く外反する。肩部は斜め上方に つまみ上げられている。	内・外面ナデ。	石英・長石・パミ ス 褐色 普通	P435 3% 覆土中
23	高台付坏 須恵器	A (12.2) B 5.5 D 7.8 E 1.4	高台部から口縁部にかけての破片。 高台はわずかに外反しながら「ハ」 の字状に開く。体部は浅い角度で 外傾して立ち上がり、中位から口 縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。体部外面には強いロ クロ目が見える。高台部内・外面ナ デ。	長石 灰色 普通	P437 30% 体部外面輪付若 床面
24	長頸壺 須恵器	B (5.3)	頸部破片。頸部はわずかに外反す る。	内面ナデ。体部外面に輪付着。	石英・長石 灰青褐色 (輪)オリーブ黒色 良好	P438 5% 覆土中
25	長頸壺 須恵器	B (5.3)	頸部破片。頸部はわずかに外反す る。	内面ナデ。体部外面に輪付着。	長石・砂粒 灰白色 (輪)灰オリーブ色 良好	P439 5% 覆土中

図版番号	器種	計 測 値				材 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第163図 25	鉄 壺	(7.9)	(1.1)	(0.6)	(10.7)	鉄	覆 上 中	M17

第112号住居跡 (第91図)

位置 調査区北部, B2_g1区。

重複関係 本跡は、第53号住居跡及び第56号住居跡を掘り込んでいます。

規模と平面形 南北軸長3.28m, 東西軸長1.92mの長方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は14~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 中央部が高くなっている。南側壁下周辺が比較的踏み固められている。

竈 北壁を幅60cm, 奥行50cmほど掘り込んで付設されている。袖部は砂質粘土で構築され、補強材として凝灰岩を使用している。火床部は17cm掘りくぼめられ、煙道部に向かって緩やかに立ち上がる。火床面及び袖部内面には赤変硬化したブロック状の焼土が薄く堆積している。

甕土層解説

- 1 極暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
- 3 極暗赤褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土中ブロック少量、焼土粒子微量
- 4 鈍い赤褐色 ローム粒子多量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 6 灰黄褐色 粘土ブロック多量
- 7 黒褐色 ローム粒子・極小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 8 暗赤褐色 粘土大ブロック中量、ローム粒子少量
- 9 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・極小ブロック少量、焼土粒子微量
- 10 灰褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量、焼土粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック少量、ローム大ブロック微量

12	黒褐色	ローム中ブロック・焼上小ブロック少量、炭化粒子微量
13	灰褐色	ローム粒子・粘土小ブロック少量、焼上粒子微量
14	暗赤褐色	ローム粒子少量、焼上粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子少量、焼上小ブロック微量
16	鈍い黄褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼上粒子微量
17	暗褐色	ローム粒子中量、焼上粒子・粘土粒子微量
18	黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、焼上小ブロック・焼上粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
19	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量
20	暗褐色	ローム粒子少量、焼上小ブロック・焼上粒子微量、炭化粒子・粘土小ブロック微量
21	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量、焼上小ブロック・焼上粒子・炭化粒子・K P 粒子微量
22	黒色	ローム粒子微量、焼上小ブロック・炭化粒子微量

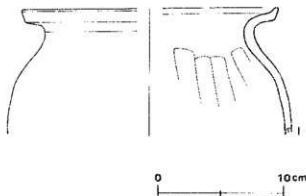
覆土 5層から成る。(5～9が本跡のものである。)

土層断面

5	黒褐色	ローム粒子少量、焼上粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム中ブロック中量
8	黒褐色	粘土粒子少量、炭化粒子微量
9	暗褐色	明褐色粘土

遺物 土師器片93点、須恵器片3点及び弥生土器片3点が出土している。第164図1の上師器蓋は甕石袖外側床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第164図 第112号住居跡出土遺物実測図

第112号住居跡出土遺物観察表

図面番号	器種	計測値(cm)	器形の特征	手法の特征	粘土・色調・焼成	備考
第164図 1	土師器 蓋	A [20.4] B [10.1]	体高から口縁部にかけての破片。 体高は内壁し、胎部から口縁部は 強く外反する。蓋部は斜め上方に つまみ上げられている。	内・外面ナデ。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P440 10% 灰面

第113号住居跡 (第165図)

位置 調査区南部、16a2区。

規模と平面形 東西軸長3.00m。南北軸長は1.44mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。南東及び南西コーナーは隅丸である。

主軸方向 [N-8°-E]

壁 壁高は9～12cmで、外傾して立ち上がる。

床 黒色土の平坦な床で、踏み固めは弱い。

竈 遺構の北半分が調査区外へ延びているため確認できない。

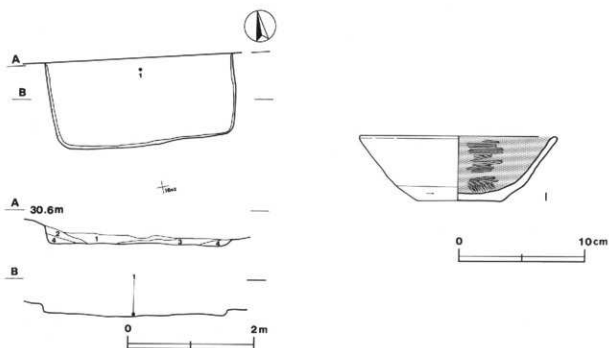
覆土 4層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子少量

遺物 土師器片65点、須恵器片4点及び瓦片1点が出土している。第165図1の土師器環は中央部前床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半の住居跡と考えられる。



第165図 第113号住居跡・出土遺物実測図

第113号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 1	土師器 環	A 15.2 B 5.2 C 6.6	体部から口縁部にかけて一部欠損 体部はわずかに内彎しながら立ち 上がり、中位から口縁部は外傾す る。	ロクロ製形。内面磨き。体部外面 下位回転ヘツ削り。	石英・長石・パミ ス・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P441 90% 内面黒色処理 床面

第116号住居跡 (第166図)

位置 調査区中央部、C3₁₂区。

規模と平面形 南北軸長は2.50mまで、東西軸長は2.20mまで測れるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。南西コーナーは隅丸である。

主軸方向 {N-8°-E}

壁 調査区境界壁面で確認できる壁高は39cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、部分的に硬化している。

竈 遺構の北東部が調査区外へ延びているため確認できない。

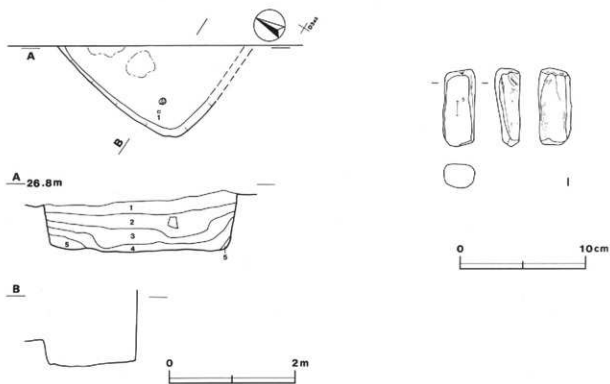
覆土 5層から成る人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック・焼土大ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量

遺物 土師器片77点、須恵器片1点及び砥石1点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物から奈良・平安時代の住居跡と考えられる。



第166図 第116号住居跡・出土遺物実測図

第116号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第166図1	砥 石	(6.2)	(2.6)	(1.9)	-	(40.3)	凝灰岩	覆土中	Q33

表 長者屋數遺跡住居跡一覽表

S I 番号	位向	土牆方向 及瓦本	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	柱間	內 部 施 設					壁土	出 土 遺 物	備 考			
							宇柱穴發達	出入口	壁	溝	伊						
1	H4 ₁₂	N-41°-W	不 明	7.05×(5.25)	10-14	平担	2	1	1	--	--	葦	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5A→5D		
2	G4 ₁₂	N-28°-W	隅丸方形	6.60×6.40	5-25	平担	3	2	1	2	3	2	2	2	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
3	G5 ₁₁	N-20°-W	不 明	3.80×(1.85)	15-23	平担	--	--	1	--	--	全	葦	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
4	H5 ₁₂	N-3°-E	隅丸方形	2.55×2.30	17-20	平担	--	--	--	--	--	--	--	人為	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
5	H5 ₁₂	N-35°-E	[方 形]	(4.75)×(4.35)	--	平担	4	--	1	--	1	1	1	不明	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
6	H5 ₁₂	N-0°	不 明	4.10×(2.05)	5-20	平担	1	--	--	--	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
7	H5 ₁₂	N-90°-E	隅丸長方形	3.45×2.55	8-12	平担	1	1	1	--	--	--	葦	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
8	H5 ₁₂	N-0°	長 方 形	4.00×3.10	25-30	平担	1	1	1	全	全	葦	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B		
9	I5 ₁₂	N-2°-E	方 形	6.45×6.15	8-13	平担	4	--	--	1	1	1	1	不明	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
10	I5 ₁₂	N-3°-W	方 形	2.05×2.00	10-16	平担	--	--	--	--	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
11	I5 ₁₂	N-0°	不 明	4.30×(3.30)	12-23	平担	1	1	--	--	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
12	I5 ₁₂	N-0°	[方 形]	3.30×(3.10)	15-23	平担	--	--	1	全	全	葦	人為	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B		
13	I5 ₁₂	N-7°-E	隅丸長方形	3.10×3.05	12-17	平担	--	--	--	--	--	--	葦	人為	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
14	I3 ₁₂	N-0°	[長 方 形]	4.20×(3.35)	--	平担	--	--	--	--	--	--	--	不明	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
15	I5 ₁₂	N-0°	方 形	3.50×3.40	20-23	平担	--	--	1	--	--	--	葦	人為	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
16	I5 ₁₂	N-32°-E	長 方 形	3.16×2.74	13-25	平担	--	--	--	--	--	--	葦	人為	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
17	I5 ₁₂	N-6°	方 形	3.35×3.23	25-32	平担	--	1	1	1	1	1	1	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
18	I5 ₁₂	N-10°-W	方 形	3.45×3.30	7	平担	--	--	--	--	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
19	I5 ₁₂	N-7°-E	長 方 形	2.95×2.35	11-13	平担	2	--	1	--	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
20	I5 ₁₂	N 21° E	不 明	3.15×(1.80)	10-15	平担	--	--	--	--	--	--	葦	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
21	G4 ₁₂	N-22°-W	不 明	5.80×(2.10)	13-18	平担	1	--	1	--	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
22A	G4 ₁₂	N-31°-W	隅丸方形	7.04×6.82	18-48	平担	4	2	2	1	1	1	1	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
22B	G4 ₁₂	N-35°-W	不 明	4.35×(1.55)	10-18	平担	--	--	--	--	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
23	G4 ₁₂	N 22° E	長 方 形	6.65×4.15	13-28	平担	4	--	1	1	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
24	D3 ₁₂	N-0°	[方 形]	(5.85)×(5.75)	10-12	平担	--	--	--	--	--	--	--	人為	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
25	D3 ₁₂	N-30°-W	[方 形]	(4.95)×(4.65)	13	平担	--	--	1	1	--	--	--	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B	
26	D3 ₁₂	N 5° W	[長 方 形]	(2.65)×2.35	20	平担	--	--	1	--	--	--	--	葦	自然	土雜器(杯・高杯・甕), 瓦	4B→5B

S1 番号	位罫	主軸方向 深さ別	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	埋高 (cm)	床面	内 部 施 設					備 考 耐震係数(右→)							
							主柱穴/副柱穴	ピット	入口	壁溝	扉・扉								
27	D313	N 5°-W	長方形	3.40 × 2.85	10~16	平坦	—	—	1	—	—	自然	土層部(坪・畳・高台付坪・畳)・柱土層(土・畳・礎・礎文土層(礎)・赤生土層(礎)・瓦・縁廻り)等	S1-21→4層→S1-23					
29	D314	N 5°-E	不 明	4.65 × (3.30)	12~16	平坦	—	—	—	—	—	—	自然	土層部(坪・畳・礎)・柱土層(土・畳・礎)等	基礎→S1-23				
30	D316	N-90° E	長方形	3.25 × 2.33	20~26	平坦	—	—	—	—	—	礎2	人工	土層部(坪・高台付坪・畳・礎)・柱土層(礎・礎)・赤生土層(礎)等	S1-22A→4層				
32A	D316	(N 10° W)	長方形	4.34 × 4.16	16~28	平坦	1	—	—	—	—	—	自然	土層部(坪・高台付坪・畳・礎)・柱土層(礎・礎)・赤生土層(礎)等	S1-22B→3層→S1-22				
32B	E316	(N 35° W)	不 明	(3.00) × (1.60)	7	平坦	—	—	—	—	—	—	—	自然	土層部(坪・高台付坪・畳・礎)・柱土層(礎)等	基礎→S1-32A			
33	E317	(N-0° W)	不 明	4.26 × (3.40)	7~12	平坦	—	—	—	—	—	—	—	自然	土層部(坪・高台付坪)・赤生土層(礎)等	基礎→S1-32A			
34	E317	K-4° E	(方 形)	4.69 × (2.60)	8	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	基礎→S1-25→26A		
35	E316	N-90° E	(方 形)	(2.60) × (2.60)	6	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪・高台付坪)・赤生土層(礎)等	S1-25→26A→基礎	
36A	E317	K-10° W	方 形	7.20 × 6.84	5	平坦	—	—	1	22°傾	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪・高台付坪)・柱土層(礎)等	S1-26→基礎→S1-26B→26C
36B	E317	N-90° W	(長方形)	(5.28) × (4.12)	5~8	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	S1-26A→基礎→S1-26C
36C	E316	K-9° W	(隅丸方形)	(2.90) × (2.80)	10~15	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪・高台付坪)・赤生土層(礎)等	S1-26A→26B→基礎
37	E316	N 10° W	(方 形)	3.18 × (1.80)	15~18	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪・高台付坪)・柱土層(礎)等	S1-25→基礎
38	E317	(N 18° W)	不 明	2.73 × (1.80)	18~20	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪・高台付坪)・柱土層(礎)等	S1-25→基礎
39	E316	K 75° E	長方形	2.50 × 2.73	4~10	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪・高台付坪)・柱土層(礎)等	S1-25→基礎
40	E316	N-90° W	長方形	4.96 × 4.45	10~21	平坦	1	—	—	1	60°傾	—	—	—	—	—	—	土層部(坪・高台付坪)・柱土層(礎)等	S1-22→基礎
41	E316	(N-2° W)	不 明	3.80 × (2.85)	8~20	平坦	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	S1-22→4層
42	E316	(N-10° W)	不 明	2.90 × (0.80)	8~20	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	基礎→S1-21→基礎
43	E316	(K-6° E)	方 形	3.18 × 2.95	6~10	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	S1-21→基礎→S1-21
44	E316	N-3° W	長方形	4.37 × 3.12	8~12	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	S1-22→基礎
45	E316	N 90° E	方 形	2.71 × (2.62)	8	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	S1-22A→4層→S1-21→基礎
46	E316	K-4° W	不 明	(3.80) × (3.20)	26	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	基礎→S1-22→基礎
47	E316	N-2° W	方 形	3.45 × 3.40	10~14	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	S1-22→基礎
48A	E316	K 12° W	不 明	5.00 × (2.35)	6~10	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	S1-22→基礎→S1-21
48B	E316	N-17° W	(方 形)	(3.30) × (1.80)	12	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	基礎→S1-22A
50	B111	(K-5° W)	(方 形)	3.25 × (1.90)	25~37	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	土層部(坪)・高台付坪)・柱土層(礎)等
51	B111	N 9°	(方 形)	6.60 × (5.40)	25~27	平坦	2	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	土層部(坪)・高台付坪)・柱土層(礎)等
52	B111	N-20° E	(隅丸方形)	4.00 × (3.50)	10~29	平坦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土層部(坪)・柱土層(礎)等	土層部(坪)・高台付坪)・柱土層(礎)等

S1 番号	位置	主軸方向 (法線方位)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	断面	内 部 施 設						農土	出 土 遺 物	備 考 (参考図表頁)		
							土台穴(石蔵穴)	ピット	入口	壁溝	伊・甕						
53	B1 ₄₆	N-10°-E	長方形	4.80×3.90	4~18	平床	3	—	1	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・甕)、須恵器(甕・盆)、 灰土器(鉢)、弥生土器(甕、甗)	本館→S1-55(12)
54	B1 ₁₀	[N-10°E]	不明	(5.90)×(0.80)	10	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	不明	本館→S1-53
55	B2 ₁₀	N-3°-E	方形	3.21×(2.31)	12	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・甕、高台付坏・甕)、 弥生土器(甕)	本館→S1-56
56	B2 ₂₅	N-5°-E	方形	4.93×(4.90)	—	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕・盆)、 須恵器(坏・甕)	S1-53(25)→本館→ S1-57(12)
57	B2 ₂₃	N-2°-E	方形	3.90×3.78	10~20	平床	4	—	2	2	江津波	甕	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕・盆)、 須恵器(坏・高台付坏・甕・盆)、 灰土器、ガラス玉	S1-50→本館→S1- 55
58	B2 ₂₁	N-9°-E	長方形	(2.76)×2.34	5	平床	—	—	1	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕・盆)、 須恵器(坏・甕・甗)、灰土器(甕)	S1-57(22)→本館
59	B2 ₂₄	[N-6°E]	不明	1.56×(0.53)	6~7	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(甕)	本館→S1-58
60	B2 ₁₃	N-4°-E	方形	(3.03)×(4.80)	—	平床	4	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・ 甕)、弥生土器(甕)	S1-50→本館
61	B2 ₁₂	N-0°	不明	(1.10)×(3.90)	—	平床	2	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・甕)、須恵器(坏)	本館→S1-51
62	B2 ₁₃	N-45°-E	方形	(4.35)×(4.35)	—	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・甕)、須恵器(坏・甕)、 石製瓦葺	S1-50→本館
63	C2 ₁₀	N-5°-E	方形	(4.50)×(3.90)	7	平床	3	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・ 甕)	S1-57→本館→S1- 52
64	B2 ₁₃	[N-17°E]	不明	(3.73)×(3.20)	14	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須 恵器(坏・甕)、弥生土器(甕)、金銅	
65	B2 ₁₄	N-7°-W (隅丸付)	方形	(4.30)×4.10	4~31	平床	1	—	1	1	—	—	—	—	—	土師器(坏・甕)、有孔円筒、弥生土器 (甕)	本館→S1-52
66	B1 ₁₆	[N-30°E]	不明	(1.60)×(0.50)	14	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(甕)	
67	C2 ₁₀	N-0°	方形	5.00×4.80	20~27	平床	4	—	—	1	全瓦	甕	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕・盆、 甗)、須恵器(坏・高台付坏・甕・盆)、 弥生土器(甕)、瓦葺円板	本館→S1-56
68	C2 ₁₀	N-0°	方形	(6.35)×6.00	4~20	平床	4	1	—	1	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕・盆)、 須恵器(坏・甕)	S1-57(10)→本館
69	C2 ₁₇	[N-9°]	不明	(2.00)×(1.10)	12	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(甕)	本館→S1-51
71A	C2 ₁₉	[N-6°]	不明	3.20×(2.70)	20~32	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	須恵器(坏)	S1-71B→本館→ S3-4
71B	C2 ₁₉	[N-6°]	不明	(3.90)×(1.95)	3	平床	2	—	—	—	—	—	—	—	—	須恵器(甕)	本館→S1-71A- 25
72A	C2 ₁₇	[N-45°W]	方形	(4.45)×(4.45)	10	平床	—	—	1	—	—	—	—	—	—	土師器(坏)、須恵器(坏)、弥生土器(甕)	本館→S1-72B- 23C
72B	C2 ₁₇	[N-9°]	方形	3.00×2.90	10	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・甕)	S1-72A→本館→ S1-72C
72C	C2 ₁₇	N-6°	方形	2.75×2.70	9~14	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(高台 付坏・甕)、弥生土器(甕)	S1-72A→本館→本館
73	C2 ₁₄	[N-17°E]	不明	(2.95)×(2.65)	10	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・ 甕)	S1-71→本館→S1- 53
74	C2 ₁₄	N-9°-E	不明	(2.00)×(1.60)	—	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・甕)、須恵器(坏)	本館→S1-70
75	C2 ₁₉	N-5°-E	方形	(5.00)×(4.60)	—	平床	1	—	—	1	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏)、 弥生土器(甕)	S1-70→本館→S1- 57
76	C2 ₁₉	N-25°-W	不明	(5.30)×(1.90)	14	平床	2	1	—	1	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕・盆、 高台付坏・甕、土師器(甕)、 弥生土器(甕)	S1-71B→本館→S1- 71C
77	C2 ₁₄	N-5°-E (隅丸付)	方形	(3.70)×(3.18)	17~20	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須 恵器(坏・甕・甗)、弥生土器(甕)、 瓦葺	本館→S1-70
78	C2 ₁₉	[N-9°-E]	長方形	2.75×(2.45)	6	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(甕)	S1-71→本館
79	C3 ₁₁	N-0°	長方形	(4.05)×(3.65)	8	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須恵器(坏・ 甕)	本館→S1-71B→S1-71 C
80	C3 ₁₁	[N-36°E]	長方形	4.35×(3.16)	7~21	平床	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土師器(坏・高台付坏・甕)、須 恵器(坏)	S1-71→本館

S I 番号	位置	主軸方向 矢向	平面形	規程 (mm) (長軸×短軸)	標高 (cm)	築造	内部施設					覆土	出 入 遊 物	備考 河川関係(高-低)	
							土台	土壁	土門	遊道	石・瓦				
81	C219	N 5°-E	不 明	(4.02)×(3.25)	16	平垣	1	—	1	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)・土牆部(石・瓦)・土牆部(石・瓦)	築造-S13
82	C219	N 135°-E	不 明	(2.70)×(2.22)	20	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S14-64
85	D311	N 8°-E	長方形	4.13×3.76	9~12	平垣	4	—	2	1	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S134
86	D311	N 0°	不 明	(3.15)×(1.92)	10	平垣	1	—	2	—	—	土電線	葺	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S135
87	C219	N 6°-E	不 明	3.53×3.46	3~18	平垣	4	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S136-S137
89	D312	N 8°-E	長方形	4.84×(4.31)	4~5	平垣	—	—	—	1	—	葺	不明	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S140-94
90	D313	[N 30°-E]	不 明	(3.70)×(2.10)	—	平垣	—	—	—	—	—	葺	不明	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S149-51
91	D313	[N 0°]	不 明	(2.20)×(1.10)	—	平垣	—	—	—	—	—	葺	不明	土牆部(石・瓦)	S140-48
92	D312	[N 5°-E]	長方形	3.83×3.05	3~7	平垣	—	—	—	—	—	葺	不明	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)	—
93	D313	[N 9°-E]	長方形	(2.90)×(2.45)	—	平垣	—	—	—	—	—	葺	不明	土牆部(石・瓦)	築造-S141
94	D313	N 3°-E	長方形	4.23×2.56	15~28	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S142-48
95	D311	[N 0°]	不 明	(3.20)×(3.10)	13	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S143-55-S144
96	D312	[N 30°-E]	長方形	(3.07)×(1.90)	20	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S145-30-64
97	D313	[N 0°]	不 明	(2.80)×(1.80)	25	平垣	—	—	—	—	—	葺	不明	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)	—
98	D313	N 4°-E	不 明	5.05×(1.50)	65-68	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S146
99	D313	N 8°-E	長方形	2.10×(2.90)	7	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S147-S148
100	D313	N 22°-E	長方形	5.20×4.46	8~20	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・高台(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S149-48
101	C219	N 4°-E	長方形	(3.45)×2.35	4~15	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	—
102	C219	N 5°-E	長方形	3.43×3.15	8~12	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	—
104	C219	N 3°-E	長方形	3.35×(2.90)	6~12	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S150
105	B110	N 15°-E	長方形	5.76×5.20	10~12	平垣	—	—	—	1	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S152-S153
107	C219	[N 40°-E]	長方形	(3.12)×(3.25)	—	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S154
108	E311	[S 0°]	長方形	(7.15)×(7.00)	—	平垣	—	—	—	—	—	葺	不明	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	築造-S155-G
109	D313	N 3°-E	長方形	4.29×(4.85)	42-45	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S156
109	D313	[N 4°-E]	不 明	(4.15)×(2.10)	45	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S158A-C
109	D313	[N 30°-E]	不 明	(2.80)×(0.80)	35	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)	S149B
111	D313	N 2°-E	長方形	6.83×(4.50)	21~30	不明	—	—	—	—	—	葺	人工	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S159-48
112	B211	N 9°-E	長方形	(3.28)×(1.92)	14~18	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	S160-48
113	I 612	N 6°-E	不 明	5.00×(1.44)	9~12	平垣	—	—	—	—	—	葺	自然	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	—
116	C312	[N 8°-E]	不 明	(2.52)×(2.22)	20	平垣	—	—	—	—	—	葺	人工	土牆部(石・瓦)・築造部(石・瓦)	—

2 土坑

当遺跡から、76基の土坑を検出した。以下、主な土坑の概要と出土遺物について記載し、その他の土坑については実測図と一覧表を掲載する。

第4号土坑（第167図）

位置 調査区南部，H5 r₂区。

規模と平面形 長径2.32m，短径2.24mの円形で，深さは82cmである。

長径方向 N-6°-E

壁面 ほほ垂直に立ち上がる。

底面 平坦で，中央部がわずかにくぼむ。

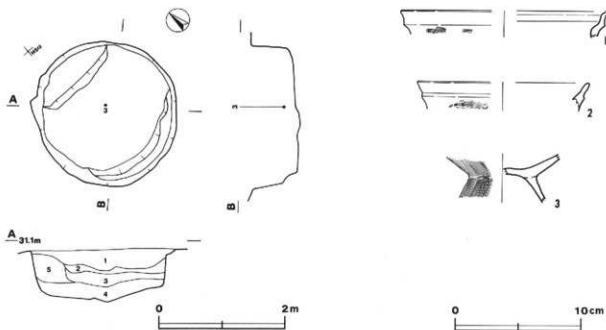
覆土 5層から成る。ロームブロックが見られる土層2及び土層3が人為堆積と思われる。遺物の大半はこれらの層から出土している。

土層解説

- | | | |
|---|------|----------------------|
| 1 | 黒色 | ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム中ブロック多量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子多量，K P少量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 土師器片229点及び弥生土器片37点が出土している。土師器片には，口縁部が「S」字状の土師器甕の体部から口縁部にかけての細片3点が含まれる。第167図3の土師器台付甕は覆土下層から出土している。

所見 本跡は，出土遺物から古墳時代の前期に構築された土坑で，埋まる過程で土器片が投棄あるいは流れ込んだものと思われる。性格は不明である。



第167図 第4号土坑・出土遺物実測図

第4号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第167図 1	甕 土器器	A (16.4)	口縁部細片。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面ナデ。口縁部下端には刷毛目痕が残る。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P 442 覆土中 5%
		B (2.1)				
2	甕 土器器	A (13.8)	口縁部細片。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面ナデ。口縁部下端には刷毛目痕が残る。	石英・長石・パミス 黄褐色 普通	P 444 覆土中 5%
		B (2.3)				
3	台付 土器器	B (3.9)	脚台部から体部下端にかけての破片。脚台部は「ハ」の字状に開く。体部はわずかに内摩しながら立ち上がる。	体部下端から体部にかけて刷毛目痕が施されている。	石英・長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P 445 覆土下層 5%
		E (2.2)				

第7号土坑 (第168図)

位置 調査区南部, H5a区。

規模と平面形 長径1.38m, 短径0.55mの不整長楕円形で、深さは22cmである。

長径方向 N-84°-W

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 1層である。

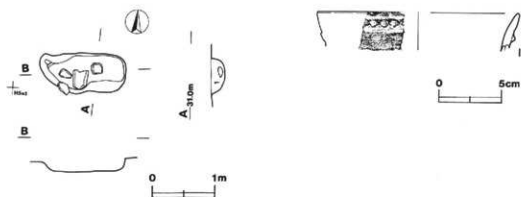
土層解説

1 黄緑色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物極微量

遺物 土器片26点及び瓦片4点が出土している。

所見 本跡は、投棄された8世紀代の瓦片が底面から出土していることから、時期はそれ以降と考えられる。

性格は不明である。



第168図 第7号土坑・出土遺物実測図

第7号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	甕 土器器	A (16.2) B (3.0)	口縁部細片。口縁部はわずかに外反し、棒状工具による押圧が施された隆帯が貼り付けられている。	口縁部外面には刷毛目痕が残る。内面ナデ。	雲母・パミス 鈍い黄褐色 普通	P 446 覆土中 5%

第8号土坑 (第169図)

位置 調査区南部, H5₀₃区。

重複関係 本跡は, 第1号溝に掘り込まれている。

規模と平面形 長径4.00m, 推定短径3.40mの不定形で, 深さは35cmである。

長径方向 N-10°-E

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 平坦である。

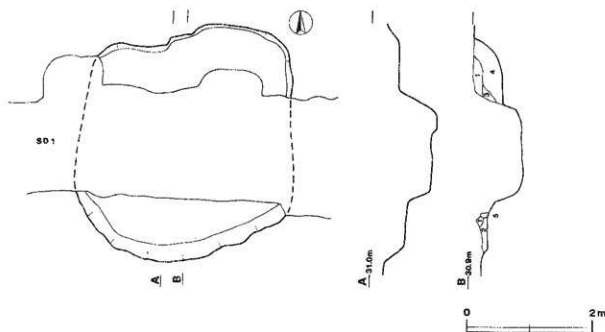
覆土 5層から成る。ロームブロックが見られることから, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック少量, 焼土粒少量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック微量

遺物 土師器片99点, 弥生土器片9点及び瓦片2点が出土している。土師器片は壺体部片が大部分であるが, 台付甕の舞台部片2点が含まれる。

所見 本跡は, 出土遺物及び重複関係から古墳時代の土坑と考えられる。性格は不明である。



第169図 第8号土坑実測図

第9号土坑 (第170図)

位置 調査区南部, I5₀₉区。

規模と平面形 短軸1.90m。長軸は3.00mまで測れるが, 調査区外へ延びているため全長は確認できない。半

面形は隅丸長方形と推定される。深さは約35cmである。

長軸方向 N-2°-E

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 平坦で、緩やかに傾斜する。

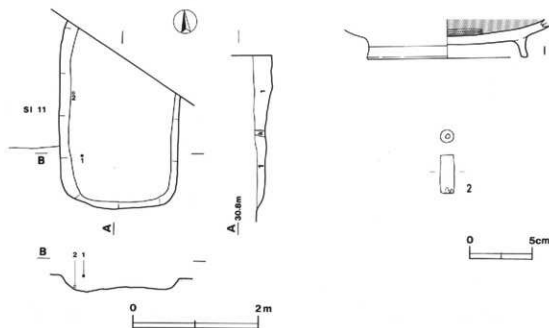
覆土 1層である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片77点、須恵器片5点、弥生土器片10点及び管玉1点が出土している。

所見 本跡は、出土する遺物の時期差が大きく、ほとんどが流れ込みと思われる。時期や性格は不明である。



第170図 第9号土坑・出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 1	土師器 盤	B (3.0) D 12.6 E 1.6	高台部から底部にかけての破片。 高台は直線的に「ハ」の字状に開く。	底部内面磨き、外面回転ヘラ削り後ナデ。高台部内・外面ナデ。	石英・長石・パミス 橙色 普通	P447 30% 内面黒色処理 覆土上層

図版番号	器種	計 測 値					石 材	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第170図2	管 玉	(3.1)	径 (1.1)	(0.3)	(5.8)	緑泥片岩	床 面	Q34	

第27号土坑 (第171図)

位置 調査区南部、E3a6区。

規模と平面形 長径0.90m、短径0.85mの円形で、深さは25cmである。

長径方向 N-10°-E

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 平坦で、わずかに傾斜する。

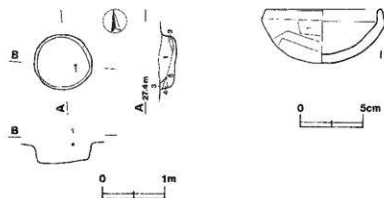
覆土 5層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム大ブロック・焼土粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器甕体部片3点、土師器碗1点及び弥生土器片1点が出土している。第171図1の土師器碗は覆土上層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なくしかも覆土上層出土であるため、時期や性格は不明である。



第171図 第27号土坑・出土遺物実測図

第27号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	碗 土師器	A 9.4 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。外部は内湾しながら立ち上がり、吻部前後を経て、口縁部は内傾する。	口縁部内・外断面方向のナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	胎土・色調・焼成 鈍い褐色 普通	P448 覆土上層 95%

第33号土坑 (第172図)

位置 調査区南部、B2区1区。

規模と平面形 長径1.10m、短径0.75mの楕円形で、深さは41cmである。

長径方向 N—10°—W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 円凸である。

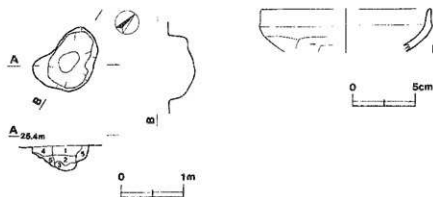
覆土 5層から成る。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大・中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器甕体部片12点、土師器杯1点及び弥生土器片1点が出土している。第172図1の土師器杯は覆土上層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なくしかもほとんどが覆土上層出土であるため、時期や性格は不明である。



第172図 第33号土坑・出土遺物実測図

第33号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第172図 1	坏 土師器	A 12.67 B (3.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内理しながら立ち上がり、 明瞭な稜を経て、口縁部は真上に 伸びる。	口縁部内・外面横方向のナデ。体 部外面へウケ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・スロ リア 鈍い黄褐色 普通	P449 15% 覆土中

第35号土坑 (第173図)

位置 調査区南部, B2es区。

規模と平面形 長軸0.90m, 短軸0.70mの長方形で、深さは34cmである。

長軸方向 N-90°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

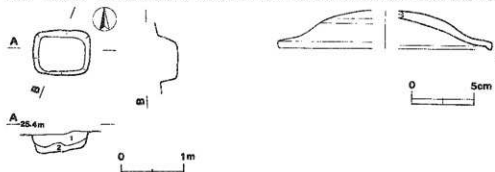
覆土 2層から成る自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片10点及び須恵器片1点が出土している。第173図1の須恵器蓋は覆土上層から出している。

所見 本跡は、出土遺物が少なくしかも覆土上層から出しているため、時期や性格は不明である。

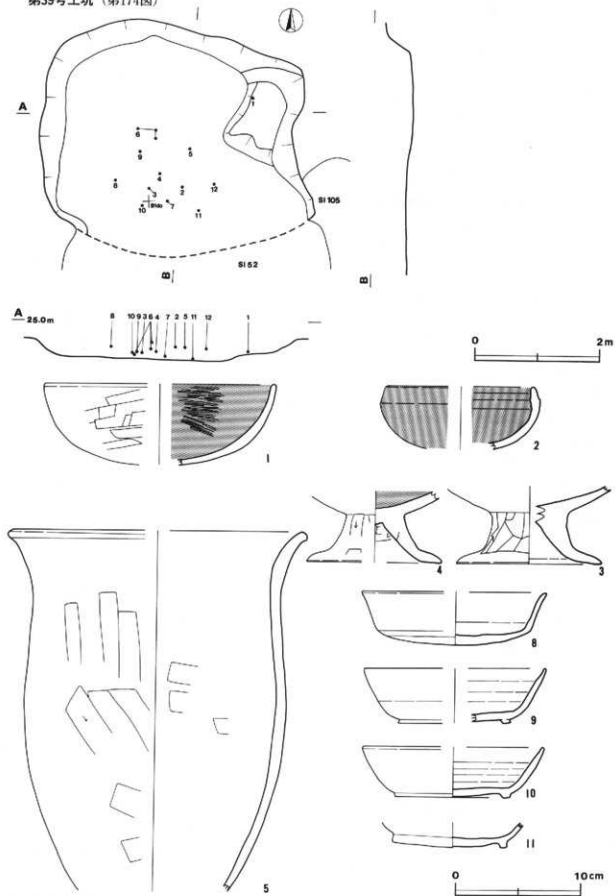


第173図 第35号土坑・出土遺物実測図

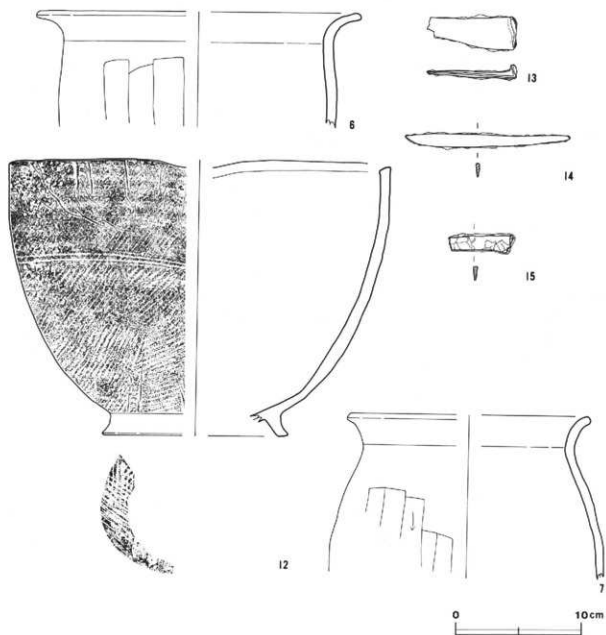
第35号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	蓋 須恵器	A (17.0) B (3.4)	天井部片。天井部は口縁部に向 かってなだらかに下降し、端部は 下方につまみ出されている。	天井部上段へウケ削り後ナデ。	長石・編礫 灰色 普通	P450 20% 覆土中

第39号土坑 (第174图)



第174图 第39号土坑·出土遗物实测图



第175図 第39号土坑出土土物実測図

位置 調査区南部，B140区。

重複関係 本跡は，第52号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸4.08m，短軸3.55mの不整形方で，深さは33cmである。

長軸方向 N-90°

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量

- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物 土師器片及び須恵器片が多量に出土している。第174図及び175図の遺物はいずれも中央部床面を確認された焼土と炭化物の塊の中及びその周囲から出土している。

所見 本跡は、当初住居跡として調査を始めたが、壁の立ち上がりが極めて緩やかなことや平面形が不整形であることなどから土坑とした。遺構中央部で確認された比較的大きな焼土塊や炭化物中から多くの土器片が出土していることから、火を燃やしながら何らかの祭事が行われた可能性がある。

第46号土坑 (第176図)

第39号上坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	手法の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第174図	1 土師器	A (18.4) B (6.4)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面へう割り後丁寧なナデ。	長石 鈍い黄褐色 普通	P451 40% 内面黒色処理 覆土中層
2	2 土師器	A (12.7) B (4.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、不明瞭な後を経て、口縁部は直線的に内彎する。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面へう割り後丁寧なナデ。	長石・石英・小礫 褐色 普通	P205 15% 内・外面黒色処理 二次焼成 覆土中層
3	3 高台付土師器	B (6.2) D (11.7) E 4.2	脚部から体部にかけての破片。脚部は直く、長く短く直線的にわずかに「ハ」の字状に開き、踵部は広がる。体部は内彎しながら立ち上がる。	灰底部内面磨き。外面へう割り後ナデ。脚部外面へう割り後ナデ、内面ナデ。	バミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P206 40% 二次焼成 覆土下層
4	4 高台付土師器	B (5.7) D (10.8) E 3.8	脚部から灰底部にかけての破片。脚部は直く、わずかに外反しながら「ハ」の字状に開き、裾部は広がる。	灰底部内面磨き。外面へう割り後ナデ。脚部外面へう割り後ナデ、内面へう割り。	バミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P209 15% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中層
5	5 土師器	A (25.8) B (9.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、口縁部はやかに外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面へう割り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P453 70% 覆土中層
第175図	6 土師器	A (25.8) B (9.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎し、口縁部は外反して直く。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面縦方向のへう割り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P454 10% 覆土下層
7	7 土師器	A (19.4) B (13.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、脚部から口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面縦方向のナデ。体部外面縦方向のへう割り、内面ナデ。	石英・長石・バミス・スコリア 鈍い褐色 普通	P212 10% 覆土下層
第176図	8 須恵器	A (14.8) B 4.3 C 7.2	底部から口縁部にかけての破片。灰丸底の平底。体部は内彎しながら立ち上がった後上向きに折れ、中位から口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。口縁部内・外面ナデ。灰底部外面へう割り後ナデ。	長石・雲母 灰白色 良好	P455 55% 覆土下層
9	9 高台付須恵器	A (14.6) B 4.3 D (9.0) E 9.3	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。	長石・雲母 灰白色 良好	P456 20% 覆土下層
10	10 高台付須恵器	A (14.6) B 4.0 D (9.2) E 0.3	高台部から口縁部にかけての破片。付高台。高台は短く、体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。	バミス・スコリア 灰白色 良好	P206 40% 覆土下層
11	11 高台付須恵器	B (2.0) D 9.2 E 0.5	高台部から体部にかけての破片。付高台。高台は短く、体部は内彎しながら立ち上がる。	ロクロ整形。灰底部内面ナデ。	バミス・スコリア 灰白色 良好	P211 5% 床面
第175図	12 高台付須恵器	A (30.5) B 21.5 D (14.8) E 1.7	高台部から口縁部にかけての破片。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部には洋ぎし目が付く。	口縁部外面及び体部外面平行引き、内面ナデ。	長石・雲母・バミス・スコリア 褐色 普通	P207 40% 二次焼成 覆土中層

区画番号	器種	計測値				材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第175図13	鐙	(7.2)	(2.6)	(0.5)	(20.9)	鉄	覆土中	M8
14	刀子	(13.2)	(1.1)	(0.3)	(9.7)	鉄	覆土中	M9
15	刀子	(5.1)	(1.4)	(0.4)	(7.9)	鉄	覆土中	M10

位置 調査区南部，C2e7区。

規模と平面形 長軸2.67m，短軸2.42mの不整長方形で，深さは30cmである。

長軸方向 N-23°-W

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 平坦である。

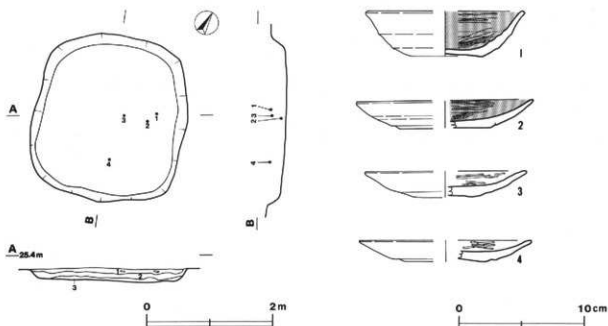
覆土 3層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・黄白色粘土粒子微量
- 2 黒色 焼土粒子・炭化粒子・黄白色粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・黄白色粘土粒子少量

遺物 土師器片614点及び須恵器片13点が出土している。第176図1の土師器環，3,4の土師器皿は覆土中層から，2の土師器環は覆土下層から出土している。

所見 本跡は，覆土下層及び床面から土器細片が多量に出土していることから，一時期に投棄されたものと思われる。出土遺物から9世紀後半の土坑と考えられる。



第176図 第46号土坑・出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 1	土師器 土師器	A [12.8]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり。口縁部は薄くなってわずかに 外反する。	ロクロ整形。体部外面には強いロ クロ目が見える。内面磨き。体部外 面下段及び底部外面回転ヘラ削り 後ナデ。	石英・長石・輝石 鈍い黄褐色 普通	P457 40% 内面黒色処理 覆土中層
		B 3.6				
		C 5.8				
2	土師器 土師器	A [14.2]	底部から口縁部にかけての破片。 底部は平底で突出気味。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部に 至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 及び底部外面ナデ。	長石 鈍い黄褐色 普通	P458 15% 内面黒色処理 覆土下層
		B 2.2				
		C [7.4]				
3	土師器 土師器	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり。口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部下端 回転ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘ ラ削り後ナデ。	長石・雲母 鈍い黄褐色 普通	P459 15% 覆土中層
		B 2.1				
		C 5.4				
4	土師器 土師器	A [13.8]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎しながら立ち上 がり。薄くなって口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。外面ナデ。	石英・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P460 15% 覆土中層
		B 1.7				
		C [6.6]				

第59号土坑 (第177図)

位置 調査区南部, E3c6区。

規模と平面形 長径1.90m, 短径1.65mの不整形円形で、深さは30cmである。

長径方向 N-15°-W

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 皿状である。

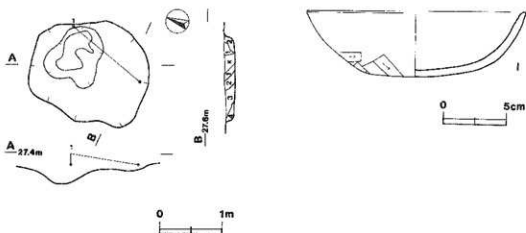
覆土 4層から成る人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子・焼土小ブロック中量、ローム小ブロック・焼土粒少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

遺物 土師器片56点、須恵器片4点及び弥生土器片1点が出土している。第177図1の上師器坏は覆土中からの出土である。

所見 本跡は、出土遺物から7世紀後半頃の土坑と考えられる。土器片が投棄され、人為的に埋められたものと思われる。



第177図 第59号土坑・出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第177図 1	坏 十脚器	A (17.4) B 3.2	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内彎しながら立ち上 がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面及び体部内・外面 ナデ。底部外面へう割り後ナデ。 内面ナデ。	石灰・長石・スコ リア 明赤褐色 普通	P461 65% 覆土中層

第60号土坑 (第178図)

位置 調査区南部, E3c7区。

重複関係 本跡は、第36-B号住居跡と重複する。

規模と平面形 長径1.30m, 短径1.10mの不定形で、深さは24cmである。

長径方向 N-10°-E

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 凹凸である。

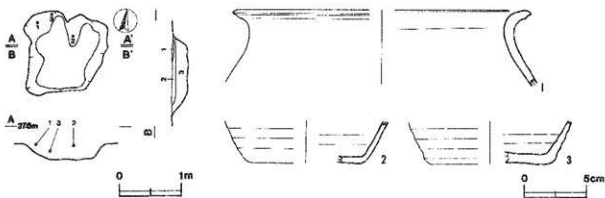
覆土 3層から成る。各層にロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 純 色 ローム小ブロック・ローム粒子・硬土小ブロック中量、焼土粒子少量
- 2 梅 色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 黒 色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片56点、須恵器片5点、縄文土器片1点及び弥生土器片2点が出土している。第178図1の十脚器破片、2,3の須恵器片はいずれも覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から8世紀中頃の土坑と思われる。比較的多くの土師器片が出土していることや人的に埋め戻されている様子から、土器片投棄のための土坑とも考えられる。



第178図 第60号土坑・出土遺物実測図

第60号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第178図 1	土師器 十脚器	A (23.7) B (6.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎し、頸部から口縁部は 外反する。頸部はつまみ上げられ ている。	内・外面ナデ。	石灰・長石・雲母 褐色 普通	P462 5% 覆土中層
2	坏 須恵器	B (3.4) C (8.6)	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は外彎して立ち上がる。	口縁口整形。底部外面へう割り後 ナデ。	長石 黄灰色 普通	P464 15% 覆土中層
3	坏 須恵器	D (3.4) C (9.4)	底部から体部にかけての破片。平 底。体部は外彎して立ち上がる。	口縁口整形。体部外面には強い口 縁口が残る。底部外面へう割り 後ナデ。	長石 黄灰色 普通	P463 15% 覆土中層

第64-A号土坑 (第179図)

位置 調査区南部, I5a区。

規模と平面形 南北軸長0.90m。東西軸長は0.80mまで測れるが、調査区外へ延びているために全長は確認できない。平面形は長方形と推定される。深さは約20cmである。

長軸方向 N-11°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

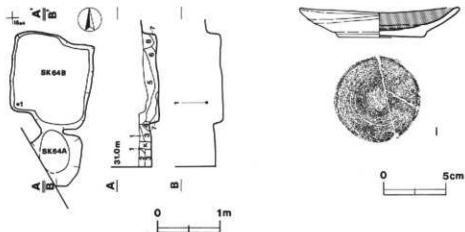
覆土 4層から成る。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀後半から10世紀初め頃の土坑である。



第179図 第64-A・B号土坑・出土遺物実測図

第64-B号土坑 (第179図)

位置 調査区南部, I5a区。

規模と平面形 長軸1.50m, 短軸1.30mの不整長方形で、深さは32cmである。

長軸方向 N-10°-E

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層から成る。ロームブロックが見られることから、人為堆積と思われる。

土層解説 (5~8が本跡のものである。)

- 5 黒褐色 ローム粒子・KP大ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム大ブロック・KP大ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、KP大ブロック少量
- 8 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片9点が出土している。第179図1の土師器皿は南西コーナー壁面覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から10世紀初め頃のものと思われる。性格は不明である。

第64-B号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179図 1	土師器	A 12.8 B 2.5 C 6.7	口縁部一部欠損。底部は平底で尖山気味。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。底部回転糸切り痕ナデ。	長石・スコリア 濃い黄褐色 普通	P465 95% 内面黒色処理 覆土中層

第73号土坑（第180図）

位置 調査区南部，C2₇区。

規模と平面形 長径1.80m。短径は攪乱を受けているが、推定1.30m。楕円形で、深さは58cmである。

長径方向 N-14°-W

壁面 緩やかに傾斜して立ち上がる。

底面 凹凸である。

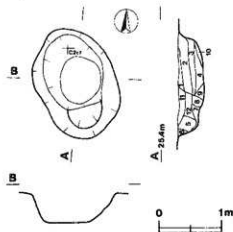
覆土 12層から成る。ロームブロックが見られることから人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化物・灰白色粘土大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・灰白色粘土大ブロック中量・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム大ブロック中量・焼土粒子・炭化粒子・灰白色粘土小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・灰白色粘土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム大ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子・灰白色粘土大ブロック少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量、K₂P₂O₇粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ローム大ブロック・焼土大ブロック・灰白色粘土大ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
- 10 黒褐色 ローム粒子多量
- 11 黒褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック・焼土粒子・炭化物・灰白色粘土大ブロック少量
- 12 黒褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・灰白色粘土大ブロック少量

遺物 土師器片52点、須恵器片1点及び弥生土器片5点が出土している。土師器片の大部分は甕体部片及び内面黒色処理された坯体部片である。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代の土坑と思われる。性格は不明である。



第180図 第73号土坑実測図

第75号土坑（第181図）

位置 調査区南部，C2₁₀区。

重複関係 本跡は、第80号住居跡と重複する。

規模と平面形 長径3.15m, 短径2.50mの楕円形で、深さは60cmである。

長径方向 N-80°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

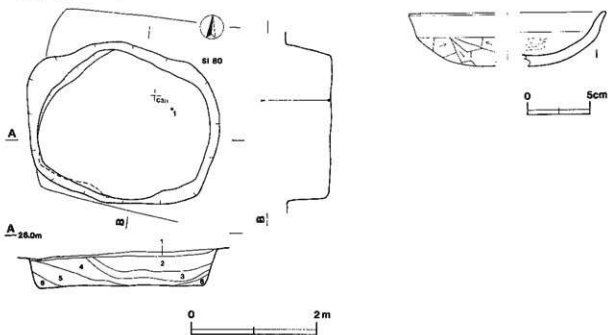
覆土 6層から成る自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------------------------|
| 1 | 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 | 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 黒色 | 焼土大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 土師器片113点、須恵器片29点及び弥生土器片6点が出土している。第181図1の土師器環は床面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代後期のものと思われる。黄白色粘土層を掘り込んでいることから粘土採掘坑と考えられる。



第181図 第75号土坑・出土遺物実測図

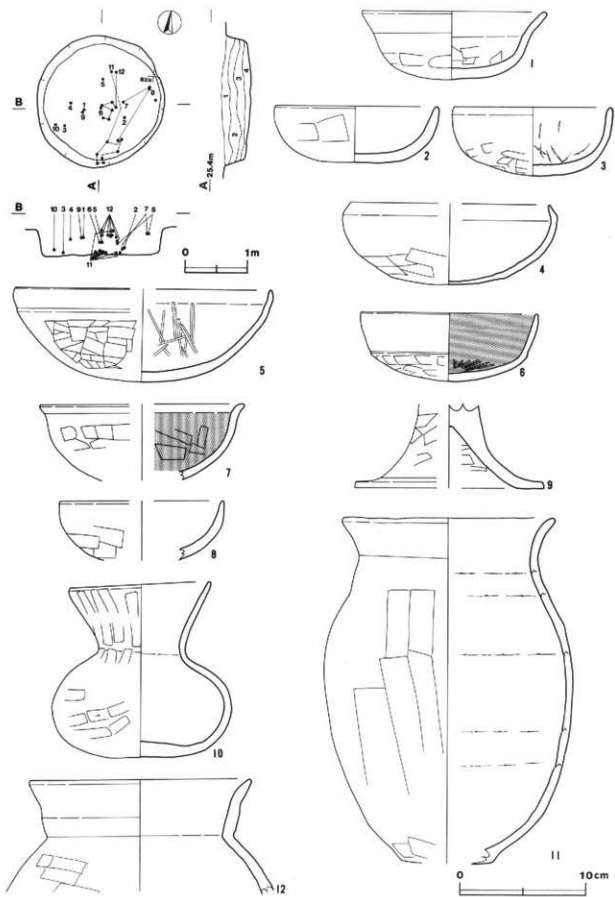
第75号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 1	土師器 環	A(15.8) B(4.3)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体形は内彎しながら立ち上がり、横を経て、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体形外面及び底部外面へウ割り後ナデ、内面磨き。	石英・長石 橙色 普通	P504 40% 二次焼成 灰面

第76号土坑 (第182図)

位置 調査区南部, B2j区。

規模と平面形 長径2.10m, 短径2.05mの円形で、深さは44cmである。



第182图 第76号土坑·出土遗物实测图

長径方向 N-0°

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層から成る人為堆積である。

土層解説

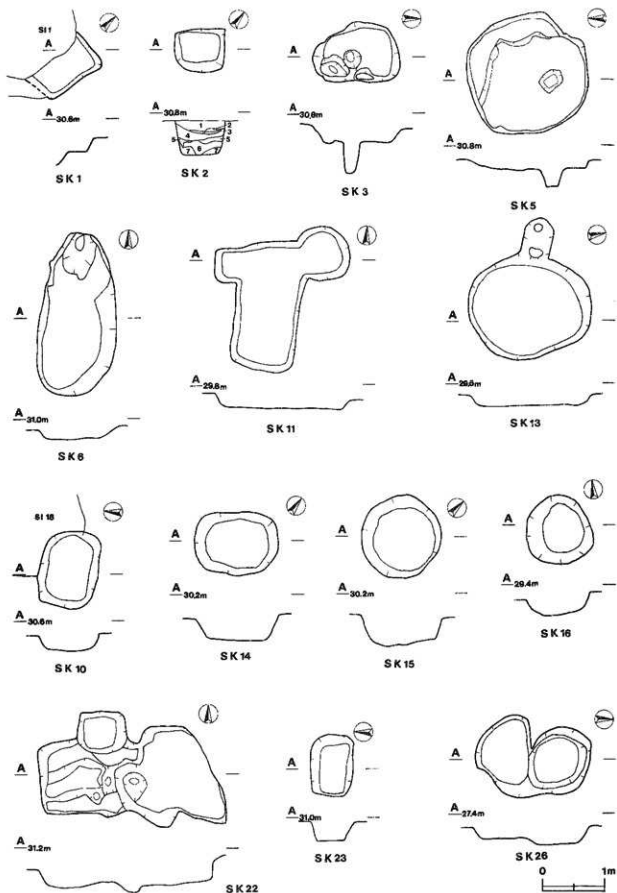
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、地土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、視上粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、地土粒子微量
- 4 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片175点、須恵器片3点及び弥生土器片11点が出土している。第182図1, 4, 5, 6の土師器坏, 9の上師器高坏及び12の土師器壺は覆土中層から、2, 3の土師器坏, 10の上師器増及び11の土師器壺は覆土下層及び床面からそれぞれ出土している。7, 8の土師器坏は覆土中層出土片と下層出土片が接合している。

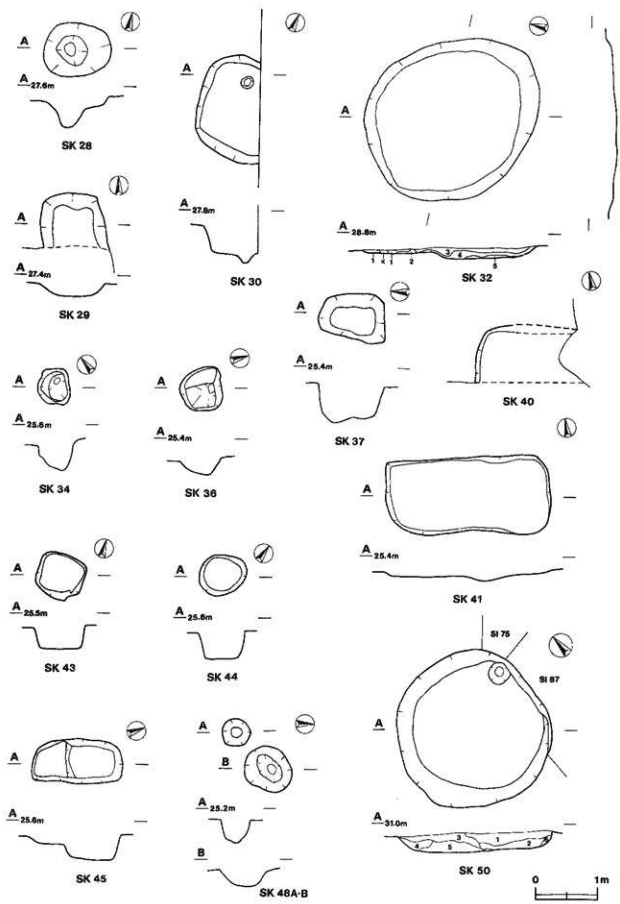
所見 本跡は、出土遺物から古墳時代後期のものと思われる。性格は不明である。

第76号上坑出土遺物観察表

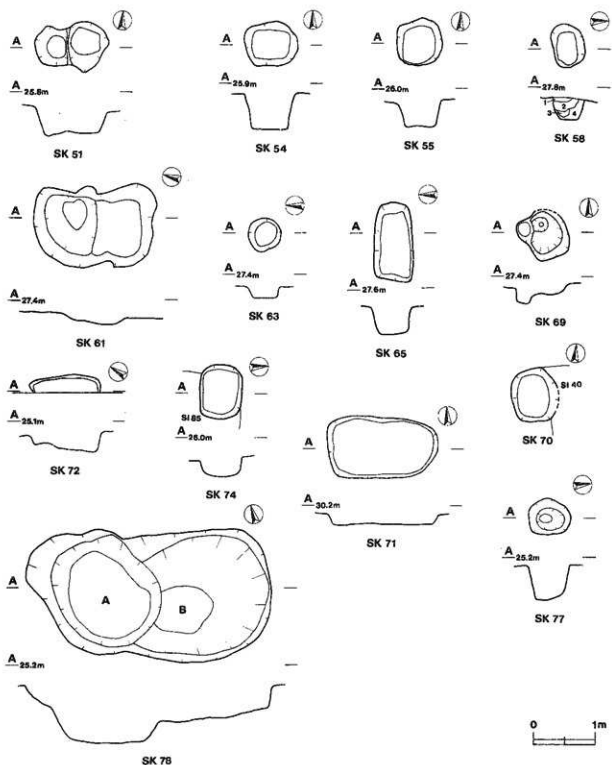
図番番号	器種	寸法値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 1	坏 土師器	A 14.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁しながら立ち上がり、頸部でく びれ、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外 面及び底部内・外面へラ削り後ナ デ。	石英・長石・スコ リア 鈍い褐色 普通	P466 95% 覆土中層
		B 5.4				
2	坏 土師器	A 13.1	口縁部一部欠損。平底気味の丸底。 体部は内壁しながら立ち上がり、 口縁部に至る。	内面ナデ、外面へラ削り。	石英・長石・パ ミス 褐色 普通	P467 95% 覆土下層
		B 4.5				
3	坏 土師器	A 12.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 壁しながら立ち上がり、口縁部に 至る。	口縁部内・外面ナデ。体部外面 へラ削り後ナデ、内面ナデ。底部内・ 外面へラ削り後ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P468 95% 覆土下層
		B 5.5				
4	坏 土師器	A (16.0)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内壁しながら立ち上 がり、明瞭な接合を経て、口縁部は 短く、内傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面 及び底部外面へラ削り後ナデ、内面 ナデ。	石英・長石 褐色 普通	P469 50% 覆土中層
		B 6.5				
5	坏 土師器	A (29.4)	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内壁しながら立ち上 がり、明瞭な接合を経て、口縁部は 内傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面 へラ削り後ナデ、内面傾な働き。 底部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石 普通	P470 45% 覆土中層
		B 7.4				
6	坏 土師器	A 14.2	底部から口縁部にかけての破片。 丸底。体部は内壁しながら立ち上 がり、小さな接合を経て、口縁部は わずかに内傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面 及び底部外面へラ削り後ナデ。体部 内面及び底部内面放射状のヘラ削 り。	石英・長石・雲母 明赤褐色 普通	P471 50% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中層
		B 5.5				
7	坏 土師器	A (16.4)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁し、口縁部は外反する。	口縁部外面傾方向の強いナデ。内 面ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、 内面ナデ。	長石 明赤褐色 普通	P472 40% 内面黒色処理 二次焼成 覆土中・下層
		B (6.0)				
8	坏 土師器	A (18.0)	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁し、口縁部は深くなっ てわずかに外反する。	口縁部内・外面傾方向のナデ。体 部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・パ ミス 明赤褐色 普通	P473 30% 覆土中・下層
		B (4.7)				
9	高坏 土師器	A (15.0)	脚部片。脚部は外反しながら「ハ」 の字状に開き、裾は広がる。	脚部外面へラ削り後「家」型ナデ、 内面へラ削り後縁なしナデ。	長石 明赤褐色 普通	P474 65% 覆土中層
		B (6.7)				
10	増 土師器	A 11.3	口縁部一部欠損。平底気味の丸底。 体部は内壁しながら立ち上がり、 頸部を緩やかに外反する。口縁部 は外傾する。	口縁部外面傾方向のヘラ削り後ナ デ、内面ナデ。体部外面及び底部 外面へラ削り後ナデ。体部内面 及び底部内面ナデ。	石英・長石・雲母 鈍い褐色 普通	P475 95% 覆土下層
		B 14.0				
11	壺 土師器	A 18.7	体部及び底部一部欠損。底部は平 底で突出気味。体部は内壁しなが ら立ち上がり、頸部から口縁部は 緩やかに外反する。	口縁部内・外面傾方向のナデ。体 部外面傾方向のヘラ削り後ナデ、 内面ナデ。	石英・長石 鈍い褐色 普通	P476 65% 床面
		B 27.4				
		C (7.3)				
12	壺 土師器	A 17.5	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内壁し、頸部は「く」の字 状に折れる。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面傾方向のナデ。体 部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石・パ ミス・スコリア 褐色 普通	P477 20% 覆土中層
		B (9.2)				



第183図 その他の土坑実測図(1)



第184図 その他の土坑実測図(2)



第185図 その他の土坑実測図(3)

その他の土坑土層解説

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量、KP大ブロック少量
- 7 明褐色 ローム粒子多量

第32号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒 褐色 ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム大ブロック多量
- 5 焼 褐色 ローム大ブロック中量、ローム中ブロック少量

第50号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物少量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

第58号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

表 長者原敷遺跡土坑一覧表

土坑 番号	位 置	方位 (真方位)	平 面 形	規 模		傾 向	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考 （遺 跡 考 査 表 参照）
				長さ×幅(m)	深さ(m)					
1	H5.1	N 8° E	長 方 形	1.10 × 0.52	23	緩斜	平坦	自然	土師器(甕)	SI-1
2	H5.2	N-37°-E	長 方 形	0.80 × 0.66	59	外傾	皿状	自然	土師器(甕)、弥生土器(甕)	
3	H5.12	N-13°-W	楕 円 形	1.40 × 0.35	86	外傾	皿状	自然	土師器(甕)、弥生土器(甕)	
4	H5.12	N-6°-E	円 形	2.22 × 2.24	82	垂直	皿状	自然	土師器(甕・高坏・甕)、弥生土器(甕)	
5	H5.22	N-24°-E	円 形	2.07 × 2.00	31	緩斜	平坦	自然		
6	H5.33	N-6°-E	長 楕 円 形	2.60 × 1.24	35	外傾	円凸	自然	土師器(甕)、弥生土器(甕)	
7	H5.33	N 84° W	不整長楕円形	1.28 × 0.55	22	緩斜	平坦	自然	土師器(坏・甕)、瓦	
8	H5.33	N-10°-E	不 定 形	4.00 × 3.40	35	緩斜	平坦	人為	土師器(坏・甕、台付甕)、瓦、弥生土器(甕)	
9	I5.33	N-2°-E	隅丸長方形	0.90 × 1.30	35	緩斜	平坦	自然	土師器(坏・高坏・甕)、甕、弥生土器(甕)	SI 11, SD-3
10	I5.33	N-84°-W	長 方 形	1.20 × 0.82	27	緩斜	平坦	自然	土師器(坏・甕)	SI-18
11	J6.1	N-5°-E	不 定 形	2.05 × 1.02	22	緩斜	平坦	自然		
13	J6.1	N-21°-E	不整楕円形	1.96 × 1.60	18	緩斜	平坦	自然	土師器(坏・甕)、須恵器(甕)、弥生土器(甕)	
14	G4.13	N-60°-E	楕 円 形	1.20 × 1.00	40	緩斜	平坦	自然	土師器(高坏・甕)	
15	G4.13	N 0°	円 形	1.25 × 1.27	50	緩斜	平坦	自然	土師器(高坏・甕)	
16	G4.22	N-0°	円 形	1.08 × 1.01	30	緩斜	平坦	自然		
22	H5.17	N-89°-E	不 定 形	2.83 × 1.68	50	緩斜	円凸	自然		
23	H5.14	N 90° E	不整長方形	0.38 × 0.68	25	緩斜	平坦	自然	土師器(高坏・甕)	
26	E3.13	N-9°-E	不整楕円形	1.84 × 1.32	30	緩斜	円凸	自然	土師器(高坏・甕)、須恵器(甕)	
27	F3.13	N-10°-E	円 形	0.90 × 0.65	25	緩斜	平坦	自然	土師器(甕)、弥生土器(甕)	
28	E3.14	N 73° E	楕 円 形	1.28 × 0.85	46	緩斜	皿状	自然	土師器(坏・高坏・甕)	
29	E3.17	N-4°-W	不 定 形	1.03 × 0.84	22	緩斜	平坦	自然		
30	E4.11	N-21°-W	不 定 形	1.74 × 0.90	60	緩斜	皿状	自然	土師器(坏・甕)、須恵器(甕)、弥生土器(甕)	
32	F3.10	N-54°-W	楕 円 形	2.96 × 2.50	19	緩斜	平坦	自然	土師器(坏・甕)、弥生土器(甕)	
33	B2.13	N 10° W	楕 円 形	1.10 × 0.75	41	緩斜	円凸	人為	土師器(坏・甕)、弥生土器(甕)	
34	B2.13	N-15°-E	楕 円 形	3.62 × 0.55	40	緩斜	円凸	自然	土師器(坏・甕)	
35	B2.13	N-90°	長 方 形	0.90 × 0.70	34	外傾	平坦	自然	土師器(坏・甕)、須恵器(甕)	
36	B2.13	N-40°-W	不 定 形	0.75 × 0.70	25	外傾	皿状	自然		
37	B2.13	N-4°-W	不整楕円形	1.07 × 0.69	60	外傾	円凸	自然	土師器(坏・甕)	
39	F1.10	N-90°	〔不 整 方 形〕	6.08 × 3.25	33	緩斜	平坦	自然	土師器(坏・甕)、須恵器(坏・甕)	SI-32

土坑 序号	位 置	方位角 (度)	平面图	尺 寸		断面	底面	覆土	出土 遗 物	编 号	考 核
				长×宽(m)	深(m)						
40	B2 ₁₁	N 70° W	(梯 形)	1.70 × 0.90	22	倾斜	凹凸	自然			
41	B2 ₁₁	N 40° W	长 方 形	2.65 × 1.15	17	倾斜	凹凸	自然	土胎器 (环·壶)		
43	C2 ₁₇	N 90° E	方 形	0.75 × 0.70	37	外倾	平坦	自然	土胎器 (环·壶), 夹生土器 (壶)		
44	C2 ₁₈	N 32° E	梯 形	0.77 × 0.65	42	外倾	平坦	自然	铜器 (壶)		
45	C2 ₁₉	N 50° E	长 方 形	1.41 × 0.71	42	倾斜	平坦	自然	土胎器 (环·壶), 夹生土器 (壶)		
46	C2 ₁₇	N 20° W	不 整 长 方 形	2.07 × 2.42	30	倾斜	平坦	自然	土胎器 (环·壶), 夹生土器 (壶), 铜器 (环·壶)		
48A	C2 ₁₈	N 0° E	凹 形	0.47 × 0.42	39	倾斜	屈状	自然			
48B	C2 ₁₈	N 40° E	梯 形	0.78 × 0.70	26	倾斜	屈状	自然			
50	C2 ₁₁	N 7° E	凹 形	2.45 × 2.37	54	倾斜	平坦	自然	土胎器 (环·壶), 铜器 (环·壶), 夹生土器 (壶)	SI-87	
51	D2 ₁₁	N 72° E	不 整 梯 形	1.15 × 0.89	49	外倾	凹凸	自然			
54	C2 ₁₃	N 85° W	梯 形	0.90 × 0.72	52	外倾	平坦	自然	土胎器 (壶)		
55	D3 ₁₁	N 0° E	凹 形	0.76 × 0.71	46	外倾	平坦	自然	土胎器 (壶)		
58	E3 ₁₇	N 90° E	梯 形	0.70 × 0.51	35	外倾	平坦	自然	土胎器 (环·壶), 铜器 (壶), 瓦, 夹生土器 (壶)		
59	E3 ₁₁	N 15° W	不 整 梯 形	1.90 × 1.65	30	倾斜	屈状	人为	土胎器 (环·壶), 铜器 (环·壶), 夹生土器 (壶)		
60	E3 ₁₇	N 10° E	不 定 形	1.30 × 1.10	24	倾斜	凹凸	人为	土胎器 (环·壶), 铜器 (环·壶), 夹生土器 (壶)	SI-36B	
61	E3 ₁₁	N 10° W	不 整 梯 形	1.88 × 1.32	20	倾斜	屈状	自然			
62	E3 ₁₇	N 40° E	不 整 凹 形	0.91 × 0.82	20	倾斜	屈状	自然	土胎器 (壶), 夹生土器 (壶)		
63	E3 ₁₈	N 0° E	凹 形	0.53 × 0.52	18	外倾	平坦	自然	土胎器 (壶), 铜器 (壶), 夹生土器 (壶)		
64A	E3 ₁₁	N 10° W	长 方 形	0.90 × 0.80	20	倾斜	平坦	人为			
64B	E3 ₁₁	N 10° E	不 整 长 方 形	1.50 × 1.30	32	垂直	平坦	人为	土胎器 (壶)		
65	E3 ₁₇	N 90° E	长 方 形	1.25 × 0.82	44	外倾	平坦	自然			
66	E3 ₁₈	N 3° W	长 方 形	1.18 × 0.76	28	外倾	平坦	自然	土胎器 (环·壶, 环·壶)	SI-36A	
67	E3 ₁₈	N 3° W	长 方 形	1.16 × 0.71	22	外倾	平坦	自然			
68	E3 ₁₈	N 0° E	长 方 形	0.85 × 0.74	28	外倾	凹凸	自然	土胎器 (环·壶), 铜器 (环·壶)	SI-36A	
69	E3 ₁₈	N 17° W	不 整 凹 形	0.80 × 0.65	18	倾斜	屈状	自然	土胎器 (环·壶)	SI-108	
70	E3 ₁₈	N 17° W	梯 形	0.81 × 0.70	30	倾斜	屈状	自然	土胎器 (环·壶), 夹生土器 (壶)	SI-40	
71	F1 ₁₂	N 90° E	长 梯 形	1.76 × 1.00	18	倾斜	平坦	自然	土胎器 (环·壶), 瓦		
72	C2 ₁₃	N 30° W	梯 形	1.11 × 0.80	33	倾斜	凹凸	自然	土胎器 (壶), 铜器 (壶), 夹生土器 (壶)	SI-83	
73	C2 ₁₇	N 14° W	梯 形	1.80 × 1.30	58	倾斜	凹凸	人为	土胎器 (环·壶), 铜器 (壶), 夹生土器 (壶)	SI-68	
74	D2 ₁₁	N 80° W	长 方 形	0.86 × 0.64	32	外倾	平坦	自然			SI-85
75	C2 ₁₃	N 60° W	梯 形	3.15 × 2.50	60	外倾	平坦	自然	土胎器 (环·壶), 铜器 (环·壶), 夹生土器 (壶)	SI-80	
76	B2 ₁₅	N 0° E	凹 形	2.10 × 2.05	44	垂直	平坦	人为	土胎器 (环·壶, 环·壶, 环·壶), 铜器 (环·壶), 夹生土器 (壶)		
77	C2 ₁₇	N 40° E	梯 形	0.68 × 0.58	55	垂直	屈状	自然	土胎器 (环·壶)		
78A	B2 ₁₅	N 23° W	不 整 梯 形	2.18 × 1.53	47	外倾	平坦	自然			SI-55
78B	B2 ₁₅	N 85° W	梯 形	2.18 × 1.79	29	外倾	平坦	自然			SI-55
79	E3 ₁₀	N 10° E	长 方 形	1.57 × 1.00	32	外倾	平坦	自然			

3 溝

当遺跡では、9条の溝を検出した。以下、それぞれの概要や出土遺物について記載する。

第1号溝（第186図）

位置 調査区南部，H5区。

重複関係 本跡は、第8号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 断面は逆台形である。上幅1.50～2.05m，下幅0.80～1.20m，深さ90～100cm，確認した長さは16.00mで、直線的に調査区外へ延びている。長楕円形の掘り込みが1か所ある。

方向 N-88°-W

覆土 自然堆積と思われる。

土層解説

A-A'

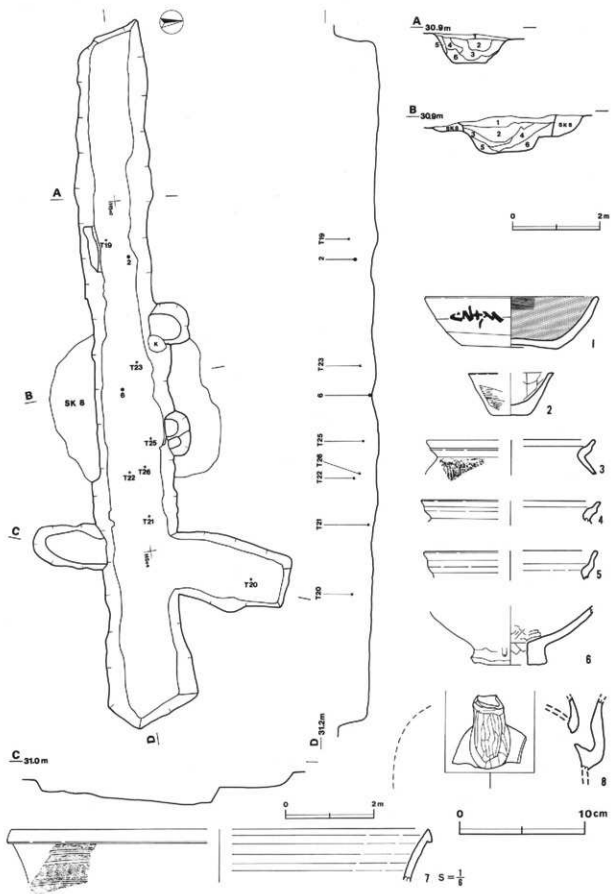
- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量，炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量，ローム中ブロック・炭化粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・焼土粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子・K P極微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック極微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量，ローム大ブロック微量，炭化粒子極微量

B-B'

- 1 鈍い褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子極微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物極微量
- 3 明褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量
- 5 煙色 ローム粒子多量，K P小ブロック中量
- 6 明褐色 ローム粒子・K P小ブロック少量，炭化物微量

遺物 土師器片566点，縄文土器片2点，弥生土器片48点及び瓦片26点が出土している。第186図2のミニチュア土器は覆土中層から、6の土師器甕は床面から出土している。8の須恵器浄瓶は攪乱部から出土したものである。他の遺物は覆土中からの出土である。第199図26，第202図19，20，第203図21，22，23，24，25の瓦片はいずれも覆土中・上層から出土している。

所見 本跡からは、体部外面に「久寺」と墨書された土師器坏の他、軒丸瓦1点を含め比較的多くの瓦が出土している。調査区南端の第5号溝からも、同様に軒丸瓦1点を含めて瓦片が出土している。第1号溝と第5号溝は規模及び形状がほとんど同じで、ほぼ90度で交差する。出土遺物も同じ時期のもので、ほとんどの遺物が覆土中・上層から出土する点も共通である。これらのことから、第1号溝と第5号溝とは、方形もしくは長方形を成す溝の一部と推定される。ところで、当遺跡は「常陸風土記」の記事から久慈郡衙及び部の寺の所在地と推定され、周辺からはそれを示すような瓦や「焼米」が採集されている。今回の調査で出土した「久寺」と墨書された坏などを考え合わせると、本跡は久慈郡衙に関わる寺の寺域を区画する溝ではないかと考えられる。また、本跡から出土した軒丸瓦（素縁複弁六葉花文）は8世紀代に位置付けられていることから、本跡も同時期の溝と考えられる。



第186图 第1号冢·出土物实测图

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188回 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.4 C 7.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面下縁同軸へつ削り後ナデ。体部外面へつ削り後ナデ。	石英・長石・スコリア 鈍い橙色 普通	P478 90% 内面白色処理 器表「久寺」か 覆土中
2	土師器 高坏	A [6.8] B 3.4 C 2.9	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外彎しながら立ち上がる。	体部外面には刷毛目が施されている。体部内面及び底部内面へつナデ調整。底部外面ナデ。	石英・長石 淡黄色 普通	P479 65% 覆土中弱
3	土師器 瓶	A [13.6] B (2.8)	口縁部破片。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面ナデ。肩部との境に刷毛目痕が残る。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P480 5% 覆土中弱
4	土師器 瓶	A [14.4] B (1.8)	口縁部破片。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面ナデ。肩部との境に刷毛目痕が残る。	長石・スコリア 淡黄褐色 普通	P481 5% 覆土中弱
5	土師器 瓶	A [14.0] B (2.3)	口縁部破片。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面ナデ。	長石 淡黄褐色 普通	P482 5% 覆土中弱
6	土師器 瓶	B (4.7) C 6.1	底面から体部にかけての破片。底部は平底で突出気味。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部外面へつ削り後ナデ、内面ナデ。	長石 鈍い黄褐色 普通	P483 10% 床面
7	土師器 甕	A [66.6] B (8.5)	口縁部破片。口縁部はわずかに外反し、肩部は折り返され、外面には沈線と波文が施されている。	口縁部内・外面ナデ。	長石・スコリア 灰色 普通	P484 5% 覆土中弱
8	土師器 罎	B (5.9)	注口破片。注口は内彎しながら立ち上がる。	注口部外面へつ削り調整。外面磨付番。	ハミス (物)灰オリーブ色 灰白色 普通	P485 5% 覆土中弱

第2号溝 (第187回)

位置 調査区南部、H5区。

重複関係 本跡は、第1号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 断面は逆台形である。上軸1.00～1.45m、下軸0.85～1.35m、深さ10～15cm、確認した長さは10.30mで、直線的に調査区外へ延びている。柱穴状のピットが確認されたが性格は不明である。

方向 N-60° E

覆土 自然堆積と思われる。

土層解説

B-B'

1 明褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量

2 橙褐色 ローム粒子多量、K P小ブロック微量

3 黄褐色 ローム粒子・K P小ブロック中量

C-C'

1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

2 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子極微量

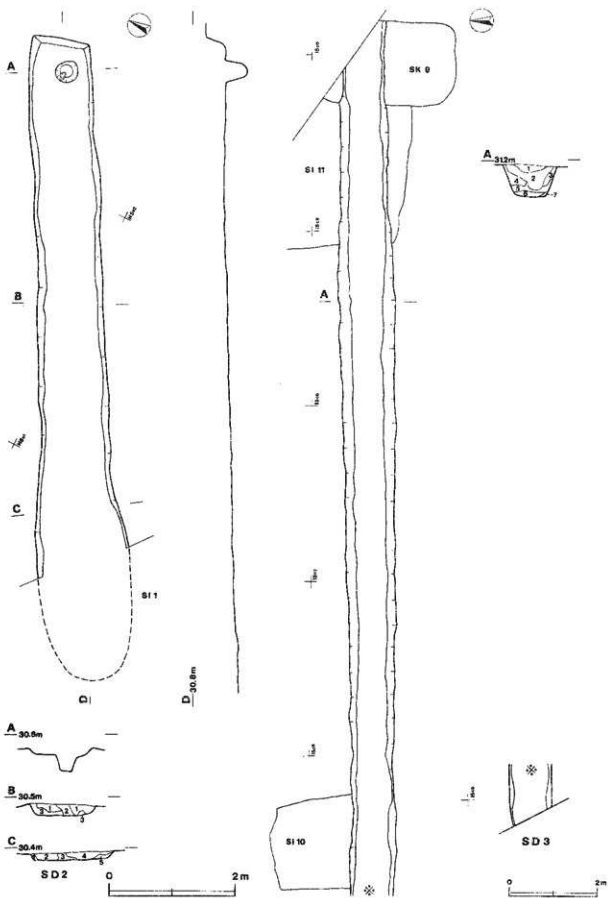
3 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、炭化粒子極微量

4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭土小ブロック少量

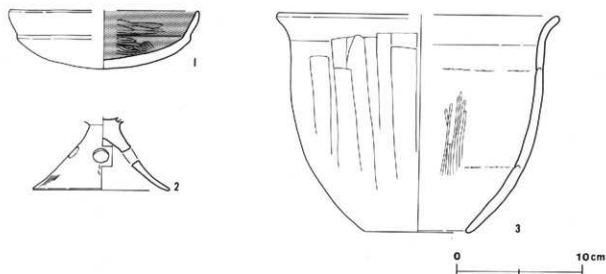
5 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

遺物 土師器片35点が出土している。第188回1の土師器坏、2の土師器高坏、3の土師器瓶はいずれも覆土中からの出土で、流れ込みと思われる。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代後期の溝と考えられる。性格は不明である。



第187图 第2·3号溝実測図



第188図 第2号溝出土遺物実測図

第2号溝出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第188図 1	土師器	A [15.2] B 4.6	底部から口縁部にかけての破片。先底。体部は内彎しながら立ち上がり、明瞭な稜を経て、口縁部は薄くなって外傾する。	内面磨き。口縁部外面横方向のナデ。体部外面及び底部外面へう磨り後ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P 486 20% 内面黒色処理 覆土中
2	高土師器	B (5.8) D 11.0 E 5.3	脚部片。脚部は外反しながら「ハ」の字状に開く。中位には4孔穿たれていたと推定される。	脚部外面細毛目調整後ナデ、内面ナデ。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P 487 45% 覆土中
3	低土師器	A (22.2) B 17.4 C 8.4	体部から口縁部にかけて一部欠損。無底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向の強いナデ。体部外面縦方向のへう磨り後ナデ、内面ナデ。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P 488 75% 覆土中

第3号溝 (第187図)

位置 調査区南部、I 5区。

重複関係 第11号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 断面は逆台形である。上幅1.00～1.20m、下幅0.70～0.80m、深さ約70cm、確認した長さは約21mで、直線的に調査区外へ延びている。

方向 N—90°

覆土 自然堆積である。

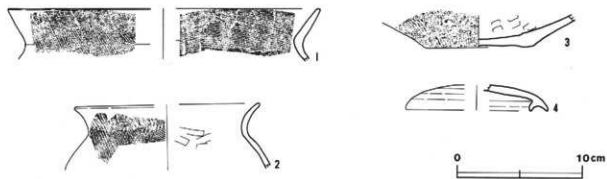
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム中ブロック・KP小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム中・小ブロック少量

遺物 土師器片570点、須恵器片6点及び弥生土器片124点が出土している。覆土下層及び床面からは、比較的多くの弥生土器片が出土している。第189図1～3の刷毛目調整を施された土師器片はいずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は、古墳時代前期に位置付けられる第11号住居跡に掘り込まれていることや床面から弥生時代後期

後半の土器片が数多く出土していることから、弥生時代末から古墳時代初め頃の溝と考えられる。性格は不明である。



第189図 第3号溝出土遺物実測図

第3号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 1	壺 土師器	A [25.0] B (4.2)	口縁部破片。	口縁部内・外面には刷毛目が密に施されている。	長石・雲母 鈍い黄褐色 普通	P489 5% 覆土中
2	壺 土師器	A [14.8] B (5.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内摩し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外面刷毛目調整、内面ナデ。	長石・スコリア 浅黄褐色 普通	P490 5% 覆土中
3	壺 土師器	B (2.5) C 8.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は浅い角度で外傾して立ち上がる。	体部外面刷毛目調整、内面ナデ。	長石 鈍い黄褐色 普通	P491 5% 覆土中
4	壺 須恵器	A [11.4] B (2.0)	天舟部から口縁部にかけての破片。天舟部は口縁部に向かってなだらかに下降する。口縁部内面にはかえりが付く。	天舟部外面上位回転へう削り、下位ナデ。内面ナデ。	長石 灰色 普通	P492 20% 覆土中

第4号溝 (第190図)

位置 調査区南部、I5区及びI6区。

重複関係 本跡は第18号住居跡と重複している。新旧関係は不明である。

規模と形状 断面はU字形である。上幅0.70～0.85m、下幅0.60～0.75m、深さ約15cmで、確認した長さは5.60mである。

方向 N-80°-E

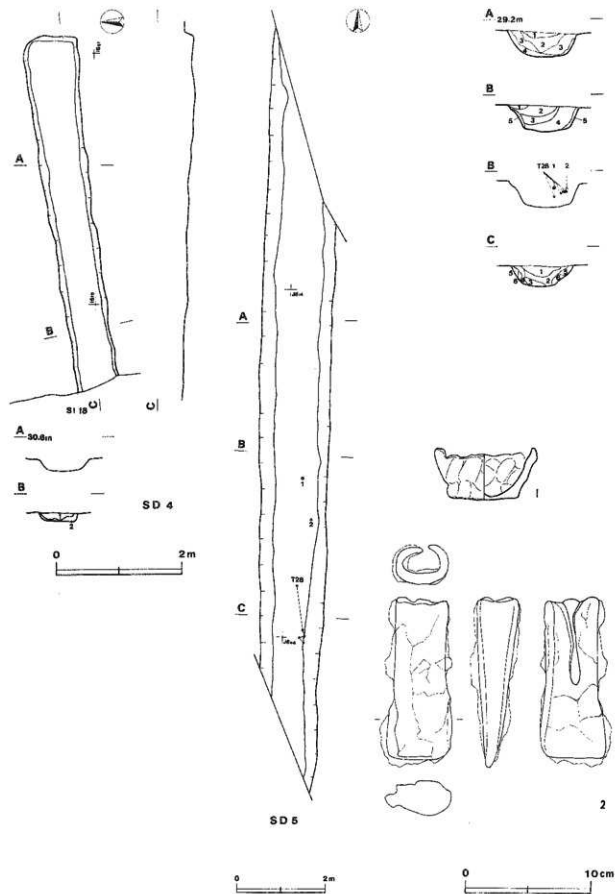
覆土 残っていた覆土は浅く、2層から成る。

土層解説

- 1 黒色 ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、KP粒子少量

遺物 土師器片が4点出土している。

所見 本跡は、周辺に対して高くなっている場所から、緩やかな傾斜面を経て小さな谷に向かって構築されていることから、排水施設とも考えられる。第18号住居跡の床面と本跡の底面は高さがほとんど同じだが、2遺構に関わりがあるかどうかは不明である。



第190图 第4・5号溝・出土遺物実測図

第5号溝 (第190図)

位置 調査区南部, J6区。

規模と形状 断面は逆台形である。上幅1.30~1.60m, 下幅0.80~1.05m, 深さ50~60cm, 確認した長さは17.5mで, 直線的に南北方向に調査区外へ延びている。

方向 N-2°-E

覆土 自然堆積である。

土層解説

A-A'

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子, KP微量
- 3 黒褐色 ローム粒子, KP微量
- 4 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・KP少量

B-B'

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子, KP微量
- 3 黒褐色 ローム粒子, KP微量
- 4 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・KP少量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量

C-C'

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子・KP微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・KP微量
- 4 黒色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 黒色 KP粒子中量

遺物 土師器片79点, 須恵器片13点, 弥生土器片3点, 瓦片3点及び鉄斧1点が出土している。第190図1の土師器手扱及び2の鉄斧は覆土上層から出土している。

所見 本跡は, 第1号溝と規模及び形状が類似し, 出土遺物の時期がほぼ同じであることやそれぞれを延長するとほぼ直角に交差することなどから, 方形あるいは長方形の溝の一部と考えられる。出土した軒丸瓦の年代が8世紀代と考えられていることから, 同時期の溝と思われる。寺域を区画する溝の可能性がある。

第5号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第190図1	手扱	A 8.2	L線部一部欠損。平底。体部は外周部にて立ち上がり, L線部に至る。	L線部内・外面及び体部内・外面には調整のための強い指痕が残る。	長石 鈍い黄褐色 普通	P493 95% 覆土上層
	土師器	B 4.1				
		C 5.3				

図版番号	器種	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第190図2	鉄 斧	(13.5)	(3.1)	(2.8)	—	(391.9)	覆土上層 M18	

第6号溝 (第191図)

位置 調査区南部, J6区。

重複関係 本跡は, 第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 断面は皿状である。上幅0.60~0.80m, 下幅0.50~0.60m, 深さ55cm, 確認した長さは7.10mである。南端部に平面形が長方形で深さ55cmの舟状の部分を持ち, 北側は直線的に調査区外へ延びている。

方向 N-0°

覆土 3層から成る自然堆積と思われる。

土層解説

A-A'

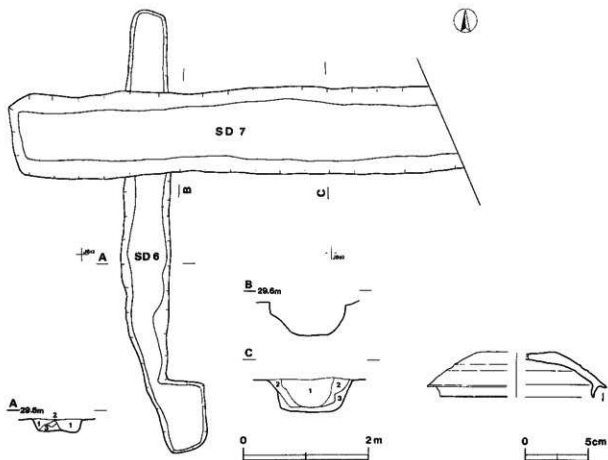
1 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 黒褐色 砂粒中帯、ローム粒子少量

3 明褐色 K P多量、砂粒少量

遺物 土師器片5点及び弥生土器片3点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物がいずれも細片で流れ込んだものと思われる。本跡が掘り込んでいる第7号溝が9世紀のもので、それ以前の時期と考えられる。性格は不明である。



第191図 第6・7号溝・出土遺物実測図

第7号溝 (第191図)

位置 調査区南部、J6区。

重複関係 本跡は、第6号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 断面は皿状である。上幅1.20~1.40m、下幅0.80~0.95m、深さ約55cm、確認した長さは7.20mで、直線的に調査区外へ延びている。

方向 N-88°-E

覆土 3層から成る自然堆積である。

土層解説

C-C'

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子極微量

2 黒褐色 ローム粒子少量

3 黒褐色 ローム粒子・K P粒子少量

遺物 土師器片135点、須恵器片18点、縄文土器片4点、弥生土器片32点及び瓦片1点が出土している。第191図1の須恵器蓋は覆土中からの出土である。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀のものと思われる。性格は不明である。

第7号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・包調・焼成	備考
第191図 1	壺 須恵器	A [12.2] B 3.6	大丹部片。大丹部は上部に平扣面をもち、口縁部に向かってなだらかに下降する。内面には外反するかえりが付く。	外面輪付着、内面ナデ。	長石 (粉) 黄灰色 灰白色 普通	P194 15% 覆土中

第8号溝 (第192図)

位置 調査区南部、I5区。

重複関係 本跡は、第9号住居跡と重複する。新旧関係は不明である。

規模と形状 断面は皿状である。上幅1.20~1.40m、下幅0.95~1.25m、深さ約20cm、確認した長さは7.80mで、直線的に調査区外へ延びている。

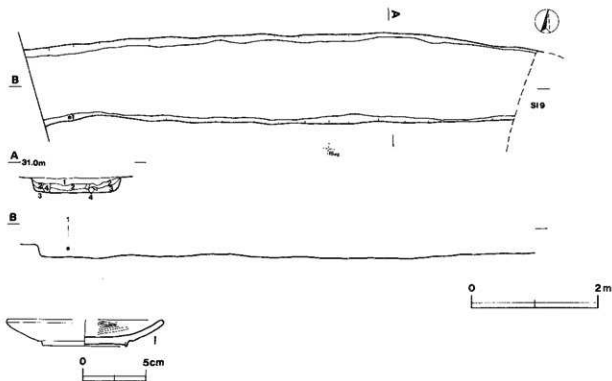
方向 N-83°-E

覆土 4層から成る人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・KP少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片11点が出土している。第192図1の上師器高台付皿は壁面覆土中層から出土している。



第192図 第8号溝・出土遺跡実測図

所見 本跡は、周辺に対して高くなっている場所から、緩やかな傾斜面を経て低地に向かって構築されていることから、排水施設とも考えられる。第9号住居跡の床面と本跡の底面は高さがほとんど同じだが、2遺構に関わりがあるかどうかは不明である。第192図1の上師器皿は10世紀のものと思われるが、遺構の時期を表すものかどうか明確ではない。

第8号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第192図 1	皿 土師器	A [12.4] B 2.1 C 6.6	底部から口縁部にかけての破片。 平底。底部外面には沈線と高台状の小さな帯が巡る。体部は内摩し ながら立ち上がり、口縁部に平る。	ロクロ整形。内面磨き。外面ナデ。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P495 25% 覆土中層

第9号溝 (第193図)

位置 調査区南部、C2～C3区。

重複関係 本跡は、第77号住居跡、第79号住居跡、第81号住居跡及び第104号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 断面はU字形である。上幅0.60～0.85m、下幅0.22～0.40m、深さ50～55cm、確認した長さは13.50mで、直線的に調査区外へ延びている。

方向 N-84°-E

覆土 7層から成る人為堆積と思われる。

土層解説

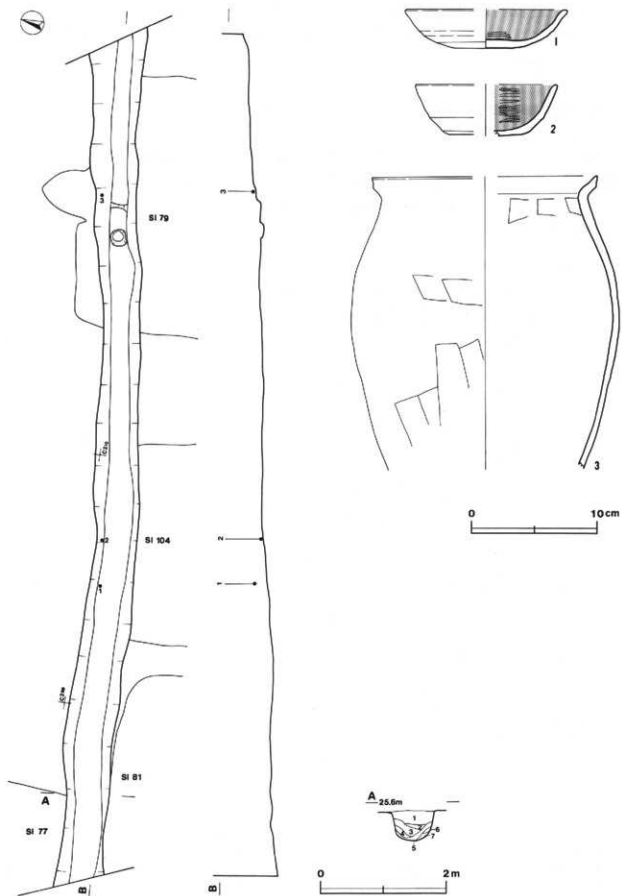
- 1 褐 色 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子・白色粘土粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子極微量
- 5 黒 褐色 ローム小ブロック微量、焼土中ブロック極微量
- 6 明 褐色 ローム粒子多量
- 7 黒 褐色 ローム小ブロック少量

遺物 土師器片543点、須恵器片50点、弥生土器片6点、陶器片5点及び瓦片3点が出土している。第193図1の土師器坏は覆土中層から、2の土師器坏及び3の土師器甕は底面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から9世紀のものと思われる。性格は不明である。

第9号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 1	坏 土師器	A [13.0] B 3.1 C 4.8	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内摩しながら立ち上 がり、口縁部はわずかに外反する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 ナデ。体部外面下層から底部外面 ヘラ削り後ナデ。	石英・長石 灰黄褐色 普通	P496 20% 内面灰色処理 覆土中層
2	坏 土師器	A [5.7] B 4.1 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内摩しながら立ち上 がり、口縁部は外傾する。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面 下層回転ヘラ削り。	バミス 鈍い褐色 普通	P497 15% 内面灰色処理 底面
3	甕 土師器	A [18.0] B [23.3]	体部から口縁部にかけての破片。 体部は内摩しながら立ち上がり、 頸部は「く」の字状に折れる。口 縁部は短く、外傾する。肩部はつ まみ上げられている。	口縁部内・外面磨方向のナデ。体 部外面ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。	石英・バミス 褐色 普通	P498 15% 底面



第193图 第9号溝・出土遺跡実測図

4 掘立柱建物跡及び基壇建物跡

当遺跡では、3棟の掘立柱建物跡及び1基の基壇建物跡を検出した。以下、それぞれの概要や出土遺物について記載する。

第1号掘立柱建物跡（第194図）

位置 調査区南部，H5_AS区。

重複関係 本跡は、第5号住居跡及び第6号住居跡を掘り込み、第8号住居跡に掘り込まれている。

規模 東西3間，南北5間の建物で，柱間寸法は，桁行2.10～2.50m，梁行2.00～2.20mである。柱穴の掘り

方は平面形が長軸1.10～1.50m，短軸0.75～1.15mで，深さは78～111cmである。

長軸方向 N-15°-E

覆土

A-A'

- 1 黒褐色 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 色 ローム大ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 暗褐色 色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 暗褐色 色 ローム大ブロック・ローム粒子多量
- 5 黒褐色 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 褐色 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 7 黒褐色 色 ローム大・中ブロック中量、灰色粘土大ブロック少量
- 8 暗褐色 色 ローム中・小ブロック多量、KP大ブロック微量

B-B'

- 1 黒褐色 色 ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック微量
- 2 黒褐色 色 ローム粒子少量
- 3 褐色 色 ローム大ブロック多量、KP大ブロック少量
- 4 黒褐色 色 ローム大・中・小ブロック少量
- 5 暗褐色 色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・KP粒子少量
- 6 暗褐色 色 ローム大ブロック少量、KP大ブロック微量
- 7 褐色 色 ローム大ブロック中量、KP大ブロック微量
- 8 黒褐色 色 ローム大ブロック中量、粘土大ブロック少量
- 9 黒褐色 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、KP中ブロック中量
- 10 褐色 色 KP中ブロック多量

C-C'

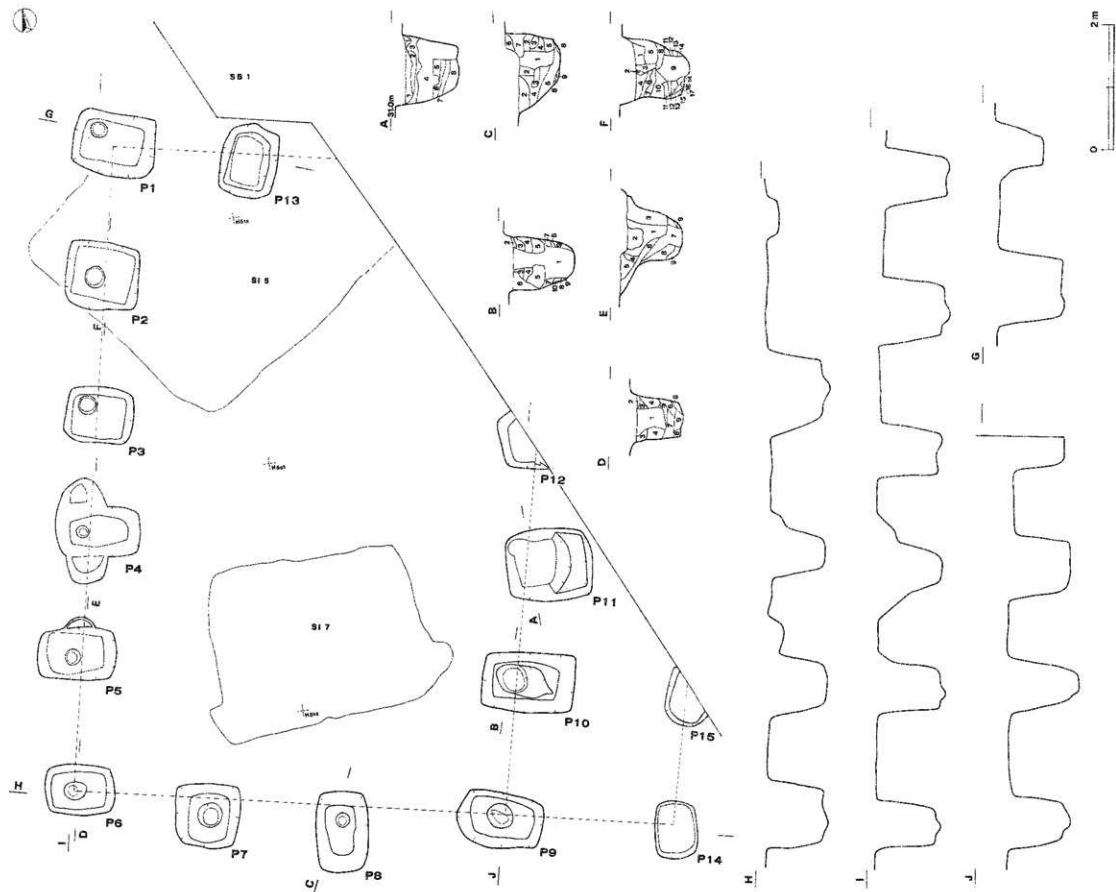
- 1 黒褐色 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 色 ローム大・中・小ブロック少量
- 3 褐色 色 ローム大ブロック・ローム粒子多量
- 4 黒褐色 色 ローム粒子少量
- 5 褐色 色 ローム大ブロック多量
- 6 黒褐色 色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 色 ローム大ブロック・KP大ブロック少量
- 8 褐色 色 KP粒子多量
- 9 褐色 色 ローム粒子多量

D-D'

- 1 黒褐色 色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・KP大ブロック少量
- 2 暗褐色 色 KP大ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 褐色 色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 暗褐色 色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・KP大ブロック微量
- 5 暗褐色 色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 色 ローム粒子微量
- 7 暗褐色 色 ローム大ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 8 褐色 色 ローム粒子中量
- 9 褐色 色 ローム粒子多量

E-E'

- 1 黒褐色 色 ローム大ブロック中量、ローム中・小ブロック少量
- 2 黒褐色 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・KP大ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 色 ローム粒子少量
- 5 明褐色 色 KP粒子多量、ローム粒子少量
- 6 褐色 色 ローム粒子・KP粒子中量
- 7 明褐色 色 KP粒子多量、ローム粒子少量
- 8 褐色 色 ローム粒子中量
- 9 褐色 色 ローム粒子多量



第194图 第1号据立柱建筑物跡实测图

7	黒	褐色	ローム粒子中量、ローム大・中・小ブロック少量、焼土粒子微量
8	黒	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック少量
9	黒	褐色	ローム粒子中量
10	黒	褐色	ローム粒子多量、ローム大・中ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・K P中ブロック微量
11	黒	褐色	ローム粒子多量、K P大ブロック少量
12	黒	褐色	ローム粒子少量
13	黒	褐色	ローム粒子多量
14	黒	褐色	ローム小ブロック少量
15	黒	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量
16	黒	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
17	黒	褐色	ローム粒子多量
F-D'			
1	暗	褐色	ローム中・小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
3	黒	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗	褐色	ローム粒子中量、ローム大・中・小ブロック少量、焼土粒子微量
6	黒	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片204点、須恵器片8点、弥生土器片24点及び瓦片1点が出土している。遺物はいずれも細片で流れ込みと思われる。

所見 本跡は、9世紀前半に位置付けられる第8号住居跡に掘り込まれていることから、それ以前のものと考えられる。

第2号掘立柱建物跡(第195図)

位置 調査区南部、H5j区。

重複関係 本跡は、第9号住居跡を掘り込んでいる。

規模 南北3間。東西は3間まで数えられるが、調査区外へ延びているため全長は確認できない。柱間寸法は南北方向が1.50~1.70m、東西方向が2.10~2.30mである。柱穴の掘り方は平面形が長軸0.70~0.95m、短軸が0.50~0.80mの長方形で、深さは23~64cmである。

方向 N-4°-W(南北軸)

覆土

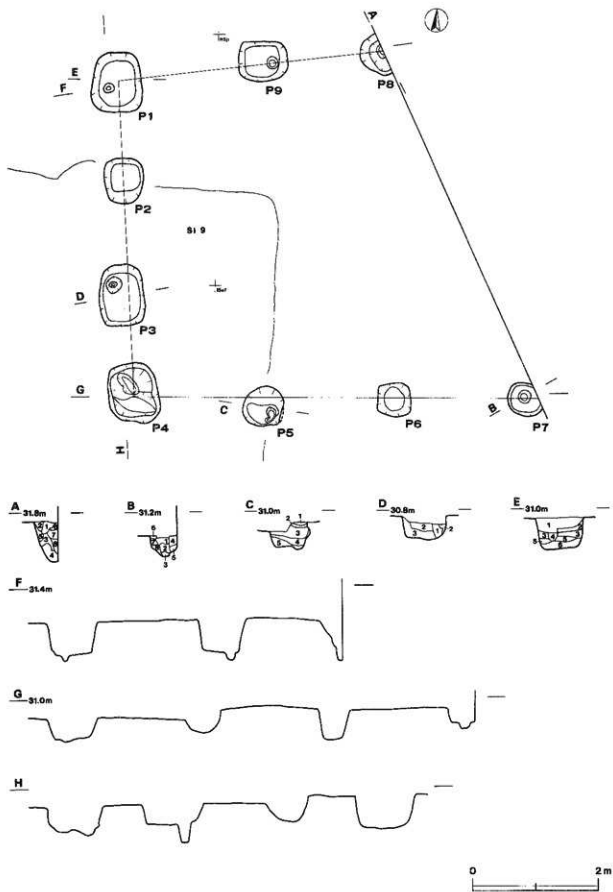
A-A'			
1	黒	褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐色	炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
4	黒	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
5	灰	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
6	黒	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8	黒	褐色	ローム中ブロック多量、ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
B-B'			
1	暗	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
2	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
3	黒	褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
4	黒	褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
5	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
6	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
7	暗	褐色	ローム粒子多量
8	黒	褐色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
C-C'			
1	黒	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子多量、ローム中・小ブロック少量、炭化粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土中ブロック・炭化粒子微量
4	暗	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
5	灰	褐色	ローム粒子多量
D-D'			
1	暗	褐色	ローム大・中ブロック多量
2	暗	褐色	ローム中ブロック多量、ローム大ブロック中量
3	暗	褐色	ローム粒子多量

E-E'

- | | | |
|---|-----|------------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム大・中ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム大・中・小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 明褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子微量 |

遺物 土師器片34点及び弥生土器片5点が出土している。いずれも細片で流れ込みと思われる。

所見 本跡は、5世紀末頃に位置づけられる第9号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降のものと考えられる。



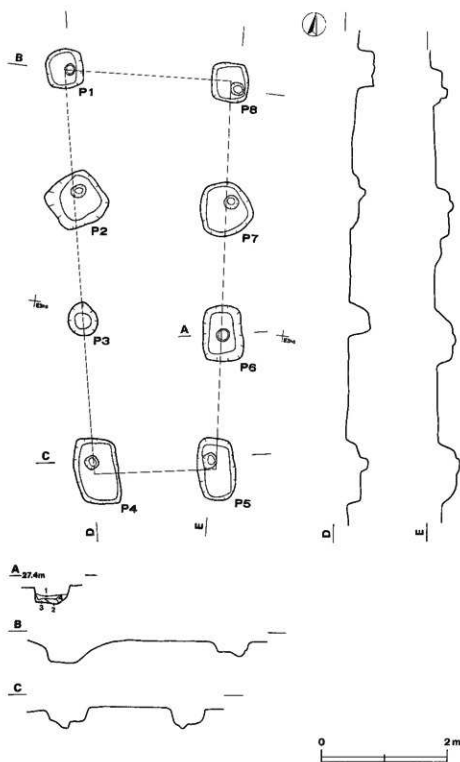
第195图 第2号掘立柱建物跡実測图

第3号掘立柱建物跡 (第196図)

位置 調査区南部, E3_a区。

重複関係 本跡は, 第108号住居跡と重複する。耕作により削平され, 新旧関係は確認できない。

規模 東西1間, 南北3間の建物で, 柱間寸法は桁行2.00~2.60m, 梁行1.80~2.20mである。柱穴の掘り方



第196図 第3号掘立柱建物跡実測図

は正方形、長方形及び円形がある。P₁及びP₂は一辺が約0.60mの正方形で、深さはP₁が38cm、P₂が24cm。P₃は一辺が約0.80mの正方形で、深さは20cm。P₄、P₅及びP₆は長軸0.90~1.15m、短軸0.60~0.70mの長方形で、深さは32~34cm。P₇は径約50cmの円形で、深さ30cm。P₈は長径0.85m、短径0.80mの卵形で、深さは30cmである。

長軸方向 N-8°-W

覆土

土層解説

A-A'

- 1 黒 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片11点が出土している。いずれも細片で流れ込みと思われる。

所見 時期や性格は不明である。

第4号基壇建物跡(第197図)

位置 調査区北部、C2区。

規模 南北軸長は5.60mまで、東西軸長は5.00mまで測れるが、ともに調査区外へ延びているため全長は確認できない。南東コーナーはほぼ直角である。

方向 N-4°-E(南北軸)

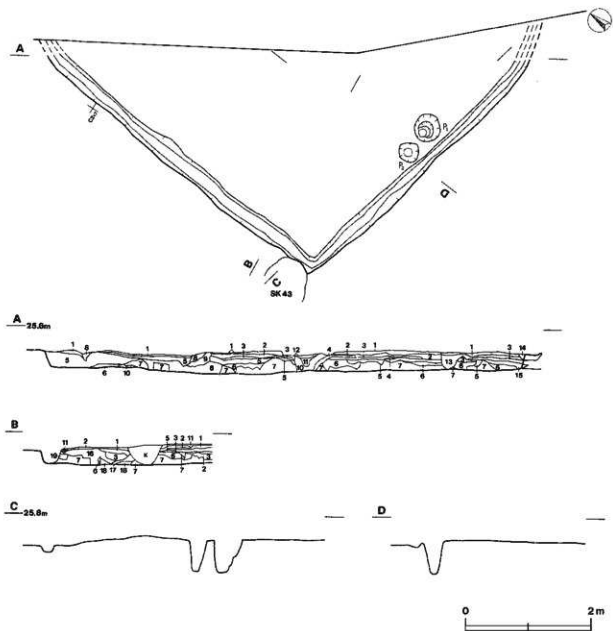
覆土 19層から成る。褐色系土と黒色系土を互層に版築している。

土層解説

- 1 鈍い褐色 ローム大・中ブロック中量
- 2 黒 褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 3 鈍い褐色 灰白色粘土大ブロック中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック多量
- 5 褐色 ローム大・中ブロック中量
- 6 黒 褐色 ローム大ブロック少量
- 7 明褐色 ローム粒多量
- 8 褐色 灰白色粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 褐色 灰白色粘土大ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量
- 10 黒 褐色 炭化粒子・砂粒少量、焼土大ブロック微量
- 11 黒 褐色 ローム大・中・小ブロック少量
- 12 暗褐色 ローム大・中ブロック少量
- 13 褐色 ローム中ブロック・ローム粒中量、ローム大ブロック少量
- 14 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量
- 15 黒 褐色 ローム大・中ブロック少量
- 16 褐色 灰白色粘土粒子少量
- 17 褐色 灰白色粘土大ブロック少量
- 18 褐色 ローム中・小ブロック多量
- 19 黒 褐色 ローム小ブロック・ローム粒少量

遺物 土師器片34点及び弥生土器片4点が出土している。いずれも細片である。

所見 本跡は、丁寧に版築されていることから、規模の大きな建物が当遺構上に構築されていたものと考えられる。



第197図 第4号基壇建物跡実測図

5 井戸

今回の調査では、平安時代の井戸を1基検出した。以下、その概要と出土遺物について記載する。

第1号井戸（第198図）

位置 調査区南部、H5c1区。

規模と平面形 長径4.20m、短径4.05mの円形。110cmまで掘り込み礫層に達したが、水が湧いてきてしまいそれ以上掘り下げられなかった。

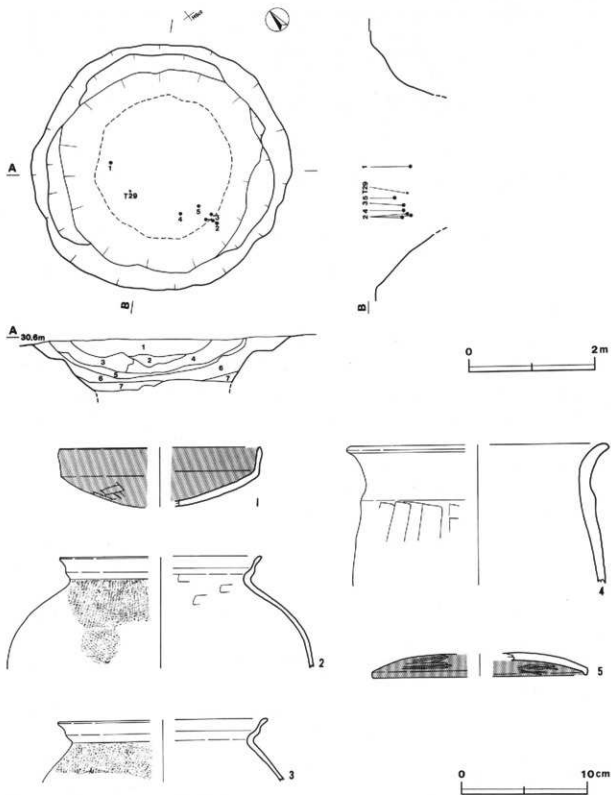
長径方向 N-75°-E

壁面 外反する。

覆土 7層から成る自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・K P 粒子微量、焼土粒子・炭化物極微量 |
| 2 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・K P 小ブロック極微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・K P 粒子微量、焼土粒子極微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・K P 粒子微量 |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・K P 小ブロック微量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子少量、K P 小ブロック・K P 粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・K P 小ブロック極微量 |



第198図 第1号井戸・出土遺物実測図

遺物 土師器片437点、須恵器片4点及び弥生土器片41点が出土している。第198図1の土師器環及び2、3、4の土師器甕及び5の土師器蓋はいずれも覆土中の比較的高い位置から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代のもので、形状や水が滲いて溜まることから井戸と考えられる。遺物は埋まる過程で投げ込まれたものと思われる。

第1号井戸出土遺物観察表

図表番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図1	土師器 環	A (15.8) B (4.7)	底部から口縁部にかけての破片。丸形。体部は内彎しながら立ち上がり、明瞭な稜を従て、口縁部は直上に伸びる。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面及び底部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石 灰色 普通	P 499 40% 内・外面黒色処理 覆土中層
2	台付 土師器	A (16.0) B (8.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面朝毛目調整、内面ナデ。	長石・雲母・バミ ス 鈍い棕色 普通	P 502 15% 覆土中層
3	台付 土師器	A (16.7) B (5.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面朝毛目調整、内面ナデ。	石英・長石 褐色 普通	P 503 10% 覆土中層
4	甕 土師器	A (21.0) B (11.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面縦方向のヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・スコリア 褐色 普通	P 501 10% 覆土中層
5	蓋 土師器	A (17.0) B (1.8)	天井部片。天井部は口縁部に向かってなだらかに下降する。底部は下方に小さくつまみ出されている。	内・外面磨き。	石英・長石・砂粒 灰色 普通	P 500 40% 内・外面黒色処理 覆土中層

6 出土瓦

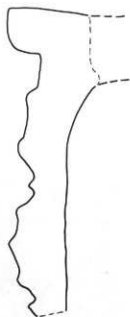
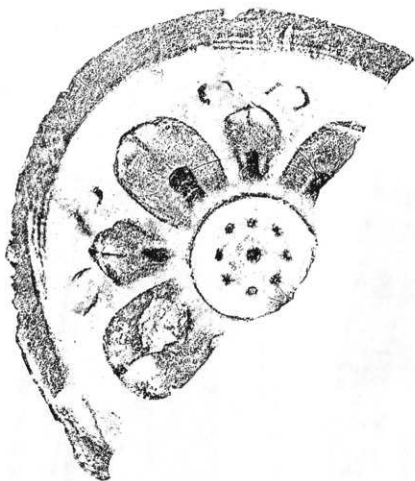
第199図27は「素緑単弁八葉花文軒丸瓦」で、瓦当外区は無文で、内区は大小8枚の子葉をもつ花卉が、9点の蓮子をもつ円区画された中房周囲に交互に配されている。それぞれの花卉は左右対称軸が稜線をなしている。また、瓦当裏面には丸瓦との接合面の痕跡として、別縁に鋸歯状の線刻が残る。26は「素緑複弁六葉花文軒丸瓦」で、瓦当外区は無文で、内区は子葉をもつ連弁6組と間弁とから構成されている。中央部が欠損しているための中房は確認できないが、長者屋敷遺跡で採集された同じ形式と思われる個体が、茨城県立歴史館学術報告書4『茨城県における古代瓦の研究』(1994)に紹介されている。それによると、前述27と同様に、中房は円区画され9点の蓮子によって構成されていたものと推定される。

第200図4は定形の行基式丸瓦で、長辺約48cm、広端幅約21cm、狭端幅約14cm、重さ2,665gで、凹面には布目痕が明瞭に残り、凸面はナデ調整されている。

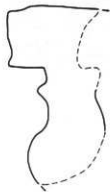
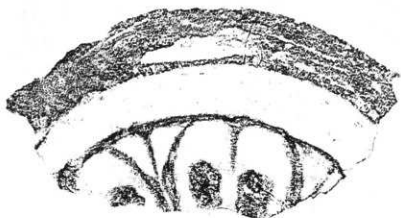
第201図1, 2, 5, 6, 7, 8, 9及び11は丸瓦片で、いずれも凸面は丁寧にナデ調整され、凹面には布目痕が残る。3は鬚斗瓦で、比較的薄手で、長辺の一方の側面は焼成後に調整されている。9は凸面全体を長縄叩きで成形している。

202図10, 18及び19は丸瓦で、12, 13, 14, 15, 16, 17及び20は平瓦である。12, 16は凸面に長縄叩き痕が残る。15, 17, 20は凸面を斜格子叩きで整形している。また、13の凹面はヘラ状工具によるナデ調整がされて布目痕が消され、凸面も同様の工具によって横方向の調整が加えられている。また、側面は糸切り離し後ヘラ状工具によって調整がされている。

第203図21, 22, 25, 29, 32は丸瓦で、いずれも凸面はナデ調整され、凹面には布目痕が残る。23, 24, 28, 30, 31は平瓦で、23, 31は凹面に布目痕が残る。凸面には長縄叩き痕が残る。30の凹面はヘラ状工具で調整されている。24, 28は凹面に布目痕が残る。凸面は斜格子叩きによって整形されている。28は長辺約36cm、短辺約29cm、重さ2,694gで、欠損している部分を補完すると3.6cmほどになるものと推定される。また、25の丸瓦は、いわゆる玉緑式丸瓦で、下縁部を細く作って、段のみ粘上を加えて整形している。



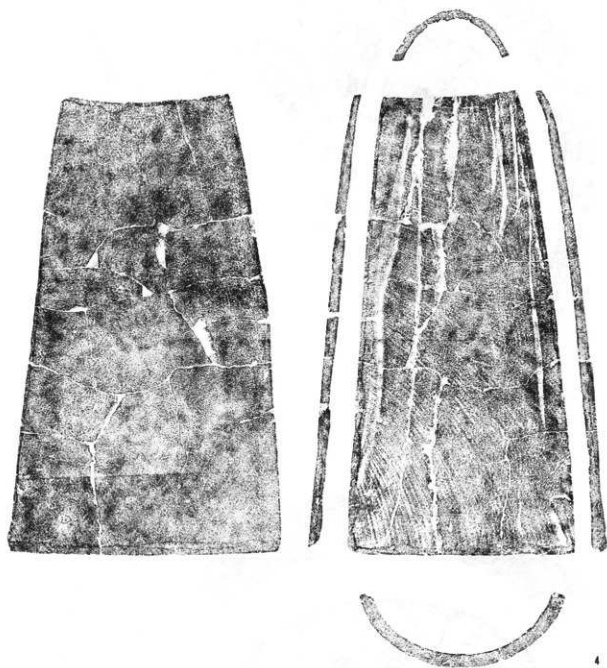
27 (SD-5)



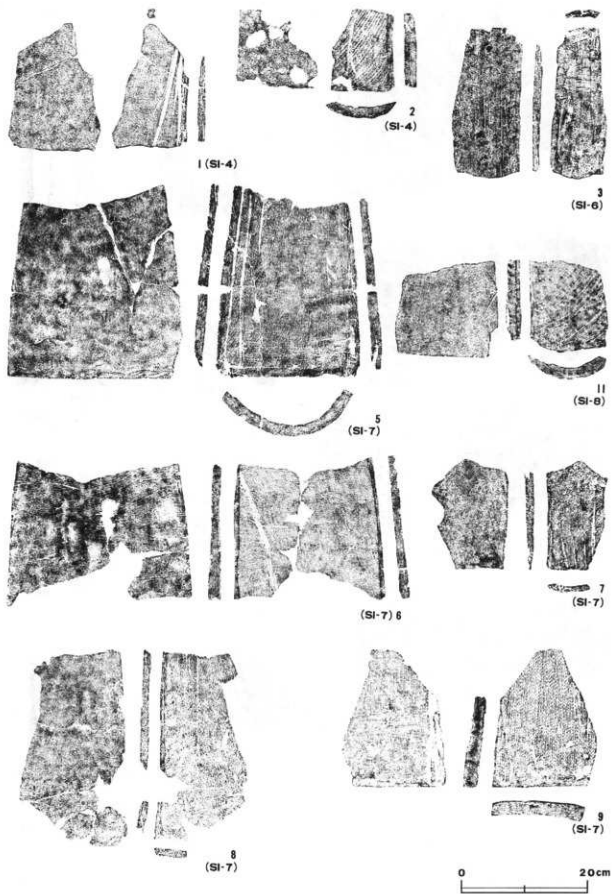
26 (SD-1)



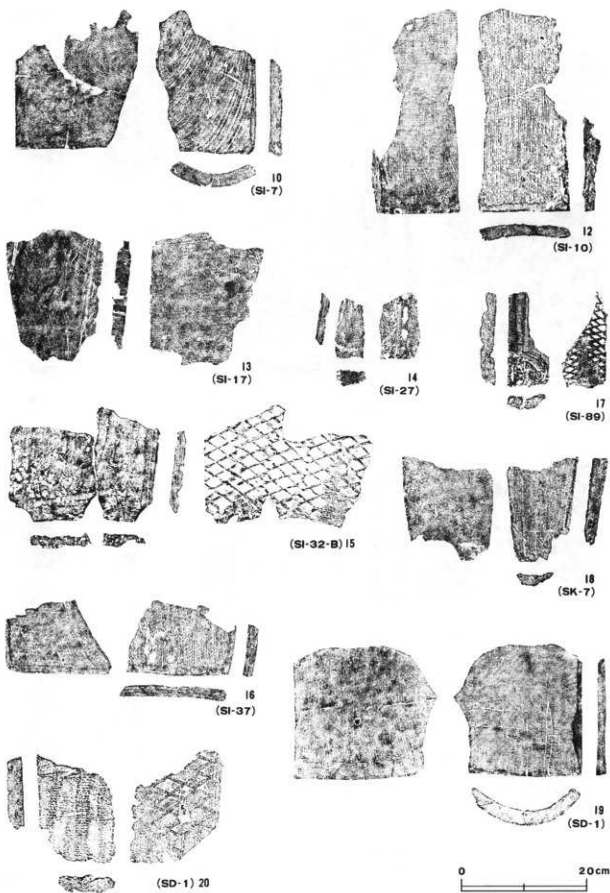
第199图 第1·5号满出土瓦拓影图



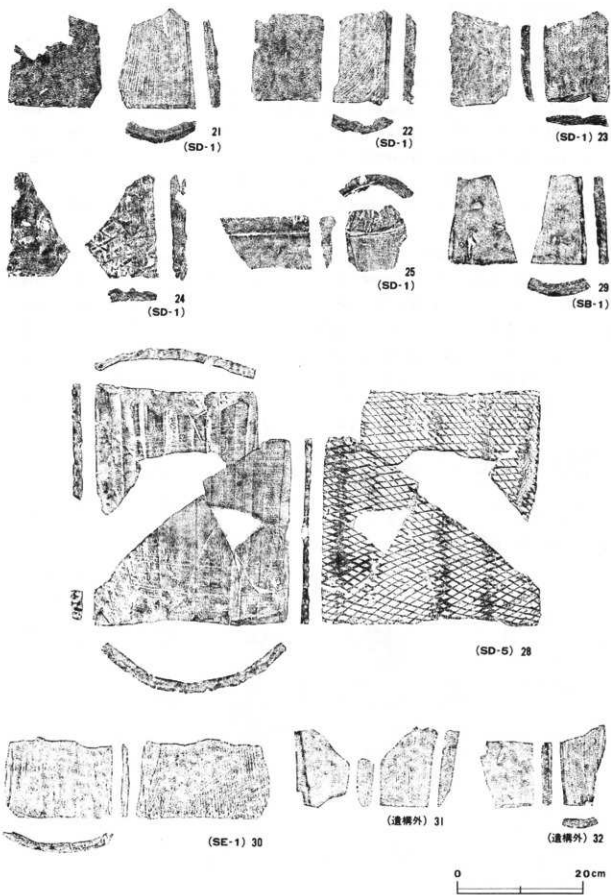
第200图 第7号住居跡出土瓦拓影图



第201图 第4・6・7・8号住居跡出土瓦拓影图



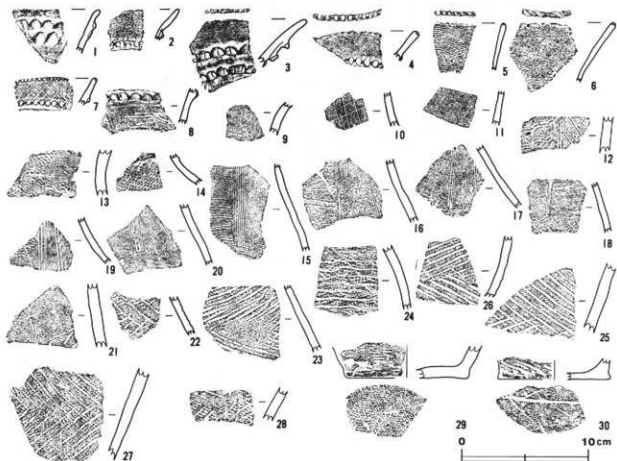
第202图 第7·10·17·27·32-B·37·89号住居跡，7号土坑，1号溝出土瓦拓影図



第203图 第1・5号溝，第1号掘立柱建物跡，第1号井戸，遺構外出土瓦拓影圖

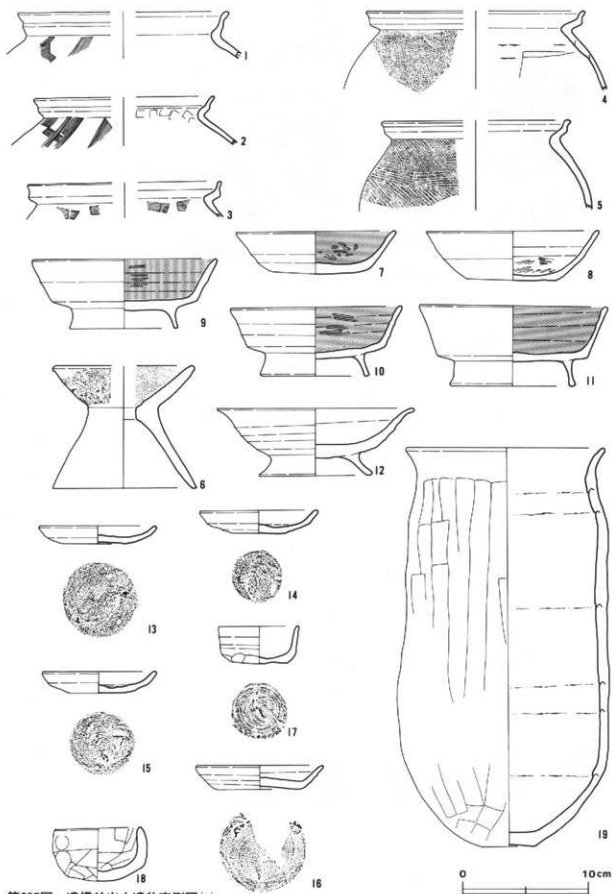
7 遺構外出土弥生土器

第204図1から7は口唇部が残る口縁部片で、内面はナデ調整されている。口唇部にはいずれも縄文原体や棒状工具の押圧によるキザミ目が施され、1、2、3、4及び7の口縁部には棒状工具による押圧が施された隆帯が巡る。1は口唇部に縄文原体の押圧による小さなキザミ目が施され、上位には比較的幅が広く、棒状工具の押圧によって波打つ2条の隆帯が巡る。2、4の口唇部も縄文原体による押圧が施されている。3は棒状工具による押圧の施された2条の隆帯が間隔をおいて巡る。7も口唇部に縄文原体が押圧され、格子目文の下位には押圧の施された比較的幅の狭い隆帯が1条巡る。5は4本櫛歯の波状文が、6は3本櫛歯の波状文が施されている。8から13は口縁部から頸部にかけての破片である。8は上部に棒状工具で押圧された隆帯が巡り、下部には縦区画の中に5本櫛歯の波状文が施されている。9は縦区画されたそれぞれに、5本櫛歯の波状文と格子文が施されている。10及び11はヘラ状工具による格子文が施されている。12は縦区画されたそれぞれに斜め方向の3本櫛歯の波状文と斜め方向の3本櫛歯の平行沈線が施されている。13は羽状構成の縄文が施されている。14から21は体部片で、内面はナデ調整されているが、21及び23は割離が激しい。14は上部に隆帯が貼り付けられ、下部には附加条1種（附加1条）の縄文が施されている。15は縦区画の中に6本櫛歯の波状文が施され、下部には連弧文が施されている。16は6本櫛歯、17は3本櫛歯の波状文が施されている。18は3本櫛歯の波状文が施され、下部には連弧文が施されている。19は4本櫛歯の波状文が施され、20には5本櫛歯の波状文と連弧文が施されている。21は縦区画に2本櫛歯の山形文が施されている。22から28はいずれも附加条1種（附加1条）の縄文が施文され、22、23、25、26、27、28は羽状構成をとっている。29及び30は底部片で、内面はナデ調整されている。29は外面に布目痕が残り、30は木葉痕が残る。

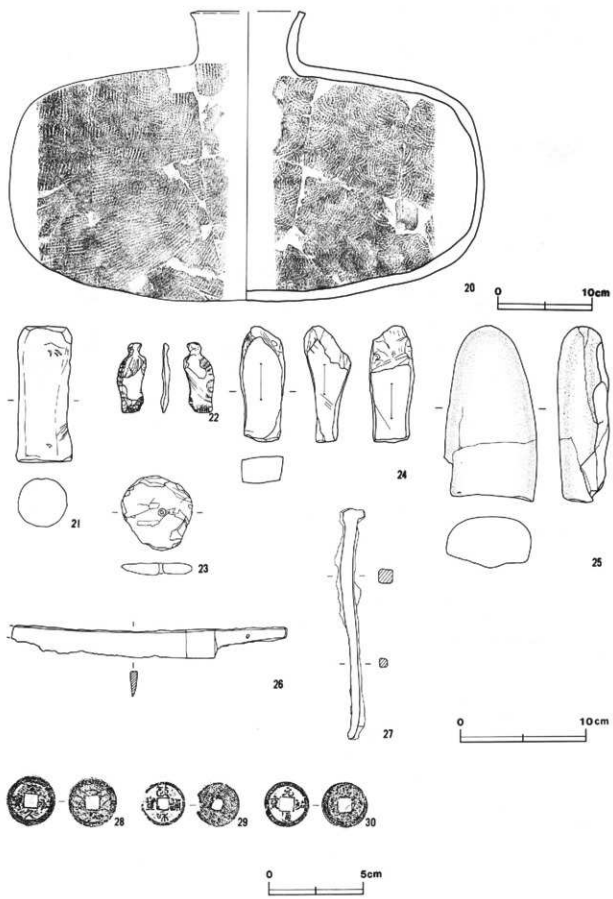


第204図 遺構外出土弥生土器拓影図

8 遺構外出土遺物 以下、遺構外出土遺物の拓本及び実測図を掲載する。



第205図 遺構外出土遺物実測図(1)



第206图 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表

図番番号	器種	引測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第205図 1	台付壺 土師器	A 16.8 B 3.7	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は「S」字状である。口縁部一部欠損。平底	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面には刷毛目が密に施されている。	長石 鈍い褐色 普通	P540 10%
	台付壺 土師器	A 14.4 B 3.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へ丸刷り後刷毛目調整。内面横方向のナデ。	長石 鈍い黄褐色 普通	P537 10%
3	台付壺 土師器	A 15.6 B 2.8	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面には刷毛目が密に施されている。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P539 10%
	台付壺 土師器	A 17.6 B 6.2	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面には刷毛目が密に施されている。体部内面横方向のナデ。	パミス 洗青褐色 普通	P538 10%
5	台付壺 土師器	A 15.2 B 7.1	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎し、頸部は「く」の字状に折れる。口縁部は「S」字状である。	口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面へ丸刷り後刷毛目調整。内面横方向のナデ。	スコリア 鈍い褐色 普通	P536 10%
	器台 土師器	A 11.2 B 9.7 D 11.4 E 6.2	器受部一部欠損。胸部は直線的に「ハ」の字状に開き、脚部は「く」の字状に折れる。器受部は外傾して立ち上がる。	器受部内・外面には刷毛目が密に施されている。胸部内・外面斜交脚毛目調整。	長石 鈍い褐色 普通	P532 80%
7	坏 土師器	A 12.8 B 3.4 C 7.5	体部から口縁部にかけて一部欠損平底。体部は内彎しながら立ち上がり、中部から口縁部は外傾する	ロクロ整形。内面磨き。口縁部及び体部外面横方向のナデ。底部四角転削後ナデ。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P506 90% 内面黒色処理
	坏 土師器	A 14.0 B 3.9 C 7.3	体部から口縁部にかけて一部欠損平底。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部上横方向のナデ。下半回転へ丸刷り後ナデ。底部外面回転へ丸刷り。	長石・スコリア 鈍い褐色 普通	P505 95%
9	高台付坏 土師器	A 14.7 D 4.5 E 8.6 F 1.7	体部から口縁部にかけて一部欠損平底。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部はわずかに外反しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面及び高台部内・外面ナデ。	長石・石英 鈍い褐色 普通	P518 80% 内面黒色処理
	高台付坏 土師器	A 13.7 B 5.5 D 8.7 E 1.8	体部から口縁部にかけて一部欠損平底。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部はわずかに外反しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面及び高台部内・外面ナデ。	長石 鈍い褐色 普通	P515 95% 内面黒色処理 二次焼成
	高台付坏 土師器	A 15.1 B 4.5 D 10.0 E 2.2	体部から口縁部にかけて一部欠損平底。付高台。高台は直線的に「ハ」の字状に開く。体部は外傾しながら立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。内面磨き。体部外面及び高台部内・外面ナデ。	スコリア 鈍い黄褐色 普通	P516 90% 内面黒色処理 二次焼成
	高台付坏 土師器	A 15.8 B 5.3 D 9.0 E 1.8	体部から口縁部にかけて一部欠損平底。付高台。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部は外反して開く。	ロクロ整形。内・外面ナデ。	長石・スコリア 鈍い黄褐色 普通	P517 90%
13	皿 土師器	A 9.3 B 1.4 C 5.2	口縁部一部欠損。平底。底部外面はくぼみ、内面突出。薄手で器高が低く、全体に扁平。	ロクロ整形。内・外面ナデ。底部回転削り切り。	長石・砂粒 褐色 普通	P522 95% 二次焼成
	皿 土師器	A 9.4 B 1.8 C 4.4	口縁部一部欠損。底部は平底で突出気味。底部内面突出。薄手で器高が低く、全体に扁平。	ロクロ整形。内・外面ナデ。底部回転削り切り。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P525 95% 二次焼成
	皿 土師器	A 9.0 B 1.7 C 4.8	口縁部一部欠損。平底。底部内面突出。薄手で器高が低く、全体に扁平。	ロクロ整形。内・外面ナデ。底部回転削り切り。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P526 95% 二次焼成
16	皿 土師器	A 10.2 B 2.0 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	ロクロ整形。口縁部内・外面横方向のナデ。体部外面ナデ。底部回転削り切り。	長石 鈍い黄褐色 普通	P527 85%

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
17	小鉢器	A 6.5 B 3.0 C 4.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内脣しながら立ち上がり、中位から垂点に向き、口縁部に至る。薄手。	口外口型。口縁部内・外面及び体部内・外面ナデ。体部外面下流手持ちへう閉り。	石英・褐色 普通	P530 95%
18	小土師器	A 6.8 B 4.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内脣しながら立ち上がり、中位から垂点に向き、口縁部に至る。厚手。	口縁部内・外面横方向の強いナデ。体部外面ナデ。内面横方向の強いナデ。底部内・外面へう閉り後ナデ。	スコリア 灰青色 普通	P531 95%
19	土師器	A 16.1 B 31.6 C 4.4	体部一部欠損。平底。体部は内脣しながら立ち上がり、口縁部は短く緩やかに外反する。	口縁部内・外面横方向のナデ。頸部外面強い横方向のナデ。体部外面縦方向のへう閉り。	長石・石英・顔料 鈍い褐色 普通	P533 80%
第206図 20	須恵器	A (12.6) B 29.7	体部及び口縁部一部欠損。体部は内脣しながら立ち上がる。口縁部は外反して開く。	口縁部内・外面ナデ。体部外面平行タタキ。内面同心円文。	石英・長石 鈍い黄褐色 普通	P544 55%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第206図21	土製支脚	3.9~4.5	10.9	-	241.2	表 探	D P 6

図版番号	器種	計測値					石材	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第206図22	石匙	5.0	2.3	0.7	-	6.3	めのう	表 探	Q39
23	単孔円蓋	(9.2)	(6.0)	(1.0)	(0.3)	(40.4)	緑色片岩	表 探	Q38
24	砥石	(9.2)	(3.6)	(2.2)	-	(110.4)	凝灰岩	表 探	Q37
25	磨石	(14.0)	(7.5)	(4.1)	-	(549.1)	安山岩	表 探	Q36

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第206図26	刀子	(22.1)	(2.3)	(0.6)	(106.7)	鉄	表 探	M19
27	釘	(18.4)	(2.1)	(1.1)	(86.3)	鉄	表 探	M24

図版番号	名称	初録造年	出土地点	備考
第206図28	文久水甕	1863	表 探	M25
29	政和通甕	1111	表 探	M26
30	元祐通甕	1086	表 探	M27

第4節 まとめ

長者屋敷遺跡の調査で得られた成果を、各時代ごとにまとめてみたい。

1 竪穴住居跡の時期と出土遺物

弥生時代

今回の調査では弥生時代の遺構は確認されなかったが、調査区北部の古墳時代以降の第93号住居跡の床面下から、弥生時代の土器片を多数含んだ炉の痕跡と思われる焼上塊が検出されている。また、第3号溝からは弥生土器片が123点出土し、調査区全域にわたって他の遺構の覆土中からも多くの弥生土器片が出土している。これらの弥生土器片は遺構に伴うものでなく流れ込みと考えられるが、採取された弥生土器片の量や散布範囲の広さなどから、弥生時代にも相当規模の集落が当地に形成されていたものと推定される。なお、出土した弥生土器片は、弥生時代後期後葉に位置付けられるもので、壺の頸部から口縁部にかけては靱皮面に櫛歯による文様が充填され、体部には羽状構成の縄文が施されている。

古墳時代前期（4世紀）

第2・6・11・20・21・22-A・22-B・23号住居跡がこの時期に該当し、調査区内で最も標高の高い南部に集中している。一辺が4～5mの方形または隅丸方形で、南北軸が北に向かって20度程度西に傾いている。内部に炉をもち、主柱穴や出入り口施設に伴うピット、貯蔵穴及び味噌溝などが確認できる。床面は比較的硬く踏み締められ、第2号住居跡は出入り口施設に伴うピット周囲の硬化面が瘤状に盛り上がり、長期にわたって生活が営まれたことが想像される。特徴的な出土遺物は、土器の埴、甕、器台である。埴は小形で底部が丸いものが第22-A号住居跡床面から、同じく小形で底部が平坦なものが第22-B号住居跡床面からそれぞれ比較的良好な状態で出土している。器台の脚部には中位に3～5孔が穿たれ、裾部が広がるものが第6・11・23号住居跡から出土している。甕は底部が平底で突出気味である。第22-A・23号住居跡などから出土している台付甕は刷毛目調整が密に施されている。第20号住居跡床面からは、薄手で器肌が白っぽく、口縁部が「S」字状に屈曲し、頸部から体部にかけて比較的彫りの深い刷毛目が丁寧な施された台付甕の頸部から口縁部にかけての破片が出土している。遺構に伴うと判断できるものは少ないが、同じ特徴をもつ破片が他に5～6個体分出している。これらは搬入品と考えられることから、当地の交流の広さを伺わせる。そのうち1個体には体部上位に横方向の刷毛目調整が認められ、4世紀後半の史料であることが確認できる。

古墳時代後期

竪穴住居跡は一辺が4～5mの方形または隅丸方形で、4世紀に比べて主軸方向がより北に寄っている。第1期（5世紀末～6世紀初）

第1・9・18・34・65号住居跡がこの時期に該当する。第9号住居跡と第65号住居跡は壺が北壁に付設されている。出土遺物は土師器の坏、高坏、椀、甕などで、小形の双孔円盤などの石製模造品を伴う住居跡もある。坏は体部と底部との境に明瞭な稜をもち、比較的浅く、口縁部が外反するものが第1号住居跡から、口縁部が比較的長く垂直に立ち上がる須恵器坏模倣のものが第34号住居跡から出土している。高坏は中位に稜をもち、口縁部が外反して開くものが第18号住居跡から出土している。椀は体部と口縁部との境が折れて

後を成し、小さい口縁部がわずかに外反するものが第65号住居跡から出土している。甕は頸部が「く」の字状に折れ口縁部が外傾するもの、頸部から口縁部が緩やかに外反するものなどが出土している。第65号住居跡からは、緑泥片岩質の石製模造品の完成品や製作途中片及び剥離片が床面から出土しており、径約20cm、高さ約13cmの細工台を兼ねた砥石に用いたと思われる泥岩も床面から出土している。

第2期（6世紀）

第14・15・32-B・33・44・50・51・61・76・81号住居跡がこの時期に該当し、調査区全域に分布している。甕が北壁に付設され、主軸はほぼ北を向く。出土遺物は土師器の坏、高坏、甕などで、坏や高坏の中には赤彩されているものもある。坏は外面口縁部寄りに稜をもつものが第14・33・61号住居跡から、器高が低く口縁部から3分の1ほどの所に後が付き、口縁部が内傾するものが第33号住居跡から出土している。高坏は坏部中に後があり、口縁部が「S」字状に張り出すものが第76号住居跡から出土している。甕は口縁部が外反して外に開き、頸部から体部上位にかけて強い横方向のナデ調整が施されているものが第50号住居跡から出土している。

第3期（7世紀）

第29・52・53号住居跡がこの時期に該当する。甕が北壁に付設され、主軸はほぼ北を向く。遺物は土師器の坏、高坏、甕などが出土している。坏は器高が極端に低く、内・外面黒色処理されているものが第29号住居跡から出土している。高坏は小形で、脚部が太く短く裾が開く最終段階のものが第52号住居跡から出土している。

奈良・平安時代

当期の竈穴住居跡の規模は比較的小さくなり、北に室をもつが、10世紀になると東向きの甕が出現する。いずれも柱穴、壁溝、貯蔵穴などが確認できないものが多い。

第1期（8世紀）

第4・32-A・36-A・36-B・36-C・47・48-A・48-B・55・56・57・67・87号住居跡がこの時期に該当する。当期前半では丸底気味の須恵器坏、丸底気味の高台付坏、かえりの付く蓋などが出土し、後半になると、須恵器坏は平底で器高が低く底部径の大きいものが出土している。須恵器の高台付坏は体部が浅い角度で立ち上がってから、鋭く上向きに折れて外傾するタイプのものが多く出土している。

第2期（9世紀）

第8・10・12・13・16・17・25・26・27・30・37・38・41・42・46・58・79・89・92・94・98・100・109-A・111・112・113号住居跡がこの時期に該当する。土師器坏や高台付坏の多くは体部内面に黒色処理が施され、外面に黒書されたものも数多く見られる。8世紀後半の高台坏に比べて底部からの立ち上がりが滑らかになる。皿や高台付皿が出現する後半になると坏の底部径が小さくなる。

第3期（10世紀以降）

第7・35・39・45・80・82・95・96・99号住居跡がこの時期に該当する。もっとも特徴的なことは、甕が東壁あるいは南東コーナー部に付設されていることである。東向きの甕をもつ住居跡から出土した遺物を見ると、須恵器片が極端に少なくなり、高台付坏の高台部が高くなり、底部を同軸糸切り技法によって切り推す土師器の坏や皿の占める割合が高くなっている。なお、第40号住居跡出土の上脚器高台付坏は、高台部が高く外反し、それまで見られた体部内面の黒色処理は施されず、口縁部が外反して外に開く特徴などから11世紀に位置づけられるものと考えられる。

2 溝の性格と時期及び出土遺物

当遺跡からは9条の溝が確認されている。第2・4・6・8号溝は浅く出土遺物が少ないため、時期や性格は不明である。第9号溝は規模や形状が第5号溝と似通っているが、覆土の色調や含有物が違うことや、第3号溝からは瓦を含む遺物が比較的多く出土しているのに対して、第9号溝からは遺物がほとんど出土していないことから新しい時期のものと考えられる。第7号溝も第9号溝と同じように新しい時期の溝と考えられる。第3号溝は古墳時代前期に位置づけられる第11号住居跡に掘り込まれていることや底面から多くの赤土上器細片が出土していることから、古墳時代の初め頃の溝と考えられる。第1号溝と第5号溝は出土遺物や延長すると直交することなどから連続する溝と考えられ、出土遺物から8世紀代の寺域を区画する溝の可能性もある。

3 掘立柱建物跡及び基壇遺構の時期と性格

当遺跡からは3棟の掘立柱建物跡と1基の基壇遺構が確認されている。掘立柱建物跡はいずれも側柱で、柱穴の掘り方もしっかりしている。遺物がほとんど出土していないために時期や性格は不明であるが、隣接する第7号住居跡から出土した土師器杯に墨書された『久寺』を考慮すれば、寺に関わる施設である可能性が考えられる。基壇遺構跡は一角が調査区にかかっただけで全体像は把握できない。参考文献『常陸葉谷(大里)遺跡出土の古瓦について』の中で、当遺跡で塚が採取されていることが紹介されていることから、今回調査した周囲に基壇と埴とを伴う瓦葺きの『久寺』が存在したのと考えられる。

参考文献

- ・金砂郷村史編さん委員会 『金砂郷村史』 1989年10月
- ・茨城県立歴史館 『茨城県における古代瓦の研究』学術調査報告書4 1994年3月
- ・宇野悦郎 『常陸葉谷(大里)遺跡出土の古瓦について』史迹と美術第488号 1978年8月
- ・田熊信之・天野茂 『宇野信四郎蒐集 古瓦集成』 1994年7月
- ・森郁夫 『瓦』考古学ライブラリー43 1989年4月
- ・森郁夫 『日本の古代瓦』 1991年11月
- ・浅井哲也 『茨城県内における奈良・平安時代の土器(1)』茨城県教育財団研究ノート創刊号 1992年3月
- ・浅井哲也 『茨城県内における奈良・平安時代の土器(2)』茨城県教育財団研究ノート2号 1993年3月
- ・茨城県教育財団 『一般国道349号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書北郷C遺跡森戸遺跡(上)・(下)』茨城県教育財団文化財調査報告第55号 1990年3月